



TOHOKU  
UNIVERSITY

ISSN 2435-7898

東北大学  
高度教養教育・学生支援機構  
要覧 2019



# 東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2019

## 目 次

### I 高度教養教育・学生支援機構について

1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶	1
2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン	2
3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画	4
4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革	9
5. 高度教養教育・学生支援機構の組織	
(1) 組織構成図	10
(2) 運営部門	10

### II 機構各組織の事業内容及び活動状況

1. 部門・院	
(1) 高等教育開発部門	11
(2) 教育内容開発部門	11
(3) 学生支援開発部門	12
(4) 教養教育院	12
2. 業務センター	
(1) 教育評価分析センター	14
(2) 大学教育支援センター	16
(3) 入試センター	19
(4) 言語・文化教育センター	21
(5) グローバルラーニングセンター	24
(6) 学際融合教育推進センター	27
(7) 学習支援センター	28
(8) キャリア支援センター	30
(9) 学生相談・特別支援センター	32
(10) 保健管理センター	34
(11) 課外・ボランティア活動支援センター	36

### III 2019年度の機構全体の活動

1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等	39
2. 刊行物一覧	44
3. 教員の活動	45

### IV 資料編

1. 統計データ	131
2. 外部資金獲得状況	141
3. 共同研究員受入状況	142
4. 研究業績による受賞	143
5. 規程類	
(1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程	144
(2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規	146
(3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規	147
(4) 東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規	148
(5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規	149
(6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規	149
(7) 高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規	150

# I 高度教養教育・学生支援機構について

## 1. 高度教養教育・学生支援機構長挨拶

「東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧 2019」をお届けします。

本学は、2014年4月、高等教育開発推進センター、国際交流センター、国際教育院、グローバルラーニングセンター、教養教育院、高度イノベーション博士人財育成センターを統合し、本高度教養教育・学生支援機構を設置しました。本学は本機構を、高度教養教育・学生支援に関する調査研究、開発、企画、提言、および実施を一体的に行い、本学の教育の質的向上に寄与するための中核と位置づけて、国内外を見ても他に例のない革新的でチャレンジングな組織として設計し創設しております。

本機構は、高大接続と入試、全学教育の開発と推進、高等教育国際化の推進、学生相談と学生支援、保健管理と健康指導、高等教育の研究と開発を行い、これらの成果を評価分析し、質的向上を図る各種の専門性開発活動を行う総合的な役割を果たすことがミッションです。また、高等教育推進の高いポテンシャルを有した組織とプログラムを統合し、新たな高等教育のモデル構築も目指しています。さらに、高等教育のモデル構築の核心は、卓越性と多様性の追求であり、教育における卓越性の柱として、高度教養教育の開発と提供、多様性の柱として多様な学生のニーズに応える学生支援の開発と実施も行うこととしています。

本要覧は、第Ⅰ部から第Ⅳ部の4部構成です。第Ⅰ部では、機構のビジョン、沿革、組織体制について記します。第Ⅱ部では、本機構は教員組織（3部門9室、1院）と11の業務センターのマトリクス構造をもつユニークな組織体制ですが、それぞれのミッション（使命）と事業内容や活動状況を記します。第Ⅲ部では、2019年度の機構全体の活動状況を示します。ここには、所属教員個人ごとの活動状況が記されています。第Ⅳ部は資料編で、統計的な資料、および本機構の規程類をまとめて示しました。

2020年1月に突然発現した新型コロナウイルス感染症の問題は、瞬く間に我が国をはじめ世界中に蔓延し、社会構造を一変させることとなりました。大学も例外ではなく、4月からの講義は全てオンライン化したとともに、キャンパスに学生がいない中での新たな学生支援の在り方も大きな問題としてクローズアップされてきました。感染症拡大の終息が当面見込めない中、「新たな常態（ニューノーマル）」を見据えた社会変容が進みつつあります。大学教育・学生支援においても、オンラインと対面を組み合わせた新たな授業設計や、入試実施や国際交流の新方策、学生相談・特別支援・キャリア支援の新形態、課外活動支援の在り方など、これまでとは異なる新しいスタイルを構築していかなければなりません。高度教養教育・学生支援機構の使命を再認識し、全学に貢献を果たしていくことが本機構の責務と思っています。

本要覧が、学内の方々はもちろんのこと、学外の方々にとって何がしかの参考になれば幸いです。さらには、本機構構成員のますますの活性化につなげるためにも、本要覧をご覧になられた皆様方からのご批判やご意見を賜ればと願っております。

2020年8月

高度教養教育・学生支援機構長 滝澤博胤

## 2. 高度教養教育・学生支援機構ビジョン

### 【ミッション】

高度教養教育・学生支援機構は、研究第一・門戸開放・実学尊重という東北大学の使命に従い、平和で公正な社会の実現を先導するリーダーを育成する教養教育の構築と、多様な学生の学修と生活に必要な学生支援の実現を目指します。そのために、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画と提言、及びそれらの方法の開発と実施を、関係部局や審議会との連携の下に一体的に行います。

### 【重点戦略】

#### 1. 未来社会を先導する挑戦心と創造力を育む高度教養教育と学修支援の展開

学生一人ひとりの学修状況、能力や個性、その他の条件に応じて最適化された教育の実現に向けて、学生の挑戦と創造を支える学修支援体制を整備し、既存の学問領域や学年にとらわれない学際的・総合的な学修を可能とする柔軟な教育カリキュラムを開発・推進します。そのために、①円滑な高大接続と「学びの転換」を実現する効果的な初年次教育の充実強化、②SLA サポート事業をはじめとするピアサポート学習支援体制の構築拡充、③学生の授業時間外学習活動を質と量の両面から充実させるための調査研究や企画実施の推進、④高年次教養教育や学際研究を通じた学習機会の提供、⑤アスリート、芸術家、職人などの多様な実践知の導入、を展開します。さらに、⑥各学部・研究科・研究所・審議会等との連携を強化し、「現代的リベラルアーツ」を育成する実践的な教育プログラムを研究開発します。

以上の取組を通して、専門教育課程の基盤となる基礎的な教養教育から、学際融合による教育及び研究を発展させる高度教養教育までを含む総合的な教養教育を推進します。

#### 2. ワールドクラスの研究総合大学にふさわしい最先端の包括的グローバル教育を全学一体で推進

21世紀型地球市民を育成する包括的グローバル教育として、①国内外の優秀な学生を惹きつける国際的な教育プログラムの開発・整備を加速させ、②希望する全ての学生に多彩な海外研鑽の機会・支援を提供し、③留学促進のための調査・分析とプログラム改善を連動した理論・実践循環体制を確立し、④抜本的な語学教育改革とともに全ての教育課程に国際的な視点を取り入れる「カリキュラムの国際化」を推進します。また、⑤語学教育、国際教育、教養・専門教育を融合した包括的なグローバル教育と多様な文化背景の学生による協働・相互研鑽を取り入れた「国際共修」を全学に広め、⑥国際教育のシンクタンクとして我が国における国際共修の推進を先導する中核拠点を形成し、教職員研修やアーカイブの構築による普及活動を展開します。

#### 3. アドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を確保するための持続可能な新たなアドミッションの構築

入学者等の実績や各種入試動向調査などのエビデンスを踏まえ、本学のアドミッション・ポリシーに合致した多様な学生を国内外から広く確保するための入試制度の研究・開発・実施と入試広報および高大接続活動を強化します。そのために、①本学のビジョンに対応したアドミッション・ポリシーの策定、②学部・大学院における志願者拡大に向けた国内外の戦略的マーケティングと入試広報の実施、③多様な学生を広く国内外から確保するための入試制度の開発、④学部・大学院入試における課題解決支援及び入試業務における教員の負担軽減策の立案・実施、⑤各教育委員会と連携した高大接続事業の継続的な実施、⑥アドミッションの学術的基盤の確立と大学院教育と連携した指導的アドミッション・オフィサーの養成等を行います。

#### 4. 21世紀の知識集約型社会に対応した大学教育開発の推進と教育・学習マネジメントの強化支援

21世紀の知識集約型社会に対応し得る大学教育への再構築を目指し、大学教育の内容・方法の研究開発、教職員能力開発の企画・実施、教育・学習マネジメントの強化を通して、本学における全学的な大学教育改革・改善の推進に貢献し、我が国の大学教育をリードする世界水準の拠点としての地位を確立します。そのために、①国

際連携を基盤にした、高等教育の動向・政策・実践に関する研究開発の推進と国内外への成果発信・還元、②教育関係共同利用拠点として、研究・教育・社会サービス・管理運営等について大学執行部や教職員に求められる各種能力を育成する専門性開発プログラムと動画コンテンツの開発・提供、③産学共同人材育成システムの開発・運営による実務家教員の育成・輩出、④本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データの収集・分析・提供を通じた本学の教育・学習マネジメントの強化支援を展開します。

#### **5. 多様性を尊重し自己・社会の未来構想に挑戦する主体的学生を育成する包括的学生支援の推進**

変化に富んだ社会に対応し多様な文化や価値観を受け入れ、自己や社会の未来構想に意欲的に挑戦する心身ともに豊かな個人へと成長する機会を促す包括的な学生支援を推進します。そのために、①学生の心身発達の支援と対峙する危機への介入（健康管理、メンタルヘルスケア、学生相談、ハラスメント防止）、②グローバルな視点からの感染管理、③多様な背景を持つ学生への支援とインクルーシブな環境の提供（障害のある学生、留学生等への支援）、④自己を見つめ未来を主体的に切り拓くキャリア形成の支援、⑤学生の自発的な課外活動や東日本大震災の経験を活かし未来社会の構想に挑戦するボランティア活動の支援等を、全学連携的な支援体制を構築して行います。

### 3. 高度教養教育・学生支援機構第3期中期目標・中期計画

中期目標	中期計画
<p>(前文) 部局の基本的な目標</p> <p>高度教養教育・学生支援機構は、高度教養教育および学生支援に関する調査研究、企画および提言、並びにそれらの方法の開発および実施を関係部局との連携の下に一体的に行うことにより、東北大学の教育力を高め、世界をリードする研究を遂行しグローバル時代を切り開く指導的人材の育成に貢献することを使命としており、その使命を遂行するために、以下の具体的目標を掲げている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進           <p>世界的に進められている課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発・試行・実施を外部資金の獲得・活用も含めて推進する。</p> </li> <li>2. 実践的英語能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進           <p>英語「多読」授業やe-learningの指導法と評価方法を更に進展させ、「聞く・話す・読む・書く」の4技能を強化する実践的な英語教育への転換を推進する。</p> </li> <li>3. 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進           <p>「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展とともに、専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育などの新たな高度教養教育を開発・推進する。</p> </li> <li>4. 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進           <p>人種・宗教・慣習・文化の多様性を理解し、自国文化を見直し、国際社会において共生・共存する生き方を身に付ける国際共修の取組を進める。</p> </li> <li>5. 留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実           <p>留学生の受入れの促進のため多様で魅力的な国際プログラムを開発するとともに留学生支援を充実させる。また、質の高い海外研鑽プログラムを数多く開発し、学生の国際体験の機会を飛躍的に増大させる。</p> </li> <li>6. 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的學生支援の推進           <p>社会における自分の役割を模索し、道徳的価値観を形成し、職業準備を行い、アイデンティティを確立する青年後期の課題に対応し、心身ともに豊かな個人としての学生の成長を支援する総合的學生支援を推進する。</p> </li> <li>7. 東北大学型A0入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ           <p>社会的に受容される選抜指標や合理的選抜方法の開発、実施負担の抑制・軽減、入学者の人物、能力の評価、試験方法の公平性、公正性、追跡調査による効果実証を進める。</p> </li> <li>8. 教職員個人の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援           <p>研究・教育・社会サービス・管理運営など大学教員に求められる全体的な能力を、各ライフ・ステージに沿って発達させるための各種支援、および職員の能力開発を支援するプログラムを開発し推進する。</p> </li> </ol>	

<p>◆ 中期目標の期間 平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p>	
<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 【】は、対応する全学の中期計画</p>	<p>I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p>
<p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標</p> <p>1. 【1】学部・研究科及び教育・学習支援組織と連携し、学士課程・大学院教育を通じて高度教養教育を研究開発・実施し、学生を現代社会に対応したリテラシーとキィ・コンピテンシーを身に着け、教養ある専門性を備えた市民に成長させる。</p> <p>2. 【4】高度教養教育と専門教育との密接な連携の下で、学部・大学院の一貫した教育プログラムを実践し、多様なキャリアパス教育を進め、学生が主体的に自己決定し、社会に巣立つ基盤を作る。</p> <p>3. 【6】高度教養教育・学生支援機構各部門、センターの活動をエクステンションとして発信する。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標</p> <p>1. 【8】部局及び教育・学習支援組織が一体となって、効果的な教育・学習を実施し、多様な学生の能力を引き出すために、教学 IR 機能を強化・確立する。</p> <p>2. 【9】教育・研究・実務の各種業務を遂行でき、高度教養教育・学生支援機構の使命を達成できる、国籍、年齢、ジェンダーなど多様でポテンシャルの高い教員集団を形成する。</p> <p>3. 【12】高度教養教育・学生支援機構の特質を活かし、教育関係共同利用拠点などを通じて、日本の大学全体の教育機能強化に貢献する。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標</p> <p>1. 【14】すべての学生が、心身ともに健康な学生生活を送れるように、多様な学生のニーズに応じた個別支援及び全学的支援連携体制を強化する。</p>	<p>1 教育に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 世界的な高等教育改革の研究を進め、部局、教育・学習支援組織と連携して、グローバル化社会にふさわしい高度教養教育の理念、カリキュラム、教育内容、アクティブ・ラーニングなど教育・学習方法の体系的な開発・提供を行う。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構が現在提供しているキャリア関係科目の評価点検を行い、内容の精査と高度化を図り、初年次から大学院博士課程まで視野に入れたキャリア教育関係科目の提供を行う。</p> <p>3-1. 拠点活動の成果を社会に還元するために、「アカデミック・リーダー育成プログラム」を継続して実施し、平成33年度までに全国の大学等からの修了者を拡大し、ワークショップ・成果報告会・出版などを行う。</p> <p>(2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学務審議会、IR室、評価分析室等との協働の下、学生の人格的発達を含む学習成果を測定し、教育・学習支援の効果と課題が明確になる全学的な教育・学習マネジメント体制を構築し、教育改革の推進を支援する。</p> <p>1-2. 高度教養教育・学生支援機構の部門・センターがそれぞれの特色を生かして授業科目の開発と提供を行い、体系的な高度教養教育を組織的に推進するために、機構内に高度教養教育推進の責任体制を確立する。</p> <p>2-1. 高度教養教育・学生支援機構の使命と目標に沿い、多様でモラルと能力の高い教員集団を形成するために、能力と業績を踏まえた昇任を進めるなど、採用・昇進・研修の人事政策と教育研究支援を体系的かつ戦略的に推進する。</p> <p>3-1. キャリアステージに対応して教員に必要な能力の育成を図るPDプログラムを持続的に開発・提供するとともに、国内外の大学・学術団体等と連携し、語学教育及び数理学教育の指導力を育成するプログラムを開発し、提供する。</p> <p>3-2. 日本の大学教育の水準向上に寄与するために、学内機関とも連携した教育関係共同利用拠点の新たな認定や、全国の拠点等、大学教職員の能力開発組織と連携して、全国的な大学教育開発のネットワークを形成し、プログラム等の共同開発・相互提供を進める。</p> <p>(3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 多様な学生のニーズに応じた支援活動をより発展させるために、学生相談や特別支援等に関するピアサポートを含めた個別支援、及び各部局との連絡会議の強化を含めた全学的連</p>

<p>2. 【15】 総合的体系的なキャリア支援を進めることで、学生が広い視野と展望をもって東北大学で培った能力を活かし発展させ、社会で活躍し、意義のある進路を選択し、実現できることを目指す。</p>	<p>携体制を整備・充実させる。さらにバリアフリー化を含めた学生支援の質の向上、及びメンタルヘルスやハラスメント防止等に関する予防活動を推進する。</p> <p>2-1. キャリア開発室が、臨床教育開発室、臨床医学開発室、国際化教育開発室、部局及び教育・学習支援組織と連携し、日本人・留学生・社会人・女子学生・特別な支援を要する学生など多様な学生のニーズと生涯を通じたキャリア形成に効果的な支援を体系的に進める。</p> <p>2-2. イノベーション創発塾の規模を拡大し、知的財産、アントレプレナーシップなど大学院博士レベルの専門性を活かす科目を開発・提供する。</p>
--	--

(4) 入学者選抜に関する目標 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【17】【18】 アドミッションポリシーに適合する、優秀で意欲的な学生が国内外から受験する入試戦略を展開し、より多面的・総合的な選抜を実施する。</p>	<p>1-1. 学部と連携し、A0 入試や特別入試などの多様な入試を拡大して全入学者に占める A0 入試等の募集人員・入学者の割合を30%程度に引き上げる。このために入試センターの体制を整備して機能を強化し、A0 入試等の実施主体である学部に対し全学的支援を強化するとともに、入試説明会、進学説明会をはじめとした入試広報活動を一層広範活発に実施し、オープンキャンパスや高校訪問など学部の広報活動を支援する。</p> <p>1-2. 学部と連携し、国内外から受験するグローバル人材育成のための入試を導入・拡大するとともに、優秀な受験者を獲得するための様々な広報活動、英語ウェブページの改善、海外拠点を利用したリクルート活動、海外の教育課程を踏まえた柔軟な入学者選抜方法の改善のための調査研究などを展開する。</p> <p>1-3. 平成 32 年度から実施予定とされる大学入試センター試験に代わる新テストに連動した「多面的・総合的な」個別選抜のあり方について、追跡調査をはじめとした入試データの分析、国内外調査、高校との連絡協議などによる調査研究を行い、その成果をもとに新たな選抜方式を企画・実施する。</p>
--	--

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【19】【20】 高度教養教育及び学習・学生支援に関する先導的研究を推進し、実践を支える理論を国際的な水準で発展させる。</p>	<p>1-1. 高等教育研究、高等教育国際化論、専門分野の教育論、語学教育論、学生発達論、臨床医学、臨床心理など高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究を推進し、理論と実践双方を深化させ、国内外に発信する。</p>
--	---

(2) 研究実施体制等に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置

<p>1. 【31】 国際的なネットワークと連携し、国内の研究拠点を形成する。</p>	<p>1-1. 高等教育のグローバル化に対応した研究を国内外の高等教育研究者・機関と連携して推進し、日本における高度教養教育及び学習・学生支援を支える先導的研究拠点を形成する。</p> <p>1-2. 客員教授・研究員制度を活用し、高度教養教育・学生支援機構を支える先導的研究の国際的なネットワークの強化を図るとともに、サバティカル制度などによる若手教員の能力開発を支援する。</p>
---	--

<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標</p> <p>1. 【35】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かした社会連携と社会貢献活動を推進する。</p>	<p>3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 地方自治体、高校、高等教育機関、民間企業、NPO 法人などと連携し、高等教育フォーラム、理数科教育、英語教育など従来取り組んでいる高大連携事業やPDプログラムの開放を推進し、社会貢献活動を充実させる。</p>
<p>4 災害からの復興・新生に関する目標</p> <p>1. 【37】高度教養教育・学生支援機構のポテンシャルを活かし、東日本大震災からの復興・再生を支援する。</p>	<p>4 災害からの復興・新生に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 課外・ボランティア活動支援センターを通じて、東日本大震災からの復興・再生の支援を行うほか、心理学、言語学、歴史学、社会倫理学、自然科学等の各分野からの視座を通じて災害復興を目指す授業科目を開発・提供する。</p>
<p>5 その他の目標</p> <p>(1) グローバル化に関する目標</p> <p>1. 【42】【43】【44】【45】学生の流動性を促進する双方向の海外留学プログラムを拡充するとともに、グローバルな修学環境の整備や教育プログラムの充実を行い、東北大学グローバルイニシアティブ構想を積極的に推進し、グローバル社会における指導的人材の育成を進める。</p>	<p>5 その他の目標を達成するための措置</p> <p>(1) グローバル化に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 国際連携推進機構との協力の下、教育国際交流に資する海外拠点形成や海外有力大学との積極的な協定締結を行い、学生交流を活性化。数週間から1年にわたる多様な双方向の海外留学プログラムの開発・実施を主導し、学生の国際交流を促進する。また、多様な日本語能力を持つ外国人留学生の増加に対応するため、日本語教育体制を強化する。</p> <p>1-2. Future Global Leadership プログラムをさらに発展させ、外国人留学生に魅力的な学位取得プログラムの開発・実施・支援を行う。また、ダブルディグリーやジョイントディグリー等の国際共同教育の推進を支援するとともに、国際共同大学院プログラムの推進に協力する。</p> <p>1-3. 東北大学グローバルリーダー育成プログラムを継続的に実施し、さらに発展させる。国際共修授業等の異文化理解や実践的なコミュニケーション能力の養成に資する教育プログラムの開発・実施を主導し、学務審議会と連携しグローバルマインドを醸成する授業科目群を設置し、体系化したカリキュラムの構築を図る。また国際社会で活躍するために必要な英語を含む外国語の教育体制を強化する。</p> <p>1-4. 東北大学グローバルイニシアティブ構想を発展させ、グローバル化の更なる推進のため、業務センター間の連携を格段に進め、取り組みの組織的な強化を図る。</p>
<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育・学生支援機構の組織運営の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい運営を目指す。</p>	<p>II 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 運営の効率と効果を高めるため、機構長補佐会議、教授会議、人事委員会、総務委員会などの各種運営組織や支援業務の点検・評価を行い、改善を行う。</p> <p>1-2. 教育研究支援組織を確立し、教職員が協力し高度教養教育・学生支援活動に邁進できるよう組織の活性化を目指す。</p>

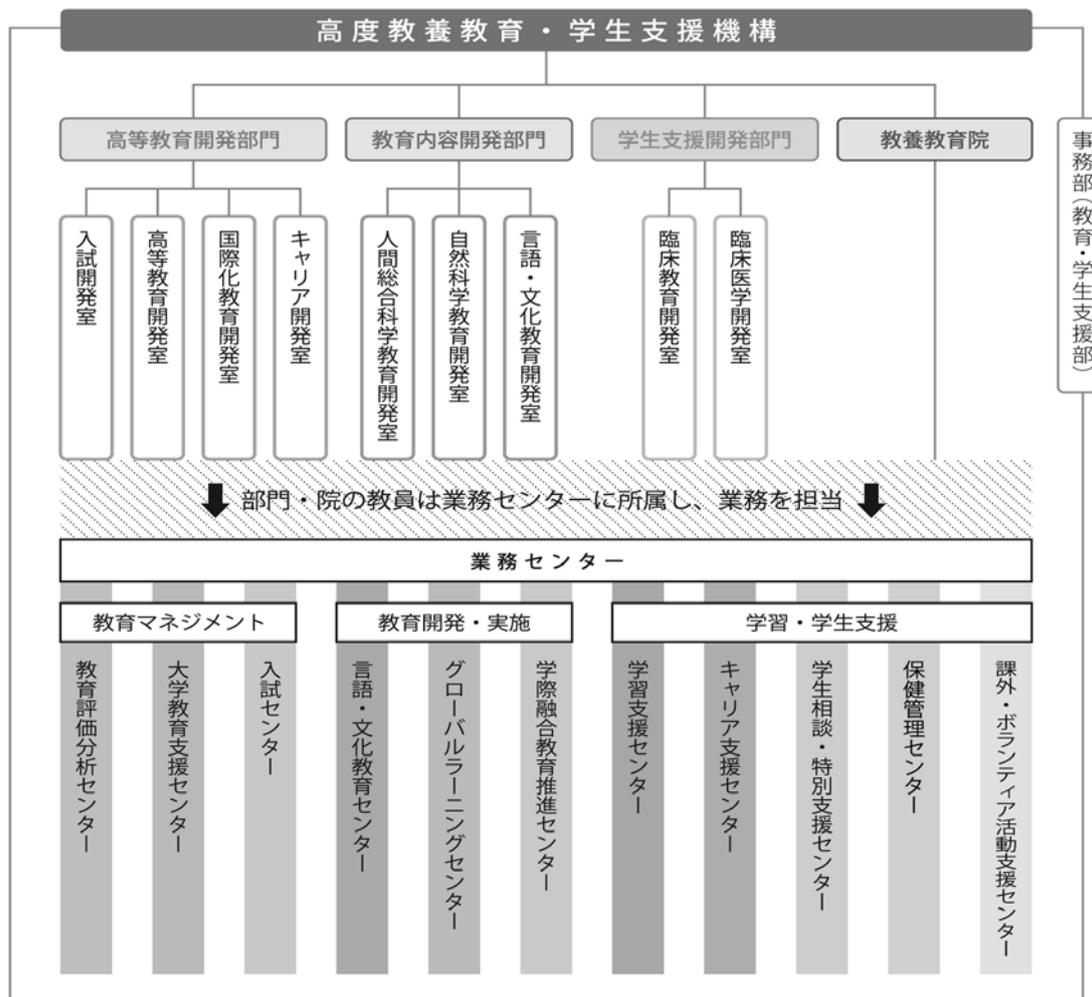
<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標</p> <p>1. 教育研究組織の不断の点検・評価を行い、高度教養教育と学生支援を高度化するのにふさわしい組織の確立を目指す。</p>	<p>(2) 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 全学教育および高度教養教育の充実のための活動を継続的に進め、業務センター等の点検・評価を行い、機構の使命を達成するために、必要な内部組織の改革を行う。</p>
<p>III 財務内容の改善に関する目標</p> <p>1. 科学的合理的な予算を確立し、教育研究の質を向上させるために効果的効率的な運営を目指す。</p>	<p>III 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 業務センター等多様な組織に対応し、多面的な財源を統合した合理的予算を確立し、効果的効率的な運営を目指す。</p> <p>1-2. 競争的資金の拡充を図り、機構内での申請支援や情報収集・分析・提供を行うなど外部資金獲得の支援体制を強化する。</p>
<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標</p> <p>1. 点検・評価を通じた組織改善の組織文化を醸成する。</p>	<p>IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1-1. 組織と運営の改善を行い、教員個人及び機構を活性化させるために、個人評価、活動状況の公表、自己点検・評価、外部評価を定期的実施する。</p>
<p>V その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標</p> <p>1. 高度教養教育と学習・学生支援を深化・発展させるための施設環境を整備する。</p> <p>2 安全管理に関する目標</p> <p>1. 教職員・学生が安全で健康的な環境下で教育研究に取り組めるよう安全管理体制の充実を進める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標</p> <p>1. 法令及び社会規範を守り、高い倫理規範を確立する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標</p>	<p>V その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 東北大学における教育の質の向上やグローバル人材育成を進めるため、機構内のセンター連携を促進させ、高度教養教育を効率的かつ効果的に進めるためのキャンパス施設整備の施策を策定し、課題探究型学習をはじめとする高等教育の研究・開発を推進し、学習支援と学生支援を含むキャンパス全体の学習空間化を進める。</p> <p>2 安全管理に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 学生の国際交流のための危機管理体制の強化、及び感染症や結核に対する感染管理対策を実施するとともに、全学的な環境保全・安全管理に関する計画に協力し、教育研究環境の安全向上に努める。</p> <p>3 法令遵守に関する目標を達成するための措置</p> <p>1-1. 本学のコンプライアンス活動を積極的に推進するとともに、多分野にわたる機構構成員が公正な研究活動・研究費の適切な使用を遂行するため、その環境整備を着実に実施する。</p> <p>4 その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置</p>

#### 4. 高度教養教育・学生支援機構の沿革

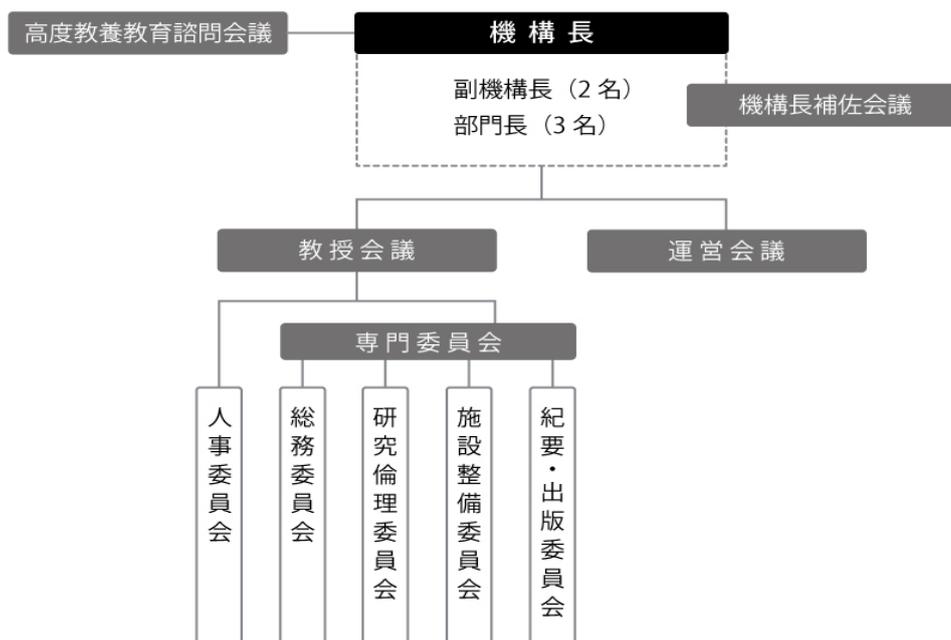
昭和 31 年 6 月	学生相談所設置。
昭和 44 年 6 月	保健管理センター設置。
平成 5 年 4 月	大学教育研究センター設置。 留学生センター設置。
平成 11 年 4 月	アドミッションセンター設置。
平成 13 年 4 月	情報シナジーセンター設置。
平成 16 年 10 月	高等教育開発推進センター設置。アドミッションセンター，大学教育研究センター，保健管理センター，学生相談所，情報シナジーセンター情報教育研究部，留学生センター（一部）を改組・統合。
平成 17 年 4 月	アドミッションセンターを入試センターに改称。
平成 17 年 4 月	留学生センターを国際交流センターに改組。
平成 20 年 4 月	教養教育院設置。
平成 21 年 7 月	高度イノベーション博士人財育成センター設置。
平成 21 年 11 月	国際教育院設置。
平成 26 年 4 月	<b>高度教養教育・学生支援機構設置。</b> 高等教育開発推進センター，国際交流センター，国際教育院，グローバルラーニングセンター，教養教育院，高度イノベーション博士人財育成センターを改組・統合。  花輪公雄理事（教育・学生支援・教育国際交流担当）が初代機構長に就任。
平成 26 年 7 月	機構発足記念シンポジウム「21 世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」開催。
平成 26 年 8 月	文部科学省より，「知識基盤社会を担う専門教育指導力育成拠点－大学教員のキャリア成長を支える日本版 S o T L の開発」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 27 年度）。
平成 27 年 3 月	『高度教養教育・学生支援機構紀要』創刊。
平成 27 年 7 月	文部科学省より，「教職員の組織的な研修等の共同利用拠点」が教育関係共同利用拠点（大学の教職員の組織的な研修等の実施機関）として認定（～平成 32 年度）。
平成 30 年 4 月	滝澤博胤理事・副学長（教育・学生支援担当）が機構長に就任。

## 5. 高度教養教育・学生支援機構の組織

### (1) 組織構成図



### (2) 運営部門



## Ⅱ 機構各組織の事業内容及び活動状況

## 1. 部門・院

### (1) 高等教育開発部門

高等教育開発部門は、入試開発室、高等教育開発室、国際化教育開発室とキャリア開発室から成り、高大接続・入試の研究、教育・学習活動の研究、大学教員研究、国際化教育研究、キャリア開発研究などの高等教育に関する調査研究を行っている。これらの研究成果をもとに、各教員はそれぞれ業務センターに所属し、本学における教育の質の向上と国際化に資する多彩な活動を展開している。

#### **入試開発室**

入試開発室は、業務センターである入試センターと一体的に、東北大学の入試改善に関わる調査研究、入試全般に関する研究、入試広報および高大連携の企画・実施、A0 入試・一般入試の企画・コンサルテーションおよび実施などの活動を行っている。

#### **高等教育開発室**

高等教育開発室は、①高等教育に関する政策・実践等の調査・研究、②東北大学における教育内容・方法、教育マネジメント、学習支援等に関する調査・研究・提案、③教育改善に資する教職員専門性開発の企画・実施の3つを柱に活動を推進している。高等教育開発室所属の教員は、教育評価分析センター、大学教育支援センター、学際融合教育推進センター、学習支援センターに所属し、その専門や適性に応じて、各センターが取り組む各種の業務やプロジェクトを推進している。

#### **国際化教育開発室**

国際化教育開発室は、グローバルラーニングセンターと一体となり、国際教育、異文化間教育、高等教育の国際化施策、多文化共生、留学生支援、国際キャリア教育、異文化適応、言語教育等の、グローバル人材育成に関連した研究活動と、海外派遣・受入留学プログラムの開発・実践、国際教育カリキュラムと国際必修科目の開発・改善、日本人学生を含む国際学生への教育・支援の充実化などの教育活動を両輪とし、幅広い活動を展開している。

#### **キャリア開発室**

キャリア開発室は、キャリア支援センターと一体となり、キャリア、キャリア形成支援に関連する調査・研究、プログラム開発を推進している。教育面では、正課教育として全学教育や部局と連携したキャリア教育科目を開講するとともに、正課外で全学学生を対象とした各種の進路・就職支援プログラムや個別相談等も実施している。

### (2) 教育内容開発部門

教育内容開発部門は、人間総合科学教育開発室、自然科学教育開発室、言語・文化教育開発室の3室から構成される組織であり、東北大学の教養教育の根幹を担う部門である。全学教育授業を実践するとともに、各室・部門間および業務センター等との連携により、教育プログラムやカリキュラムの調査、企画、開発、教育環境整備等を含む“高度教養教育の開発と実践”にあたる。

#### **人間総合科学教育開発室**

人間総合科学教育開発室は、歴史学を中心とした人文科学と運動生理学との観点から、以下のような研究・教育を行っている。主に、人文・社会科学系教養教育に関する調査・研究・実践とその経験に基づく教育活動およびカリキュラム開発をおこなっている。また、運動生理学の観点からの研究にもとづき、運動生理学の研究成果の授業を担当している。

#### **自然科学教育開発室**

自然科学教育開発室は、全学教育科目において理科実験科目「自然科学総合実験」を担当するユニットと自然科学

系科目（英語クラス）を担当するユニットからなる。理系初年次学生約1,700名を対象とした必修の理科実験科目である「自然科学総合実験」と学士課程英語コース（FGL）の初年時学生を対象とした「Introductory Science Experiments」を企画・運営している。また、文科系初年次学生を対象とした理科実験科目「文科系のための自然科学総合実験」も担当している。

3つの学士課程の英語コース（全学教育科目を含む）向けの自然科学系基礎教育プログラムの企画、開発、実施、改善活動を行っている。また、諸外国における「留学生フェア」等にも参加して積極的な広報活動も務め、東北大学の教育研究の認知度アップにも貢献している。

### **言語・文化教育開発室**

言語・文化教育開発室は、全学教育や留学生特別課程等において外国語及び日本語科目を担当するとともに、言語教育に関する教授法の研究および実態調査を行う。あわせて、全学教育を中心に本学の語学授業に関わる学習環境を整備し、カリキュラムの開発・設計・実施、CALL 語学演習施設を活用した語学学習支援、e-learning を利用した語学学習教材とシステムの開発等に関して各種提案を行うことを主たる使命・目標とする。外国語科目では、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語を担当し、「聞く・話す・読む・書く」の4技能の運用能力を高めるだけでなく、外国語圏の社会・文化・歴史の学習を通して多言語・多文化間の相互理解を深めることを目指した教育を実践する。日本語科目では、全学の各部局に在籍する留学生や外国人研究者を対象として、それぞれの専門課程において要求されるより高度な日本語運用能力を育成するとともに、日本人学生との共修授業等を通じて日本文化への理解を促進することを目指す。

### **(3) 学生支援開発部門**

本部門は、臨床教育開発室と臨床医学開発室から構成され、所属する教員はそれぞれ学生相談・特別支援センター、保健管理センターでの業務を主に担当している。大学生生活のなかで経験する身体的、精神的問題、種々の悩みなど問題を抱えている学生への個別カウンセリングや、ハラスメント等の問題解決に向けての支援、身体障害・発達障害を持つ学生の支援の実践とともに、その環境整備を進め、臨床教育および臨床医学関係の教育・研究を行っていく部門である。

### **臨床教育開発室**

臨床教育開発室は、主に学生相談・特別支援センターの業務を担当する教員によって構成され、「学生が本学での経験から最大限の利益をひきだすことができるよう、学生及び大学コミュニティへの支援を行うこと」を使命および目標として、学生相談及び特別支援の活動の充実に努め、大学生活の中で問題を抱えている学生へのカウンセリングや障害のある学生への支援活動の充実・開発、学生支援体制の整備に資する研究を行っている。

### **臨床医学開発室**

臨床医学開発室は、保健管理センターと一体的に学生の心身の保健管理を行うことを使命として、健康相談、診療、定期健康診断・特殊健康診断とその事後処置、栄養相談に加え、健康科学セミナーの開催、健康に関するリーフレットの発行などを行っている。また保健管理センターで得られた健康情報を解析し、有効な保健対策を企画・立案するとともに、学生の健康を脅かす疾患の病因・病態の研究ならびに治療法の開発を行っている。

### **(4) 教養教育院**

教養教育院は、教養教育充実の方策の一つとして平成20年4月に設置され、平成26年4月に本機構に統合された。本院は、総長特命教授と教養教育特任教員で構成されている。教養教育の中でもとりわけ重要な初年次教育において、学生の学びへのモチベーションを高める授業を創り出し、教養教育改革の先導的な役割を果たしている。また、教養教育特別セミナーの共催、総長特命教授合同講義の実施を通じて、通常の授業とは違った機会を学生に提供している。主な活動・取組は以下のとおりである。

①基礎ゼミクラスの担当

高校までの「受験勉強中心の学び」から「自ら探究する大学での学び」への転換を目的に、初年次学生全員が受講する学部横断型少人数科目（基礎ゼミ）が毎年約 160 コマ開講されており、総長特命教授はそれぞれ 2 クラス（各クラス 20～25 名）を担当している。「研究をするには何が必要か」、「大学に入学した段階でまず何をしなければならないのか」、そうした疑問に対して、学生とのコミュニケーションを密にし、グループによる課題研究・調査、図書館・インターネットによる情報収集、現場の見学、レポート作成、発表、討論を通じて学生たちが自ら答えが出せるように支援している。

#### ②全学教育（基幹科目・総合科目・語学教育）での新たな試み

初年次・2 年次学生を対象にして行われる全学教育は、基幹科目（人間論、社会論、自然論）、展開科目（理科実験、カレントトピックス科目、総合科目等）、共通科目（基礎ゼミ、外国語科目、情報科目、保健体育科目）で構成されている。教養教育院の特命教授と特任教員は得意分野の科目を担当し、授業を活性化させるためのさまざまな試みを行っている。

#### ③教養教育への理解を深める

毎年、教養教育をテーマにしたセミナーや合同講義を企画しており、「教養教育とは何か」について教員と学生が語り合うことにより、学生たちにとっては教養教育の中で自分自身の知性を高めることがいかに重要かを知る、また教員たちにとっては教養教育を考え深化させるよい機会となっている。

#### ④小冊子『読書の年輪』の発行

初年次学生が「大学での学び」を始める上で一つのガイドブックとなる『読書の年輪～研究と講義への案内』を毎年刊行しており、教養教育院特命教授が、自らの教育・研究活動の経験を基に、大学での学びや生活に役立つ本を各自が 6 冊選び、内容を紹介している。

#### ⑤教養教育への提言

教養教育院の院長（教育担当理事）が主催する教養教育院懇談会（年 4 回開催）や総長との懇談会の機会に、自らの教養教育での実践に基づいた意見を述べ、東北大学の教養教育改革に寄与している。

## 2. 業務センター

### (1) 教育評価分析センター

#### 使命

- (1) 国内外の高等教育動向および実践に関する調査研究を実施し、教育および学習に関する評価の理論を発展させ、その成果を国際的に発信する。
- (2) 本学の教育学習活動に係る意思決定に資するデータ収集・分析・提供のための効果的システムの開発・運用を通して、本学における持続的な教育改革・改善や学生の幅広い学習活動の実現を支援する。
- (3) 学務審議会、教育改革推進本部、高度教養教育・学生支援機構（業務センター）、各部局、事務組織の有機的連携に基づく一体的な教育マネジメント体制の確立に寄与する。

#### 事業内容及び活動状況

- (1) 本学の教育学習活動・環境に関する基礎的データ収集システム（授業評価アンケート、成績評価・GPA実施状況、学務情報システムとの連動）を整備する。

①平成 29 年度までに基礎的データ収集システムを整備しており、現在は各種調査結果や授業評価アンケート結果等のデータを様々な分析に用いられるよう、データベースサーバーに整理・保存している。このうち、全学教育の授業評価アンケート及び成績評価に係るデータについて教務課から提供を受け、DB への格納・蓄積を進めるとともに、令和元年度の第 1・第 2 学期の結果概要について概要作成を行った（東北大学全学教育 HP にて公開）。

②中教審「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」（平成 30 年 11 月 26 日）を一つの契機として、国レベルで「教学マネジメント」に係る指針策定に関する議論が進められていることに鑑み（実際に令和 2 年 1 月 22 日に「教学マネジメント指針」を策定）、CIR ではここ数年国内外における IR の先進的取組について調査を実施してきた。令和元年度には、大学情報・機関調査研究会（MJIR、2019 年 12 月 8-9 日@東工大）への参加した他、研究・経営に関する IR も含めた広範な IR 活動を行う九州大学、認証評価受審を見据えて教学 IR システム構築を推進する宮崎大学を訪問し、担当者への聞き取り調査や課題共有を図った。これを通して、DB 内データを「見える化」する方策として Tableau 等の活用に向けた準備を進めた。

- (2) 新入生調査、卒業時調査、学習経験調査（学士課程レベル、大学院課程レベル）、卒業生調査、学生生活調査、雇用者調査、教職員調査の体系的な設計・実施・分析を通して、東北大学における教育の効果点検・質向上を推進する。

①学生生活支援審議会の下に設置された「第 13 回東北大学学生生活調査WG」に教育評価分析センターから 2 名（うち 1 名は副委員長）が参画し、2019 年 11-12 月に文科省による「全国学生調査」（試行）の実施を支援するとともに、2019 年 12 月-2020 年 1 月に本学の「第 13 回 東北大学学生生活調査」を実施した。回収率はそれぞれ 14.6%、20.6%であった。後者の第 13 回学生生活調査の結果は、「東北大学生の生活」としてまとめ、学内外に情報提供される予定である（令和 2 年度初め）。

②学務審議会の下に設置された「第 2 回東北大学教員調査ワーキング・グループ」（令和元年 11 月 11 日設置）と協働して調査設計を行い、令和 2 年 1-2 月に「第 2 回 東北大学教員の教育活動に関する調査」を実施した。回収率は 39.2%であった。調査設計に際しては、第 1 回調査（平成 27 年度実施）の調査票を基盤に、各教員による授業等の教育活動について過去 4 年間の変化を把握できるようにするとともに、全学教育改革や BYOD 導入等、現在進行している学内外の改革に関する本学教員の認知度についても捕捉できるように考慮した。データ分析やその結果共有は令和 2 年度に実施する予定としている。

- (3) 本学の教育学習活動に係るデータの収集・分析・提供を行うシステムの開発・運用を通して、本学における効果的な意思決定および教育マネジメントを支援する。

①学務審議会と連携して平成 31 年 2-3 月に実施した「第 4 回 東北大学の教育と学修成果に関する調査」のデータ整理・分析を行い、その結果共有を目的に、2019 年度第 4 回学務審議会（令和元年 7 月 1 日）の開催後に部局代表者等の参加を得て「第 5 回 東北大学教育調査研究会」を開催した。同研究会では、同調査

の中核をなす質問項目である「学修成果」を軸に2つの問いを設定し、分析結果を示して議論を行った。同研究会後、関係部局に各教育課程の結果について「調査結果に関する総評」「各課程段階で重視（注目）する学修成果の状況と取組」「その他（学部・研究科等独自で認識している課題や、そのための取組（今後の実施予定を含む）等に関する自由記述）」の整理・記述を依頼し、調査概要や分析結果と合わせ、各部局からの所見をまとめた報告書を作成・発行した（令和元年12月）。同報告書は主としてCIRサイトに掲載し、部局等の必要性に応じてダウンロード可能な体制を整備している。

②上記①の取り組みに関連し、「第4回学修成果調査」について、大阪大学及び名古屋大学で実施された学生調査との間で共通する項目（学修成果項目）を抽出し、ベンチマーキングを行った。その結果はグラフに可視化し、執行部や各部局等における意思決定・戦略決定・現場の教育改善に活用できるように整備を行った。

③本部の教育改革推進会議の下に設置されている「教育の質保証検証部会」（部会長：滝澤博胤教理事）に、教育評価分析センターから2名（うち1名は副部会長）が参画し、「東北大学における教育の質保証に関する基本方針」の策定（令和元年6月18日教育研究評議会）、部局（基本単位ごと）における平成30年度活動に関する「東北大学における教育の質保証に関する報告書」の作成に関して中心的役割を担った。これらの活動を通して、本学における教育に係るマネジメントや内部質保証の実態について把握・整理を行った。

## (2)大学教育支援センター

### 使命

- (1) 国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するための調査研究を行い、その成果に基づくプログラムを開発・実施する。
- (2) 高度教養教育・学生支援機構の各業務センター及び学内部局・教職員と連携した各種専門性開発活動を行い、全学的な教育改革の推進に寄与する。
- (3) 教育マネジメントを担う教職員の職能開発プログラムを開発・提供し、教育マネジメントの向上に寄与する。
- (4) 教育関係共同利用拠点として、以上の取組の成果を積極的に学内外へ発信し、日本全体の大学教育改革の推進に寄与する。

### 事業内容及び活動状況

- (1) 大学教育開発及び大学教職員のキャリア開発のための調査研究の推進

大学教育支援センターでは、その使命を果たすべく、国際的な連携を基盤に、大学教育内容・方法開発及び教職員の能力開発を推進するため、学内外の競争的資金を含め各種調査研究と連携を図り、その成果に基づくプログラムを開発・実施している。令和元年度は、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（研究拠点形成費等補助金）、文部科学省「教育関係共同利用拠点」（機能強化経費：教育関係共同実施分）、科学研究費補助金、東北大学全学的基盤経費における事業と連携し、調査研究及びその成果に基づくプログラム開発・提供を行った。

- (2) 大学教職員のキャリアステージに対応した専門性開発プログラム（PDP）の開発・提供

教育関係共同利用拠点事業において、日本の高等教育の多様性に対応するため、機構内各業務センターと連携し、分野別プログラムとして4領域14カテゴリーにわたる専門性開発のためのPD（Professional Development）セミナー（ワークショップを含む）を実施した。令和元年度は、48セミナーを実施し、47都道府県、509機関より、計2,483名が参加した。

受講満足度では、総合評価3.7（4件法）と高い成果が得られ、継続して高い水準を維持している。高等教育の多様な領域をカバーするとともに、当該領域の第一人者によるセミナーを提供することで、セミナー参加者の能力開発に貢献した。

- (3) 「PDPonline」におけるPDセミナーの動画配信

PDセミナーを収録・編集した動画をオンラインで提供することで、参加できなかった人に対しても遠隔での能力開発の機会を提供した。令和元年度末時点で90の動画を配信しており、質・量ともに国内で類を見ない規模のコンテンツとなっている。令和元年度の閲覧数は33,726件、平成28年度の提供開始時からの累計閲覧数は約88,000件となった。本サイトは、誰でもいつでもどこでも自由に利用できるe-learning教材としての特色を生かし、全国的に個人・組織によるFD・SD等の能力開発に活用されている。

また、自力でFD・SDを実施することが難しい大学等のための「機関利用」を推進しており、機関利用登録は、16機関（国立大学1、私立大学12、民間組織2、海外組織1）となり、平成30年度の2倍となった。機関利用の推進により他大学における組織的なFD・SD研修への支援を行うとともに、オンライン上に自由に視聴できる環境を設けたことで全国の大学教職員に自己啓発の機会を提供した。

さらに、PDPonlineの動画とPDブックレット（ハンドブック）をテーマごとに10のモジュールに整理し、利用を推進した。

- (4) 専門教育指導力育成プログラム（DTP）の開発・提供

STEM（科学・技術・工学・数学）分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた「分野別教育方法研究」（DBER: Discipline-Based Education Research）の発展及びその実践的・実証的知見に基づく組織的な教育改革を主導してきたカール・ワイマン氏（スタンフォード大学教授。2001年ノーベル物理学賞受賞者）等による国際シンポジウム（平成31年3月実施）を経て、DBERの知見に基づく授業実践をFDによって普及することに成果を挙げているサンフランシスコ州立大学教授のキンバリー・タナー氏を招聘し、国際シンポジウム及びワークショップを計3日間（令和2年1月14・15日：東京、1月17日：仙台）開催し、計107名が参加した。受講満足度は3.8（4件法）と、高い評価を得た。

また、DBER に基づく教育改革を組織的に推進している大学として、STEM 分野の諸学科における授業改革で実績を挙げてきたブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）と、人文社会科学を含む全学的な教育改革に取り組んでいるコーネル大学（米国）を訪問調査した。さらに、DBER の第一人者カール・ワイマン氏の著書の訳書を出版するため、翻訳作業を進めた。

外国語教育については、CLIL（内容言語統合型学習）に関するセミナー（令和 2 年 1 月 25 日）を開催し、3.6（4 件法）の満足度を得た。

(5) 大学教員準備プログラム（PFFP）・新任教員プログラム（NFP）の開発・提供

大学教員準備プログラム（PFFP）と新任教員プログラム（NFP）を合同で実施し、学内外の大学院生・ポスドク・大学教員計 19 名が受講した。本プログラムは、現代の大学教員に求められる素養の習得及び学習者の学びを中心とした先進的教育方法の獲得を意図している。具体的には、各種セミナー・ワークショップのほか、授業参観、マイクロティーチング、先達コンサルテーション、国内他大学訪問調査（オプション）、リフレクティブジャーナルの執筆等、計 30 時間を超える研修を実施した。プログラムの効果検証として、プログラム修了時に目標の到達度等に関するアンケート調査を実施した。

これまでの修了者は 130 名を超え、就職・昇任だけでなく、FD 委員への就任、教育力に関する表彰等、プログラムでの経験が寄与したと思われる事例が蓄積されつつある。また、OB・OG のネットワークも形成され、プログラム修了後も継続して大学教員としての能力開発に取り組むための環境が整備されてきた。

(6) 大学変革リーダー育成プログラム（TLP）の開発・実施

履修証明プログラム「大学変革リーダー育成プログラム（TLP）」（令和元～2 年度）は、所属機関における改革案の企画・実施を含む実践的カリキュラムにより、大学マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指している。

2019 年度は、TLP の 1 年目を実施し、6 大学 7 名が受講した。高等教育に関する専門知識・技能を修得できる体系的なセミナー・ワークショップ、先進事例（国内・海外大学）の現地調査等を踏まえつつ、所属機関における改革に実際に取り組むことを通じ、大学のリーダーに必要な能力・資質を実践的に習得できる機会を提供している。これにより、国公立大学における教職員のリーダーシップ育成のニーズに応えた。また、過去の履修証明プログラムの修了者 3～4 名が集中セミナーに参加し、高等教育政策・実践に通じた経験豊かなアドバイザーと共に受講者支援を行った。令和元年度に 2 回開催した集中セミナーでは、受講者のプレゼンテーション、ピアディスカッション、アドバイザーによる個別コンサルテーションに対して、各々 3.4（4 件法）の満足度を得た。

なお、本プログラムは、文部科学省・職業実践力育成プログラム（BP）の認定、厚生労働省・教育訓練給付金制度対象講座としての指定を受けている。

(7) 大学マネジメント力開発プログラム（SDP）の開発・提供

職員に加えて教員や執行部も対象とする SD の趣旨に照らし、教育研究と大学運営の高度化の担い手を育成するため、「大学マネジメント力開発プログラム」（SDP）シリーズとして、第 1 回「私立大学の教育改革を支える『中堅リーダー』の育成と活用ーグッドプラクティスから考えるー」（令和元年 7 月 6 日）及び第 2 回「多様な学生の理解と支援：留学生と LGBT 学生に注目して」（令和元年 12 月 12 日）を開催した。2 回のセミナーに 16 都道府県・43 機関より計 84 名が参加した。受講満足度は 3.7（4 件法）を上回り、高等教育に関する最新情報や幅広い専門知識等を提供することができた。

(8) 「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に関する業務

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」（令和元年度～令和 5 年度）において、東北大学が代表校となり、熊本大学、大阪府立大学、立教大学を連携校として実施する取組「創造と変革を先導する産学循環型人材育成システム」が、運営拠点及び中核拠点として採択された。

中核拠点の取組として、産学が連携して人材と知の循環を促進しつつ、実践的かつ広く深い学びを追求し、学生も社会人も学び続けチャレンジし続ける社会の実現、未来を拓く人材の各界への輩出のため、その中心的役割を担う実務家教員を育成する体系的研修「産学連携教育イノベーター育成プログラム」を提供する。

運営拠点としての取組「実務家教員育成・活用ナショナルシステム」では、採択された他の 3 中核拠点による研修プログラムを含む全ての研修修了者を対象に、学びの履歴を e ポートフォリオとして蓄積するデー

データベースとキャリア支援により、大学とのマッチングを図る人材エージェントを構築・運用するなど、ナショナルセンターとして人材と知の循環を推進する。また、事業全体の情報発信のため、ワンストップのポータルサイトを開発・運用する。

令和元年度は、令和2年度からの実装に向け、連携校と協議・協力しつつ、プログラム開発、産学コンソーシアムの設立準備、データベースのシステム構築等を進めた。

(9) 大学教育イノベーション日本 (HEIJ) を通じた他機関との連携

国公立の設置形態の区別なく大学教育改革に取り組む15組織(13大学14組織及び1コンソーシアム)が加盟する「大学教育イノベーション日本 (HEIJ)」は、設立当初(平成28年度)より東北大学が事務局を務めており、本団体の活動を引き続き主導し、持続的な事業展開を図った。

第4回大学教育イノベーションフォーラム「世界で一番とんがった大学から、大学教育の当たり前を問い直すーミネルバ大学が示唆するものー」(令和元年10月31日)を開催し、104名が参加した。

また、同団体に加盟する筑波技術大学との協働により実施したセミナーの成果として、高等教育ライブラリ『共生社会へ：大学における障害学生支援を考える』(東北大学出版会、令和2年2月)を刊行した。

(10) 海外の大学との国際連携を通じた事業の高度化

国際連携として、上記(4)で述べたように、STEM(科学・技術・工学・数学)分野における学問分野固有の専門性の習得に向けた「分野別教育方法研究」(DBER)の発展に貢献するとともに、その知見に基づく授業実践をFDによって普及する組織的な教育改革で成果を挙げているキンバリー・タナー氏(サンフランシスコ州立大学教授)を招聘し、国際シンポジウム及びワークショップを計3日間(令和2年1月14・15日：東京、1月17日：仙台)開催した。

また、DBERに基づき、STEM分野の授業改革を推進してきたブリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)と、人文社会科学を含む全学的な教育改革を推進しているコーネル大学(米国)を訪問調査した。

さらに、文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」の一環として、オンライン・イベント「大学改革を担う実務家教員フェア」を実施し、講師の一人クリス・ラッド氏(ジェームズ・クック大学シンガポール校 副学長・キャンパス長)による発表を公開(令和2年3月27日～4月27日)した。

### (3)入試センター

#### 使命

全学的な各種入試関係委員会との連携のもとに、本学入試の中長期的な企画や改善検討を行うとともに、大学入試センター試験や一般入試をはじめとする入試業務を中核的に担い、また入試広報活動や高大接続・連携事業を企画実施する。これらの活動を通じて、本学アドミッション・ポリシーに合致した優秀な学生の獲得に貢献する。

#### 事業内容及び活動状況

- (1) 本学入試の中長期的な企画・改善検討（入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換）

- ・入試企画・広報委員会にワーキング・グループを置き、広報関連（『大学案内』編集・オープンキャンパス企画等）、AO入試拡大および全学支援体制構築（AO入試Ⅱ期・Ⅲ期新規参入学部、新タイプの入試導入学部への実施支援）、高校調査等に基づき令和3年度（2021年度）入試への対応（入学試験の名称変更、主体性評価、高大接続改革方針変更に伴う予告の変更等）を行った。
- ・入学者へのアンケートを例年どおり行い、入学者の動向を分析。回収率は98%
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会（入研協）、国立大学アドミッションセンター連絡会議等の外部組織開催の会議に参加し、他大学との連携・情報交換を行った。
- ・県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。
- ・工学部入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり、AO入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、各学部のAO入試等に関し相談対応・助言、また、国際学士コースの入試に関して国際学士コース入試小委員会などを通じて助言を行った。
- ・国の高大接続改革における多面的・総合的の評価による入学者選抜を本学においても取り組み、AO入試を定員の30%に拡大する方針（令和2年度〔2020年度〕KPI〔= 令和3年度〔2021年度〕入試達成目標〕）に基づき、同拡大戦略に関し入試企画・広報委員会やAO入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化、広報活動の強化等を進めた。
- ・上記入試改革に関する調査研究を実施。シンポジウム（東北大学高等教育フォーラム）を開催し、前年度分の成果を本機構「高等教育ライブラリ」として刊行した。科研費基盤A「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価」を継続して実施、加えて科研費挑戦的研究（開拓）『大学入試学』基盤形成への挑戦——真正な評価と実現可能性の両立に向けて——を獲得し。これらと連動して、金子書房から「東北大学大学入試研究シリーズ」を刊行し、第1巻、第2巻を上梓するなど、研究成果の発信に努めた。

- (2) 入学者選抜の実施（入試実施本部、入試企画・広報委員会、入試実施委員会構成員）

- ・入試実施本部（センター試験、一般入試前期・後期日程）、センター試験監督、作題班支援
- ・入学試験審議会、入試実施委員会、入試企画・広報委員会各委員
- ・AO入試Ⅱ期実施（志願者1,005名、合格者241名）前年比志願者150名増
- ・AO入試Ⅲ期実施（志願者1,057名、合格者349名）前年比志願者18名減
- ・医学部地域枠入試（志願者21名、合格者9名）
- ・科学オリンピック入試実施（志願者1名、合格者1名）
- ・国際バカロレア入試実施（志願者5名、合格者3名）
- ・グローバル入試Ⅰ期実施（志願者1名、合格者0名）
- ・帰国生徒入試実施（志願者7名、合格者2名）
- ・私費外国人留学生入試実施（志願者109名、合格者14名）前年比志願者52名減
- ・一般入試（前期日程）実施（志願者4,384名、合格者1,759名）前年比志願者429名減
- ・一般入試（後期日程）実施（志願者1,354名、合格者121名）前年比志願者85名減

- (3) 入試広報活動（高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供）

- ・入試説明会（高校教員対象）を全国21会場にて実施 参加者557名（前年比71名増）

- ・進学説明会（受験生・父兄対象）を6会場（札幌，仙台，静岡，東京，大阪，福岡）にて実施 参加者 3,010名（前年比 983名増）
- ・高校の大学見学の対応 67件
- ・民間業者等開催の説明会（高校教員との懇談会含む） 27件
- ・高校訪問 67校（入試センター教員分）
- ・東北大学案内の作成 80,000部発行
- ・AO入試パンフレットの作成 10,000部発行
- ・入試センターウェブサイトによる情報の発信

(4) 高大接続・連携事業（フォーラム開催，アウトリーチプログラム，出前事業等の企画・学部支援，オープンキャンパスの企画開催・全学支援）

- ・第30回高等教育フォーラム（5月15日）「入試制度が変わるとき」参加者 371名（前年比 32名減）
- ・オープンキャンパス（7月30日，7月31日）参加者 68,403（前年比 175名増）  
\*H31年度入学者参加率 52%
- ・高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣 131件

## (4) 言語・文化教育センター

### 使命

大学教養教育の基盤として広義のコミュニケーション能力獲得と多文化理解は重要な使命であり、自分の母語のみに限定されない総合的な言語運用能力を基盤として、幅広い価値観と世界観を涵養することは国際的なリーダーシップ力の育成にとって不可欠である。豊かな言語活動を実質化させるためには、言語 4 技能「聞く・話す・読む・書く」の総合力を備えた実践的運用能力の養成が不可欠であり、本センターは、国内外の高等教育機関における言語教授法と言語文化教育カリキュラム編成の在り方に関する調査研究を推進し実践するとともに、具体的かつ実行可能な言語文化教育改善のための提言を行い学生教育に反映することによって、言語文化に関わる教養教育の高度化と更なる発展に寄与することを使命とする。

### 事業内容及び活動状況

- (1) 全学教育「外国語科目」・「日本語科目」および高年次用英語教育カリキュラムを学務審議会との連携のもと企画・開発し、運営する。

○ 全学教育「外国語科目」および「日本語科目」においては、学務審議会科目委員会とも連携し、実施方法やシラバスの見直しを進めている。また一部外国語において展開科目として高年次教育への継続を図っている。

○ 「英語科目」に関しては、2018 年 11 月に学務審議会内に「英語教育改革推進 WG」が設置され、2019 年度にかけ、英語教科部会と連携し、全学英語教育体制の見直しに取り組んだ。その結果、1 年次学生対象科目である「英語 A」及び「英語 B」については、2020 年度から新しいカリキュラムのもとで授業が実施されることになった。また、新しいカリキュラムへの移行を円滑に行うための説明会の開催、新しいカリキュラムに合わせたシラバスサンプルの準備や教材（特にオンライン教材）の作成など、関連する作業を行った。なお、2 年次学生対象科目である「英語 C」については、2021 年度からの新しいカリキュラムのもとでの授業実施に向け、2020 年度中に関連する作業を行う予定である。

○ 2019 年 7 月に日本の大学で初めて ETS (Educational Testing Service) と包括協定を結び、英語教育の実践と研究開発について協力を進めることとした。

○ 英語教育では、多読法、e-learning、PDR (Preparation-Discussion-Reaction)、Communicative Language Teaching、CALL、CLIL (内容言語統合型学習)、EAP (English for Academic Purposes)、PBL (プロジェクト型外国語学習) などの多種多様な教授法による授業が提供されている。

○ 英語教育では、学生の英語運用能力が多様化してきている現状、特に留学生、帰国子女、英語圏への留学経験者などが増加していることに鑑み、将来的な能力別クラス編成をも見据え、英語教科部会と連携して「上級者用クラス」を設置した。なお、2020 年度から実施される新しいカリキュラムでは「習熟度別クラス編成」(上級、中級及びプレ中級の 3 レベル編成) が導入され、従来の「上級者用クラス」の受講者を「上級レベル」のクラスで吸収できることから、1 年次学生対象科目である「英語 A」及び「英語 B」については 2020 年度時間割から、2 年次学生対象科目である「英語 C」については 2021 年度時間割から、それぞれ「上級者用クラス」が廃止される予定である。

○ 高年次用英語教育カリキュラムの橋渡しとして、「Practical English Skills (PES)」においてプレゼンテーションスキルやライティング力を高めるための教材、教授法の開発、また実用的な環境で英語力を向上させるために IPLA の留学生との統合的英語クラスの運営を進めている。なお、従来「PES」が果たしてきた役割(プレゼンテーションやライティングの技能育成、そのための教材や教授法の開発、など)については、2020 年度から実施される新しいカリキュラムのもとでは、「英語 A」、「英語 B」及び「英語 C」の授業で代替できるため、「PES」については 2021 年度時間割から廃止される予定である。

○ 全学部の 1 年次学生を対象に実施されている TOEFL ITP テスト<sup>®</sup>について、英語教科部会と協力し、スコアの変化や英語の授業内容との相関性などについての分析を行っている。

○ 2019 年度入学生全員に英語学習ハンドブック「*Pathways to Academic English*」(改定版)を配布した。また、2020 年度入学生用には、新しいカリキュラムに合わせて、まったく別物と言ってよいほどの大幅な改訂作業を行った。

○ 国際共修ゼミ「せかいをめぐる一ことばとぶんかのたび」を開講、実施した(受講者数 15 名)。

○ スペイン語能力試験を 11 月に東北大学で実施した。

○ フランス語短編映画プロジェクト『わたしはだれだ?』の第 3 話を全学教育でフランス語を履修してい

る約 30 名の学生と作成し、インターネット上に公開した。

○ 日本語教育では、外国語教授法を学ぶ大学院生や、学習支援センターのスタッフを招いてゲストセッションを行うなど、学習意欲の向上につながる活動を実践している。

(2) 全学留学生対象「日本語教育プログラム」をグローバルラーニングセンターと連携して企画・開発し、運営する。

○ 外国人留学生等特別課程を企画・運営し、のべ約 835 名が受講している。

○ 外国人留学生日本語研修コースおよび日韓共同理工系学部留学生プログラム（定員：各学期合わせて 30 名）を企画・運営し、研修生の教育指導を担当している。

○ 短期留学受入プログラム JYPE（理系）、COLABS（理系大学院）、IPLA（文系）の日本語コースを企画・運営している。

○ 平成 28 年度に開始した日本語教育と専門教育のハイブリッド型プログラム「DEEP-Bridge」を企画・運営している。2019 年度の入受数は 53 名となり、初年度（40 名）より着実に増加している。

○ 国際共修科目「せかいをめぐるーことばとぶんかのたび」新規開講（受講者 30 名）。

(3) e-learning 環境を改善し、コミュニケーション能力育成のための学習コンテンツを開発する。

○ 平成 26 年度に CALL システムの大幅な機種変更が行われ、機能強化が図られたところである。英語だけでなく、初修語における e-learning 環境整備についても検討を開始している。

○ 英語 CALL 教育においては、学習者の興味や関心、専門性を図るために、内容重視の英語教育を目的とする、Web 上のオープンソースコンテンツを活用した Authentic メディア教材の開発を進めている。

(4) 外国語教育研究の成果に基づいて、多読、多聴、速読、CALL 教育等の外国語教授法を改善・開発し、実践する。

○ 「多読」については、2015 年度から補助金を得て、附属図書館本館のグローバル学習室における蔵書の強化を図っているところである。2017 年度は多様な学問領域における入門書にあたる図書を精選して整備することで、専門科目の内容を英語で学ぶ環境を作った。

○ オンライン学習支援システムを用いて、反転授業を展開し、十分な課外学習時間を確保するよう努めている。

○ 海外、特に日本と同じ非（または準）英語圏における英語教育の先進的事例についての調査を 2015 年度から開始した。2015 年度には韓国ソウル大学及び高麗大学への訪問調査を、2016 年度には香港理工大学、香港中文大学、香港城市大学及び香港科技大学への訪問調査を、2017 年度には国内における先進的事例について神田外語大学への訪問調査を、それぞれ行った。また、2017 年度には、香港理工大学、香港科大及び神田外語大学から講師を招き、英語教育サポートシステムに関するシンポジウムを開催した（2018 年 3 月 3 日、「東アジアの大学における特色ある英語教育サポートシステムー香港と日本の例から」、於東北大学川内北キャンパス）。さらに、2018 年度には、再び香港を訪れ、香港バプテスタ大学、香港教育大学及び香港嶺南大学への訪問調査を行った。成果の発信には、「東アジアの準英語圏・非英語圏における英語学習サポートシステムの実態調査ーその経過と香港地域の大学の調査結果報告を中心にー」（江藤裕之・北原良夫・長野野子、2018 年、『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』、第 4 号）などがある。なお、2019 年度末（または 2020 年度初め）に新たなシンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、開催延期となっている。

○ 2019 年度は、2018 年に引き続き「外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト」を継続した。2019 年度は月に一回程度の割合で、計 8 つの授業を対象に授業参観を行った。授業参観後、授業提供教員と共にディスカッションを行い、延べ 32 名の外国語教員が参加した。参加者全員は「授業参観は授業の改善に役立った」と感想を寄せている。

○ 中国語では、実践的中国語運用能力の育成を目的として、ICT（情報通信技術）を活用したブレンディッドラーニング（対面授業と e ラーニングの組み合わせ）、具体的には、本学で開発した初修中国語ブレンディッドラーニング用マルチメディア教材、スマートフォン利用復習用アプリ教材及びその学習管理システムなどを用い、自習を促し、学習意欲と学習効果を高める教育に取り組んでいる。

(5) 教育評価分析センターおよび大学教育支援センターと連携し、言語文化教育に携わる教員の教育能力を向上

させるためのプログラム開発を推進する。

2019年度は、各センターと連携して語学教育に関するセミナーを開催した。

○ 大学教育支援センターと連携したセミナーとして、6月には「Professional Development Seminar on TESOL：国際標準英語教授法セミナー」を、2020年1月には「J-CLIL Tohoku Symposium Exploring the Potential of CLIL within the Japanese Context」（10月に開催予定だったが台風による影響により順延したもの）を、それぞれ開催した。

○ 6月に第2回J-CLIL東北支部学会を開催した。

○ ドイツ語教育ワークショップ「ドイツ語の学習基本語彙と文法」を開催した（2020年2月7日）。招待講師の講演とディカッションを通して、英語とドイツ語の基本語彙に見られる相違がそれぞれの言語体系や文法上の相違と関連していることを確認した。また、日本のドイツ語学習者を対象としたドイツ語学習基本語彙の選定基準や問題点などについて参加者の方々も含めて議論を行った。

○ 韓国語・韓国文化教育に関するセミナーを開催した：6月1日「2019東北地域韓国語・韓国文化教育者シンポジウム in 東北大学」（発表のテーマ：「朝鮮半島近現代史教育の課題と展望」、「日本の大学におけるこれからの韓国語教育-新しい可能性の模索-」、「アクティブ・ラーニングの可能性について-一京都女子大学の取組みを例として-」、「東北大学における初修外国語教育と韓国語教育の現状と課題」、「韓国を身近に感じられる学生間ペンパル交流事例」、「韓国語上級者の学習プロセス」）。

○ 韓国語弁論大会「第10回東北地域韓国語ハンマダン」を10月5日に東北大学で開催した。

○ 韓国文化をより深く理解させるために「日韓相互理解の時代：新しい関係性、時間・空間・再生」（12月6日）を企画して講演会を実施した。

○ 日本フランス語フランス文学会と連携し、2019年11月30日にフランス語教育に関するシンポジウム「フランス語教育のいま、これから」を開催した。

○ 11月23日に日仏会館で行われた全国大会「フランス語コンクール」において本学の学生が決勝に進出した。

○ 2019年9月20日に外部の専門家を招き、ワークショップ「初修外国語担当教員の成長を促す授業参観」を開催した。

(6) グローバルラーニングセンターと連携し、海外派遣留学プログラム、外国語・コミュニケーション能力教育プログラムの充実化を図る。

○ グローバルラーニングセンターと協力し、平成26年度の夏から韓国のソウル大学と短期海外研修スタディアブロードプログラム(SAP)を実施するなどNative教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。また、SAPプログラムの支援活動として、グローバルラーニングセンターと米カリフォルニア大学リバーサイド校との共同開発で、「留学準備実践」を開講実施した。

○ グローバルラーニングセンターと協力し、教員引率留学プログラム(FL)を実施するなどNative教員を通じた海外留学先との連携やプログラム開発への協力を進めている。本年度新たにフランス語圏のスイスのローザンヌ大学と提携を結び、スイスにおいて異文化とステレオタイプをテーマとしたフィクション映画を撮影するプロジェクトを開始した。

○ 全学教育と、Practical English Skills、グローバルラーニングセンターでの特別講座など英語教育活動への協力と推進を図っている。

○ グローバルラーニングセンター及びマンスフィールド財団と連携し、米国モンタナ大学の訪問・調査を行い、大学間協定の締結、共同研究の推進、学生・教職員の交流、単位取得を伴うグローバル・イニシアティブプログラムの開発及び実施を進めている。

○ グローバルラーニングセンターと連携して外国人留学生等特別課程(日本語)の授業と合同の形で国際共修ゼミを開講し、国際理解教育を推進している。2019年度は、43クラスの国際共修ゼミを開講し、受講者のコミュニケーション能力、情報発信力、異文化理解能力等の向上を図った。

## (5)グローバルラーニングセンター

### 使命

東北大学の教育国際化戦略の策定・実行と国際交流活動の推進に中心的な役割を果たす。優秀な留学生の戦略的受け入れ推進と教育・支援プログラムの開発・充実及び多様な海外派遣プログラムの開発・実施，教育の国際化の推進等の実践的活動を通じて，国際的な視野を持ち指導的な役割を果たすグローバル人材の育成に大きく貢献する。また，学内外の連携を強化し，グローバルキャンパス構築に寄与するとともに，広報活動や社会連携を推し進め，本学のプレゼンスの向上を図る。

### 事業内容及び活動状況

- (1) 教育国際化戦略の策定・実行のために，国内外における高等教育関連の情報収集，本学の国際競争力やネットワークの拡大を目指した発展的な戦略の策定および大学執行部・他部局への情報提供・提言を行う。学術間交流協定校をはじめとする世界各国の有力校との関係構築・強化・連携を強め，国際戦略に基づいた国際交流活動を実施し，本学のプレゼンスの向上を図る。

「東北大学グローバルイニシアティブ」構想の中核の一つをなすグローバル教育基盤整備に関して，グローバルラーニングセンターが開発・実施にあたり中心的な役割を果たしている。

学生の留学希望が多い欧米の大学を中心に協定締結のための大学訪問等を積極的に実施した。

海外拠点の整備について，バンコクの海外代表事務所，ベトナム貿易大学の共同事務所及びカリフォルニア大学リバーサイド校東北大学センターにおいて，短期海外派遣プログラムの実施や留学生のリクルート，同窓会設立補助等，多様な取組みを実施した。研究，教育，管理のそれぞれの分野で，ワシントン大学と東北大学間の国際連携および産学官連携の構築・発展の拠点となる，ワシントン大学東北大学代表事務所（University of Washington-Tohoku University: Academic Open Space (UW-TU:AOS)）を基礎とし，年間で100名を超える規模でワシントン大学・東北大学の教員・学生・事務員がAOSを通して行き来した。中でも，2019年9月に大野総長がワシントン大学物質材料科学創立125周年記念式典で基調講演をし，Cauceワシントン大学総長と今後の学術交流の更なる発展に寄与することで合意した。さらに，研究テーマも材料，土木，航空，機械，流体，災害，看護と幅広く育ち，国際共著論文も着実に出版され，本学のプレゼンスの向上の一端を果たした。

東北大学挑創カレッジ：グローバルリーダー育成プログラム（TGL）を拡充し，「TGLコミュニティ・アンバサダー」制度を導入した。これによりグローバルリーダー候補者を増やし本学のグローバル教育をさらに発展させる。留学生と国内学生の協働を取り入れた「国際共修」授業の開発・普及に努め，キャンパスの国際化を促進し，本学における教育支援の国際化に寄与した。

- (2) 優秀な留学生を獲得するため，多様で魅力的な国際プログラムを開発し，支援を行う。また，留学生支援（学業・生活支援，就職支援，危機管理，相談等）を充実する。

国際教育院がこれまで担当してきた英語による学士課程留学生プログラム「国際学士コース」の運営や全学教育の実施等を改組後引き続きグローバルラーニングセンターが行ってきた。特に，8名の国費留学生配置枠を得，3コースの協力のもと「理・工・農協働プログラム」を継続実施した。また，ウェブや現地高校訪問等を通じた国際学士コースの広報の結果，優秀な志願者・入学者を確保することができた。英語コースに関する教員に対するアンケートを基に，英語での教育力の向上を支援するPDプログラム，教育プラットフォームを開発し，教育指導・学生生活支援に関する改善を図った。

また，JYPEやIPLAプログラム等の英語で教授する交換留学生の受入プログラムについて，留学生課と協力してグローバルラーニングセンターが運営の中核的役割を果たしている。人文社会科学系の2つのプログラムを統合し，より包括的で専門性の高い交換留学プログラムに発展させるための制度改革を進めた。大学院生を対象にしたCOLABSプログラムの受入れに際し事前内諾制度を導入し，世界各地から優秀な大学院生を本学の先端的な研究環境により合致した交換留学生として受け入れる態勢を整えた。グローバルラーニングセンターはこのプログラムのとりまとめを行うと同時にこれらの留学生に対しフィールドトリップや各種イベントを実施し，日本および大学への適応を支援している。また，理系・文系それぞれにおいて協定校からの学生を受け入れるサマープログラムを実施している。

これらのプログラムにおいて，グローバルラーニングセンターの教員が留学生に対する学業や生活上での支援や相談業務を行っている。また，本学学生による支援団体を統括し，学生による留学生支援の拡大を図る

ている。留学生支援は学生相談所やキャリア支援センターなど機構内の組織との連携も図っている。特に、学生相談・特別支援センターとの密な連携により、特別支援や精神的な支援等を必要とする学生の支援にあたった。学生の相互支援を取り入れたアドミニストレイティブ・アシスタント（AA）制度を拡充し、留学生が気軽に情報収集や相談に訪れることの出来る「留学生のためのヘルプデスク」を新設した。経済支援については、グローバルラーニングセンターが中心となって JASSO への奨学金の申請を行い、それを留学生の経済支援に充てている。令和元年度通年で外国人留学生数は 3,500 人を超え、令和 2 年（2020 年）度の達成目標である 3,000 人を突破した。

- (3) 国際戦略に基づき、質の高い海外研鑽プログラムを開発し、派遣留学生支援、派遣留学促進のための教育・支援を充実させる。

3～5 週間の短期海外派遣プログラムである「Study Abroad Program (SAP)」を開発し実施した。今年度は夏休み・春休み合わせ、256 名の学部学生が SAP に参加している。SAP においては、語学研修だけでなく様々なテーマを設定してのアクティブラーニングや現地の大学生や地域住民などとの交流の場を設けており、質の高い国際経験ができるプログラムとしている。昨年度に引き続き海外体験プログラムを単位化し事前・事後研究の充実を図るとともに、教員引率型の海外研修プログラム(FL)を開発・実施し、67 名の学生を派遣した。さらに、ワシントン大学において理工系の大学院生向けの短期海外派遣プログラムを実施した。理学部主催の理数応援プロジェクトによるカリフォルニア大学デイビス校への学生派遣プログラムについて、グローバルラーニングセンター教員が引率教員として重要な役割を果たした。

交換留学を希望する学生に対して、グローバルラーニングセンターの教員が留学アドバイジングを行っている。交換留学を希望する学生並びに交換留学が決まった学生に対して、留学準備教育を行っている。

SAP,FL や交換留学に対する JASSO の奨学金を獲得する努力を行い、派遣留学参加者の経済的支援に貢献している。また、交換留学における単位認定・単位互換に関するラーニングアグリーメントについて、全学的な導入にも寄与した。

国際共同教育、ダブルディグリープログラムなどの学位取得を目指す学生に対する留学オリエンテーションを行うとともに JASSO の奨学金の獲得による経済的な支援を実施した。さらに、国際共同大学院との連携を図り、国際共同研究・教育の充実に努めた。

昨年度に引き続き 5 月及び 10 月を留学強化月間として留学に興味を持ってもらう様々なイベントを催し、同時に留学に関する情報提供を行った。

本学は平成 26 年 3 月に AOII 期・推薦入試合格者を対象に国立大学では初めてとなる「入学前海外派遣プログラム」を実施しており、今年度は、カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ）での派遣プログラム及びヨーク大学（イギリス）での派遣プログラムを計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施が中止となった。

- (4) 国際社会でリーダーとして活躍する人材を育成するために、国際教養力、行動力、語学・コミュニケーション力等を育む多様な教育プログラムを開発・実施する。

東北大学グローバルリーダー育成プログラムの責任部署として、プログラムの策定・実施にあたっている。このプログラムは、本学学部生を対象として、語学・コミュニケーション力、国際教養力、行動力を養成する 3 つのサブプログラムと、海外研鑽サブプログラムからなり、グローバルラーニングセンターは、これらプログラムの方針の決定、指定科目の選別、ポイントの認定、学習アドバイジング、プログラム修了やリーダー認定の判断等多くの事を行っている。令和元年度の登録学生数は 2,406 名となっている。また、本プログラムに提供する正課・課外活動一部を実施している。特に、外国人留学生と日本人学生が共に学ぶ課題解決型授業「国際共修ゼミ」や、グローバルに活躍する個人や企業人等を招いての「グローバルキャリアセミナー」、グローバルリーダー認定コースの必修科目である「グローバルゼミ」等を実施し、グローバル人材の育成に貢献している。

課外での英語学習の強化のため、平成 27 年に開設した東北大学イングリッシュアカデミー（TEA）において、課外英語学習講座、英語アドバイジング、TOEFL-iBT®、TOEFL-ITP®の試験実施などを引き続き行った。特に課外英語学習講座である TEA's English には令和元年度延べ 408 名の学生が参加した。

- (5) 学内外との連携を強化し、グローバルキャンパスの実現に寄与する。また、本学の教育国際化について積極的な広報活動を行い、広く社会との連携を図る。

各部局の国際交流担当教職員や、東北大学留学生協会（TUFSA）等の学生団体等との学内諸団体との連携を強化している。

世界各国の国際教育・交流教職員が一堂に会す国際学会や協議会（NAFSA, EAIE, APAIE）等に教職員を派遣し、本学の取り組みや調査結果を積極的に情報発信するとともに国際ネットワークの拡大に努めている。

グローバルラーニングセンターのホームページを抜本的に改修し、国内外への訴求力を高めた。また、本学の教育国際化の取組についてリーフレットを作成し、民間企業、保護者等を含む一般の方々への広報活動を行っている。

## (6)学際融合教育推進センター

### 使命

- (1) 世界的な視点で、大学における教養教育のありかたを調査研究し、東北大学の学士課程教育、大学院教育の発展に資する提言を行う。
- (2) 全学教育の分野別教育を開発・提供するとともに、学士課程教育、大学院教育を視野に入れ、各分野内の総合科目（自然科学，人文科学，社会科学，スポーツ），分野を超えて人類社会の課題に応える学際融合型教育科目の開発・実施を行う。
- (3) 学際融合型教育を英語など多言語で提供し、東北大学の教育を国際的視野で推進する。

### 事業内容及び活動状況

- (1) 人類社会の課題に応える部局横断的な学際融合教育課題・教育プログラムに関わる調査研究とカリキュラムの策定

1. 全学教育改革検討タスク・フォースとその幹事会のメンバーとして、本学全学教育改革の基本理念と新しいカリキュラムを策定し、最終報告書の執筆にも貢献した。この報告書を総長に提出した。
2. サンフランシスコ州立大学キンバリー・タナー教授を大学教育支援センター・グローバルラーニングセンターと共同で招聘し、理数科科目におけるアクティブラーニングとその科学的根拠に基づいた教育評価・改善に関する国際シンポジウムを開催し、さらに模擬授業を通して STEM 科目で利活用可能なアクティブラーニングの教育手法展開に関する国際ワークショップを実施した。

- (2) 学部から大学院にいたる学際融合型授業の開発推進

1. 部局横断型の自然科学総合実験，文科系のための自然科学総合実験，英語による自然科学総合実験（国際学士コース）を実施している。受講者はそれぞれ 1,604 名，29 名，27 名を受け入れた。
2. 学際連続セミナー「インフォグラフィックス」と「ことばのデザイナー意識して言葉を紡ぐ」を合計 2 回開講し、のべ 55 名の参加者を受け入れた※コーディネーター：中村教博（代表，高教機構）・山内保典（同機構）・中川学（同機構）
3. 平成 31 年令和元度の開講科目として、「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学（基幹科目）」、「スポーツとコーチングの融合（カレントトピックス科目）」余計なことから始めよう（基礎ゼミ）を開講し、受講者はそれぞれ 151 名，60 名，24 名を受け入れた。さらに、学部 3・4 年生対象の高度教養教育科目としては「みせる，学び：大学で何を学んだの？」を前期と後期の 2 回開講し、受講者各 7 名，3 名を受け入れた。
4. 全学教育の基礎ゼミにて「フィクションで正義を考える」，「フィールドワークの日本史」を開講した。
5. 全学教育の基幹科目にて科学技術社会論を扱う「社会の中の科学技術」，研究倫理を扱う学際融合教育科目「あなたの選択：事例で考える研究倫理」，展開ゼミ「汎用的技能ワークショップ：認知的能力」を開講した。受講者はそれぞれ 10 名，12 名，7 名を受け入れた。
6. 「学びのストーリー」のウェブサイトについて、ビジュアルを重視した全学教育のシラバス検索画面のデザインに着手した。
7. 機構内教員の相互理解を深めるために、正午 PD 会を 12 開催し、のべ 246 名の参加者を受け入れた。

- (3) 教育プログラムの実施に必要な実装組織の構築

- 平成 31 年度学務審議会に設置された「全学教育改革検討タスク・フォース」において、1 名の所属教員がグループメンバーとして改革に従事し、最終報告書の執筆に貢献した。

## (7)学習支援センター

### 使命

- (1) 学生の主体的・自律的な学習を実践的に促進・支援し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
- (2) 初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
- (3) 教職員・学生の中に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

### 事業内容及び活動状況

- (1) スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA, Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA (Student Learning Adviser) とは本学学生による学生のための学習支援スタッフを指し、主に学部生の授業時間外の学習に対する支援を行っている。2019年度のSLA数は、前期43名、後期は36名であった。うち当該年度中に新規採用したSLAは計17名である。

このSLAによる学習支援は、①理系科目の学習支援、②英会話・日本語会話学習支援、③ライティング支援、④学習イベント企画という4つに大きく分けられる。2019年度の利用者数は延べ2,414名、1活動日あたりの利用者数は16.1名であった。

#### ①理系科目

質問受付カウンターでSLAが学生への学習支援にあたる個別対応型を中心としている。平日2限から5限の一部の時間帯に、ドロップイン（予約不要）の形態で、個別もしくはグループでの質問を受けるといった窓口対応を行っている。また、OJTやOff-JT、学生対応の標準化と研修機会の拡充を通して学習支援の質向上を推進した。2019年度の利用者数は延べ1011名、実数では257名であった。

#### ②英会話（主に日本人学生対象）および日本語会話（留学生対象）

「英会話カフェ」（ワークショップ）および「1on1」（個別対応）を通して、利用学生の多様なニーズに応じた学習支援を行った。2019年度の英会話支援の利用者数は延べ449名、実数で91名であった。

留学生の日本語学習支援としては、「日本語会話」ワークショップ（週2回、1時間/回）を開催した。参加者は延べ243名（前期99名、後期144名）であり、昨年度に比べて利用者が大幅に増加した。

#### ③ライティング支援

ライティング支援の2019年度の窓口利用者は延べ224名、実数で111名であった。留学生に向けた日本語ライティング支援としても積極的な広報を行うことで利用を促し、留学生利用者数は延べ81名だった。

また、『東北大学レポート指南書』に準じたアカデミックスキルセミナー「レポート指南書入門ゼミ」（全6回）を定期開催した。実施回数は合計で15回、参加者は延べ202名だった。

#### ④学習イベント企画

学習イベント等の企画実施については、新入生を対象とした企画「SLA体験week」、哲学カフェ「かんがえるソファ」を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を実施した。また前年度に引き続き、宮城県美術館の協力を得て「美術館の楽しみ方、教えます！」を実施した。具体的な活動状況と成果については、下記4で詳述する。

#### ⑤学習情報の発信および広報活動

以上の各分野について、2018年度に引き続き、情報発信に重点的に取り組み、相談窓口を利用しなくても様々な学修情報に学生がアクセスできる環境づくりを目指し、積極的な情報発信活動を行った。学修情報ポータルサイト「学びのヒント by SLA」を運用・更新したほか、物理・化学に関しては、ポスター掲示やブログ・SNSを活用した情報配信を定期的に行った。

- (2) 学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2019年度も、「シニアSLA」制度の運用をはじめ、部会活動やメンター制度、その他のOJTの仕組みも合わせて、SLA同士の自律的な研修・育成システムを継続的に運用した。特に学習支援者としてのSLAを育成するための研修体系を継続的・定期的に運用すると共に、日常的な学生対応についてSLAが自律的に考えて行動し、相互に検討し学び合う環境醸成に努めた。

当該年度も例年通り、全ての SLA を対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に全体リフレクション会や活動報告会を実施した。これらの活動により期間を通した SLA サポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。セメスター中には SLA の担当分野別に「部会」(担当別研修会)を実施し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。SLA 共通研修として、「学びの転換セミナー：アートから学ぶ創造的思考」(後述)のほか、ファシリテーションに関する研修を開催した。

セメスター末には全 SLA に対してアンケートやヒアリングを実施し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討すると同時に、個々の課題を総合的に把握・整理することにより全体課題の精査を行った。2月には本学にて、北海道大学と、学習支援に従事する学生スタッフ(主に理系・英語担当)の合同研修を実施した。

### (3) 情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。また、正課カリキュラムと学習支援センターでの活動を有機的に連携させるため、TGL プログラム必修科目「グローバルゼミ」の複数クラスに対して、センター教員がアカデミック・ライティング教育に関する「出前授業」を行った。その他、理系の初年次基礎科目を中心として、学習支援センターに集まる学生の学修情報を要望のあった科目委員会にフィードバックした。

### (4) 正課カリキュラム外における学生の自主的な学習支援の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。新入生を対象とした学習企画イベントとして、4月の授業期間初週(平日)の昼休みから3講時に、SLA サポートを体験できる企画「SLA 体験 week」(4月計3回開催、参加者延べ39名)、を開催した。理由相談等に訪れる1年生が多かった。その他、哲学カフェ「かんがえるソファ」(前期4回、後期14回開催、参加者延べ132名)を開催したほか、「チャレンジボード」など掲示・常設型の学習支援を行った。また、美術館を訪れた経験をあまり持たない学生を主たる対象にして、宮城県美術館の協力を得て実現した「美術館の楽しみ方、教えます！」(後期4回開催、参加者延べ25名)を開催した。

前期には、初めて「TUJP×SLA Language Exchange」を開催した。この企画は、英語・日本語の両言語を用いながら、日本人学生と接する機会の少ない短期留学プログラム TUJP の留学生と、英会話を通して留学生と交流したい日本人学生を結びつけることを目的とした交流企画ワークショップ(90分)である。国内学生・留学生合わせて42名の参加があった。

他に、学外講師としてアーティストを招聘した「学びの転換セミナー：アートから学ぶ創造的思考」を、2月5日に開催した。参加者は32名だった。

### (5) 学内外における学習支援ネットワークの構築

学内では、機構教員の協力を得て SLA 共通研修を実施したほか、附属図書館から各種イベントの実施や広報に定常的な協力・支援を得た。また、留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの連携を強化した。

学外との学習支援ネットワークとしては、2月に本学にて北海道大学と合同で、学生学習支援スタッフ研修を開催した。

## (8)キャリア支援センター

### 使命

- (1) 学部・大学院全体に対するキャリア支援を充実し、東北大学の学生が大学での学びを基盤に社会に巣立ち、生涯にわたって発達し、社会に貢献できるように支援する。
- (2) 就職動向や就業実態、大卒者のキャリア発達など進路選択に関する情報収集・調査研究を行い、各種のキャリア支援・就職支援に活用する。
- (3) 学生個人に対する相談業務を通じて、学生が進路選択を適切に行えるよう支援する。
- (4) 学生相談・特別支援センター、グローバルラーニングセンター及び部局等との連携を強化し、情報共有を進め、東北大学全体のキャリア支援力を向上させる。

### 事業内容及び活動状況

- (1) キャリア教育としての正課教育の改善・充実に努める。学士課程教育から大学院教育にわたり、学生の成長・発達の節目に対応し、自らのキャリア・デザインを構築する機会を提供するために正課教育を充実させていく。

全学教育におけるキャリア教育科目を、科目間の体系的なアクティブに学ぶ機会を重視しながら整備を進めている。令和元年度には、インターンシップを活用した授業科目「インターンシップ事前研修」と「インターンシップ実習」を新規開講した。

令和元年度は、大学生生活、自己分析をテーマとした「ライフ・キャリアデザイン A」, 「同 B」, さらに授業時間外の活動を組み込んだ「同 D」, また社会・仕事を知ることテーマとし、フィールドワークを取り入れた PBL 科目「フィールドワーク実践: 地域とビジネス」, および新聞社からの寄付講義としての展開ゼミ 2 科目, の合計 8 科目を開講し, 146 名が受講した。

また, 文学部「キャリアデザイン講座」, 生命科学研究所「バイオ産業基礎論」「イノベーションセミナー」などの授業科目の実施に協力した。

- (2) 正課外としてのキャリア支援の改善・充実に努める。学生個人の発達課題に対応したキャリア相談、就職相談等個別対応を重視し、各種のセミナー、ワークショップ、キャリア就職フェアなどを企画・実施し、学生の出口支援の充実に努める。

学部 1 年次学生から大学院学生までを対象とした「キャリア支援プログラム」を実施している。大人数のセミナーから少人数のワークショップ、個別相談まで、幅広いテーマのプログラムを多様な実施形態で提供している。

令和元年度は、セミナー 16 回 (参加学生数延べ 1,586 名)、ワークショップ 6 回 (同 98 名) などを実施するとともに、新たに「インターンシップフェア」(1 日間、参加学生数 242 名、参加企業数 36 社) を開催した。なお、「キャリア就職フェア」(5 日間、参加企業数 340 社の予定) は感染症拡大防止のため中止となったが、専用 Web サイトを開設して学生への情報提供や企業との接点確保の機会を確保した。個別相談 (川内および新宿) は、3,030 件に対応した (進路選択に関する相談 157 件、インターンシップに関する相談 433 件、就職に関する相談 2,118 件、公務員志望者向け相談 194 件、理系学生向け相談 62 件、個別相談 in 東京 66 件)。また、首都圏での就職活動やインターンシップへの応募・参加を支援するため、新宿ラウンジ (民間企業が運営) を学生の利用に供するとともに、同ラウンジにて個別相談を実施した。新宿ラウンジ利用者数は延べ 2,373 名であった。

- (3) 部局や機構業務センターとの連携・協力を強化する。キャリア支援に関する専門性開発を重視するとともに、学部から大学院や、博士前期課程から後期課程などへの選択・移行・適応を適切に行えるプログラムを開発し、実施する。

大学院進学は学生のキャリア形成における主要な選択肢の一つであり、セミナー等においても大学院生や大学院進学希望者を対象とした内容を盛り込んでいる。また、各学部・研究科におけるセミナー・ガイダンス等への講師派遣や、キャリア教育科目の実施協力などを通じて大学院進学希望者や大学院からの就職希望者への支援充実に取り組んでいる。

令和元年度は、キャリア支援連絡会議を通じて各部局の担当者との意見・情報交換を行うとともに、教育学研究科 FD、第 2 回学生生活支援審議会 FD に講師を派遣した。また、国際文化研究科、教育学部、生命科学研究所、農学研究科、多元物質科学研究所からの依頼に基づき、学生を対象としたキャリア教育・支援

セミナー等に講師を派遣した。その他、高校教員や保護者、進学希望者等を対象として、入試センターからの依頼に基づき、入試説明会や進学説明会・相談会における講師・相談担当者を3会場に派遣するとともに、オープンキャンパスでの説明会（参加者81名）や、保護者向け就活セミナー（参加者232名、個別面談16組に対応）を実施した。

- (4) 大学院後期課程を主な対象としたイノベーション創発塾を拡大・推進し、社会が求める博士課程修了者の幅広いキャリア支援プログラムを開発・実施する。

大学院後期課程学生とポスドクを主な対象とした「博士人材キャリア支援プログラム」を実施している。イノベーション創発塾、個別支援（個別相談）、フェアとセミナーなどの事業を通じて博士人材の産業界への輩出を推進するとともに、安心して博士後期課程に進学できるよう出口支援の充実を図っている。

「イノベーション創発塾」では、様々な問題を俯瞰した上で自ら課題を設定・解決できる人材の育成に取り組んだ。コミュニケーション力、プロジェクトマネジメント力、キャリアデザイン力などの効果的向上を図るためのプログラムを展開し、令和元年度は40名が卒塾した。「個別支援（青葉山）」は対応件数457件、「Job Fair」は参加学生数114名、参加企業数41社であった。「インターンシップセミナー」と「キャリアセミナー」には38名の学生が参加した。

- (5) 進路選択に関する情報提供の充実を図る。全学の学生がすべてのキャンパスで等しく進路・就職に関する情報が得られる、ワンストップの支援体制（支援環境）を整備充実する。

多様な学生の多岐にわたるニーズに対し、進路選択に関する情報を各学生のメインキャンパスによらず均等かつ速やかに提供するため、企業・団体からの情報を蓄積するとともに、電子メールやSNS、ホームページを活用した情報提供の充実を進めている。令和元年度の求人情報の受付件数は689件、インターンシップ募集の受付件数は339件であった。

令和元年度は、『キャリアガイド2020』を制作し、全部局に配付した。キャリア支援センターホームページは、ワンストップの支援体制を支える重要な柱のひとつとして位置づけ、川内と青葉山のスタッフが連携して運用しており、令和元年度にリニューアルした。キャリア支援プログラムの開催案内や学内アルバイト情報を配信しているメーリングリストへの受信登録アドレス数は859、Twitterフォロワー数は3,091名であった。キャリア支援センターのPC利用学生数は203名、書籍貸出件数は883件であった。また、川内キャンパスにおいて高度イノベーション博士人材育成ユニット教員による理系学生向け面談を実施し、ワンストップ支援体制を強化した。

- (6) 学内外の組織・機関と連携し、日本での就業を希望する外国人留学生に対する進路・就職支援を進める。日本語や就業に必要とされるスキル・能力の形成支援を強化する。

平成29年度に採択された文部科学省委託事業「留学生就職促進プログラム」において「東北イノベーション人材育成プログラム（DATEntre）」の企画開発、および実施にあたった。キャリア支援センターでは、本プログラムのために構築された東北イノベーション人材育成コンソーシアムの事務局を務めるとともに、学内外の組織・機関と連携しながらプログラムを推進している。令和元年度には同コンソーシアムに新たに東北福祉大学と宮城労働局が参画し、コンソーシアム運営会議を3回、教務委員会を4回、部会長会議を4回開催した。また、専門委員を交えて事業評価委員会を実施した。

令和元年度には、コンソーシアムを構成する5大学（東北大学・東北学院大学・東北工業大学・宮城学院女子大学・東北福祉大学）から第4期生として22名、第5期生として21名の留学生が受講を開始した。コンソーシアムとしてセミナー等を20回開催するとともに、個別相談200件に対応した。またキャリア支援センターでも288件の外国人留学生の個別相談に対応した。同年度には2名のプログラム修了者と7名の特別修了者を輩出した。

## (9)学生相談・特別支援センター

### 使命

「すべての学生がその学びと成長のプロセスにおいて、本学での経験から最大限の利益を引き出すことができるように、学生および大学コミュニティへの支援を行う」ことを目指して、大学教育の一環としての学生支援において核となる役割を担い、学生の人間形成の促進および大学の学生支援力の向上に寄与する。

### 事業内容及び活動状況

#### (1) 相談援助活動

学生相談所及び特別支援室への来談学生(留学生を含む)への個別支援,教職員および家族へのコンサルテーション,来談者間の交流支援等

##### <学生相談所>

- 学生相談所への来談学生に対して個別面接を通しての支援を行っており、必要に応じて指導教員や事務職員と連携している。また、学生の生活指導に関連して教職員や学生の家族からの相談にも応じている。令和元年度の学生相談に対する個別支援：来談者数 850 名、対応回数 5,316 回（星陵キャンパスでの出張相談も含む）。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室兼グループ室を居場所として利用している学生に対する働きかけや学生間の交流支援を行っている。こういった活動も学生が相談しやすい環境整備に有用であり、また相談業務の大きな支えになっている（令和元年度：利用者数延べ 221 名）。
- 平成 26 年 12 月から星陵地区での相談対応を開始しており、他キャンパスとの相談業務の連携を図っている。星陵キャンパスでの出張相談：来談者数 18 名、相談回数 104 回。
- 平成 28 年度より留学生に対する英語でのカウンセリングを開始しており、令和元年度は 117 名の留学生からの相談があった。

##### <特別支援室>

- 入試時に配慮申請のあった学生や、修学上のつまずき等を契機に来談した学生については個別支援を行うと同時に、修学上の合理的配慮が必要な場合、各部局の教職員や授業担当教員と連携しつつ支援を行っている。また、学生への関わりや支援等に関する教職員・家族からの相談にも対応している。令和元年度：来談者 308 名、対応回数 2,620 回。
- 障害のある学生への修学支援、オープンキャンパス来談者等への情報保障や移動支援等のために、学生ピアサポーターの募集・養成を行っている。新規・継続を含む令和元年度のサポーター登録者数：32 名。
- 修学上の合理的配慮を申し出た学生のべ 47 名に対し、部局の教職員や授業担当者と協働しながら合理的配慮の提供を行った。
- 受付兼インテーカーの職員が、待合室や休養室を居場所として利用している学生に対してきめ細かく対応している。人混みが苦手な学生や授業に出にくさを感じている学生にとっては、修学・学生生活上の支えとなっている（令和元年度：利用者数のべ 125 名）。
- 障害のある学生の就労支援を目的に「障害のある（あると思われる）学生の就職に関する説明会」を開催し、学生及び教職員 15 名が参加した。

#### (2) 予防・教育・広報活動

授業の担当,全学 FD・部局 FD の担当,部局オリエンテーション・パンフレット等での広報活動等

- 学生相談・特別支援センターのスタッフ全員の担当で、全学教育科目「学生生活概論—学生が出会う学生生活の危機と予防」(第 1 クォーター)を開講した。
- 特別支援室のスタッフを中心に、障害学生支援に関する啓発を目的に、全学教育科目の授業(「障害者支援入門」(第 2 クォーター)を開講し、計 15 名が受講した。
- 全学 FD として、学生生活支援審議会 FD を年 4 回実施している。令和元年度は、ハラスメントに関するテーマ 1 回(ハラスメント全学防止対策委員会との共催)、学生支援の今日的課題(留学生支援、キャリア支援、保健管理)に関するテーマ 1 回、大学生の不登校・ひきこもりに関するテーマ 1 回の計 3 回を実施した。(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、第 4 回目の学生生活支援審議会 FD は実施しなかった。)加えて、SD(教務系職員実務研修)、部局 FD において、学生支援やハラスメント、障害学生支援に関す

- るテーマでの講演を実施した（令和元年度：合計 12 回）。
- 全新入生に対して学生相談・特別支援センターのリーフレットを配付して広報に努めると同時に、新入生特別セミナーや部局オリエンテーションにて学生相談・特別支援センターの利用案内等を行っている（令和元年度：合計 19 回）。また、メンタルヘルスやハラスメント防止に関するテーマで、部局と連携した学生対象の講演会を実施している（令和元年度：7 回）。
  - 学生がストレスコントロールや危機状況における対応を学ぶことができるように、啓発活動としてエンパワーメント・リーフレットを平成 30 年度よりシリーズ化して作成している。令和元年度には「不安とどう向き合うか」、「あなたの生活を大切に」、「自分の特性と上手につき合う」の 3 種類を作成し、配布した。
  - 工学部・工学研究科の学生支援連絡会議への出席、理学部・理学研究科のキャンパスライフ支援室との随時の連絡・情報共有により、部局の学生相談・学生支援担当部署との連携を図った。

### (3) 調査・研究活動教育活動

学生相談および特別支援の実践法および学生支援活動に関わる研究

- 学生の心身の健康状態や大学生活への適応の把握を目的とした全学生対象調査を実施し、結果に応じて個別支援につなげた。令和元年度：調査の回答者数 10,859 名（回収率 59.3%）、そのうち、大学生活への不適応ハイリスク群が学部新入生で 175 名、学部 2 年生以上で 332 名おり、PTSD ハイリスク群は 236 名であった。
- 学生相談及び特別支援の実践に基づき、以下のようなテーマでの研究を行った。
  - ・学生相談と障害学生支援の連携に関する研究
  - ・学生相談カウンセラーの成長支援に関する研究
  - ・休学者・復学者への支援に関する研究

### (4) 大学としての学生支援施策および危機管理への貢献

学内委員会等を通じた提案、特別支援を含む学生支援に関する貢献、ハラスメント全学学生相談窓口における相談対応

- センター教員は、学務審議会、学生生活支援審議会、男女共同参画委員会、学生相談・特別支援連絡会議、キャリア支援連絡会議、差別解消推進委員会、ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会の委員を務めている。
- ハラスメント全学学生相談窓口相談員として、来談者への個別支援等を行っている。令和元年度：相談件数 26 件、対応回数 126 回。
- 聴覚障害や視覚障害、肢体不自由の学生等の支援に関して、支援機器の整備・活用、設備・施設の改善等に部局と連携しつつ取り組んでいる。令和元年度は川内北キャンパスの講義棟内に新たに手すりが設置されたほか、同キャンパス内の多目的トイレのうち動線が塞がれていたところを改善し、ドアに故障がみられたところを改修するなどの環境整備が図られた。

### (5) 他大学の学生支援活動との連携および地域連携

他大学等における講演、学生相談・特別支援担当者間の研究会の実施

- 他機関等の依頼を受け、障害学生支援に関する講演を実施した（令和元年度：2 回）。また、第 57 回全国学生相談研修会の講師を務めた。
- 他大学からの訪問を受け入れた（2 件）。
- 障害学生支援相互協力協議会を実施した。
- 大学教職員を対象とした発達障害学生への就労支援に関する研修会を実施した。
- 大学における身体障害学生への支援に関する研修会を実施した。
- 第 76 回、第 77 回みやぎ学生相談連絡協議会に参加した。
- 仙台学生相談事例研究会、在仙大学障害学生支援大学間ネットワーク情報交換会、障害学生支援東北地区大学間情報交換会、全国高等教育障害学生支援協議会第 5 回大会に参加した。

## (10)保健管理センター

### 使命

保健管理に関する専門的業務及び専門的調査、研究を行い、本学における学生の健康教育及び健康の保持、増進を図ることを目的とする。

### 事業内容及び活動状況

#### (1) 保健業務の実行についての企画、立案

- 1) 定期健康診断を企画・実施した。
- 2) 特殊健康診断（放射線取扱学生特殊健康診断，有機溶剤特定化学物質取扱学生特殊健康診断，VDT 作業従事学生特殊健康診断，秋胸部X線検診）の企画・実施。
- 3) 健康科学セミナーを企画・実施した。（年5回開催）
- 4) 健康科学講演会を企画・実施した。（年1回開催）
- 5) 禁煙外来を企画・実施した。

#### (2) 保健管理についての専門的調査、研究

- 1) 学生の尿検査異常からみた改善すべき生活習慣について調査を実施した。
- 2) 若年化の進む心血管病発症年齢の新しい機序解明と予防法の開発を継続して行った。
- 3) ライフスタイルと肥満・高血圧・喫煙習慣の関連について調査・解析を行った。
- 4) 学生の難病に関する病因・病態・治療に関する研究について継続して行った。

#### (3) 健康教育に関する専門的業務

- 1) 宮城県内の大学保健施設教職員を対象とした「健康科学セミナー」を5回実施。（第1回：大学生の保健管理に関する最近の話題2019（木内），第2回：不安障害について（伊藤），第3回：2019年の高血圧（小川），第4回：頭蓋顎顔面外科と歯科矯正治療（北），第5回：インフルエンザに感染すると心筋梗塞を起こす？（佐藤）。
- 2) 全学教育「体と健康 I X」を担当した。
- 3) 大学院教育「健康情報学」を担当した。
- 4) 健康科学講演会にて「糖尿病の歴史を通じて糖尿病を理解する」（小川）を講演した。

#### (4) 健康診断及びその事後措置

- 1) 定期健康診断を4～5月に実施（受診率73.1%），事後処置を必要とした学生は2,000名であった。事後処置として精密検査及び健康教育，さらに必要に応じて大学病院などへ紹介を行った。（1次受診者数13,438人）
- 2) 6・12月に放射線取扱学生特殊健康診断，7・11月に有機溶剤・特定化学物質取扱学生特殊健康診断，10月にVDT作業従事学生特殊健康診断，11月に秋季胸部X線検診を実施した。（特殊健康診断受診者数総計6,448人）
- 3) 健康診断証明書の発行（2,116通）

#### (5) 5保健室（川内地区，片平地区，星陵地区，青葉山地区，雨宮地区）における健康相談，メンタルヘルスケア及び救急措置

- 1) 川内地区では，月～金の午前・午後に医師による健康相談，救急措置を実施し，火・木・金の午前・午後に精神科医師によるメンタルヘルスケア，火・金の午前と月の午後に歯科医師による健康相談，月～金の午前・午後に管理栄養士による栄養相談を実施した。また，片平地区では金の午後，星陵地区では木の午後，青葉山地区では火の午後，新青葉山地区では月・水の午後に医師による健康相談，救急措置を実施した。（総健康相談回数は3,694回）

#### (6) 学内の環境衛生及び感染症予防の措置についての指導援助

- 1) 鳥インフルエンザ，インフルエンザ，感染性胃腸炎に関する注意喚起の掲示を行った。
- 2) 大学寮におけるインフルエンザ対策，ウイルス性胃腸炎対策を行った。

3) 令和2年1月より新型コロナウイルス感染症対策を行った。

(7) その他健康の保持，増進についての必要な専門的業務

- 1) 東北大学の結核対策について検討し，研究生を対象とした期間外検診システムを構築し，試験的に実施した。
- 2) 各種大学行事への医師・看護師の派遣・対応を行った。(各種入学試験，入学式，新入生オリエンテーション，北雄杯駅伝大会，オープンキャンパス，キャリア就職フェア，学位授与式，大学祭，深夜マラソンなど)
- 3) 学生定期健康診断のIT化を継続的に検討し，定期健康診断システムに改良を加えた。

## (11)課外・ボランティア活動支援センター

### 使命

本学学生の社会性を涵養し、主体的な問題解決能力を備えた指導的人材を育成するために、学生の自主的な課外・ボランティア活動を総合的に支援するとともに、社会貢献型の体験学習を実施し、学生の心身の健康増進に寄与する。

### 事業内容及び活動状況

(1) 本学学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ・ボランティア活動の総合的な支援

2019年度に本学学生の自主的なボランティア活動や課外活動の支援として、以下を実施した。

#### 1. 東北大学生に対するボランティア活動への参加や震災学習の機会の提供

##### (1) ボランティア・フェアの開催

学生ボランティア団体やNPO等がブース形式で出展し、東北大学生にボランティア活動の紹介を行うボランティア・フェアを開催した。本年度は、4月・11月の2シーズン開催とし、参加者総数は過去最高であった。

4月：7日間（323名参加）、11月：3日間（46名参加）

計10日間：のべ369名参加

※これまでの実績

①平成24年度：11日間（222名）、②平成25年度：11日間（175名）、③平成26年度：13日間（297名）、④平成27年度：11日間（297名）、⑤平成28年度：16日間（290名）⑥平成29年度：13日間（282名）⑦平成30年度：12日間（344名）

##### (2) 広報誌 Volunteer Seminar Journal の発行

東北大学生を対象として、ボランティア活動に関心を持ってもらうため Volunteer Seminar Journal Vol.14（3500部）を4月1日に発刊した。

##### (3) ボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等の開催

学内で被災地やボランティア活動に関心を持つ学生を募集して行うボランティアツアー・スタディツアー・ボランティア派遣等を、センター主催・共催の形式で63回開催し、のべ723名の学生が参加した。これは、学生ボランティア団体が定期的に行う被災地での活動以外に、「初めて被災地に行ってみよう」、「ボランティア活動に挑戦してみよう」、「緊急災害ボランティアを行いたい」という学生のニーズに応えるものである。

ここに以下で紹介する学生ボランティア団体独自の活動等、ボランティア活動実施届・ボランティア活動報告書が提出された活動をすべて合算すると、計150回、のべ1293名の東北大学生がボランティア活動に参加している。これまでの最高総数は前年度の計142回のべ1240名であり、年々ボランティア活動に参加する学生数は増加傾向にある。

※平成29年12月に「東北大学学生ボランティア支援に関する内規」（高度教養教育・学生支援機構長裁定）が定められたことにより、平成30年度から学生ボランティア支援は、東日本大震災関係のボランティアに関わらない活動についても支援の対象となった。

##### (4) 様々なボランティア体験プログラムの開発・実施

8月～9月にかけて「子どもの貧困問題解決に向けた取組に学ぶボランティア体験プログラム」（TGLポイント対象、21名参加）を実施し、日常の多様なボランティア活動への参加機会の提供を行った。

##### (5) その他緊急災害支援

2019年9月9日に千葉県などに上陸した台風15号では、日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）との情報共有等を行い、支援の方法を検討した。その結果、Gakuvo主催の災害ボランティア派遣の情報を配信し、計2回、のべ7名の学生が参加した。また、2019年10月に関東・東北地方を横断した台風19号では、ボランティアニーズが大量発生し、Gakuvoとの協力を継続しつつも、本センターとしてボランティア活動を促し、支援を行った。特に宮城県丸森町を中心として、計27回、のべ279名の学生がボランティア活動に参加した。

##### (6) 留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボランティアツアーの実施

SCRUM 国際部およびグローバルラーニングセンターと連携し、留学生と国内学生が被災地で共に学ぶボ

ランティアツアー等を開催した。メインプロジェクトの事前学習として、ワークショップ・研修を行い、その後実際のツアーを開催するという形をとった。SCRUM 国際部の活動は以下のとおりである。4月に荒浜事前研修（留学生0名、東北大学生4名）、5月に荒浜ツアー（留学生13名、東北大学生9名）、8月に震災学習ワークショップ（留学生1名、東北大学生6名）、南三陸事前研修（留学生0名、東北大学生5名）、10月に宮城県気仙沼市稲刈りカップ参加企画（台風19号の影響により中止）（留学生3名、東北大学生7名）、11月に南三陸ツアー（留学生11名、東北大学生6名）を行った。なお、グローバルラーニングセンターの正課における留学生受入れについては、本報告においては別途記載することとし、(3)「国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進」で後述する。

#### (7) ボランティア支援学生スタッフの育成、研修の実施

東北大学における学生の自発的なボランティア活動の活性化を推進するために、ボランティア支援学生スタッフ（愛称 SCRUM）を育成した。4月に3回のスタッフ説明会を開催し、継続も含めて約80名がスタッフ登録し、センターの業務に参画した。

学生スタッフのボランティア・コーディネーターとしての力量形成のため、研修合宿及び集中会議を5月・10月・3月（新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期）の計3回計画し、被災地ボランティアの課題やボランティア・リーダーとして必要な知識を学ぶ機会を提供した。また、センターの実施事業や学生のボランティア活動に関する連絡・相談を行うミーティングを23回開催した。さらに、震災伝承に関わるツアーを5回、学習会を6回行った（震災伝承部）。また、人権課題に関わる学習会を計7回開催し、震災及び人権に関わる知識の提供を行った（人権共生部）。そのほか、過疎地地域に関わるツアーを年4回（地域共創部）、防災に関わるツアーを年1回行った（もしとさ）。

## 2. 学生ボランティア団体の支援

### (1) ボランティア登録団体への支援

ボランティア団体登録制度を設け、本年度は13の学生ボランティア団体が登録を行った（昨年度は11団体）。学生ボランティア団体の活動は東日本大震災以外の活動にも及んでおり、学内で多様なボランティア活動が広まっている。これらの団体に対しては、より良い活動を行えるよう、倉庫の提供、会議室の貸し出し、備品の貸し出し等を行った。また、学生ボランティア団体が利用できる助成金や学内外の関連イベント等の情報を随時提供した。

### (2) 学生ボランティア団体連絡会議（井戸端会議）の開催

学生ボランティア団体の連絡会議（通称・井戸端会議）を計7回開催し、情報交換や課題の共有、コラボ企画の発案、助成金情報の提供等を行った。

### (3) 課外・ボランティア活動研修会の開催

学生ボランティア団体および学生スタッフが安心・安全により良い活動を行うことを支援するために、課外・ボランティア活動研修会を計4回開催した。テーマとしては、「大学における学生ボランティア支援の未来—東北大学からの展望—」（5/28、講師：横関理恵、阿部晃成、金田理紗）、「課外・ボランティア活動におけるセクハラ防止のために」（7/9、講師：八幡悦子氏）、「災害ボランティアセンター・運営サポーター養成講座」（10/16、共催：仙台市社会福祉協議会）、「学生団体の組織運営」（1/7、講師：鈴木平氏）を取り上げた。

## 3. 学生ボランティア活動の成果の社会への発信

### (1) オープンキャンパス・東北大学祭等での活動紹介

7月のオープンキャンパスで学生スタッフの助力を得ながらパネル展示を行い、活動成果を広く高校生や本学学生の保護者、地域住民等に公開した（来場者162名）。

### (2) 紀要および広報誌の発刊

2018年度末に刊行した『課外・ボランティア活動支援センター紀要』をHP上で公開した。また、2019年度版を2020年3月に発刊し、関係各所に配布した。また、広報誌『Volunteer Seminar Journal vol.14』を2019年4月に発刊し、新入生や学内・学外に向けた本学のボランティア活動の広報の一助とした。

### (3) 助成金の取得と社会的評価

2019年度は、SCRUM および SCRUM 参加団体において、東北大学基金、Yahoo!基金、全日本社会貢献団体機構、大和証券、東北ろうきん、宮城県同募金会、みやぎ生協福祉事業助成金、中日新聞、世界宗教者団体、こくみん共済、Gakuvo Style Fund から助成を受けた。これは、各団体の活動が高い社会的評価を受

けていることの証明である。

#### 4. 課外活動の支援

##### (1) 課外活動団体リーダー層対象の合同研修会実施

課外活動団体リーダー層（大学祭実行委員会、新歓祭実行委員会、生協学生委員会（おおわん）、SCRUM、@home、体育部常任委員会）対象の合同研修会を1回（11月）実施した。そこで挙げられた課外活動をする上での悩みに関して、学生団体が教育・学生支援担当理事である滝沢理事と意見交換をする会合を1回（12月）セッティングした。

##### (2) 学友会等と連携した課外活動支援

学友会体育部、文化部、課外活動支援係等の教職員が参加する定例会議を毎月1回開催し、適宜情報交換を行った。

#### (2) 東日本大震災被災地復興および地域社会・国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とした、社会貢献型の体験学習（サービスマーケティング）の企画・実施

2019年度には、社会貢献型の体験学習（サービス・ラーニング）として、東日本大震災及びボランティア関係の授業を計5コマ開講し、82名が受講した。

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造 「東日本大震災からみる現代日本社会」	松原久，横関理恵	【2S・4S】月4
基礎ゼミ	共生社会に向けたボランティア活動一人権・多様性・エンパワメント	横関理恵	【1S】月5
	留学生と共に被災地を訪れて現状を世界に発信しよう！	渡部留美	【1S】月3
展開ゼミ (国際教育科目)	課題解決型（PBL）演習A「ボランティア活動と地域課題―被災者の生活再建・コミュニティ形成の課題に寄り添う」	松原久	【2S・4S】木4
	課題解決型（PBL）演習A「福島における人権保障と共生の課題―原発事故以降を生きる人々に寄り添う」	横関理恵	【2S・4S】金3

#### (3) 国内外の大学との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進

2019年度に、国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携の促進として、以下を実施した。

##### (1) グローバルラーニングセンターと連携した国外学生の受け入れ

グローバルラーニングセンターと連携し、6月にバイラー大学の学生9名を特別訪問研修生として受け入れ、本学学生（15名）と共同で被災地視察等を行った。

##### (2) 国内の大学生・高校生（中学生）との交流

前年度に引き続き、他大学や高校生（中学生）からの被災地視察の受け入れ依頼を多く受けた。2019年度は、上述の米国バイラー大学、鳥取県立八頭高校、兵庫県立宝塚西高校・尼崎西高校、日本福祉大学、石巻市立稲井中学校、東京工業大学、古川黎明高校、仙台市立中野中学校、同志社大学などの受け入れ・交流・質問対応等を行った。

3月には「他大学招へい福島ツアー」「他大学招へい学生ボランティアセミナー」として、熊本大学、熊本県立大学、広島大学、神戸大学、関西大学、福島大学、東北学院大学、尚絅学院大学等の学生を招へいすることを計画した（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）。

### Ⅲ 2019年度の機構全体の活動

## 1. 機構主催のシンポジウム・研究会・セミナー等

No.	開催日	事業名	参加者数
高等教育のリテラシー形成関連			
1	2019 5.15	<b>第30回東北大学高等教育フォーラム 「入試制度が変わるとき」</b> 基調講演1：共通第1次学力試験の導入とその前後 —何が期待され何が危惧されたのか— 大谷 奨（筑波大学 教授） 基調講演2：大学入試センター試験の光と影 —「平成」は「ポスト昭和」を超えたのか？— 倉元 直樹（東北大学 教授） 現状報告1：地方公立高校における整理と構え —入試制度変更への対応の成果と課題— 渡辺 豊隆（鹿児島県立大島高等学校 教諭） 現状報告2：入試制度の変更と現場で思うこと —今までとこれからを考える— 廣瀬 辰平（山形県立米沢興譲館高等学校 教諭） 現状報告3：高等学校の現状と、今、大学に求めること 宮本 久也（東京都立八王子東高等学校 校長）	370
2	2019 8.27	<b>大学の授業を設計する：授業デザインとシラバス作成</b> 講師：串本 剛（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	31
3	2019 9.6	<b>学生の学びを支える学習支援</b> 講師：谷川 裕稔（四国大学短期大学部 教授）	53
4	2019 9.18	<b>授業づくり：準備と運営</b> 講師：邑本 俊亮（東北大学 災害科学国際研究所 教授）	40
5	2019 12.6	<b>日本の高等教育政策</b> 講師：羽田 貴史（東北大学 名誉教授）	57
専門教育での指導力形成関連（各専門分野）			
6	2019 11.21	<b>コーチング技能を活用した学生指導</b> 講師：出江 紳一（東北大学 医工学研究科 教授）、倉重 知也（株式会社イグニタス 代表取締役）	42
7	2020 1.14	<b>国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学） 教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」</b> <b>第1部 エビデンスに基づく授業変革：“DBER”とは何か</b> 講演1：DBERに基づくFDによる組織的なSTEM教育変革 キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学 科学教育連 携・評価ラボ所長） 講演2：DBERに基づく教育評価・改善—山形大学の事例— 安田 淳一郎（山形大学 准教授）	39
8	2020 1.14	<b>国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学） 教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」</b> <b>第1部 エビデンスに基づく授業変革：“DBER”とは何か</b> ワークショップ：授業方法の振り返りと授業改善の探究：5Eサイクルモデル授業法に照らして キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学 科 学教育連携・評価ラボ所長）	26

No.	開催日	事業名	参加者数
9	2020 1.15	<b>国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM（科学・技術・工学・数学）教育—DBER（分野別教育方法研究）による授業変革と政策動向—」</b> <b>第2部 産学官連携によるSTEM教育推進：国際動向と日本の課題</b> 講演1：STEM 高等教育の政策動向と米国・日本・シンガポールの新しい学際STEMプログラム 山田 礼子（同志社大学 教授） 講演2：中国トップ大学の学士課程におけるSTEM教育の取組と学際教育の台頭 孟 衛青（広州大学 教授、九州大学 訪問研究員） 講演3：STEMからSTEAMへ、そしてその先へ Marcin Schroeder（東北大学 特任教授、元国際教養大学 能動的学修・評価センター長） 指定討論：小笠原 正明（北海道大学 名誉教授）	39
10	2020 1.17	<b>模擬授業を通して学ぶSTEM（科学・技術・工学・数学）教育における修学効果の高い学生主体の指導方法</b> 講師：キンバリー・タナー（サンフランシスコ州立大学 生物学科 教授、同大学 科学教育連携・評価ラボ所長）	29
11	2020 1.25	<b>J-CLIL Tohoku Symposium Exploring the Potential of CLIL within the Japanese Context</b> 講師：Barry Kavanagh（東北大学高度教養教育・学生支援機構 准教授）、岩野 雅子（山口県立大学 教授）、Mark Swanson（山口県立大学 講師）、Graham MacKenzie（上智大学 准教授）、小島 さつき（宮城大学 准教授）	30
12	2020 2.7	<b>産学連携教育イノベーター育成コンソーシアム設立準備記念講演会</b> <b>「日本の未来を拓く人材育成：大学と企業に求められる変革」</b> 講師：出口 治明（立命館アジア太平洋大学（APU） 学長）	128
13	2020 3.27 ～ 4.27	<b>ウェブイベント「大学改革を担う実務家教員フェア」</b> <b>産学連携教育シンポジウム 産業界と大学が共に創る新しい大学教育</b> <b>—産学連携教育の国際動向と日本の未来—</b> 講師：吉本 圭一（九州大学 第三段階教育研究センター長、主幹教授）、クリス・ラッド（ジェームズ・クック大学 シンガポール校 副学長・キャンパス長）、乾 喜一郎（リクルート進学総研 主任研究員） <b>—大学改革を担う実務家教員フェア—</b> 実務家教員の活躍事例の紹介 講師：武藤 敦子（名古屋工業大学 工学部 准教授）、牧野 丹奈子（桃山学院大学 学長） 実務家教員に関する経験談の共有 講師：岩城 奈津（共立女子大学 ビジネス学部 専任講師）、廣瀬 貴博（共立女子大学 総合企画室 総括室長）、泉谷 道子（愛媛大学 特定准教授）、勝又 あずさ（関西学院大学 准教授）	226
<b>学生支援力形成関連</b>			
14	2019 12.12	<b>SDP シリーズ第2回（2019年度）多様な学生の理解と支援：留学生とLGBT学生に注目して</b> 講師：河野 禎之（筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター 助教）、小島 奈々恵（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）	35

No.	開催日	事業名	参加者数
<b>マネジメント力形成関連</b>			
15	2019 7.6	<b>SDP シリーズ第 1 回（2019 年度）私立大学の教育改革を支える「中堅リーダー」の育成と活用ーグッドプラクティスから考えるー</b> 講演 1：共通教育カリキュラムの改革 高良 要多（桃山学院大学 大学統括部教務課 専任職員） 講演 2：教学改革と IR 機能の形成 山本 幸一（明治大学 教学企画部教学企画事務室） 講演 3：中長期計画の実質化と戦略経営 長山 琢磨（学校法人東北学院 法人事務局庶務部庶務課 係長） パネリスト：教職一体ガバナンスが育む中堅リーダー～共愛学園前橋国際大学の事例から～ 大森 昭生（共愛学園前橋国際大学 学長）	49
16	2019 9.6	<b>エンrollment・マネジメントをどのように捉え、どのように進めるか</b> 講師：畠田 敏行（茨城大学 准教授）	55
17	2019 11.18	<b>IDE 大学セミナー 学修の成果・時間と単位制度から考える学士課程教育の再設計</b> 講演（総論 1）：大学は誰に何を説明するのかー共通性と多様性の両立 深堀 聡子（九州大学 教育改革推進本部 教授） 講演（事例 1）：岡山大学における「60 分授業・4 学期制」について 佐々木 健二（岡山大学 全学教育・学生支援機構副機構長 教授（特任）） 講演（事例 2）：玉川大学の教育改革とキャップ制 菊池 重雄（玉川大学 名誉教授・特任教授） 講演（事例 3）：学習の有機的なつながりをつけるユニットプログラムとその実践 金井 徳兼（神奈川工科大学創造工学部 教授） 講演（総論 2）：学修時間と単位制度を再検討する：日米の議論から 森 利枝（大学改革支援・学位授与機構 教授）	97
18	2019 11.28	<b>グローバル人材育成を考えるー大学教職員に求められる意識と行動ー</b> 講師：横山 匡（(株) アゴス・ジャパン 代表取締役）	25
<b>正午 PD 会</b>			
19	2019 4.17	<b>第 69 回正午 PD 会 「"Chemistry" の場を探る」</b> 講師：滝澤 博胤（東北大学 高度教養教育・学生支援機構長、東北大学理事・副学長（教育・学生支援担当）、大学院工学研究科 応用化学専攻 教授）	34
20	2019 5.8	<b>第 70 回正午 PD 会 「生成文法理論研究と言語教育への応用可能性」</b> 講師：三上 傑（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 言語・文化教育センター 講師）	19
21	2019 5.21	<b>第 71 回正午 PD 会 「初等物理授業における Wiley Plus の導入と FCI、BEMA による概念理解度調査結果」</b> 講師：小池 武志（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 准教授）	28
22	2019 5.29	<b>第 72 回正午 PD 会 「スペインの高等教育：欧州高等教育圏におけるその特徴、組織、課題」</b> 講師：Gabriel Hervas Nicolas（バルセロナ大学 教授学習教育組織学部、高度教養教育・学生支援機構 客員研究員）	17
23	2019 6.18	<b>第 73 回正午 PD 会 「日本の社会教育制度の誕生と変容」</b> 講師：佐藤 智子（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター 准教授）	14
24	2019 7.3	<b>第 74 回正午 PD 会 「インターンシップの現状と大学教育への活用」</b> 講師：猪股 歳之（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 准教授）、門間 由記子（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 キャリア支援センター 特任准教授）	22
25	2019 7.22	<b>第 75 回正午 PD 会 「東北大学における学生相談の現状」</b> 講師：中岡 千幸（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学生相談・特別支援センター 講師）	15

No.	開催日	事業名	参加者数
26	2019 10.24	<b>第76回正午PD会「大学におけるハラスメント防止と対策について」</b> 講師：伊藤 千裕（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 保健管理センター 教授）	18
27	2019 11.6	<b>第77回正午PD会「なぜIRなのか？—IRをめぐる政策動向と東北大学の課題—」</b> 講師：杉本 和弘（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教育評価分析センター 教授）、大野 林太郎（東北大学 総長・プロボスト室 特任講師）	23
28	2019 12.24	<b>第78回正午PD会「国公立大学における大学入試センター試験の活用状況と選抜機能およびそれらを踏まえた新大学入学共通テストの在り方について」</b> 講師：石上 正敏（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 入試センター 特任教授）	22
29	2020 1.24	<b>第79回正午PD会「学生による海外留学支援及び留学促進活動～東北大学グローバルキャンパスサポーターの取組み～」</b> 講師：坂本 友香（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 グローバルラーニングセンター 特任准教授）	15
30	2020 1.28	<b>第80回正午PD会「インストラクショナルデザインに基づくBYOD環境の活用に向けて」</b> 講師：渡邊 文枝（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター 助教）	19
<b>健康科学セミナー</b>			
31	2019 10	<b>健康科学セミナー第1回「大学生の保健管理に関する話題2019」</b> 講師：木内 喜孝（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）	12
32	2019 11	<b>健康科学セミナー第2回「不安障害について」</b> 講師：伊藤 千裕（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 教授）	14
33	2019 12	<b>健康科学セミナー第3回「2019年の高血圧」</b> 講師：小川 晋（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	13
34	2020 1	<b>健康科学セミナー第4回「頭蓋顎顔面外科と矯正治療」</b> 講師：北 浩樹（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 助教）	11
35	2020 2	<b>健康科学セミナー第5回「インフルエンザに感染すると心筋梗塞をおこす？」</b> 講師：佐藤 公雄（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）	16
<b>その他</b>			
36	2019 6.1	<b>Professional Development Seminar on TESOL：国際標準英語教授法セミナー</b> 講師：Dr. Elizaveta Tarasova (TESOL Co-ordinator/Lecturer：IPU New Zealand, Tertiary Institute)	31
37	2019 6.14	<b>Black-White Interracial Marriage in the United States: A History Through Three Films</b> 講師：Renee Romano (Robert S. Danforth Professor of History, Oberlin College, US)	110
38	2019 6.15	<b>The Second J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 第2回 J-CLIL 東北支部大会</b> 講師：村野井 仁（東北学院大学）、磐崎 弘貞（筑波大学）	52
39	2019 8.26	<b>大学教職員を対象とした発達障害学生への就労支援に関する研修会</b> 講師：大野 順平（株式会社 Kaien）	55
40	2019 9.20	<b>2019年度 外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト ワークショップ「外国語担当教員の成長を促す授業参観」</b> 講師：藤原 三枝子（甲南大学 国際言語文化センター 教授）	23

No.	開催日	事業名	参加者数
41	2019 9.29	<b>ATEM 東日本支部第一回東北特別研究会 The 1st Special Tohoku Area Study Session of ATEM (The Association of Teaching English through Multimedia)</b> 講師：深井 陽介（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）、ベルトラン・ソゼド（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）、張 立波（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 講師）、関口 美緒（筑波大学 メリーランド大学）、吉牟田 聡美（活水女子大学）、Eric Shewack（東北大学）、Sachiko NAKAMURA（中央学院大学）、ライアン・スプリング（東北大学 高度教養教育・学生支援機構 准教授）、田淵 龍二（ミント音声教育研究所）	29
42	2019 10.25	<b>学際連続セミナー2019「ことばのデザイン——意識してことばを紡ぐ」</b> 講師：中島 裕介（歌人）	15
43	2019 10.31	<b>第4回大学教育イノベーションフォーラム「世界で一番とんがった大学から、大学教育の当たり前を問い直す—ミネルバ大学が示唆するもの—」</b> <b>【大学教育イノベーション日本（HEIJ）】</b> 講演1：ミネルバ大学が指し示す高等教育の未来 山本 秀樹（AMS 合同会社代表、Dream Project School Co-Founder&CEO、元ミネルバ大学日本連絡事務所代表） 講演2：大学教育と高大接続の課題～ミネルバ大学からの示唆をも踏まえ～ 南風原 朝和（広尾学園中学校・高等学校校長、環太平洋大学特命教授、東京大学名誉教授、元東京大学理事・副学長）	104
44	2019 11.12	<b>学際連続セミナー2019『イラスト1枚で伝える技法「インフォグラフィックス」を学ぶ』</b> 講師：木村 博之（チューブグラフィックス 代表取締役）	40
45	2020 2.7	<b>東北イノベーション人材育成プログラム シンポジウム「留学生就職の最前線—留学生が組織でイキイキと働くために—」</b> 基調講演：外国人材の活力を自社の発展につなげるには 小山 健太（東京経済大学 コミュニケーション学部 准教授）	51
46	2020 2.7	<b>ドイツ語教育ワークショップ「ドイツ語の学習基本語彙と文法」</b> 講師：藤縄 康弘（東京外国語大学）、大藪 正彦（静岡大学）	24
47	2020 2.17	<b>大学教職員を対象とした障害学生支援に関する講演会「私は車椅子に乗っている、ただそれだけのこと」</b> 講師：中村 珍晴（神戸学院大学 心理学部 講師）	34

## 2. 刊行物一覧

発行年月	発行	刊行物名
2019.10	高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 80 第30回東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える[16] 報告書 入試制度が変わるとき
2019.10	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 81 第13回 東北大学全学教育FD—報告書—
2020.3	IDE 大学協会東北支部 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 82 令和元年度 IDE 東北支部 IDE 大学セミナー／ 第31回東北大学高等教育フォーラム 報告書 学修の成果・時間と単位制度から考える 学士課程教育の再設計
2020.3	学務審議会 高度教養教育・学生支援機構	IEHE Report 83 第13回 東北大学「基礎ゼミ」「展開ゼミ」FD・ワークショップ—報告書—
2020.3	高度教養教育・学生支援機構	高等教育ライブラリ 16 共生社会へ—大学における障害学生支援を考える
2020.3	高度教養教育・学生支援機構	東北大学高度教養教育・学生支援機構 紀要 第6号 2020

### 3. 教員の活動（2019年4月～2020年3月の主な活動）

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
機構長	東北大学理事・副学長	滝澤 博胤	-
副機構長	東北大学副学長/理学研究科教授	山口 昌弘	-
副機構長	教授	伊藤 千裕	48
教育評価分析 センター (Center for Institutional Research)	センター長/教授	杉本 和弘	48
	副センター長/准教授	串本 剛	49
	講 師	松河 秀哉	50
大学教育支援 センター (Center for Professional Development)	センター長/教授	大森 不二雄	51
	副センター長/准教授	岡田 有司	52
	教 授	杉本 和弘(兼)	(48)
	准教授	野田 文香	52
	助 教	渡邊 文枝	53
	助 教	水松 巳奈	54
入試センター (Admission Center)	特任助教	赤池 美紀	-
	センター長/理学研究科教授	長濱 裕幸	-
	副センター長/教授	倉元 直樹	55
	教 授	石井 光夫	57
	特任教授	石上 正敏	58
	特任教授	庄司 強	58
	特任教授	櫻田 豪利	59
	特任教授	秦野 進一	60
	特任教授	末永 仁	61
准教授	宮本 友弘	61	
助 教	泉 毅	-	
言語・文化教育 センター (Center for Culture and Language Education)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山口 昌弘	-
	副センター長/教授	上原 聡	63
	副センター長/教授	北原 良夫	65
	教 授	橘 由加	66
	教 授	吉本 啓	67
	教 授	佐藤 勢紀子	68
	教授/国際文化研究科	岡田 毅	-
	准教授	竹林 修一	70
	准教授	平塚 貴晶	70
	准教授	ビンセント・スクラ (Vincent SCURA)	71
	准教授	ライアン・スプリング (Ryan SPRING)	71
	准教授	リチャード・メレス (Richard MERES)	72
	准教授	バリー・カヴァナ (Barry KAVANAGH)	74
	准教授	カン・ミンギョン (Minkyong KANG)	76
	准教授	深井 陽介	76
	准教授	田林 洋一	77
	准教授	セシリア・シルバ (Cecilia SILVA)	78
	准教授	西田 文信	78
	准教授	趙 秀敏 (チョウ・シュウビン)	79
	准教授	菅谷 奈津恵	80
准教授	副島 健作	81	
准教授	中村 渉	82	
准教授	金 鉉 哲 (キム・ヒョン Chol)	83	
講 師	ダニエル・アイコースト (Daniel EICHHORST)	84	
講 師	トッド・エンスレン (Todd ENSLEN)	84	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
	講 師	ベン・シャーロン (Ben SHEARON)	85
	講 師	ジョセフ・スタヴォイ (Joseph STAVOY)	85
	講 師	三 上 傑	85
	講 師	ベルント・シャハト (Bernd SCHACHT)	86
	講 師	遠 藤 スサンネ (Susanne ENDO)	86
	講 師	高 橋 美 穂	87
	講 師	ベルトラン・ソゼド (Bertrand SAUZEDDE)	87
	講 師	張 立 波 (チョウ・リツハ)	88
	講 師	王 其 莉 (オウ・キリ)	89
グローバルラーニング センター (Global Learning Center)	センター長/副機構長/理学研究科教授	山 口 昌 弘	-
	副センター長/教授	粕 壁 善 隆	90
	副センター長/教授	末 松 和 子	91
	教 授	渡 邊 由 美子	93
	特任教授	マーチン・シュローダー (Marcin Schroeder)	93
	准教授	高 橋 美 能	94
	准教授	渡部(わたなべ) 留美	95
	准教授	渡部(わたなべ) 由紀	96
	准教授	ノルボシン・ザンペイソフ (Nurbosyn ZHANPEISOV)	96
	准教授	マルタン・ロベール (Martin ROBERT)	97
	准教授	小 池 武 志	98
	准教授	グザヴィエ・ダハン (Xavier Dahan)	98
	准教授	米 澤 由 香子	98
	特任准教授	坂 本 友 香	99
	講 師	新 見 有 紀子	99
特任助教	林 聖 太	100	
学際融合教育推進 センター (Center for Interdisciplinary Studies and Education)	センター長/教授	中 村 教 博	101
	副センター長/准教授	中 川 学	102
	副センター長/准教授	山 内 保 典	103
	総長特命教授	座小田 豊	103
	総長特命教授	宮 岡 礼 子	103
	総長特命教授	米 倉 等	105
	総長特命教授	鈴 木 岩 弓	105
	総長特命教授/学際高等研究教育院	山 谷 知 行	-
	総長特命教授	水 野 健 作	105
	総長特命教授	高 木 泉	106
	教 授	関 根 勉	106
	教 授	芳 賀 満	107
	准教授	葛 生 政 則	109
	准教授	田 嶋 玄 一	109
	准教授	藤 本 敏 彦	109
	助 教	高 橋 禎 雄	110
	助 教	太 田 宏	111
	助 教	岡 壽 崇	112
	助 教	小 俣 乾 二	112
	助 教	佐久間 由 香	112
助 教	富 田 知 志	113	
助 教	前 山 俊 彦	113	
助 教	大 月 義 徳	113	
助 教	山 下 琢 磨	114	

所 属	職 名	氏 名	掲載ページ
学習支援センター (Center for Learning Support)	センター長/教授	芳 賀 満	(107)
	副センター長/准教授	佐 藤 智 子	114
	助 教	縣 拓 充	115
	助 教	頼 羿 廷	116
キャリア支援センター (Center for Career Support)	センター長/経済学研究科教授	秋 田 次 郎	-
	副センター長/理学研究科教授	松 澤 暢	-
	副センター長/准教授	猪 股 歳 之	116
	准教授	高 橋 修	117
	特任准教授	門 間 由記子	118
	特任准教授	富 田 京 子	118
学生相談・特別支援 センター (Center for Counseling and Disability Services)	センター長/歯学研究科教授	菅 原 俊 二	-
	副センター長/教授	池 田 忠 義	119
	准教授	中 島 正 雄	120
	講 師	小 島 奈々恵	121
	講 師	中 岡 千 幸	122
	助 手	佐 藤 静 香	122
	助 教	松 川 春 樹	123
	講 師	長 友 周 悟	124
	特任講師	榑 原 佐和子	124
助 手	高 橋 真 理	-	
保健管理センター (Student Health Care Center)	センター長/教授	木 内 喜 孝	125
	副センター長/副機構長/教授	伊 藤 千 裕	(48)
	准教授	小 川 晋	126
	准教授	佐 藤 公 雄	127
	助 教	二 宮 匡 史	-
	助 教	高 館 達 之	-
	助 教	北 浩 樹	128
	助 教	中 西 涉	-
	助 教	沼 倉 忠 久	129
	助 教	山 本 沙 織	129
課外・ボランティア 活動支援センター (Center for Service Learning and Extracurricular Activities)	センター長/経済学研究科教授	小田中 直 樹	-
	副センター長/医工学研究科教授	永 富 良 一	-
	特任助教	横 関 理 恵	129
	特任助教	松 原 久	130

## 伊藤 千裕 (教授)

### 〔専門分野〕

精神神経科学

神経化学・神経薬理学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育〔講義〕学生と健康 2セメスタ

学部教育〔講義〕医・精神・心理・行動ブロック 7セメスタ

大学院教育〔講義〕健康情報学 前期

### 〔論文〕

(共著) 「本学学生の飲酒頻度とその推移—14年間の横断的研究—」 『全国大学保健管理研究会プログラム・抄録集』 57th巻 103- 2019年9月

(共著) 「大学と学生の大麻情勢—大麻リスクとその対策—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 193-204 2020年3月

### 〔会議の発表・講演〕

「東北大学入学時の麻疹に関する保健調査の現状と問題点」 口頭 (一般) : 第57回全国大学保健管理研究会東北地方研究会 2019年7月

「本学学生の飲酒頻度とその推移—14年間の横断的研究—」 ポスター (一般) : 第57回全国大学保健管理研究会 2019年10月

### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他寄附金) メンタルヘルス研究助成金 2014年6月～

### 〔学内活動〕

全学委員会 全学教育科目委員会 (基礎ゼミ) 2019年4月～2020年3月

全学委員会 教育研究評議会評議員 2019年4月～

全学委員会 学務審議会 2019年4月～

全学委員会 教務委員会 2019年4月～

全学委員会 国際学位コース運営委員会 2019年4月～

全学委員会 全学教育科目委員会 (基幹科目) 2019年4月～

全学委員会 広報 (曙光) 編集委員会 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会 2014年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構保健管理センター副センター長 2016年4月～

部局内委員会 教育情報基盤センター運営委員会 2019年4月～2019年10月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構副機構長 2019年4月～

部局内委員会 データ駆動科学・AI教育研究センター運営委員会 2019年10月～

### 〔学内教職員支援〕

高度教養教育・学生支援機構新任教員研修 (FD) (講師)

高度教養教育・学生支援機構正午PD会 (講師)

教育関係共同利用拠点提供プログラム (健康科学セミナー) (講師)

### 〔教育相談〕

のべ相談人数 416名、のべ相談回数 416回

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本神経精神薬理学会 評議員 2001年1月～

日本臨床精神神経薬理学会 評議員 2006年1月～

### 〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院医学系研究科医科学専攻内科病態学講座精神保健学分野 教授 2014年4月～

学内 東北大学大学院情報科学研究科応用情報科学専攻健康情報学講座 教授 2014年4月～

### 〔行政機関・企業・NPO等参加〕

医療法人小島慈恵会 小島病院 非常勤医師 2014年4月～

## 杉本 和弘 (教授)

### 〔専門分野〕

比較教育学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 社会学「現代大学論」 2セメスタ

全学教育 基礎ゼミ「多文化共生社会へのアプローチを探る」 1セメスタ

### 〔論文〕

(単著) 「欧州におけるリベラルアーツ・サイエンス教育の復権」 『IDE・現代の高等教育』 54-59 2019年5月

### 〔会議の発表・講演〕

「オーストラリアにおける大学基準をめぐる政策と実践」, 大学教育学会第 41 回大会ラウンドテーブル「世界の大学教育改革—誰が何を問い、どこに向かおうとしているのか」, 2019 年 6 月

「東北大学における履修証明プログラムの開発と人材育成」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 大学行政管理学会第 23 回定期総会・研究集会 2019 年 9 月

「豪州高等教育における政府統制とアカデミック・ガバナンスの課題」 口頭 (一般): 日本教育社会学会第 71 回大会 2019 年 9 月

New Trends and Challenges for Liberal Arts Education in Japan: The Case of Tohoku University, 2019 International Forum on Liberal Education, 26 October 2019, Seoul, South Korea.

#### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究 (C) 同僚制原理に基づく大学教育の質保証とアカデミック・リーダー育成に関する比較研究 2019 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

基盤研究 (A) 第三段階教育における往還的コンピテンシー形成と学位・資格枠組みの研究 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

基盤研究 (B) 学問の自由の動態と再構築に関する国際比較研究—コモンローと制定法— 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者

基盤研究 (B) 大学における教養教育と専門教育の葛藤解決の方策に関する研究: 日・欧・米の比較 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

基盤研究 (B) 日本の高等教育における学寮の教育的展開と質保証を基盤としたプログラム開発 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

基盤研究 (B) 外国人大学教員・研究者の役割と貢献に関する国際比較研究 2019 年 4 月～2023 年 3 月 分担者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 教育情報・評価改善委員会委員 2011 年 4 月～

全学委員会 学務審議会委員 2012 年 4 月～

全学委員会 教務委員会委員 2017 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2015 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 機構長補佐会議メンバー 2019 年 4 月～

その他の主要活動 評価分析室員 2013 年 4 月～

その他の主要活動 教育評価分析センター長 2016 年 4 月～

その他の主要活動 教育の質保証検証部会委員 2019 年 1 月～

#### 〔学内教職員支援〕

教育評価分析センターとして、「第 4 回 東北大学の教育と学修成果調査」に関する教育調査研究会の企画・運営

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

オセアニア教育学会 理事 2012 年 1 月～

日本高等教育学会 理事 2019 年 6 月～

日本比較教育学会 全国理事 2017 年 6 月～

大学教育学会 国際委員会 副委員長 2017 年 6 月～

文部科学省生涯学習政策局 (現・総合教育政策局) 外国調査アドバイザー (大洋州) 2017 年 4 月～

公益財団法人 大学基準協会 評価委員 2019 年 4 月～

東北学院大学 外部評価委員会 委員長 2019 年 4 月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学外 名古屋大学高等教育研究センター客員教授 2019 年 12 月～2020 年 3 月

#### 〔大学運営・支援及び医療業務〕

大学教育支援センター (兼務) において大学変革リーダー育成プログラム (TLP) 等各種 PD プログラムの開発・運営に従事

### 串本 剛 (准教授)

#### 〔専門分野〕

教育学

#### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 カレント「大学生のレポート作成入門」 前期

全学教育 言語表現の世界「読んで書く作法の理解と実践」 前期前半

全学教育 言語表現の世界「読んで書く作法の理解と実践」 後期後半

全学教育 カレント「みせる, 学び」 前期

全学教育 カレント「みせる, 学び」 後期

全学教育 カレント「批判的思考と論理的文章」 後期

#### 〔論文〕

(単著) 「Graduation Research in Humanities and Social Sciences Degree Programs: Outline of a typical undergraduate research in Japan」 『Scholarship and Practice of Undergraduate Research』 3 巻 1 号 48-54 2019 年

(単著) 「社会科学系学科における卒業研究: 期待される学修成果と成績評価方法」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 1-8 2020 年 3 月

(単著) 「国立大学における組織再編と学士課程教育の再構築：専門分野・教員組織・教育課程の相互連関」 『大学論集』 52号 19-34 2020年3月

**【会議の発表・講演】**

「卒業研究の研究 その4：社会科学系学科における成績評価方法」 口頭（一般）：大学教育学会第41回大会 2019年6月

「現代日本における学士課程カリキュラムの共通性：プログラムレベル指標としての必修単位数」 口頭（一般）：日本高等教育学会第22回大会 2019年6月

**【総説・解説記事】**

(共著) 「学位授与方針と学修成果に関する認識の関係」 『第4回 東北大学の教育と学修成果に関する調査報告書』 8-11 2019年12月

(共著) 「教養系学科カリキュラムの共通性：授業科目名称の計量分析を通じて」 『大学評価・学位研究』 21号 19-38 2020年3月

**【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】**

基盤研究(B) 学士課程カリキュラムの共通性に関する実証分析 2018年4月～2022年3月 代表者

**【学内活動】**

全学委員会 学務審議会 指名委員 2015年4月～

全学委員会 教務委員会 指名委員 2016年4月～

全学委員会 カレントトピックス科目委員会 委員長 2018年4月～

全学委員会 附属図書館学習支援委員会 委員 2016年4月～

全学委員会 基幹科目委員会 指名委員 2010年4月～

全学委員会 教育情報・評価改善委員会 指名委員 2011年4月～

全学委員会 仕様策定委員会 2020年1月～

部局内委員会 紀要編集委員会 副委員長 2018年4月～

その他の主要活動 IDE 大学セミナー実行委員会 委員 2014年4月～

**【学内教職員支援】**

「授業デザインとシラバス作成」教育関係共同利用拠点提供プログラム『PD/PFFP/NFP』（講師）

「学位授与方針と学修成果に関する認識の関係」『東北大学教育調査研究会（第5回）』（講師）

**【学会活動および外部機関における活動】**

大学教育学会 編集幹事 2015年6月～2020年6月

IDE 東北支部セミナー企画責任者 2019年10月～2020年3月

日本高等教育学会 編集委員 2019年10月～2021年9月

**【学外の社会活動】**

大学生の学習活動と成績評価：学習＞学修の理解を前提に

会津高校東北大学研修

**松河 秀哉（講師）**

**【専門分野】**

教育工学

**【担当授業科目（他大学も含む）】**

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 前期

全学教育 基礎ゼミ(大学で学ぶ意味を考える) 前期

全学教育 テクノロジ化社会における学びを考える(展開ゼミ) 後期

全学教育 人間と文化(情報社会と教育) 後期

他大学 情報社会と教育 後期集中

**【その他教育上に関する活動】**

(その他) 関西外国語大学第9回FD講演会において、「授業評価アンケートの分析と授業改善への応用可能性」と題して講演を行った。

**【会議の発表・講演】**

「科学技術の社会問題を取り上げた小学生向け教育プログラムの評価 (3)：トピックモデルを用いたグループ議論の分析の試行」 口頭（一般）：日本科学教育学会第43回年會論文集 448-649 2019年8月

「授業評価アンケートの自由記述の内容と成績の関係」 口頭（一般）：日本教育工学会第35回全国大会講演論文集 pp.252-252” 2019年9月

「園生活の保護者の振り返り支援を目的としたデジタルストーリーテリング・ワークショップの開発と評価」 口頭（一般）：日本教育工学会第35回全国大会講演論文集 pp.641-642” 2019年9月

「授業評価アンケートの分析と授業改善への応用可能性」 その他：関西外国語大学第9回FD講演会 2019年9月

「トピックモデルによるテキストデータの分析の実践」 その他：JSET-SIG01 高等教育・FD 第7回研究会 2019年11月

「多目的進化計算により選定された重要変数に基づくアカデミック・サクセスの予測」 口頭（一般）：日本教育工学会 2020年春期(第36回)全国大会講演論文集 pp.427-428” 2020年3月

**【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】**

基盤研究(B) 教育目標の達成に重要な教学データを自動選択する AS モデル生成システム 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者  
基盤研究(C) 幼児の学びと保育者の保育を支援するタブレット用アプリとその活用に関する実証的研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者  
基盤研究(C) 学びのポートフォリオ共有による園と保護者の連携に関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者  
(挑戦的)萌芽研究 自由記述の自動分類に基づいた授業評価の分析と大学における教育改善への包括的活用 2017 年 4 月～2021 年 3 月 代表者  
基盤研究(C) 園務情報システム利用の有用性と実質化についての開発的研究 2018 年 4 月～2022 年 3 月 分担者  
その他 挑戦的研究(萌芽) 市民の科学への参加・支援を加速化するオープンサイエンス・リテラシー教育モデル開発 2018 年 6 月～2021 年 3 月 分担者  
基盤研究(B) 教育学研究の国際展開の実態・構造・将来像に関する研究——学会の機能に注目して—— 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 評価分析室員 2019 年 7 月～  
全学委員会 学務審議会 基幹科目専門委員 2019 年 4 月～  
全学委員会 新型コロナウイルス感染症対策遠隔授業ワーキング・グループ構成員 2020 年 3 月～  
部局内委員会 総務委員会委員 2017 年 4 月～  
部局内委員会 広報小委員会委員 2017 年 4 月～  
部局内委員会 教務小委員会委員 2019 年 9 月～

#### 〔学内教職員支援〕

教育評価分析センターの企画による FD として、「第 4 回 東北大学の教育と学修成果調査」に関する教育調査研究会の企画・運営をおこない、同時に全学 DP と学修経験の関連について発表もおこなった。(FD/S D の企画・運営)

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本乳幼児教育学会 広報・企画委員 2010 年 2 月～  
日本教育工学会 SIG-01 高等教育・FD 代表 2015 年 9 月～  
日本教育工学会 理事 2019 年 6 月～  
日本教育工学会 大会企画委員会副委員長 2019 年 6 月～

#### 〔会議の主催・運営〕

(国内会議:主催) JSET-SIG01 高等教育・FD 第 7 回 研究会「トピックモデルによるテキストデータの分析の実践」 2019 年 11 月 23 日  
(国内会議:主催) 日本教育工学会 2020 春季(第 36 回)全国大会 2020 年 2 月 29 日～2020 年 3 月 1 日

#### 〔兼務、兼業など〕

学外 日本乳幼児教育学会 広報・企画委員会 委員 2010 年 4 月～  
学外 日本教育工学会 SIG01 高等教育・FD 代表 2015 年 6 月～  
学外 日本教育工学会 理事 2019 年 6 月～  
学外 日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2019 年 6 月～

#### 〔その他〕

年度末より、新型コロナウイルス感染症対策遠隔授業ワーキング・グループ構成員として、主に Meet を使った双方向型授業方法についてのマニュアル作成や講習会実施、主に全学教育に関わる WG への質問への対応等、遠隔授業実施支援を行っている。

### 大森 不二雄(教授)

#### 〔専門分野〕

教育社会学

#### 〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 基礎ゼミ「文系・理系の壁を超える読書と対話で学びを広げ深める」 1 セメスタ  
全学教育 社会の構造「社会人になるための社会分析」 2 セメスタ

#### 〔論文〕

(単著) 「2020 年を「雇用・教育一体改革」元年に一修士・博士を総合職の標準に、指定国立大学法人を大学院大学に」 『大学マネジメント』 通巻第 175 号 16-22 2020 年 1 月  
(単著) 「集権的な統制から法の支配への転換が大学の変革を促す～自由と多様性で活性化する高等教育システムの再設計を～」 『大学マネジメント』 通巻第 171 号 10-23 2019 年 9 月  
(単著) 「AI 時代の大学教育:「知識」の復権に向けて」 『全国大学教育研究センター等協議会ニューズレター』 No. 23 1-2 2019 年 9 月

#### 〔会議の発表・講演〕

「SEI (Science Education Initiative) 方式の事例紹介と日本への示唆」 口頭(招待): 日本学術会議主催 学術フォーラム「いま問われる物理教育改革—より効果的な理工学教育をめざして」 2019 年 9 月  
「DBER に基づく授業変革の課題」 口頭(招待): 国立教育政策研究所「テスト問題バンク研究会」(チューニングによる大学教育のグローバル質保証) 2019 年 8 月  
「エビデンスに基づく授業変革:“DBER”とは何か(趣旨説明)」 シンポジウム(指名): 国際シンポジウム「インダストリー4.0 時代の STEM (科学・技術・工学・数学) 教育: DBER (分野別教育方法研究) による授業変革と政策動向」 2020 年 1 月

「社会の中の大学教員～大学を取り巻く環境を直視し、教育と運営を考える～」 その他：平成31年度東北大学新任教員研修 2019年4月

**〔総説・解説記事〕**

(単著) 「2018年度IDEセミナー報告 IDE東北支部 「大学と社会との対話—産学官出身3学長が語るビジョン—」 『IDE 現代の高等教育』  
No.611 76-80 2019年6月

**〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕**

基盤研究(B) 学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018年4月～2021年3月 代表者

**〔学内活動〕**

全学委員会 学務審議会委員 2016年4月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 2019年4月～

全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会委員 2016年4月～

全学委員会 学務審議会学務情報システム運営委員会委員 2017年4月～

全学委員会 学務審議会社会科学委員会委員 2017年4月～

全学委員会 附属図書館商議員 2017年4月～

全学委員会 附属図書館学術情報整備検討委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 機構長補佐会議 2017年10月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門長 2017年10月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター長 2017年10月～

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センター共同利用運営委員会委員長 2017年10月～

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

国際教育学会 副会長 2012年9月～

大学教育学会 代議員 2015年4月～

大学マネジメント研究会 編集委員 2017年4月～

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所 研究員 2016年4月～

熊本大学大学院社会文化科学教育部 客員教授 2016年4月～

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会 委員 2017年4月～

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

大阪市 特別顧問 2019年5月～

大学教育イノベーション日本 代表 2017年12月～2019年10月

**岡田 有司(准教授)**

**〔専門分野〕**

教育心理学

**〔著書〕**

「子どもの多様性と道徳」pp148-156 『道徳教育はこうすれば(もっと)おもしろい: 未来を拓く教育学と心理学のコラボレーション』北大路書房  
2019年12月

「障害学生支援における今後の展望」pp213-219 『共生社会へー大学における障害学生支援を考える』東北大学出版会 2020年3月

**〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕**

基盤研究(C) 大学生に対する発達障害理解教育プログラムの開発と展開 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(B) 小中一貫校の総合的研究—実践と制度に着目して 2018年4月～2021年3月 分担者

**〔学内活動〕**

部局内委員会 施設整備委員会副委員長 2018年4月～

**〔学内教職員支援〕**

大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム(PFFP)、新任教員プログラム(NFP)の運営・実施(FD/S Dの企画・運営)

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

大学教育学会 学会誌編集委員 2016年9月～

日本パーソナリティ心理学会 学会誌常任編集委員 2016年10月～

**野田 文香(准教授)**

**〔専門分野〕**

高等教育、比較教育

**〔論文〕**

(共著) 「学習支援を学修成果に結びつけるための設計と運営」 『大学教育学会誌』 40巻2号 99-102 2019年

(共著) 「日本における国内情報センター (NIC) の設立—学位・資格の承認に関わる今後の展望—」 『留学交流 12月号』 105巻 29-41 2019年12月

**〔著書〕**

『高等教育機関の矜持と質保証 多様性の中での倫理と学術的誠実性 (大学改革支援・学位授与機構高等教育質保証シリーズ)』ぎょうせい 2019年10月

『欧州の教育・雇用制度と若者のキャリア形成: 国境を越えた人材流動化と国際化への指針』白桃書房 2019年11月

**〔会議の発表・講演〕**

「大学における内部質保証と学習成果—機関別認証評価の視点から—」 口頭 (一般): 大学教育学会第41回大会 2019年6月

「大学における内部質保証と学習成果—全学と部局の関係性と課題を中心に—」 口頭 (一般): 大学教育学会第41回大会 2019年6月

「「大学改革支援・学位授与機構 (NIAD-QE) 国際化評価の取組 選択評価事項C「教育の国際化の状況」渡部由紀・太田浩・北村友人・野田文香「アジア地域の大学の国際化と評価—大学組織の国際化と評価指標の在り方について考える—」 口頭 (一般): 日本比較教育学会第55回大会 ラウンドテーブル 2019年6月

「コンピテンスを基盤とした学位・資格などの“Qualifications” —国家資格枠組み (NQF) に期待される役割—」 口頭 (一般): 日本比較教育学会第55回大会 2019年6月

「高等教育資格承認情報のコンテンツと国際交流の進化 —“東京規約”の発効/国内情報センター (NIC) の設立—」 口頭 (一般): 地域科学研究会 2019年12月

「東京規約の発効と国内情報センター (NIC) —職業教育の国際通用性を求めて—」 その他: 神奈川県専修学校各種学校 産業交流委員会研修会 2020年2月

「The Tokyo Convention and APNNIC」 その他: 国際セミナー「学修歴・資格認証 (FCE) と証明書の電子化」—海外における証明書電子化の最新事情—」 2020年3月

**〔総説・解説記事〕**

(共著) 「「<書評>斎藤 有吾著『大学教育における高次の統合的な能力の評価 —量的 vs. 質的, 直接 vs. 間接の二項対立を超えて—』」 『大学教育学会誌』 41巻2号 2020年1月

**〔共同研究活動〕**

大学の学習成果評価と内部質保証: 日台比較研究 研究相手先:台湾 国外 2018年12月~

科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)

若手研究(B) 国家資格枠組み (NQF) の意義と現実—フランスを事例に— 2017年4月~2020年3月 代表者

**〔学術関係受賞〕**

"Emerald Literati Awards, Outstanding Paper 2019" 授与機関:Emerald Publishing 2019年8月

**〔学内活動〕**

全学委員会 評価分析室委員 2018年4月~

**〔国際交流実績〕**

スペイン バルセロナ大学 客員研究員の受入れ 2019年4月~2019年8月

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

国立大学協会 「高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ」委員 2017年3月~

専門職高等教育質保証機構 文部科学省生涯学習政策局委託事業研究委員 2018年8月~

大学改革支援・学位授与機構 認証評価委員 2019年4月~

**〔兼務、兼業など〕**

学外 専門職高等教育質保証機構 文部科学省生涯学習政策局委託事業研究委員 2018年8月~

学外 国立大学協会 2017年3月~

学外 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 客員准教授 2018年4月~

学外 独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 2019年5月~

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

国立大学協会 「高等教育に関する基礎データ等の調査研究グループ」委員 2017年3月~

専門職高等教育質保証機構 文部科学省生涯学習政策局委託事業研究委員 2018年8月~

大学改革支援・学位授与機構 認証評価委員 2019年5月~

**渡邊 文枝 (助教)**

**〔専門分野〕**

教育工学

**〔その他教育上に関する活動〕**

(その他) 正午PD (Professional Development) 会にて「インストラクショナルデザインに基づくBYOD環境の活用に向けて」を発表

**〔論文〕**

(共著) 「教養教育科目における授業選択理由とその関連要因」 『日本教育工学会論文誌』 43巻"Suppl."号 73-76 2020年3月

#### 〔会議の発表・講演〕

「科目選択理由・授業経験が教養教育に対する主体的学習態度に与える影響」 口頭（一般）：大学教育学会第41回大会 2019年6月

「教養教育科目における授業選択理由と学習時間・成績の関連―授業選択理由のタイプに注目して―」 ポスター（一般）：日本教育心理学会第61回総会 2019年9月

#### 〔その他研究活動〕

（書評）教育の方法と技術：主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン（稲垣忠編著）

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) オンライン相互評価における評価方法の設計と開発 2016年4月～ 代表者

#### 〔学内活動〕

その他の主要活動 高等教育開発部門会議世話役 2019年10月～2020年3月

#### 〔学内教職員支援〕

文学部・文学研究科へのFD研修会を実施 タイトル：BYOD環境の活用に向けて（講師）

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本教育工学会 研究会委員会 委員 2017年6月～2019年5月

日本教育工学会 大会企画委員会 委員 2018年1月～

日本教育工学会 SIG-07（インストラクショナルデザイン） コアメンバー 2018年4月～

日本教育メディア学会 学会誌編集委員会 委員 2019年1月～

#### 〔学外の社会活動〕

日本教育工学会 大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）

#### 〔大学運営・支援及び医療業務〕

大学教育支援センターにおける大学教員準備プログラム（PFFP）、新任教員プログラム（NFP）の運営・実施を行った。また、各種セミナーの動画コンテンツ（PDP オンライン）の拡充、普及を行った。

### 水松 巳奈（助教）

#### 〔専門分野〕

教育社会学

比較・国際教育

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 異文化理解：日本における多文化社会について考える 前期

#### 〔論文〕

（共著）「個人の社会化が異文化理解を学ぶ学生に与える影響―日米の大学の授業におけるケーススタディー―」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第6号』 9-22 2020年3月

#### 〔著書〕

第3章 海外留学の効果との比較から考える国際共修の可能性と課題；第4章 多文化・多民族社会：アメリカ『国際共修―文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』 東信堂 2019年10月

『国際共修―文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』 東信堂 2019年10月

#### 〔会議の発表・講演〕

「Introducing SPOT to Cross-cultural Class at a Japanese University: Enriching the Student Learning Experience」 口頭（一般）：2019 AECT International Convention 2019年10月

「Enhancing On-Campus Global Learning: The Case of a Japanese University」 口頭（一般）：NAFSA 2019 Annual Conference 2019年5月

「異なる学生グループ間の「国際化」の定義の比較に見るこれからの大学国際化の可能性―国立大学における事例から―」 口頭（一般）：異文化間教育学会 第40回大会 2019年6月

「カリキュラムの国際化と国際共修について実践しながら学ぶ」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：国際教育夏季研究大会 2019年8月

#### 〔共同研究活動〕

Beyond Dashboard 研究相手先：アメリカ合衆国 Pennsylvania State University 国外 2018年10月～

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 若手研究 日本の大学における「内なる国際化」発展に向けての基礎研究 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

#### 〔学内活動〕

その他の主要活動 大学変革リーダー育成プログラム（TLP）の企画・運営・実施 2019年1月～

その他の主要活動 PDP オンラインの運営・管理 2018年10月～

その他の主要活動 PD モジュールの整理・作成 2018年10月～

**〔国際交流実績〕**

アメリカ合衆国 カリフォルニア大学リバーサイド校 SAP プログラムの開発、実施 入学前海外研修の新規開発、実施 2013年9月～

**〔会議の主催・運営〕**

(国内会議:運営) 国際教育夏季研究大会 2019年2月10日～2019年8月28日

**倉元 直樹 (教授)**

**〔専門分野〕**

教育心理学

社会心理学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

学部教育 実験心理学各論 1セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅰ 1セメスタ

大学院教育 実験心理学特論Ⅳ 1セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論研究演習Ⅰ 2セメスタ

大学院教育 教育情報学応用論概論 2セメスタ

大学院教育 実験心理学演習Ⅳ 2セメスタ

**〔学位論文指導・審査〕**

博士1名 (主査1名)

**〔指導大学院生・学部生の発表件数〕**

2019年度 大学院学生 (博士課程後期3年の課程) 口頭発表件数:1件 論文発表件数:1件

2019年度 大学院学生 (博士課程前期2年の課程) 口頭発表件数:1件 学会発表件数:1件

**〔教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)〕**

総長賞: 東北大学 2020年3月25日

**〔その他教育上に関する活動〕**

(教育方針の実践例) 倉元研究室ゼミ

**〔論文〕**

(共著) 「高大接続改革への対応に対する高校側の意見——東北大学のA0入試を事例として——」 『日本テスト学会誌』 15巻 2019年6月

(共著) 「高校教員は新傾向の国語記述式問題をどう捉えているのか——全国調査から——」 『大学入試研究ジャーナル』 30巻 30-35 2020年3月

**〔著書〕**

『「大学入試学」の誕生』 金子書房 2020年3月

『大学入試センター試験から大学入学共通テストへ』 金子書房 2020年3月

**〔会議の発表・講演〕**

「2021年度東北大学入試の予告に対する高校側の評価——『受験生保護の大原則』の観点から——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第14回大会 2019年5月

「高校教員は新傾向の国語記述式問題をどう捉えているのか?——全国調査から——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第14回大会 2019年5月

「CBTにおける算数問題の得点と文字入力スキルに関する分析」 口頭 (一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見 (2)——この1年j間の変化を中心に——」 口頭 (一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「大学進学における進路選択プロセスに関する研究——進路決定因子と相談相手を中心に——」 口頭 (一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「高大接続改革の下での国語新傾向問題が測定する資質・能力について」 ポスター (一般): 日本教育心理学会第61回総会 2019年9月

「高校生の進路探究プロセスに関する研究——中国鄭州市を例として——」 ポスター (一般): 日本教育心理学会第61回総会 2019年9月

**〔総説・解説記事〕**

「受験生保護の大原則に従った入試制度改革を——英語民間試験利用を見送った東北大学の入試設計思想——」 『中央公論』 2020年巻2月号号 80-87 2020年1月

**〔共同研究活動〕**

異文化間交流研究会 (旧 国際学校研究会) 国内 1990年10月～

科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 代表者

挑戦的研究(開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて—— 2019年4月～2023年3月 代表者

**〔学内活動〕**

全学委員会 入試企画・広報委員会副委員長 2019年4月～

全学委員会 入試企画・広報委員会拡大入試改革対応ワーキンググループ座長 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構長補佐会議委員 2019年4月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2019年4月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2019年4月～

#### 〔学内教職員支援〕

FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第1回）（講師）  
FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第4回）（講師）  
FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第5回）（講師）  
FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第12回）（講師）  
FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第14回）（講師）  
FD：東北大学入試センター新任教員対象FD（第15回）（講師）  
独立行政法人 大学入試センター見学（FD/S Dの企画・運営）  
令和2年度東北大学文学部入学試験（A0入試Ⅱ期）事前FDの講演（講師）  
大学院農学研究科大学院入試FD（講師）

#### 〔プロジェクト活動〕

東北大学高等教育フォーラムの開催  
東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査

#### 〔海外研究機関交流実績〕

（渡航：会議）訪問調査 中国 北京教育考試院 2020年1月8日  
（渡航：会議）訪問調査 中国 教育部考試中心 2020年1月9日  
（渡航：会議）訪問調査 中国 清華大学 2020年1月9日  
（渡航：会議）訪問調査 中国 上海市教育考試院 2020年1月13日

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

全国大学入学者選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～  
日本テスト学会 理事 2005年8月～  
国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～  
日本テスト学会 日本テスト学会誌編集出版委員会委員長 2011年9月～2019年9月  
日本テスト学会 日本テスト学会誌編集出版委員会幹事 2019年9月～  
日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～  
国際教育学会（ISE）理事 2006年6月～  
国際教育学会（ISE）学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～  
国際教育学会（ISE）学会賞「館糾賞」選考委員 2007年4月～  
日本テスト学会 表彰選考委員会 委員 2019年4月～2019年7月

#### 〔会議の主催・運営〕

（国内会議：主催）第30回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [18] 入試制度が変わるとき」 2019年5月15日

#### 〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報学応用論協力講座 教授 2018年4月～  
学内 東北大学入試センター 副センター長 2004年4月～  
学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～  
学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999年11月～

#### 〔学外の社会活動〕

東北大学進学説明会・相談会（仙台）  
第30回東北大学高等教育フォーラム基調講演  
高校教員対象入試説明会（仙台二高）  
国立大学アドミッションセンター連絡会議第17回総会講演会講師  
夢ナビLIVE2019（東京）  
教員との意見交換（広尾高）  
高校教員対象入試説明会（福岡）  
教員との意見交換（修猷館高）  
教員との意見交換（福岡高）  
教員との意見交換（筑紫丘高）  
教員との意見交換（城南高）  
東北大学・筑波大学（山形大学・福島大学・新潟大学）合同進学説明会・相談会（静岡）  
東北六校会主催講演会講師  
高校教員対象入試説明会（仙台）

東北大学進学説明会・相談会（東京）  
東北大学・筑波大学合同進学説明会・相談会（大阪）  
東北大学説明会・懇談会（宮城野高）  
茨城大学高大接続シンポジウム講師  
群馬大学第11回全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」講師  
青森県高等学校長協会大学進学部会主催講演会講師  
岩手県立大学看護学部入試研修会講師  
宮城県高等学校進路指導研究会主催 東北大学・宮城教育大学・宮城大学 令和元年度入試説明会  
東北大学進学説明会・相談会（福岡）  
夢ナビLIVE2019（福岡）  
第2学年対象進路講演会（青森高）  
教員との意見交換（秋田北高）

#### 〔行政機関・企業・NPO等参加〕

一般社団法人 国立大学協会 入試委員会 平成32年度以降の国立大学の入学者選抜の在り方に関するワーキンググループ委員 2017年7月～  
国立大学法人 お茶の水女子大学 お茶の水女子大学 大学教育再生加速プログラム「お茶大発 新型AO入試（新フンボルト入試）」外部評価委員  
委員 2015年3月～2020年3月

#### 〔報道〕

その他（出演・執筆）「大学入試改革の「根本問題」が、いよいよ明らかになってきた——公平性を犠牲にして追求すべき価値とは——」 日経ビジネス 2019年12月8日  
新聞（出演・執筆）「共通テスト 受験生は守られているか センター試験の検証不十分のまま 2020 変わる大学入試」 朝日新聞 2019年7月2日  
雑誌（資料提供）「今の枠組は「限界」——大学入学者選抜改革で成果報告会（下）——」 内外教育 2019年4月23日  
雑誌（資料提供）「過去の「失敗」から学ぶ入試改革——東北大がフォーラム——」 内外教育 2019年6月4日  
新聞（資料提供）「AO入試 学力も重視」 読売新聞 2019年7月29日  
新聞（出演・執筆）「東北の受験生 負担考慮 大学入学共通テスト英語の民間試験活用見送り」 河北新報 2019年8月12日  
新聞（資料提供）「文科省の建前通じず 共通テスト」 静岡新聞（共同通信社） 2019年12月18日  
新聞（資料提供）「安心した」「判断遅い」 記述式見送りで受験生ら 共通テスト」 日本経済新聞 2019年12月18日  
新聞（資料提供）「質と公平性 徹底管理 新テスト混乱で再評価」 河北新報 2020年1月19日  
新聞（出演・執筆）「学び eye 倉元直樹・東北大教授に聞く 点数稼ぎの高校生活懸念」 北海道新聞 2020年2月3日  
新聞（企画協力）「東大・京大・難関8大学 推薦・特色・AO合格」 週刊朝日 2020年2月24日  
新聞（資料提供）「迷走する大学入試改革 責任は入試に？検証を」 東京新聞 2020年2月24日  
雑誌（資料提供）「数学必須の時代 数学を捨てるな」 AERA 2020年3月16日

#### 〔教育活動〕

受入れ学生：留学生3名（博士課程前期1名，研究生2名），社会人3名（博士課程後期3名）

### 石井 光夫（教授）

#### 〔専門分野〕

教育学

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

大学院教育 比較教育学特論Ⅰ 前期

大学院教育 比較教育学研究演習Ⅰ 後期

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 分担者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 入学試験審議会等入試関係委員会委員 2004年4月～

全学委員会 Future Global Leadership 実施委員会委員 2012年4月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会委員 2014年10月～

その他の主要活動 入試センター兼務 2005年4月～

その他の主要活動 中国代表事務所所長補佐 2012年4月～

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

国立大学アドミッションセンター連絡会議 幹事 2004年4月～

IDE 大学協会 IDE 大学セミナー実行委員会委員 2005年6月～

#### 〔会議の主催・運営〕

（国内会議：主催）IDE 大学セミナー 2005年11月～

（国内会議：主催）東北大学高等教育フォーラム 2005年12月～

(国内会議:主催) 東北大学高等教育フォーラム 2013年5月～

**〔学外の社会活動〕**

東北大学入試説明会

高校訪問

民間業者主催の大学相談会等への参加

東北大学進学説明会

**石上 正敏 (特任教授)**

**〔学内活動〕**

全学委員会 入学試験審議会入試企画・広報委員会 オブザーバー 2019年4月～2020年3月

全学委員会 入学試験審議会入試企画・広報委員会入試改革拡大WG 委員 2019年4月～2020年3月

部局内委員会 工学部入試検討委員会 オブザーバー 2019年4月～2020年3月

**〔学内教職員支援〕**

東北大学入試センター教員対象FD講師「東北大学の入試広報戦略」(講師)

高度教養教育・学生支援機構 正午PD会 講師 「国公立大学における大学入試センター試験の活用状況とそれらを踏まえた新大学入学共通テストの在り方について」(講師)

**〔会議の主催・運営〕**

(国内会議:主催) 第30回 東北大学高等教育フォーラム 新時代の大学教育を考える(15) 入試制度が変わるとき 2019年5月15日

**〔学外の社会活動〕**

仙台市内6校会対象東北大学入試説明会

一関一高教員との東北大学入試に関する意見交換

盛岡一高教員との東北大学入試に関する意見交換

高校教員対象の東北大学入試説明会(盛岡)

東北大学・筑波大学進学説明会・相談会 札幌

愛知県立旭丘高校教員との東北大学入試に関する意見交換

愛知県立明和高校教員との東北大学入試に関する意見交換

高校教員対象の東北大学入試説明会(名古屋)

高校教員対象の東北大学入試説明会(甲府)

高校教員対象の東北大学入試説明会(仙台)

全国国公立・有名私大相談会 2019 東京

東北大学進学説明会・相談会 東京

東北大学・筑波大学進学説明会・相談会 大阪

全国国公立・有名私大相談会 2019 横浜

難関大学フェア 駿台予備学校御茶ノ水校

夢ナビライブ 2019 仙台会場大学説明・入試説明

首都圏+東北地区国公立大学合同進学説明会 駿台予備学校仙台校

仙台6校会との意見交換会

**〔その他〕**

各学部の入試に関するコンサルティング業務

**庄司 強 (特任教授)**

**〔担当授業科目(他大学も含む)〕**

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

**〔論文〕**

(共著)「高校教員は新傾向の国語記述式問題をどう捉えているのかー全国調査からー」『大学入試研究ジャーナル』30号 30-35 2020年3月

**〔学内教職員支援〕**

FD: 東北大学入試センター教員対象FD(講師)

**〔学外の社会活動〕**

第30回東北大学高等教育フォーラム「入試制度が変わるとき」

進学説明会・相談会(仙台)

教員との意見交換・東北大学入試相談会・相談会(函館中部高校)

教員との意見交換(函館ラサール高校)

高校教員対象入試説明会(札幌)

進学説明会・相談会(札幌)

教員との意見交換（札幌西高校）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田中央高校）  
高校教員対象入試説明会（秋田）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（大曲高校）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（角館高校）  
教員との意見交換（秋田高校）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田南高校）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（秋田北高校）  
進学説明会・相談会（静岡）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（松本深志高校）  
教員との意見交換（長野高校）  
高校教員対象入試説明会（長野）  
高校教員対象入試説明会（仙台）  
教員との意見交換（小倉高校）  
教員との意見交換（東筑高校）  
教員との意見交換（広島大附属高校）  
高校教員対象入試説明会（広島）  
教員との意見交換（基町高校）  
東日本難関大学合同説明会（新潟）  
教員との意見交換（新潟明訓高校）  
教員との意見交換・東北大学入試説明会・相談会（新潟南高校）  
進学説明会・相談会（東京）  
夢ナビライブ（名古屋）  
東北大学入試説明会（茨城高校）  
東北大学ガイダンス・相談会（秋田南高校）  
東北大学入試説明会（大宮高校）

## 樫田 豪利（特任教授）

### 【専門分野】

高等学校理科教育（化学）  
授業における機器活用のあり方

### 【担当授業科目（他大学も含む）】

大学院教育 教育情報応用論概論 3コマ（12月13日、20日、1月10日）

### 【論文】

（共著）「高等学校訪問データベースの開発」『大学入試研究ジャーナル』30号 174-178 2020年3月

### 【会議の発表・講演】

「高校訪問データベースの開発」口頭（一般）：令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会 2019年5月

### 【学内教職員支援】

FD：東北大学入試センター教員対象FD（第7回） 東北大学の入試広報戦略（1）データベース（講師）

FD：東北大学入試センター教員対象FD（第13回） 資料作成のためのソフトの活用（講師）

### 【兼務、兼業など】

学内（株）駿台文庫 著者 2009年4月～

### 【学外の社会活動】

東北大学進学説明相談会（仙台）

東北大学入試説明会（札幌）

夢ナビライブ（東京）

東北大学進学説明相談会（静岡）

東北大学入試説明会（宇都宮）

東北大学入試説明会（仙台）

東北大学入試説明会（大阪）

東北大学入試説明会（金沢）

全国国公立有名私大相談会（大阪）

東北大学進学説明相談会（東京）

東日本難関大学合同説明会（金沢）

東北大学訪問高校（山形東）生徒への大学説明  
高校（星稜）生徒（3年）への大学説明  
高校（星稜）生徒（1年）への大学進学と学びについて  
高校（小松）生徒（3年）への大学説明  
高校（宇都宮女子）生徒（3年）への大学説明  
高校（市立西宮）生徒（3年）への大学説明  
駿台大宮校（国立大学合同説明会、個別相談会）  
山東探求塾Ⅱ課題研究成果発表会（山形東高等学校）指導・助言者

#### 【その他】

入試センター業務：

- 1) 広報活動：入試説明会（5回）、進学説明会（4回）、学校訪問（10校）、大学説明会（2回）
- 2) 協議会等参加：全国大学入学者選抜研究連絡協議会（発表）など4回
- 3) フォーラムの運営
- 4) 入試企画広報委員会および同WGへオブザーバーとして出席
- 5) 高大接続に関わる種々の取り組みについて、情報の収集と分析

高等学校等への協力：

- 6) 高等学校1年生を対象とした進学オリエンテーションにて講師として参加（2件）
- 7) 東北大学進学志望者（3年生）への大学紹介（4件）

#### 秦野 進一（特任教授）

##### 【担当授業科目（他大学も含む）】

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

##### 【著書】

『Genius English Communication III Revised』大修館 2019年4月

第2部第5章 資格・検定試験における長文読解用英文の難易度比較 98頁～113頁『大学入試センター試験から大学入試共通テストへ』金子書房  
2020年3月

##### 【学内活動】

全学委員会 学務審議会 英語教育改革推進ワーキンググループ 2019年4月～2020年3月

##### 【学内教職員支援】

東北大学入試センター教員対象FD（6） 東北大学の入試設計（3）平成33年度東北大学基本方針（講師）

##### 【海外研究機関交流実績】

（渡航：学術交流協定（研究目的）） その他“北京教育考試院、教育部考思中心、上海教育考試院、清華大学”2020年1月7日～2020年1月14日

##### 【学外の社会活動】

東北大学進学説明会・相談会（仙台）

東北大学進学説明会・相談会（東京）

東北大学進学説明会・相談会（大阪）

全国国公立・有名私大相談会

東日本難関大学合同説明会（福岡会場）

夢ナビLIVE2019 東京会場

仙台市内六校会対象東北大学入試説明会

高校教員対象入試説明会（新潟会場）

高校教員対象入試説明会（山形会場）

高校教員対象入試説明会（東京会場）

入試説明会（仙台）

大学個別進学相談会

教員との意見交換（新潟県立長岡高校）

教員との意見交換（新潟県立新潟高校）

教員との意見交換（山形県立山形東高校）

教員との意見交換（東京都立戸山高校）

教員との意見交換（開成高校）

教員との意見交換（東京都立日比谷高校）

教員との意見交換（東京都立青山高校）

教員との意見交換（渋谷教育学園渋谷高校）

## 末永 仁 (特任教授)

### 〔専門分野〕

理科教育学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

### 〔海外研究機関交流実績〕

(受入:会議) 入試制度改革に関する意見交換及び情報交換 中国 教育部考試中心、北京教育考試院、精華大学、上海教育考試院 2020年1月7日  
～2020年1月14日

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

全国大学入学者選抜研究連絡協議会 なし 2019年5月～2019年5月

### 〔学外の社会活動〕

高等学校教員との意見交換及び講演、高等学校教員対象入試説明会、高等学校生徒・保護者及び浪人生対象入試説明会  
全国公立・有名私大相談会、夢ナビライブ 2019、東日本難関大学説明会

### 〔その他〕

入研協への出席

## 宮本 友弘 (准教授)

### 〔専門分野〕

教育心理学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報学応用論特論II 後期

大学院教育 教育情報学応用論概論 後期

### 〔学位論文指導・審査〕

博士1名(副査1名)、修士1名(副査1名)

### 〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2019年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:3件 学会発表件数:7件

### 〔論文〕

(共著) 「高大接続改革への対応に関する高校側の意見—東北大学のA0入試を事例として—」 『日本テスト学会誌』 15巻1号 99-120 2019年6月

(共著) 「中学校における美術鑑賞学習の自己評価尺度の開発—資質・能力の三つの柱の観点から—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6巻 45-49 2020年3月

(共著) 「高等学校訪問データベースの開発—高等学校訪問の戦略的展開に向けて—」 『大学入試研究ジャーナル』 30巻 174-178 2020年3月

(共著) 「高校教員は新傾向の国語記述式問題をどう捉えているか—全国調査から—」 『大学入試研究ジャーナル』 30巻 30-35 2020年3月

### 〔著書〕

『新指導要録の解説と実務 中学校』 2019年11月

『新指導要録の解説と実務 小学校』 図書文化 2019年11月

『大学入試センター試験から大学入学共通テストへ』 金子書房 2020年3月

### 〔会議の発表・講演〕

「保育者の「見守る」に対する学生の認識」 ポスター(一般): 日本保育学会第72回大会 2019年5月

「高等学校訪問データベースの開発—高等学校訪問の戦略的展開に向けて—」 口頭(一般): 令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第14回) 2019年5月

「高校教員は新傾向の国語記述式問題をどう捉えているか?—全国調査から—」 口頭(一般): 令和元年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第14回) 2019年5月

「入試問題の作成・分析とCBT入門: 討論とまとめ」 その他: 【2019年度夏期】大学入試センター・アドミッションリーダー研修 2019年7月

「資質・能力の「三つの柱」に対応した標準学力検査の活用」 その他: 第61回指導と評価大学講座 2019年7月

「CBTにおける算数の得点と文字入力方式に関する分析」 口頭(一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「大学進学における進路選択プロセスに関する研究—進路決定因子と相談相手を中心に—」 口頭(一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「大学入試における英語認定試験の利用に対する高校側の意見(2)—この1年間の変化を中心に—」 口頭(一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「小学生における「主体的に学習に取り組む態度」がペーパーテストの成績に反映されるプロセス」 口頭(一般): 日本テスト学会第17回大会 2019年8月

「中学生女子の抑うつ評価の推移—3年間の縦断研究から—」 ポスター(一般): 日本教育心理学会第61回総会 2019年9月

「高大接続改革の下での国語新傾向問題が測定する資質・能力について」 ポスター(一般): 日本教育心理学会第61回総会 2019年9月

「女子高校生における学業的自己概念と学力の因果関係の検討—3年間の縦断データから—」ポスター（一般）：日本教育心理学会第61回総会  
2019年9月

「理学療法士養成校の学生はいかにして国家試験を乗り切るか？—学習動機づけに着目して—」ポスター（一般）：日本教育心理学会第61回総会  
2019年9月

「朝鑑賞は学校に何をもたらすか？：学力についての検証」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：2019年度美術科教育学会・リサーチフォーラム in 所沢 2020年1月

#### 〔総説・解説記事〕

（共著）「資質・能力の三つの柱に対応した標準学力検査の活用【前編】—「主体的に学習に取り組む態度」を中心に—」『指導と評価』66巻2月号 46-49 2020年2月

（共著）「『総合所見及び指導上参考となる諸事項』欄への標準検査の記入」『指導と評価』66巻3月号 19-21 2020年3月

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 分担者

基盤研究(C) 美術教育における学力分析～ループリックを用いた鑑賞学習の効果測定～ 2017年4月～2020年3月 分担者

挑戦的研究(開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019年4月～2023年3月 分担者

#### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他受託研究費 NEDO 戦略的イノベーション創造プログラム）高精度教育ビッグデータをベースとして教育支援の公教育への導入推進 2019年4月～

#### 〔学内活動〕

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016年4月～

全学委員会 入試実施委員会委員 2016年5月～

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017年4月～

全学委員会 広報戦略推進室員 2018年4月～

全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示WG 座長 2019年4月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2018年4月～

部局内委員会 機構ビジョンWG メンバー 2019年4月～2020年3月

#### 〔学内教職員支援〕

文学部のAOⅡ期面接試験FDの講師を担当し、選抜資料としての面接試験の意義・機能と、面接員としての心得等について解説した。（講師）

医学部保健学科のAOⅢ期面接試験FDの講師を担当し、昨年度のデータ分析結果と、面接員としての心得等について解説した。（講師）

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMMS)国内専門委員 2017年2月～2020年3月

日本テスト学会 理事 2017年8月～

日本テスト学会 編集出版委員 2017年8月～

日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員 2019年1月～2021年12月

#### 〔会議の主催・運営〕

（国内会議:運営）第30回東北大学高等教育フォーラム 2019年5月15日

#### 〔学外の社会活動〕

進学説明会・相談会（仙台）

仙台市内六校会対象東北大学入試説明会

入試説明会（青森）

高校個別訪問（青森県立青森高等学校）

入試説明会（郡山）

高校個別訪問（福島県立安積高等学校）

入試説明会（水戸）

高校個別訪問（茨城県立水戸第一高等学校）

進学説明会・相談会（札幌）

高校個別訪問（佐賀県立佐賀西高等学校）

入試説明会（福岡）

高校個別訪問（長崎県立諫早高等学校）

高校個別訪問（鹿児島県立鶴丸高等学校）

高校個別訪問（鹿児島市立鹿児島玉龍高等学校）

入試説明会（仙台）

山形県立東桜学館中学校第3学年キャンパス・ツアー

全国国公立・有名私立相談会（東京）

進学説明会・相談会（東京）  
東日本難関大学合同説明会（広島）  
高校個別訪問（私立広島学院中学校・高等学校）  
夢ナビライブ（大阪）  
進学説明会・相談会（福岡）  
夢ナビライブ（仙台）  
夢ナビライブ（福岡）  
青森県立青森東高等学校主催「東北大学進学説明会」

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～  
一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～  
公益社団法人 全国幼児教育研究協会 令和元年度 文部科学省委託「新幼稚園教育要領の実施状況の把握と理解推進の方策」調査研究実行委員  
2019年6月～2020年3月  
一般財団法人 日本図書文化協会 理事 2019年11月～

**上原 聡 (教授)**

**〔専門分野〕**

認知言語学・言語類型論  
談話分析・対照言語学  
日本語教育

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 〔国際教育科目〕 日本文化・社会 A「日本語の文法を外から見て考えるー国際共修ゼミー」 1セメスタ  
全学教育 〔展開ゼミ〕 カレントトピックス「歌に学ぶ日本の言葉と心ー国際共修ゼミー」 2セメスタ  
大学院教育 言語科学研究特別研究A DC 1年前期  
大学院教育 認知言語学II MC 1年前期  
大学院教育 言語科学特別講義前期 DC 1年1学期  
大学院教育 言語科学演習前期 前期  
大学院教育 言語科学演習A 前期  
大学院教育 言語科学特別講義後期 DC 1年2学期  
大学院教育 言語科学演習後期 後期  
大学院教育 言語科学特別演習B DC 1年2学期  
大学院教育 言語科学特別講義B DC 1年2学期  
その他 日本語研修コース前期入門日本語応用 A150 前期前半  
その他 特別課程日本語前期・初中級日本語読解 R300 前期  
その他 日本語研修コース前期初級日本語応用 A250 前期後半  
その他 中上級日本語共修ゼミ(JS500)：歌に学ぶ日本の言葉と心 後期  
その他 特別課程日本語後期・初中級日本語読解 R300 後期  
その他 特別課程日本語後期・中級日本語読解 R400 後期

**〔学位論文指導・審査〕**

修士3名（主査2名、副査1名）

**〔指導大学院生・学部生の発表件数〕**

2019年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程） 口頭発表件数:2件 論文発表件数:1件 学会発表件数:2件 国際会議発表件数:1件

**〔その他教育上に関する活動〕**

（その他）大学院国際文化研究科 国際言語総合科学コース

**〔論文〕**

（共著）「中国語の形容詞が持つ「主観性」を考えるー性質形容詞とその重ね型を中心にー」 『日本認知言語学会論文集』 19巻 11-23 2019年4月  
（共著）「日本語の授与動詞の意味拡張に関する一考察ー構文的アプローチに基づくコーパス分析ー」 『KLS Selected Papers』 1巻 25-36 2019年6月  
（共著）「日タイ語の自称詞使用に関するコーパス分析ー自称詞の種類と subjectivity に注目してー」 『KLS Selected Papers』 1巻 135-146 2019年6月

**〔著書〕**

『日本語初級から学ぶ日本文化』 東北大学出版会 2020年3月

**〔会議の発表・講演〕**

「感情表現の構文パターンと感情の捉え方に見る言語表現の多様性と共通点―日韓中英独語を対象に―」 口頭（一般）：日本認知言語学会第20回全国大会 2019年8月

#### 〔共同研究活動〕

東アジア・東南アジアの言語を中心とした対照言語学的研究 研究相手先:タイ 国外 1999年12月～  
日本語教材リング 研究相手先:アメリカ合衆国 国外 2000年1月～  
中国語の方言内の社会言語学的対照研究 研究相手先:ニュージーランド 国外 2004年4月～  
台湾語の中の日本語 研究相手先:台湾 国外 2005年11月～

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 主観性に基づく言語の類型化と他の言語類型との相関に関する認知類型論的実証研究 2016年4月～2020年3月 代表者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営委員会委員 2019年4月～2020年3月  
全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営専門委員会 委員長 2019年4月～2020年3月  
全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 教育国際交流運営委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員 2019年4月～  
部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2019年4月～2020年3月  
その他の主要活動 言語・文化教育センター 副センター長 2018年9月～2020年3月  
専攻内委員会 日本語プログラム HP 広報委員長 2006年4月～

#### 〔教育相談〕

のべ相談人数30名、のべ相談回数35回

#### 〔国際交流実績〕

ニュージーランド オークランド大学 共同研究 2005年12月～  
タイ チュラロンコン大学 共同研究 2010年8月～

#### 〔海外研究機関交流実績〕

(渡航:共同研究) 共同研究 タイ Chulalongkorn University 2019年8月9日～2019年8月20日  
(渡航:共同研究) 共同研究 タイ Chulalongkorn University 2020年1月31日～2020年2月12日

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

International Cognitive Linguistics Association reviewer 2004年1月～  
社会言語科学会 査読委員 2004年10月～  
Cognitive Linguistics Association of Britain reviewer 2006年1月～  
"Faculty of Arts, Chulalongkorn University" Member of the Editorial Board for Journal of Letters 2011年10月～  
日本認知言語学会 査読委員 2013年4月～  
Journal of Japanese Linguistics reviewer 2014年8月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学内 大学院国際文化研究科 教授 2004年4月～

#### 〔学外の社会活動〕

日本語教材ウェブリング

#### 〔その他の特記事項〕

特別訪問研修生の受入/指導 2020年1月～2020年1月

#### 〔教育活動〕

学位論文指導・審査:博士4名、修士6名(主査2名、副査1名)、研究生2名 [修士1名の日本人学生を除き他は全て留学生、留学生のうち2名は文部科学省大使館推薦国費留学生、1名は岡崎記念財団奨学生]  
教育支援活動:日本語研修コース(国費留学生予備教育課程) 副担当受入指導  
留学生等受け入れ:大学院担当講座受入:留学生20名、GSICSフェロー1名  
その他:国際言語総合科学大学院コース(国際文化研究科英語コース) 参画・授業実施・学生受入

#### 〔大学運営・支援〕

大学運営:言語・文化教育センター 副センター長  
各種支援活動:言語・文化教育センター日本語教育セクション HP 情報ネットワークの維持管理  
履修相談に対する対応:日本語特別課程・理系短プロ(JYPE/COLABS 日本語プログラムにおける学生支援(日本語オリエンテーションや履修相談会の開催など全学の留学生の履修上の問題や相談に対する対応))  
センター業務:日本語研修コース副コーディネーター・理系短プロ日本語プログラムコーディネーター(カリキュラム編成およびクラス編成などの運営業務)

#### 〔社会活動〕

国際交流活動:特別訪問研修生受け入れ(1～2月)1名  
社会教育活動:Journal of Letters(タイ王国チュラロンコン大学文学部発行) 編集委員

## 北原 良夫 (教授)

### 〔専門分野〕

ヨーロッパ語系文学

言語学

教育学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1-1/2 1 セメスタ

全学教育 英語 C1-1/2 3 セメスタ

全学教育 大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 前期

全学教育 英語 C2-1/2 4 セメスタ

全学教育 英語 A2-1/2 2 セメスタ

大学院教育 応用言語研究総合演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別演習 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別研究 A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義 A 前期

大学院教育 言語データ解析論 I 後期

大学院教育 応用言語研究総合演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別演習 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別研究 B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義 B 後期

### 〔学位論文指導・審査〕

修士 1 名 (副査 1 名)

### 〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 全学教育「英語」科目履修新入生に配付するためのブックレット『Pathways to Academic English』の改訂及び配布準備作業に従事した。

(その他) 英語教科部会会長として、各種事務処理、諸問題への対応などを通じて、全学教育「英語」科目が円滑に運営されるよう尽力した。今回の部会長の場合特別だったこととして、全学教育の英語教育の改革が行われたことがあり、2020 年度からの実施に向け、カリキュラム策定や教材の準備、説明会などの開催など、準備に多大な業務を遂行した。

### 〔著書〕

監修及び部分執筆 (第 8 章「東北大学の英語学習リソース」(123 頁～125 頁) 及び第 12 章「メディアを利用した英語学習」(145 頁～147 頁))

『Pathways to Academic English (Revised Edition)』東北大学高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター 2019 年 4 月

全編編著『新訂版 TOEIC(R) L&R テストへようこそ』朝日出版社 2020 年 1 月

### 〔共同研究活動〕

高等教育 (カリキュラム, FD 等) に関する研究 国内 2004 年 4 月～

大学院教員の職能開発に関する研究 国内 2007 年 4 月～

疾病予防活動に有益な情報提供に関する意識調査 国内 2010 年 4 月～

### 〔学内活動〕

全学委員会 教育実習実施委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

全学委員会 学務審議会外国語委員会英語教科部会会長 2019 年 4 月～2020 年 3 月

全学委員会 学務審議会英語教育改革推進ワーキンググループ副座長 2019 年 4 月～2020 年 3 月

全学委員会 学務審議会外国語委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

全学委員会 学務審議会外国語委員会委員カリキュラム専門部会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室日本語教授選考委員会委員 2019 年 4 月～2019 年 7 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 国際文化研究科教務委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師昇任選考委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室講師任期更新審査委員会委員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会副委員長 2019 年 4 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室日本語准教授選考委員会委員 2019 年 7 月～2020 年 3 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室英語准教授選考委員会委員 2019 年 9 月～2020 年 1 月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室中国語教授・准教授選考委員会委員 2019 年 10 月～2020 年 1 月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構教育内容開発部門言語・文化教育開発室室長 2019 年 4 月～2020 年 3 月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター副センター長 2019 年 4 月～2020 年 3 月

その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構大学教育支援センタープログラム開発研究員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

専攻内委員会 高度教養教育・学生支援機構言語・文化教育センター運営会議メンバー 2019年4月～2020年3月

#### 〔学内教職員支援〕

東北大学全学教育教員研修実施委員 (FD/SDの企画・運営)

『国際標準英語教授法セミナー』 (FD/SDの企画・運営)

『外国語担当教員の成長を促す授業参観』 (FD/SDの企画・運営)

『英語カリキュラム説明会』 (FD/SDの企画・運営)

『オンライン教材等説明会』 (FD/SDの企画・運営)

#### 〔プロジェクト活動〕

国際連携を活用した世界水準の大学教員養成プログラム (PFFP) 開発

言語教育高度専門家養成カリキュラム開発

#### 〔会議の主催・運営〕

(国内会議:主催) Professional Development Seminar on TESOL (国際標準英語教授法セミナー) 2019年6月1日

(国内会議:運営) 外国語担当教員の成長を促す授業参観 2019年9月20日

(国内会議:主催) 英語カリキュラム説明会 2019年11月14日～2019年11月15日

(国内会議:主催) オンライン教材等説明会 2020年3月3日

### 橋 由加 (教授)

#### 〔専門分野〕

英語教育、カリキュラム・教授法開発、CALL、高等教育論、日米比較文化論

#### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 “英語 B1, B2” 通年

全学教育 “英語 C1, C2” 通年

全学教育 “英語 A1, A2, B1, B2, C1, C2” 通年

大学院教育 アカデミック・ライティング 前期

#### 〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) 自己開発 On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による [www.yukamedia.com](http://www.yukamedia.com) を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上を図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための新しい教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。シラバス及び模擬授業公開。毎学期全学 1, 2 年レベル 450 名以上の学生に英語実践演習 (CALL 演習) を指導。(教科書・教材の開発) On-line 動画ニュース、TED などの教材化 ([www.yukamedia.com](http://www.yukamedia.com))。CNN, NYT, TED や Podcast で配信されているニュースや動画を CALL テキスト用に編集し、スク립トや質問文を作成。1, 2 年生から大学院レベルのクラスで活用。Internet から流れる authentic な英語はテキスト用英語からは得られない臨場感とスピードを持つ。このような英語に慣れさせることを英語学習の一つの目的とする。

(教科書・教材の開発) On-line 教材 LincEnglish の開発と改善 ([tohoku.lincenglish.com](http://tohoku.lincenglish.com)) および「オンライン英語学習用テキスト LincEnglish Bronze`Platinum レベル」のテキストの監修 (大学教育出版)。モンタナ大学、ワシントン大学、サンフランシスコ州立大学の外国語教授法、英語学、コンピュータサイエンスの専門家及び IT 関連のインベスターらと WG を 2003 年に結成。取得外部資金額 4500 万、プロジェクト期間 5 年で日本人向けの英語学習オンライン教材を開発。デジタルコンテンツの総ページ数は A4 版で 24,000 頁以上、演習問題数 36,000、音声ファイル CD230 以上の膨大なコンテンツ量。学校内外からアクセスができ、Windows, Mac, ipad, Android, Kindle あらゆる PC, デバイスに対応。2008 年秋から東北大学の CALL 演習クラスで導入、本学では毎年 1500 名以上の学生がこのカリキュラムで学習。東北大学、大阪大学、筑波大学他、20 以上の中・高校で英語カリキュラムの教科書として導入されている。東北大学英語教科部会、私学高等学校英語研究会、東北大学工学研究科次世代航空機研究センターおよび流体科学研究所 GOEC セミナー、高等教育開発推進センター主催の高大連携セミナーにおいて、CALL 教材を活用した授業、LincEnglish 教授法のワークショップを行う。

(教科書・教材の開発) On-line 教材 LincEnglish は Listening、速読教材であるが、Reading/Writing 用として有効活用できるパートも大量に含んでいる。語彙確認、文章理解、作文練習のために「説明文問題」と「読解文問題」の概要と質問文を作成しワークブックとして編集して (On-line 上にアップ) 授業で活用。

(教科書・教材の開発) 教育活動: 全学、学部、大学院レベルで指導できる、オンライン英語学習教材 Presentation Course 開発 (東北大学用の URL: [tohoku.lincenglish.com](http://tohoku.lincenglish.com))。自己開発 (主幹) On-line 教材 LincEnglish を授業のメイン教材とし、毎週 179 問の予習を義務付け QA 方式により Listening 力、速読力の向上を目指す。また自主制作による [www.yukamedia.com](http://www.yukamedia.com) を副教材として Reading 力と Writing 力の更なる向上も図る。この教材では、辞書に頼らずに動画ニュースや TED などのプレゼンテーションをスピーディーに音声を通じて読み進めるための教授法で指導、英文のスク립トや質問文なども準備。高校や他校の教員にシラバス及び模擬授業公開。

(教育方針の実践例) 大学院教育: 情報科学研究科において前期: 博士課程の学生にアカデミック・ライティング論文指導、後期: 修士の学生に英語コミュニケーションの講義担当

(その他) 受託研究「パナソニック教育ソリューション」との共同研究 (産学連携プロジェクト) 中・高等学校に通じた英語教育全体の抜本的充実をどのように図るか、また大学における英語教育をどのように改善していくのか、について産学連携で共同研究を行う。具体的には、1) 中・高等学校における指導体制強化 2) 指導用副教材の開発、3) 中・高教員養成指導、4) 外部人材の活用促進、5) 新たな英語教育の在り方

実現のための体制設備、6) 中・高・大学における教育 IT ソリューションとの連携、などについて調査・研究を行い、新たな英語教育改革実施計画の推進をはかる。

(教科書・教材の開発) Authentic Media を利用した内容重視の On-line 英語教材の開発。 [www.authenticmedia.org](http://www.authenticmedia.org)  
(教育方針の実践例) ICT を活用した授業実践例について、全国公私立中高役職者、大学英語担当教員対象に FD を行った。

#### [共同研究活動]

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画 国内 2013 年 4 月～

高大 5 年間で伸ばす英語運用能力 聖徳学園高等学校、宮城学院高校 国内 2014 年 4 月～

#### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

(挑戦的) 萌芽研究 理工系のための学術論文・プレゼンテーションスキル向上のためのオンライン教材開発 2013 年 4 月～ 代表者

#### [その他の競争的資金獲得実績]

(その他寄附金) 聴解力、速読力をつけるためのオンライン英語学習教材の開発 2004 年 4 月～

#### [学内活動]

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2013 年 4 月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 グローバル人材育成推進事業実施委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 紀要編集委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 学務審議会委員 2014 年 4 月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 人事委員会委員 2015 年 4 月～

その他の主要活動 大学教育支援センター(PFFP)プログラム開発・交渉委員 2010 年 4 月～

その他の主要活動 工学教育院、国際交流室における連携支援 (留学学生相談委員) 2010 年 4 月～

#### [プロジェクト活動]

パナソニック教育ソリューションとの英語教材開発共同研究 (産学連携プロジェクト)

#### [国際交流実績]

アメリカ合衆国 モンタナ大学マンスフィールドセンター 平成 28 年度から本学の学生、教員、職員対象にモンタナ大学にてグローバル人材育成短期留学プログラムを行う予定。 2014 年 9 月～

#### [学会活動および外部機関における活動]

外国語教育メディア学会 大会実行委員 2014 年 4 月～

日本教育工学協会「JAET」 学会開催委員 2015 年 4 月～

#### [兼務、兼業など]

学内 大学院情報科学研究科 2014 年 4 月～

学外 宮城学院中・高等学校 英語教育顧問 2015 年 4 月～

学外 "Linc Educational Resources, Inc" 顧問 2005 年 9 月～

学外 尚綱学院中・高等学校 英語教育カリキュラムアドバイザー 2015 年 4 月～

#### [学外の社会活動]

高・大連携で伸ばす英語運用能力

仙台市教育審議会語学教育推進アドバイザー

"E. S. S デイバート審査委員"

宮城学院中・高等学校 英語教育顧問

尚綱学院 英語教育カリキュラム改革

宮城県高等学校英語弁論大会

東北大学工学部・工学研究科事務局の「科学者の卵養成講座」

#### [行政機関・企業・NPO等参加]

仙台市 仙台市審議会 仙台市審議会委員 (英語教育) 英語教育アドバイザー 2014 年 4 月～

### 吉本 啓 (教授)

#### [専門分野]

コンピュータ言語学

言語学・音声学

日本語文法

#### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 日本語 A-1/2 1 セメスタ

全学教育 日本語 B-1/2 2 セメスタ

全学教育 日本語 C-1/2 1 セメスタ

全学教育 日本語 D-1/2 2 セメスタ

全学教育 日本語G-1/2 1セメスタ  
全学教育 日本語H-1/2 2セメスタ  
全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ  
全学教育 英語C2-1/2 3セメスタ  
全学教育 英語C2-1/2 4セメスタ  
大学院教育 応用言語研究総合演習A 前期  
大学院教育 応用言語研究特別演習A 前期  
大学院教育 応用言語研究特別研究A 前期  
大学院教育 応用言語研究特別講義A 前期  
大学院教育 応用言語研究総合演習B 後期  
大学院教育 応用言語研究特別演習B 後期  
大学院教育 応用言語研究特別研究B 後期  
大学院教育 応用言語研究特別講義B 後期

**[学位論文指導・審査]**

修士1名(主査1名)

**[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]**

基盤研究(B) 統語・意味解析情報タグ付きコーパス開発用アノテーション研究: 複文を中心に 2015年4月~2020年3月 分担者  
基盤研究(C) 日本語ツリーバンク文法情報の精緻化 2019年4月~2022年3月 代表者

**[学内活動]**

全学委員会 学務審議会外国語委員会専門委員(日本語) 2005年4月~2020年3月  
全学委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会委員 2010年4月~2020年3月  
全学委員会 学際高等研究教育院審査委員会委員 2018年4月~2020年3月  
その他の主要活動 国際文化研究科異文化間教育論講座 講座代表 2005年4月~2020年3月

**[プロジェクト活動]**

統語・意味解析コーパスの開発と言語学研究

**[国際交流実績]**

ドイツ ザールラント大学 1999年度に国際文化研究科の連絡調整責任者として大学間協定を締結したが、2004年度に期限切れとなったのこともない、大学間協定を更新した。 2004年12月~

**[学会活動および外部機関における活動]**

"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" プログラム委員 2002年4月~  
人工知能学会国際ワークショップ Logic and Engineering of Natural Language Semantics Organizing Committee member 2004年4月~  
人工知能学会国際シンポジウム(JSAI) 企画委員会 委員 2009年2月~  
"Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation" 運営委員 2012年10月~  
国立国語研究所共同研究プロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」 サブリーダー 2016年4月~

**[兼務、兼業など]**

学内 大学院国際文化研究科 教授 1997年4月~  
学外 国立国語研究所 客員教員 2016年4月~2022年3月

**佐藤 勢紀子(教授)**

**[専門分野]**

日本語教育  
日本思想史  
日本文学

**[担当授業科目(他大学も含む)]**

全学教育 日本社会・文化A 2セメスタ  
大学院教育 国際日本研究総合演習A 前期  
大学院教育 国際日本研究特別演習A 前期  
大学院教育 日本文化基層論I(平安人の表現と思想—『源氏物語』若紫巻を読む—) 後期  
大学院教育 国際日本研究総合演習B 後期  
大学院教育 国際日本研究特別演習B 後期  
その他 超級研究ゼミ(RS730) 前期  
その他 上級研究ゼミ(RS630a) 前期  
その他 中級日本語読解(R400) 前期  
その他 "上級日本文化演習(CL600, 古典入門)" 前期

その他 中上級日本語作文 (W500) 前期  
他大学 日本文学・文化演習 IA 前期  
他大学 日本文学・文化演習 IIA 後期  
その他 “中上級日本文化演習 (JC530, 日本文化とコミュニケーション)” 後期  
その他 中上級日本語応用 (A560) 後期  
その他 “上級日本文化演習 (CJ500, 古文入門)” 後期

#### 【その他教育上に関する活動】

(教育方針の実践例) 研究スキル養成の授業の論文作成指導において、受講学生の専門分野のサンプル論文を利用して各分野のライティングの特性をふまえた指導を行っている。

(教育方針の実践例) 日本語研修コースの授業において使用するための読解を中心とした初級文化教材の作成を行っている。

(教科書・教材の開発) 日本語学習者のための文語文読解 e-learning 教材を開発している。

#### 【論文】

(単著) 「留学生教育から派生した国際共修」 『国際共修—文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ— (東信堂)』 142-161 2019年10月

#### 【著書】

『日本語初級から学ぶ日本文化』 東北大学出版会 2020年3月

#### 【会議の発表・講演】

「文語文教材「BUNGO-bun GO!」の紹介」 口頭 (招待・特別) : 第12回東京大学文学部日本語教育研究会 2020年2月

「仏教思想とジェンダー—『源氏物語』を対象に—」 口頭 (基調) : 東北大学日文学研究会第1回学術大会 2020年2月

#### 【総説・解説記事】

(単著) 「桜井宏徳編『柳井滋の源氏学 平安文学の思想』(書評)」 『日本文学』 69巻3号 72-73 2020年3月

(共著) 「非母語話者のための日本語文語文 e-learning 教材の再構築」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 153-167 2020年3月

(単著) 「留学生を対象とする文語文入門の授業—「日本文化演習 (古文入門)」実践報告—」 『東北大学言語文化教育センター年報』 5号 2020年3月

#### 【共同研究活動】

日本語学習者のための文語文読解教材の開発 国内 2013年4月～

#### 【学内活動】

全学委員会 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会委員 2019年4月～2020年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構研究倫理委員会副委員長 2014年4月～

#### 【海外研究機関交流実績】

(渡航:講演) 4日間にわたり、卒論執筆指導の集中講義を行った。中国 江西理工大学 2019年8月20日～2019年8月23日

#### 【学会活動および外部機関における活動】

(一般財団法人) 東北多文化アカデミー 理事 2010年4月～

#### 【学外の社会活動】

2019年夏季短期日本語・日本文化研修プログラム (KEYAKI, 上海海洋大学)

2019年夏季短期日本語・日本文化研修プログラム (KEYAKI)

江西理工大学 (中国江西省) における卒論執筆指導の集中講義

第62回東北大学リベラルアーツサロンにおける古典文学に関する講座

2020年冬季短期日本語・日本文化研修プログラム (KEYAKI)

#### 【行政機関・企業・NPO等参加】

(一般財団法人) 東北多文化アカデミー 理事 2010年4月～

#### 【教育活動】

・アカデミック・ライティングの指導: 上級と超級の合同クラスでDEEP-Bridge 学部生の論文執筆を指導

・国際共修科目の統括: 「国際共修ゼミ」(日本語ベース) のとりまとめを担当 (前期まで)

・大学院生の指導: 国際文化研究科にて8名の学生を指導 (うち6名は留学生)

・留学生の受け入れ: 日韓共同理工系学部留学生プログラムを担当し、7名の研修生を受け入れ

・他大学における教育実績: 江西理工大学 (中国) にて日本語専攻学生を対象に卒論執筆指導

#### 【研究活動】

・科研費による研究: 科学研究費基盤研究(C) 「日本語学習者を対象とする文語文 e-learning 教材および文語文教授法の開発」の事業として、教材を再構築し、「BUNGO-bun GO!」のサイトを開設

#### 【大学運営・支援】

・支援: 大学教育支援センターの大学教員養成プログラム PFFP・NFP に先達教員として協力

#### 【社会貢献】

・民間組織との共同事業: 一般財団法人「東北多文化アカデミー」理事として短期日本語・日本文化研修プログラム「KEYAKI」を実施、東北大学の共催部局にて参加者を特別訪問研修生として受け入れ

・講演：東北大学リベラルアーツサロンで一般市民を対象に古典についての講演とワークショップを実施

## 竹林 修一 (准教授)

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 英語 A1、英語 A2、英語 A2 上級、英語 B1、英語 B2、英語 C1 上級、英語 C2 通年  
学部教育 学術英語 (医学部保健学科) 6 セメスタ  
他大学 放送大学宮城学習センター (英語文法、英語語彙習得)

### 〔論文〕

(共著) 「全学共通英語教育改革推進プロジェクト」 『第 69 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会研究集録』 58-61 2020 年 2 月  
(共著) 「帝国主義を鑑賞したアメリカ人」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 65-77 2020 年 3 月

### 〔著書〕

『カウンターカルチャーのアメリカ：希望と失望の 1960 年代 第二版』 大学教育出版 2019 年 10 月  
“”Summarizing and Paraphrasing,”” “”Note Taking While Listening,”” “”Collocations,”” “”Data Reporting”” 『Pathways to Academic English 2020』 Tohoku University IEHE 2020 年 3 月

### 〔会議の発表・講演〕

「大学 3・4 年次向け英語授業で原書を読む：リーディング・スキルの獲得と話し合いに重点をおいた指導」 口頭 (一般)：第 2 回 J-CLIL 東北支部大会 (東北大学) 2019 年 6 月  
「全学共通英語教育改革推進プロジェクト」 口頭 (一般)：第 69 回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 (弘前大学) 2019 年 8 月

### 〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会指名委員 2018 年 4 月～  
全学委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2018 年 11 月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、言語・文化教育センター運営会議メンバー 2018 年 4 月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構、紀要・出版委員会 2018 年 4 月～

### 〔学内教職員支援〕

全学英語「新カリキュラム」説明会 (FD/SD の企画・運営)  
授業参観プロジェクト (代表：張立波) (その他)

### 〔海外研究機関交流実績〕

(受入・講演) アメリカ合衆国 Organization of American Historians 2019 年 6 月 1 日～2019 年 6 月 14 日  
(渡航: 学術交流協定 (研究目的)) アメリカ合衆国 Educational Testing Service 2019 年 10 月 7 日～2019 年 10 月 11 日

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

東北アメリカ研究会 幹事 2018 年 5 月～

### 〔学外の社会活動〕

英語スピーチ作成・実践ワークショップ (東北大学電気通信研究所、みやぎ県民大学)

### 〔行政機関・企業・NPO 等参加〕

Toastmasters International コミュニケーションとリーダーシップの向上を図るための活動 2017 年 4 月～

### 〔その他〕

全学英語カリキュラム改革において、英語教科部会、英語教育改革推進ワーキング・グループ、言語・文化教育センターと連携しながら、主要な役割を果たした。

## 平塚 貴晶 (准教授)

### 〔論文〕

(共著) 「Assuring the quality of classroom life through Exploratory Practice (EP): Learners' experiences」 『JACET International Convention Selected Papers』 6 巻 101-117 2019 年

### 〔著書〕

『“Suggestions for teacher educators from a gentle iconoclast and a fellow explorer. In S. Walsh & S. Mann (Eds), Routledge handbook of English language teacher education”』 Routledge 2019 年  
『“Gateway to second language learning: Pivotal roles Language Teacher Education (LTE) plays in primary and secondary schools. In G. Barkhuizen (Ed), Qualitative research topics in language teacher education”』 Routledge 2019 年  
『きっかけの英語』 IBC パブリッシング 2019 年

### 〔会議の発表・講演〕

「Generating creative classroom activities through the minds of great thinkers」 口頭 (一般)：LET Kansai Chapter Spring Conference 2019 2019 年 5 月  
「Clues for creative team teaching lessons」 口頭 (一般)：The 2nd Osaka JETs Skill Development Conference 2019 年 11 月

### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(S) A longitudinal and cross-sectional study into the experiences of foreign assistant language teachers (ALTs) 2018年4月～2020年3月 代表者

**[学内活動]**

全学委員会 総務委員会英語化小委員会委員長 2018年4月～

全学委員会 英語教育改革WGメンバー 2018年10月～

部局内委員会 総務委員会委員 2018年4月～

その他の主要活動 2019年度英語教材「Pathways to Academic English」配布責任者 2018年12月～

**SCURA VINCENT (准教授)**

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 “英語 A, B, C, BH” 通年

**[学内活動]**

部局内委員会 Entrance Examination Authoring Committee 2019年4月～2020年3月

部局内委員会 英語教育改革推進ワーキング・グループ 2019年4月～2020年3月

**[学会活動および外部機関における活動]**

Academic FORA Session Chair 2016年4月～

**SPRING RYAN EDWARD (准教授)**

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 英語A1 1, 2セメ

全学教育 英語B1 1, 2セメ

全学教育 英語C1 前期

全学教育 Practical English Skills 1 前期

全学教育 Practical English Skills 2 後期

全学教育 英語A2 3, 4セメ

全学教育 英語B2 1, 2セメ

全学教育 英語C2 後期

大学院教育 言語研究法 後期

他大学 英語Ad 前期

他大学 英語コミュニケーションAg 前期

他大学 英語コミュニケーション演習A 前期

その他 International Team Building 通年

他大学 英語Cd 後期

他大学 英語コミュニケーションBf 後期

他大学 英語コミュニケーション演習B 後期

**[その他教育上に関する活動]**

(その他) 全学教育プログラム、スカイプ・パートナー・プログラム

**[論文]**

(単著) 「短編映画作成によるプロジェクト型英語学習：4技能の教育法の可能性として」 『映像メディア英語教育研究』 24号 3-16 2019年4月

(単著) 「Student perspectives of learning phrasal verbs with animations」 『Proceedings of the 2019 ET2 Educational Transmedia Teaching ETAK-STEM Joint International Conference』 41-46 2019年5月

(単著) 「Using Arrival for discussions and motivation in an EFL context」 『STEM Journal』 20巻2号 155-157 2019年5月

(共著) 「スカイプ・パートナーとのプロジェクト型外国語学習：初挑戦における有効性と問題点」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 5巻 287-296 2019年8月

(共著) 「Using short animations to help teach phrasal verbs from a cognitive typology standpoint: Implications from two years of comparative data」 『STEM Journal』 20巻4号 105-122 2019年12月

**[著書]**

『From Linguistic Theory to the Classroom: A Practical Guide and Case Study』 Cambridge Scholars Publishing 2019年10月

『Strategies for Growing and Enhancing University-Level Japanese Programs』 Routledge 2020年3月

**[会議の発表・講演]**

「Student perspectives of learning phrasal verbs with animations」 口頭 (一般) : 2019 ET2 Educational Transmedia Teaching ETAK-STEM Joint International Conference 2019年5月

「The effect of proper scaffolding on class participation」 口頭 (一般) : 2nd Annual J-CLIL Tohoku Chapter Conference 2019年6月

「Do Japanese students have enough communicative competency to participate in CLIL? Exposing an incorrect assumption and inferiority complex」ポスター（一般）：2nd Annual J-CLIL Tohoku Chapter Conference 2019年6月

「映像メディアを取り入れた句動詞の指導：映像導入の前後データの比較」口頭（一般）：映像メディア英語教育研究会（ATEM）東日本支部夏季例会 2019年6月

「Manner of motion salience affecting framing and categorization choices cross-linguistically: The case of Japanese and English native speakers」口頭（一般）：The Japanese Society for Language Sciences 21st Annual International Conference 2019年7月

「Advances in teaching phrasal verbs through cognitive typology: Theory and practical pedagogical suggestions」口頭（一般）：言語学と言語教育学：理論と実践、そして応用へ 2019年8月

「How Watching Subtitled YouTube Videos Can Help with Listening and Reading: A Preliminary Analysis」口頭（一般）：映像メディア英語教育研究会（ATEM）東日本支部特別東北研究会 2019年9月

「How does video-creation PBL affect the speaking skills of L1 Japanese EFL Learners? Through objective analysis of oral proficiency」口頭（一般）：第25回映像メディア英語教育学会全国大会 2019年10月

「Using student-generated digital media products for foreign language learning: How, why, and the practical benefits」口頭（一般）：第25回映像メディア英語教育学会全国大会 2019年10月

「マルチメディアツールによる客観的な発音評価：実践と実証」口頭（一般）：映像メディア英語教育研究会（ATEM）第10回東日本支部大会 2019年12月

#### 〔共同研究活動〕

会話能力向上のためのスクリプト利用の有効性 研究相手先：アメリカ合衆国 ノース・カロライナ州立大学シャーロット校 国外 2015年1月～

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

若手研究(B) 英語発信力向上のためのプロジェクト型外国語学習：有効性と上達の要因 2019年4月～2021年3月 代表者

#### 〔学内活動〕

その他の主要活動 ノース・カロライナ大学シャーロット校との交換留学協定締結 副担当者 2014年9月～

その他の主要活動 メリーランド大学との交換留学締結 副担当者 2015年4月～

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

マルチメディア英語教育学会東日本支部 副部長 2018年12月～

映像メディア英語教育研究 査読者 2018年12月～

認知言語学研究 査読者 2019年6月～2019年7月

Educational Research Journal Reviewer 2019年12月～2019年12月

#### 〔会議の主催・運営〕

（国内会議：主催）映像メディア英語教育研究会（ATEM）東日本支部特別東北研究会 2019年9月29日

（国内会議：運営）映像メディア英語教育研究会（ATEM）第10回東日本支部大会 2019年12月15日

#### 〔その他〕

①英語教材のオンライン化の新システムの導入に励んだ（新英語カリキュラムの英語教材作成、使い方の説明動画作成などを含めて）

②新英語カリキュラムのGuide BookとなるPathways To Academic Englishの内、6章を書いた（A1.5, A1.6, B1.2, B1.3, B1.4, B2.2）

③入学試験のデータ分析に協力した

### MERES RICHARD PAUL (准教授)

#### 〔専門分野〕

コミュニケーション

プロソディ

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 英語A1-1 前期前半

全学教育 英語B1-1 前期前半

全学教育 英語A1-2 前期後半

全学教育 英語B1-2 前期後半

全学教育 英語C1-1 前期

全学教育 英語C1-2 前期

全学教育 CURRENT TOPICS 前期

全学教育 英語B2-1 後期前半

全学教育 英語B2-2 後期後半

全学教育 英語C2-1 後期

全学教育 英語C2-2 後期

#### 〔その他教育上に関する活動〕

(その他) "Attended the Hawaii International Conference on Education at the Hilton Hawaii Village Tapa Conference Center in Waikiki, Hawaii, USA from January 3-7, 2020"

**[著書]**

"Chapter B1.5 Giving Opinions and Conjecturing pp 46-49, Chapter B2.5 Pronunciation and Intonation pp 96-99, Chapter B2.6 Oral Reporting pp 100-104" 『Pathways to Academic English 2020』 Tohoku University 2020年3月

**[学内教職員支援]**

"Supporting the Global Learning Center and the University of Montana, and the Maureen and Mike Mansfield Center, implemented the second University of Montana Summer Faculty-Led Program from September 10th to September 22nd, 2019. Did promotion, recruitment, several pre-departure lectures and orientations, chaperoning and advising students in Montana, and follow-up lectures and evaluation after returning to Japan." (FD/S Dの企画・運営)

**[学会活動および外部機関における活動]**

EIKEN EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner 2010年4月～

The Japan Association for Language Teaching (JALT) The Japan Association for Language Teaching (JALT) 2012年4月～

American Communication Association (ACA) American Communication Association (ACA) 2015年4月～

JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) JALT' s Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG) 2016年4月～

American Speech Language Hearing Association California Speech Language Hearing Association 2016年11月～

**[兼務、兼業など]**

学外 英語検定二次試験面接官 英語検定二次試験面接官 2000年4月～

**[学外の社会活動]**

第67回東北六県中学校英語暗唱・高等学校英語弁論大会

**[教育活動]**

Continued to develop and make improvements to the e-learning system (LINC English) including the further improvements to the online method of peer to peer on-line communication within the e-learning system by working closely with the e-learning technical team, providing them with a comprehensive, system-wide analysis and report of the e-learning system including detailed analysis of student/user feedback, correction/fixes of outdated/inaccurate information and ideas for future improvements

Continued to implement a balanced four-skills approach to all classes taught (A1, A2, B1, B2, C1, C2 and Current Topics) including emphasis on student output. Additionally, all students were able to challenge presentation and discussion opportunities. Special emphasis was placed on critical thinking skills and presentation technique

Volunteered after-lesson English conversation time for students to use English to discuss current events, popular culture, and general conversation

**[研究活動]**

Continued study of the effectiveness of the e-learning methods for English language acquisition and new ideas in presentation technique specifically by attending the California Speech and Hearing Association' s Annual Convention and Exhibition. And continued study on the topics with latest research on prosody and prosody-related materials (e.g. isochrony, rhythm, stress-timing, and intonation)

Entered the article 「Using the Metronome to Boost Stress-timing Confidence:

Old-school Methodology in the Modern Classroom」 into the 東北大学言語・文化教育センター年報

**[学内活動]**

Continued work on the task force for English curriculum reform in support of the and helped plan for major English curriculum reform including active participation in the creation of the new volume of 「Pathways to Academic English」

**[学内教職員支援]**

Represented the Center for Culture and Language Education (CCLE) by providing model lessons at the 2019 OPEN CAMPUS events July 30th and 31st, 2019 on the Kawauchi Campus

Topic: 「Critical Thinking: Integrating the four big skills into the B1-2 English Communication curriculum」

Content: Helping university students meet the challenges of a global work/research environment through critical thinking and presentation skills

Working with the Global Learning Center and the University of Montana, and the Maureen and Mike Mansfield Center implemented the second University of Montana Summer Faculty-Led Program from September 10th to September 22nd, 2019. Did promotion, recruitment, several pre-departure lectures and orientations, chaperoning and advising students in Montana, and follow-up lectures and evaluation after returning to Japan.

Program content: Fieldwork and project-based learning activities relating to nature and the environment, the effects of global warming, English language learning, cultural exchange

Attended university workshops, FDs, and seminars

**[学会活動および外部機関における活動]**

Attended the Hawaii International Conference on Education at the Hilton Hawaii Village Tapa Conference Center in Waikiki, Hawaii from January 3-7, 2020

Served as a judge and presenter at the 「第67回東北六県中学校英語暗唱・高等学校英語弁論大会」 on November 15th, 2019 at the トークネットホール仙台 (仙台市民会館) 小ホール

Theme: 大会テーマ 「互いを知り、共に未来に目を向ける ～将来の主體的な英語ユーザーを育てるために～」 ” Know Each Other and Look Ahead to the Future Together ～For Nurturing Proactive Users of English in Times to Come～”

Continued membership and participation in The Japan Association for Language Teaching (JALT) and attended various regional events

Continued membership and participation in JALT's Computer Assisted Language Learning Special Interest Group (SIG)

Continued membership and participation in the American Communication Association (ACA)

Continued certification as an EIKEN (Test in Practical English Proficiency) examiner and provided interviews for the EIKEN 二次試験 several times throughout the year

Continued membership and participation in the American Speech-Language-Hearing Association

## KAVANAGH BARRY (准教授)

### [専門分野]

言語学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 現代大学論 全学教育 全学教育

全学教育 PES1 前期

全学教育 Karate and Japanese culture

全学教育 TUJP サマープログラムでの空手の授業

全学教育 C1 CLIL themed Media literacy 前期

全学教育 A1 Genre reading 前期

全学教育 B1 CLIL themed Intercultural communication 前期

全学教育 Speaking 1a

全学教育 Speaking 2a

全学教育 Speaking 3a

全学教育 Speaking 1a 前期

全学教育 PES2 後期

全学教育 TUJP サマープログラムでの空手の授業

全学教育 Karate and Japanese culture

全学教育 言語研究法

全学教育 C2 CLIL themed Global issues

全学教育 A2 Genre reading 2

全学教育 B2 CLIL themed Intercultural communication 2

全学教育 Speaking 1b

全学教育 Speaking 2b

全学教育 Speaking 3b

### [論文]

(単著) 「The integration of two cultures and languages amongst bilingual bicultural children in the UK」 『言語科学会 Proceedings』 60-64 2019年6月

(共著) 「Language Testing and Assessment for Language Teachers: An overview of the main considerations」 『言語・文化教育センター年報』 (2018年度版:第5号)』 5巻 10-16 2020年3月

(単著) 「"An...Exploration...of...the...Syllabus...Design...Landscape:... From...the...Perspective...of...a...Language...Teacher"」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 第6号』 6巻 89-103 2020年3月

(単著) 「The Potential of CLIL for Heritage Language Learners in the UK: A Case Study of a Japanese Language Supplementary School for Bicultural Bilingual Children」 『The Journal of Japan CLIL Pedagogy Association (JJCLIL) edited by Sasajima, S, Tsuchiya, K and Barry Kavanagh』 2巻 127-146 2020年3月

(単著) 「A cross-cultural comparison of the martial arts films of Hollywood and Japan through a CLIL pedagogical approach」 『ATEM(映像メディア英語教育研究) ジャーナル』 24巻 2020年3月

### [会議の発表・講演]

「Sentence level and beyond: Helping students make the transition from BICS to CALP」 口頭(一般): 第2回 J-CLIL 東北支部大会 東北大学 2019年6月

「CLIL for heritage language learners in the UK: A case study of a Japanese language supplementary school for mixed-race children」  
ポスター (一般) : 第 2 回 J-CLIL 東北支部大会 東北大学 2019 年 6 月  
「The integration of two cultures and languages amongst bilingual bicultural children in the UK」 口頭 (一般) : JSLS 言語科学会 2019  
東北大学 2019 年 7 月  
「Understanding culture, media analysis and language usage through a CLIL media literacy course for EFL students」 口頭 (一般) :  
日本 CLIL 教育学会(J-CLIL)第 2 回大会 at 早稲田大学 2019 年 7 月  
「Understanding language and culture usage through television commercials」 口頭 (一般) : Yamagata JALT Public lecture 2019 年 9 月  
「Developing Students' Media Literacy and Critical Thinking Skills within the University EFL Classroom」 口頭 (一般) : 第 25 回 ATEM  
(映像メディア英語教育学会) 全国大会 at 京都女子大学 2019 年 10 月

#### 〔共同研究活動〕

Syllabus development and curriculum reform at Tohoku University (Syllabus development and curriculum reform at Tohoku University)  
国内 2019 年 4 月～2020 年 3 月

#### 〔その他研究活動〕

(校訂版テキスト編集) JJ-CLIL Editor

#### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) An examination into heritage language education through CLIL within Japan and the UK 2018 年 4 月～2022 年 3 月 代表者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 英語カリキュラム改善・改革WGと Task Force 2018 年 8 月～  
全学委員会 J-CLIL Tohoku Chapter conference organizing committee 2019 年 1 月～2019 年 6 月  
全学委員会 J-CLIL Tohoku J-CLIL symposium 実行委員会 2019 年 4 月～2020 年 1 月  
全学委員会 英語カリキュラム改善・改革WGと Task Force 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
全学委員会 Working group for curriculum development 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
全学委員会 Syllabus development unit leader committee 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
全学委員会 Pathways to Academic English creator and contributor 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
全学委員会 ATEM 東日本支部第一回東北特別研究会実行委員会 2019 年 7 月～2019 年 10 月

#### 〔学内教職員支援〕

「説明会 2020 curriculum outline, purpose and goals」(FD/SDの企画・運営)  
J-CLIL Tohoku Symposium : Exploring the potential of CLIL within the Japanese context (FD/SDの企画・運営)

#### 〔プロジェクト活動〕

Syllabus development and the role of CLIL in Japanese universities

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

Communication quarterly 査読者 2016 年 10 月～  
日本 CLIL 教育学会 東北支部長 日本 CLIL 教育学会 2017 年 10 月～  
J-CLIL 東北 支部長 J-CLIL 2017 年 10 月～  
Journal of Cognitive Science 査読者 査読者 2018 年 1 月～  
Computers in Human behavior Journal 査読者 査読者 2018 年 1 月～  
First Monday Journal 査読者 査読者 2018 年 1 月～  
J-CLIL Journal Editor 日本 CLIL 教育学会 2018 年 1 月～  
映画英語教育学会 東日本企画委員 2018 年 12 月～  
J-CLIL 東北支部大会実行委員会 J-CLIL 東北支部大会 支部長・実行委員会 2019 年 1 月～2019 年 6 月  
JSLS 実行委員会 実行委員会 2019 年 4 月～2019 年 7 月  
J-CLIL Journal J-CLIL Journal editor 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
映画英語教育学会 映画英語教育学会 Journal peer reviewer 2019 年 4 月～2020 年 3 月  
Journal of Experimental Social Psychology association Journal of Experimental Social Psychology paper reviewer 2019 年 4 月～2020 年  
3 月  
ATEM 東日本支部 東日本企画委員 2019 年 4 月～  
J-CLIL J-CLIL ウェブサイト管理 2019 年 4 月～  
Routledge Book application reviewer Book application reviewer 2019 年 10 月～2020 年 3 月

#### 〔会議の主催・運営〕

(国内会議:主催) 2019 年 06 月 運営 J-CLIL 東北支部第 2 回大会 / J-CLIL 東北支部長 2018 年 4 月  
(国内会議:主催) TiE Teaching English program project member 2018 年 4 月  
(国内会議:主催) ATEM (映画英語教育学会) 東日本支部運営委員会・企画委員 2018 年 8 月

#### 〔学外の社会活動〕

J-CLIL Tohoku Symposium: Exploring the Potential of CLIL within the Japanese Context

JALT Yamagata chapter public lecture

**〔担当授業科目および学内活動〕**

Helped create a new curriculum and syllabus for A and B classes as part of a working group. This included the creation of a skills-based syllabus of 24 core skills, acting as leader of the ‘syllabus unit’ and contributing to FDs for the English teaching faculty members.

Created new and improved CLIL based classes

Conducted TUJP Summer Japanese culture (karate) classes

**〔研究活動〕**

Published 5 papers

Presented at 6 conferences

Edited the JJ-CLIL journal

Helped translate the J-CLIL website

Conducted my kaken funded research in the UK and Japan

**〔その他〕**

Helped create and contribute to ‘Pathways Academic English’ book

Organized the J-CLIL Tohoku chapter conference

Organized the J-CLIL Symposium

Helped organize ATEM Tohoku chapter conference

Helped organize and present at an FD for English teaching faculty

Translation consultant for the book ‘A Textbook on Japanese Culture for Beginners’

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

2 public lectures

1 symposium

**KANG MINKYEONG (准教授)**

**〔専門分野〕**

ドイツ語学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 基礎ドイツ語 I 前期

全学教育 異文化理解 前期

全学教育 基礎ドイツ語 II 後期

全学教育 基礎ドイツ語 I 後期

**〔その他教育上に関する活動〕**

(その他) FD 活動の一環として、ドイツ語教育セミナー「ドイツ語の学習基本語彙と文法」を企画・開催した。

**〔論文〕**

(単著) 「コロケーションとしての構文分析の試み ―形容詞 kaputt を伴う不変動詞と結果構文を例に―」 『ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討 ―理想の独和辞典を目指して―』 155-172 2020年3月

**〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕**

基盤研究(C) ドイツ語「結果構文」のコーパス分析と使役構文を含む「結果表現」の包括的研究 2016年4月～2020年3月 代表者

基盤研究(C) ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討 2016年4月～2020年3月 分担者

**〔学内活動〕**

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2016年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2017年4月～

**〔学内教職員支援〕**

授業改善プロジェクト (代表: 張立派先生) への支援の一環として、ワークショップ「初習外国語担当教員の成長を促す授業参観」(2019年9月20日)の企画・開催に協力した。(FD/SDの企画・運営)

学会活動および外部機関における活動

アジアゲルマニスト2019札幌大会 第6分科会共同責任者 2019年8月～2019年8月

**深井 陽介 (准教授)**

**〔専門分野〕**

フランス文学

フランス語教育学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

基礎フランス語Ⅰ 前期  
基礎フランス語Ⅱ 後期  
展開フランス語Ⅰ 前期  
展開フランス語Ⅱ 後期  
展開フランス語Ⅲ 前期  
展開フランス語Ⅳ 後期

**【論文】**

(共著) 「Apprendre le français a travers la creation de videos sur YouTube -Mise en place de nouvelles approches didactiques et formations integrant le numerique」 『Dossier Acta Litt&Arts : La traduction du savoir et ses methodes』 2019年5月  
(共著) 「Creation de courts-metragés collaboratifs avec les étudiants」 『Rencontre』 33号 17-21 2019年7月

**【著書】**

『政宗伝—RPGで学ぶフランス語—』三修社 2020年2月

**【会議の発表・講演】**

「学習支援者(mediatour)としてのフランス語教師の役割」 シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名): 日本フランス語教育学会 2019年6月  
「主体性・コミュニケーションを育む: 東北大学映画プロジェクトの試み」 口頭(一般): ATEM映像メディア英語教育学会東日本支部東北特別大会 2019年9月  
「Using student-generated digital media products for Foreign Language Learning: How, why, and the practical benefits」 口頭(一般): 第25回映像メディア英語教育学会全国大会 2019年10月  
「フランス語教育の今、これから」 シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名): 日本フランス語フランス文学会東北支部会 2019年11月  
「フランス語教育とゲーミフィケーションの可能性」 口頭(一般): フランス語教授法研究会 2019年12月

**【科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)】**

その他 若手研究 キャリア形成のための外国語教育研究—動画制作を用いたフランス語教育 2018年4月~ 代表者

**【学内活動】**

部局内委員会 言語文化教育センター運営委員 2017年4月~  
その他の主要活動 全学教育フランス語部会員 2019年4月~

**【プロジェクト活動】**

東北大学フランス語動画プロジェクト

**【学会活動および外部機関における活動】**

日本フランス語教育学会 学会誌編集委員 2015年4月~  
日本フランス語教育学会 理事 2018年6月~  
日本フランス語フランス文学会東北支部 運営委員 2018年12月~  
APEF 日本フランス語教育振興協会 理事 2019年5月~

**【会議の主催・運営】**

(国内会議:主催) 日本フランス語フランス文学会東北支部会 2019年11月30日

**【学外の社会活動】**

聖ウルスラ学院英智高等学校

**【その他】**

本学の全学教育におけるフランス語教育を改革した。具体的には、履修者増加のためのプロモーションや留学生を増やすためのグローバルラーニングセンターとの連携、また理系学生にフランス語を学んでもらうために工学部や流体力学研究所と協力した。

**田林 洋一(准教授)**

**【専門分野】**

言語学  
外国語教育

**【担当授業科目(他大学も含む)】**

全学教育 異文化理解 せかいをめぐる —ことばとぶんかのたび 前期  
全学教育 基礎スペイン語Ⅰ 1セメスタ  
全学教育 展開スペイン語Ⅰ 3セメスタ  
全学教育 基礎スペイン語Ⅱ 2セメスタ  
全学教育 展開スペイン語Ⅱ 4セメスタ

**【論文】**

(単著) 「スペイン語 se le V 構文の制約と日本語の間接受身の比較 —責任と意図性を中心に—」 『高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 2020年3月

(単著) 「認知言語学の主張に根差した言語発祥の地点 -生命の誕生から古代まで-」 『言語・文化教育センター年報』 4号 2020年3月

**[著書]**

『ドン・キホーテに潜む狂気 -正気を失ってしまったのは誰か-』 水声社 2020年2月

**[作品]**

(その他) 「ポルヴォ・ロマンス -気軽に読める童話のような短篇集-」 2020年2月10日

**[その他の競争的資金獲得実績]**

(その他補助金 教育開発推進経費(組織申請)) 外国語学習の補助としての異文化理解講義一言語・文化論講座の開講 2018年4月～

**[学内活動]**

部局内委員会 機構教育推進ワーキンググループ 2016年6月～

部局内委員会 広報小委員会 2017年2月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 総務委員会 2018年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター年報編集委員 2018年4月～

部局内委員会 教務小委員会 2019年10月～

その他の主要活動 学習環境専門部会 2016年4月～

その他の主要活動 既修得単位認定審査委員 2017年4月～

その他の主要活動 言語・文化教育センターホームページ担当 2018年4月～

**[学会活動および外部機関における活動]**

北海道大学メディアコミュニケーション研究 査読委員 2014年4月～

**[学外の社会活動]**

スペイン語能力検定試験試験監督

**[その他]**

外国語委員会出席、言語・文化教育センター運営会議メンバー、言語・文化教育センター会議などの出席

**Cecilia Silva (准教授)**

**[専門分野]**

リテラシー

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 基礎スペイン語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 基礎スペイン語Ⅱ 2セメスタ

全学教育 展開スペイン語Ⅰ 3セメスタ

全学教育 展開スペイン語Ⅱ 4セメスタ

全学教育 実践スペイン語Ⅰ 3セメスタ

全学教育 実践スペイン語Ⅱ 4セメスタ

**[プロジェクト活動]**

スペイン語初心者のためのハンドブック

先生による先生のための研究会プロジェクトワークショップ

Integrating Culture in Language Teaching Workshop

Bridging the Gap between Students and Textbooks Workshop

**西田 文信 (准教授)**

**[専門分野]**

言語学

**[その他教育上に関する活動]**

(教育方針の実践例) 以下の3点の力を入れてきている。ビデオ教材による理解促進:市販されているものの他、テレビ番組で理解促進に役立つものは積極的に視聴させている。問題演習:促進中国語の授業ではできるだけ具体的データに関して受講者自らの手で解決できる能力を高めるため、問題演習を適宜織り交ぜている。パワーポイントによる理解:中国文化に関係するものは教員自らが撮影した写真や動画なども交えて視覚的に理解させるよう努めている。

(教科書・教材の開発) 基礎中国語の授業では、毎回の授業の流れを適確につかめるようにポイントをまとめた資料を配付。受講生が自分で内容を整理し、メモをとれるよう適宜重要箇所を空白を入れている。特に発音習得に関する領域は、全て自作のハンドアウトを利用してきている。中国の文化現象については視覚的理解を深めるため、社会構造の図表やデータ表、ならびに写真などをハンドアウト内に組み込んでいる。

**[会議の発表・講演]**

「ゾンカ語とシッキム語の言語的距離について」 口頭(一般):日本ブータン学会第3回大会 2019年5月

「An Acoustic and Articulatory Study of Drenjongke Fricatives」 口頭(一般):ICPhS2019 2019年8月

「ブータンの言語政策—ゾンカを巡る現状と課題—」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：日本南アジア学会第32回全国大会 2019年10月

「ブータン（南アジア）を巡る」その他：慶應義塾大学言語文化研究所フィールド言語学公開ワークショップ「未知の言語を探る旅」2019年12月

「ゾンカが作られるとき—ブータンの言語ナショナリズムとゾンカー—」 口頭（一般）：第114回ブータン勉強会 2019年12月

「ブータンの医学と医療」 口頭（一般）：「アジアの伝統医学における医療・医学の倫理と行動規範、及びその思想史的研究」 第二回全体会 2019年12月

#### 〔共同研究活動〕

Himalayan Languages Project 研究相手先: スイス ベルン大学言語学研究所 国外 2010年8月～

#### 〔その他研究活動〕

(フィールドワーク) East Bodish 諸語の記述・歴史言語学的研究

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) East Bodish 諸語の言語実態・言語変化・言語変容 2018年4月～2022年3月 代表者

研究成果公開促進費・学術図書 ナムイ語文法の記述言語学的研究 2018年4月～ 代表者

#### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 稲盛財団学術助成金) 史上初のゾンカ語=日本語=英語辞典編纂・出版のためのデータベースの構築 2018年4月～

#### 〔学内活動〕

全学委員会 中国語・朝鮮語部会 2017年4月～

全学委員会 中国語・朝鮮語部会長 2019年4月～

部局内委員会 言語・文化教育センター運営会議委員 2017年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018年4月～

#### 〔プロジェクト活動〕

PhoPhoNO Project

Himalayan Languages Project

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本ブータン学会 出版委員会委員 2017年5月～

日本音声学会 学会誌編集委員会査読委員 2017年7月～

日本南アジア学会 30周年記念大会企画委員 2017年9月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学外 宮城学院女子大学 非常勤講師 2018年4月～

#### 〔学外の社会活動〕

地域伝統文化の記録・保存・再活性化

### 趙 秀敏（准教授）

#### 〔専門分野〕

外国語教育

教育工学

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎中国語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 展開中国語Ⅰ 1セメスタ

全学教育 基礎中国語Ⅱ 2セメスタ

全学教育 展開中国語Ⅱ 2セメスタ

他大学 中国語コミュニケーションⅠ (d) 1セメスタ

他大学 中国語コミュニケーションⅠⅠ (d) 2セメスタ

#### 〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 獲得した JSPS 科研費【基盤研究(C) (2019年度～2022年度, 研究代表者)】の課題「AIを活用した大学初修中国語会話復習用アプリ教材の開発と検証」に取り組み, ICTを活用した効果的な会話教材の開発と, 学びやすい学習環境の提供の前提となる AI 活用会話復習教材の設計方針を明らかにした。

(教科書・教材の開発) 獲得した JSPS 科研費【基盤研究(C) (2017年度～2019年度, 研究分担者)】の課題「持続的な3段階ブレンディッドラーニングを可能とする教授・学習支援システムの開発」に取り組み, スマートフォン利用復習教材の学習ログについて, 開発した学習ログ可視化システムの検証実験を行い, 本システムの有効性を確認した。

(教科書・教材の開発) 獲得した JSPS 科研費【基盤研究(B) (2019年度～2022年度, 研究分担者)】の課題「自己調整型マイクロラーニングと探索的学習分析による持続可能な学習環境の構築と実践」に取り組み, マイクロラーニングに基づく自己調整型の復習と, 復習履歴の分析に基づく授業展開を可能とするブレンディッドラーニングの提供手法を検討した。

(その他) 東北多文化アカデミー財団と東北大学の共催事業「2019年夏季KEYAKI(上海海洋大学)短期日本語研修プログラム」で特別訪問研修生2名を受け入れ

#### [論文]

- (共著) 「大学初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習教材「KoToToMo」の開発と実践」 『教育システム情報学会誌』 32巻2号 131-142 2019年4月
- (共著) 「初修中国語ブレンディッドラーニングのためのスマートフォン利用復習システムの構築」 『2019年度 ICT利用による教育改善研究発表会資料集』 145-148 2019年8月
- (共著) 「大学初修中国語会話復習用アプリ教材の開発におけるAI活用の可能性」 『第44回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 337-338 2019年9月
- (共著) 「スマートフォン教材を利用した初修語学学習における復習活動の文脈を考慮した学習分析手法の初期的検討」 『第44回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 140-141 2019年9月
- (共著) 「ブレンディッドラーニング用復習教材における繰り返し学習支援の検討」 『第44回教育システム情報学会全国大会講演論文集』 333-334 2019年9月
- (共著) 「Development and Evaluation of Smartphone Learning Material for Blended Language Learning」 『Proceedings of 2019 4th International Conference on Information Technology (InCIT)』 108-113 2019年10月
- (共著) 「日本大学初級華語 Blended Learning 的開発—利用スマート手機の復習教材 APP 的界面設計及其教學效果—」 『第十八屆台灣華語文教學年會暨國際學術研討會』 2019年12月
- (共著) 「User Experience Considerations in Motivational Design for Sustainable Mobile Learning Usage」 『教育システム情報学会 研究報告』 34巻5号 45-50 2020年1月
- (共著) 「AIを活用した初修中国語会話復習用アプリ教材の設計」 『教育システム情報学会研究報告』 34巻6号 89-94 2020年3月

#### [会議の発表・講演]

- 「Development and Evaluation of Smartphone Learning Material for Blended Language Learning」 口頭(一般): 2019 4th International Conference on Information Technology (InCIT) 2019年10月
- 「Development of blended learning of the Chinese language in a Japanese university: Design of the UI for a smartphone-based review app and its effectiveness」 口頭(一般): 2019 International Annual Conference of Teaching Chinese as a Second Language 2019年12月

#### [科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

- 基盤研究(C) 持続的な3段階ブレンディッドラーニングを可能とする教授・学習支援システムの開発 2017年4月~2020年3月 分担者
- 基盤研究(C) AIを活用した大学初修中国語会話復習用アプリ教材の開発と検証 2019年4月~2022年3月 代表者
- 基盤研究(B) 自己調整型マイクロラーニングと探索的学習分析による持続可能な学習環境の構築と実践 2019年4月~2022年3月 分担者

#### [学会活動および外部機関における活動]

- 日本中国語検定協会 評議員 2016年7月~2020年3月
- 日本中国語検定協会 仙台会場試験監督 2006年11月~

#### 菅谷 奈津恵(准教授)

##### [専門分野]

日本語教育

##### [担当授業科目(他大学も含む)]

- 全学教育 Basic Japanese 2 3セメスタ
- 全学教育 日本語I 1セメスタ
- 全学教育 Basic Japanese 1 2セメスタ
- 全学教育 日本語F 2セメスタ
- 全学教育 日本語J 2セメスタ
- 大学院教育 第二言語教授法I MC 1年1学期
- 大学院教育 応用言語研究特別講義A DC 1年1学期
- 大学院教育 応用言語研究総合演習A MC 1年1学期
- 大学院教育 研究のための日本語スキル MC 1年1学期
- 大学院教育 応用言語研究特別講義B DC 1年2学期
- 大学院教育 応用言語研究総合演習B MC 1年2学期

##### [指導大学院生・学部生の発表件数]

2019年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 口頭発表件数:2件 学会発表件数:2件

##### [その他教育上に関する活動]

- (教科書・教材の開発) “日本語教材を作成し、ウェブサイト「Tohoku-JP」にて公開している。 <https://sites.google.com/view/tohoku-jp/>”
- (教科書・教材の開発) “ブログ「Tohoku-JP」にて、日本語授業の関連情報や留学生の文章を公開している。 <https://tohoku.jp.blogspot.com/>”

(その他) 東北大学日本語教育プログラム (JLPK) 受講生を対象としたニーズ調査質問票を開発し、オンラインにて実施をした。

#### [会議の発表・講演]

「科目の中でのライティング指導の試み: 中国人大学院生による書評レポートを中心に」 ポスター (一般): 第53回日本語教育方法研究会 2019年9月

「台湾人学習者は意見文に資料をどう用いたか: 文章作成後のインタビューから」 ポスター (一般): 第53回日本語教育方法研究会 2019年9月

「中国人日本語学習者による「名詞+動詞」コロケーションの習得: タスク関与負荷仮説と想起回数比較を中心に」 口頭 (一般): 第30回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会 2019年12月

「資料の有無による意見文の文章構造の比較: 台湾人上級学習者を対象に」 ポスター (一般): 第30回第二言語習得研究会 (JASLA) 全国大会 2019年12月

#### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) 言語習得の観点から見た表現の借用と適切な引用 2018年4月~2021年3月 代表者

#### [学内活動]

全学委員会 全学教育基幹科目委員会委員 2018年4月~2020年3月

全学委員会 全学教育人文科学委員会委員 2018年4月~2020年3月

全学委員会 全学教育基礎ゼミ委員会委員 2018年4月~2020年3月

全学委員会 学務審議会委員 2018年4月~

部局内委員会 総務委員会委員 2016年4月~

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年4月~

その他の主要活動 ロシア交流推進室 室員 2012年4月~2020年3月

その他の主要活動 東北大学附属図書館学習支援委員会委員 2016年4月~

その他の主要活動 既修得単位認定等のための審査委員 2019年4月~2020年3月

#### [プロジェクト活動]

国際的な視野に立ったオンラインプレイズメントテストの開発

#### [学会活動および外部機関における活動]

第2言語習得研究会 (関東) 運営委員 2011年4月~

日本CLIL教育学会 J-CLIL 東北支部 開催校委員 2018年2月~

#### [会議の主催・運営]

(国内会議:運営) The Second J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 第2回J-CLIL東北支部大会 2019年6月15日

### 副島 健作 (准教授)

#### [専門分野]

言語学

日本語教育

#### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ映像に見る日本語と日本文化ー (JF500) 前期

全学教育 “日本語 E-1, E-2 (上級日本語聴解 L690)” 前期

全学教育 カレントトピックス科目「せかいをめぐるーことばとぶんかのたび」 / AW530 前期

全学教育 展開科目-国際教育科目 日本社会・文化A (LV500) 後期

大学院教育 日本語解析論 I 前期

大学院教育 言語科学研究総合演習 通年

大学院教育 言語科学研究特別講義 通年

その他 中級日本語総合 (C440) 後期

#### [学位論文指導・審査]

博士2名 (主査1名、副査1名)、修士2名 (副査2名)

#### [指導大学院生・学部生の発表件数]

2019年度 大学院学生 (博士課程後期3年の課程) 論文発表件数:1件 学会発表件数:4件 国際会議発表件数:2件

#### [その他教育上に関する活動]

(教科書・教材の開発) 『日本語初級から学ぶ日本文化』

#### [論文]

(単著) 「言語接触における『好まれる言い回し』に関する一考察ー沖縄の地方共通語の「から」の使用意識調査からー」 『“退官記念論文集編集委員会(編)『言語の研究ー言語学, 日本語学, 日本語教育学, 言語コミュニケーション学からの視座ー』. 花書院.”』 105-118 2019年9月

#### [会議の発表・講演]

「『好まれる言い回し』と人為的事態の結果の表現ー主要部後置型言語の受動文とアスペクトー」 口頭 (一般): 言語学会第22回年次国際大会 (JSLS2019) 2019年7月

「The Onomatopoeia in Ginga Tetsudo no Yoru by Kenji Miyazawa: Comparative Study with the Russian and Chinese Translations」 口頭  
(一般) : 54th Linguistics Colloquium-Linguistic Encoding / Decoding in Global Contexts 2019年9月

**【その他の競争的資金獲得実績】**

(その他補助金 令和元年度「科研費スタート・アップ研究支援経費」) 言語の「自然さ」の理論化と実用化に向けた基礎研究 2019年4月～2020年3月

**【学内活動】**

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム東北大学内運営・実施委員会 委員 2017年10月～

全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム運営委員会委員 2018年11月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営委員会 委員 2019年4月～

全学委員会 国際連携推進機構 国際交流委員会 日本語研修教育運営委員会 日本語研修教育運営専門委員会 委員 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会 委員 2016年4月～

その他の主要活動 ロシア交流推進室員 2012年4月～

その他の主要活動 特別研究員アドバイザー 2018年9月～2019年12月

**【プロジェクト活動】**

日本語教育実施検討プロジェクト

国際的な視野に立ったオンラインプレイスメントテストの開発

**【海外研究機関交流実績】**

(受入:その他) 日本語・日本文化研修および学生交流 中国 上海海洋大学 2019年6月27日～2019年7月9日

(受入:その他) 日本語・日本文化研修および学生交流 中国 上海海洋大学 2019年6月27日～2019年7月9日

(受入:その他) 日本語・日本文化研修および学生交流 中国 西安電子科技大学 2020年1月14日～2020年1月21日

**【兼務、兼業など】**

学内 ロシア交流推進室 2012年4月～2020年3月

**【教育活動】**

留学生等受け入れ:

・特別訪問研修生として中国からの留学生を3名受入れた(2019年7月2名, 2020年1月1名)

・大学院留学生の学位論文指導・審査:

主指導: 博士2名, 修士2名, 審査: 博士1名(主査1名), 修士2名(副査2名)

**【大学運営・支援及び医療業務】**

教育支援活動:

・日本語プログラムコーディネータ(日本語教育プログラム(特別課程), DATEntre)

・特別研究員アドバイザー(2019年9月-2019年12月)

**中村 渉(准教授)**

**【専門分野】**

言語学

情報学基礎

**【担当授業科目(他大学も含む)】**

全学教育 SE600 上級共修ゼミ(外から見た日本の社会) 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習A 前期

大学院教育 応用言語研究特別講義A 前期

大学院教育 応用言語研究総合演習B 後期

大学院教育 応用言語研究特別講義B 後期

大学院教育 対照言語学の基礎 後期

その他 S400 (中級日本語会話) 前期

その他 R500 (日本語中上級読解) 前期

その他 A150/A250 (日本語研修コース) 後期

その他 JM500 (中上級日本語文化演習) 後期

その他 RS030 研究ゼミ (DEE-bridge 学部生専用) 後期

**【学位論文指導・審査】**

博士1名(副査1名)

**【指導大学院生・学部生の発表件数】**

2019年度 大学院学生(博士課程後期3年の課程) 学会発表件数:1件

**【その他教育上に関する活動】**

(その他) 他大学へ進学する留学生を含めた日本語研修コースの受け入れ作業、授業の担当、成績管理・認定、留学生の勉学上・生活上の問題点を解決するチュートリアル等を行った。また、日本語特別課程の運営(例: プレースメントテスト) および授業にも携わった。2007年4月からは、短期留学生受け入れプログラムの日本語コースの運営および授業の担当も行っている。

(その他) 本学で留学生に日本語を教える専任教員、非常勤教員、関係部署の職員を加入者とするメーリングリストの運営し、留学生の指導に必要な情報の共有化を進めている。

(その他) 日本語のカリキュラム変更に伴って、レベル調整のため、レベル1～2のカリキュラムとシラバスを担当した。

#### [論文]

(単著) 「反リンキング構文としての非人称構文」 『第158回日本語学会大会予稿集』 225-231 2019年6月

#### [会議の発表・講演]

「Two ways of “undoing” the linking process: Impersonal constructions in Russian and beyond」 口頭(招待・特別): Role and Reference Grammar 2019年8月

#### [科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(C) 印欧諸語の強勢代名詞及び接語代名詞のパラダイムの通言語的研究 2017年4月～2020年3月 代表者

#### [学内活動]

部局内委員会 言語・文化教育センター運営委員 2018年10月～

その他の主要活動 日本語研修コースおよび日本語特別課程の運営 2003年4月～

#### [学会活動および外部機関における活動]

日本語学会 大会運営委員 2017年4月～

#### [会議の主催・運営]

(国内会議:運営) 日本語学会大会 2017年4月1日～2020年3月31日

#### [その他]

日本語学会の大会運営委員を務め、春夏2回の大会運営(口頭発表の選定、司会の担当、大会発表賞の選考)を担当した。

### 金 鉉哲(准教授)

#### [専門分野]

韓国語

日韓比較文化論

#### [担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 1, 2セメスタ

全学教育 展開朝鮮語Ⅰ、Ⅱ 3, 4セメ

全学教育 展開朝鮮語Ⅲ、Ⅳ 5, 6セメ

その他 研究班コース(韓国語及び韓国文化) 通年

#### [会議の発表・講演]

「東北大学における初修外国語教育と韓国語教育の現状と課題」 シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名): 韓国語・韓国文化教育者シンポジウム 2019年6月

#### [学内活動]

全学委員会 既修得単位認定等のための審査委員 2008年2月～

その他の主要活動 日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員 2016年4月～

#### [学会活動および外部機関における活動]

パンソリ学会 国際理事 2006年3月～

日本韓国語教育学会 東北地域理事 2009年10月～

近代文学会 編集委員 2016年1月～

韓国劇芸術学会 編集委員 2016年4月～

#### [学外の社会活動]

第10回東北地域韓国語ハンマダン弁論大会の審査委員長

「日韓相互理解の時代新しい関係性: 時間、空間、再生」(主催: 高度教養教育・学生支援機構、駐仙台大韓民国総領事館)

「企業の成長要因とは? 2019年の韓国・中国・ベトナムの事例を中心に」(主催: 東北大学、駐仙台大韓民国総領事館)

#### [報道]

新聞(出演・執筆) 「座標 学ぶこと「一番の財産」」 河北新報 2020年1月7日

新聞(出演・執筆) 「座標 関係改善を信じて行動 陸続きだった日韓」 河北新報 2020年2月11日

新聞(出演・執筆) 「座標 思考の監獄のわな」 河北新報 2020年3月6日

#### [大学運営・支援及び医療業務]

- ・全学委員会: 既修得単位認定に係る審査委員(朝鮮語)
- ・日韓共同理工系学部留学生事業運営委員会の委員

**[社会貢献]**

- ・海外では、韓国「パンソリ学会」(海外理事)、「韓国劇芸術学会」(編集委員)として活動しながら、日韓芸能及び公演関係研究者の研究交流のために努力している。
- ・第10回東北地域韓国語ハンマダン弁論大会の審査委員長(日時：2019年10月5日(土)12:30-17:00 場所：東北大学川内キャンパスM201号)

**DANIEL JOEL EICHHORST (講師)**

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 B1 1セメスタ  
全学教育 C1 3セメスタ  
全学教育 C2 4セメスタ  
全学教育 A2 2セメスタ  
全学教育 B2 2セメスタ  
全学教育 C2 4セメスタ

**[学内活動]**

全学委員会 大学教育支援センター 研究開発委員 2013年4月～  
その他の主要活動 東北大学のプロモーションビデオを編集するWG 2012年12月～

**[学会活動および外部機関における活動]**

Assisted students preparing for international presentations.

**ENSLIN TODD ROBERT (講師)**

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 英語B1 - Communication 1セメスタ  
全学教育 英語C1 - コミュニケーション能力 3セメスタ  
全学教育 英語A1 - Reading 1セメスタ  
全学教育 英語C2 - コミュニケーション能力 全学教育 4セメスタ  
全学教育 英語B2 全学教育 2セメスタ  
全学教育 英語A2 - Reading 全学教育 2セメスタ

**[会議の発表・講演]**

シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : Teaching in English Workshop - Teikyo University 2019年9月  
シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : Hiroshima University - Engaging students in learning in English-medium classes 2020年2月

**[学内活動]**

全学委員会 全学委員会 部局内委員会 Center for Professional Development Research Development Fellow 2019年4月～2020年3月  
全学委員会 全学委員会 部局内委員会 Preparing Future Faculty Program Advisor/Mentor 2019年4月～2020年3月  
全学委員会 全学委員会 部局内委員会 New Faculty Program Advisor/Mentor 2019年4月～2020年3月

**[プロジェクト活動]**

英語での教育力・発表力向上支援プログラム開発事業

**[学外の社会活動]**

Proofreading other teachers' presentations/papers

**[学内活動]**

I am a Research Development Fellow in the Center for Professional Development (CPD). In this role, I help design educational programs, such as study exchange trips and classroom observations, assist with educational events, and help visiting faculty. I also have another title within the CPD as a 先達教員. In this role, I consulted with new faculty and graduate students in the New Faculty Program (NFP)/Preparing Future Faculty Program (PFFP) to help them improve their teaching skills. These activities included observing the participants in practice teaching (microteaching) activities and giving them advice and comments about their performance and how it could be improved, conducting individual interviews with participants to answer questions they had about teaching, and having participants observe my teaching followed by a meeting to explain my teaching philosophy and how that philosophy is carried out in the classroom.

**[学内教職員支援]**

I serve as an entrance examination grader

**[学会活動および外部機関における活動]**

I am the secretary for the Tohoku J-CLIL organization and help to organize and run the annual conference at Tohoku University. In addition, I serve as a peer reviewer on the organizations online journal.

**[その他]**

\*On-campus Support of Educational Staff

Over the past two years, I have been a key members of a cross-departmental project to help non-native English speaking faculty to deliver classes in English. In this endeavor, I have developed a new series of workshops for the Global 30 program teachers in Chemistry, Engineering and Agriculture. A series of workshops were conducted on the various campuses this past year. In addition, I consolidated the content of the workshops in the handbook, "英語よる授業実践ハンドブック /Active Learning Handbook for English-Medium Classes" that was published as a PD Booklet through the Center for Professional Development in March 2018.

#### SHEARON BEN (講師)

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 英語 A1 前期  
全学教育 英語 A2 後期  
全学教育 英語 B1 前期  
全学教育 英語 B2 後期  
全学教育 英語 C1 3セメスタ  
全学教育 英語 C1R 3セメスタ  
全学教育 英語 C2 4セメスタ  
全学教育 英語 C2R 3セメスタ

##### [学内教職員支援]

英語非常勤講師サポート (その他)

##### [学会活動および外部機関における活動]

Extensive Reading Foundation Level test collaborator 2013年4月～

##### [学外の社会活動]

二華中・高等学校評議員

##### [その他]

- Developed online resources concerning reading, English education, discussion, and personal finance. Developed personal finance focused general English course.
- Entrance test marking, working with the library to maintain and expand the extensive reading collection, working with the university administration to schedule extensive reading classrooms.

#### STAVOY JOSEPH ANTHONY (講師)

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 英語 B 1 前期  
全学教育 英語 B 2 後期  
全学教育 英語 C 1 前期  
全学教育 英語 C 2 前期  
全学教育 英語 C 2 後期  
全学教育 P r a c t i c a l E n g l i s h S k i l l s 1 前期

##### [その他]

I feel that that essence of my contribution to Tohoku University has been my continued ability to provide Tohoku students with ample opportunities to improve their English. I feel I have done that by constantly upgrading and improving my lessons in order for my students to reach their full potential.

#### 三上 傑 (講師)

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 英語 A1 1セメスタ  
全学教育 英語 B1 1セメスタ  
全学教育 英語 C1 3セメスタ  
全学教育 グローバル・コミュニケーション：大学での英語学習のためのモチベーション&スキルアップ講座 1セメスタ  
全学教育 英語 A2 2セメスタ  
全学教育 英語 B2 2セメスタ  
全学教育 英語 C2 4セメスタ  
他大学 English Reading II 後期集中

##### [論文]

(共著) 「語用論的要素の統語操作との関わり方とその言語間変異」 『日本英文学会東北支部第73回大会 Proceedings』 2019年7月

### [著書]

「英語における場所句倒置構文の史的発達と素性継承システムのパラメータ変化」(pp. 91-112)『『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論2』(小川芳樹・編)』開拓社 2019年11月

「素性継承システムのパラメータ化と日本語における定形節のフェイズ性」(pp. 87-106)『『日本語統語論研究の広がり : 記述と理論の往還』(竹沢幸一・本間伸輔・田川拓海・石田尊・松岡幹就・島田雅晴・編)』くろしお出版 2019年11月

科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)

基盤研究(B) Mirativityにおける「焦点」と「評価」の役割: 日英語からのアプローチ 2016年4月~2020年3月 分担者

若手研究(B) 自然言語における一致の普遍性と統語構造の通時的変化に関する日英語対照研究 2018年4月~2021年3月 代表者

### [学外の社会活動]

英語教育セミナー『Professional Development Seminar on TESOL: 国際標準英語教授法セミナー』

### [教育活動]

非常勤講師(筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター: 春季休業期間に集中授業として)「English Reading II」。

## SCHACHT BERND (講師)

### [担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎ドイツ語 I、II 1, 2セメ

全学教育 展開ドイツ語 I、II 3, 4セメ

### [その他教育上に関する活動]

(その他) オープンキャンパスの体験授業「Guten Morgen! 日常生活の場面でドイツ語の基礎を学びましょう!」の担当者

## 遠藤コラー・スサンネ (講師)

### [専門分野]

北方史

ドイツ語教育

### [担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎ドイツ語 I 1セメスタ

全学教育 基礎ドイツ語 II 2セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 I 3セメスタ

全学教育 展開ドイツ語 II 4セメスタ

全学教育 異文化理解 せかいをめぐる—ことばとぶんかのたび 1セメスタ

学部教育 岩手大学(ドイツ語コミュニケーション発展C) 前期集中

### [論文]

(単著) 「Der Kurilenarchipel im Blickpunkt: Frühe Begegnungen zwischen Japan, Russland und den Kurilen-Ainu. Von den Anfängen bis 1781. (日本、ロシアとアイヌの初期接触—千島列島に焦点をあてて—) チューリッヒ大学、博士論文」『『Dissertation, Philosophische Fakultät, Universität Zurich』』2019年7月

(単著) 「初級ドイツ語学習者向けの語彙学習の実践」『『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』』6号 143-151 2020年3月

### [会議の発表・講演]

「日本・ロシア・アイヌの初期接触—千島列島に焦点をあてて」 口頭(招待・特別): 「環境科学研究科文化生態保全学分野研究室+東北アジア研究センターロシアシベア研究分野, 高倉浩樹研究室」2019年10月

### [総説・解説記事]

(単著) 「身近な「発見」」『『岩手県立博物館・友の会 会報』』117号 1- 2020年1月

### [その他]

・平成30年度「教育開発推進経費」による事業「初級ドイツ語学習者向けの語彙学習用の教材開発」(代表者 遠藤スサンネ)において、教材収集とその利用方法について研究を継続した。

・2020年2月7日のドイツ語教育ワークショップ「ドイツ語の学習基本語彙と文法」(高度教養教育・学生支援機構主催・共催)に協力した。

### [研究活動]

学位取得

2019年7月にチューリッヒ大学に博士論文を提出し、博士号を取得した。

研究業績

- 1) Susanne Endo. Der Kurilenarchipel im Blickpunkt: Frühe Begegnungen zwischen Japan, Russland und den Kurilen-Ainu. Von den Anfängen bis 1781. Dissertation, Philosophische Fakultät, Universität Zürich, Juli 2019, pp. 1-181. (「日本、ロシアとアイヌの初期接触—千島列島に焦点をあてて—」 チューリッヒ大学、博士論文)

- 2) 遠藤コラー スサンネ (単著) 「初級ドイツ語学習者向けの語彙学習の実践」『『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』』第6号、2020年3月、143-152. 3) 遠藤スサンネ 「身近な「発見」」『『岩手県立博物館・友の会会報』』86号、2020年1月

## 〔大学運営〕

ドイツ語部会の「時間割係」を努めている。

## 高橋 美穂 (講師)

### 〔専門分野〕

ドイツ語学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎ドイツ語 I 前期

全学教育 展開ドイツ語 I 前期

全学教育 基礎ドイツ語 II 後期

全学教育 展開ドイツ語 II 後期

### 〔論文〕

(単著) 「Temporalitaet als Ableitung aus einer Raemlichkeit: Eine Fallstudie ueber die wegbezogene und die temporale Lesart beim Partikelverb durchfahren」 『Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung』 1巻 56-72 2019年4月

(単著) 「Passivisch oder modal? – Eine semantische Analyse ueber die Lesarten der Konstruktion bekommen plus Partizip II」 『Linguisten-Seminar: Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung』 2巻 43-58 2020年2月

### 〔会議の発表・講演〕

「「使役」と「被害」が重なる構文—自由与格・have使役・「一させ」使役の比較」 口頭 (一般) : ドイツ言語理論研究会 (GLT) 2019年6月

「"Ueber die Ambiguitaet zwischen ""Kausierung"" und ""Involviertheit"" : Ein deutsch-japanischer Vergleich"」 口頭 (一般) : Asiatische Germanistentagung 2019 in Sapporo (アジアゲルマニスト会議 2019 札幌) 2019年8月

「"Zur sprachlichen Asymmetrie von ""Ursprung"" und ""Ziel"" einer Fortbewegung: Am Beispiel der Partikelverben mit fahren"」 口頭 (一般) : 日本独文学会第47回語学ゼミナール 2019年9月

### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究 (B) ドイツ語移動動詞と経路表現の共起に関するコーパスを用いた意味的・統語的分析 2017年4月～2020年3月 代表者

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本独文学会 語学ゼミナール実行委員会 委員 2018年10月～

日本独文学会 広報委員会 委員 2019年6月～

### 〔その他〕

所属センター業務: ドイツ語教育ワークショップ「ドイツ語の学習基本語彙と文法」開催および運営の補佐 (主催: 言語・文化教育センター、開催日: 2020年2月7日)

## SAUZEDDE BERTRAND (講師)

### 〔専門分野〕

言語学

日本語学

外国語教育

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 基礎フランス語 I 前期

全学教育 展開フランス語 I 前期

全学教育 基礎フランス語 II 後期

全学教育 展開フランス語 II 後期

全学教育 せかいをめぐる一ことばとぶんかのたび 通年

### 〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2019年度 大学院学生 (修士課程) 口頭発表件数:1件 論文発表件数:1件 国際会議発表件数:1件

2019年度 学部学生 (4年の課程) 口頭発表件数:2件

### 〔その他教育上に関する活動〕

(教育方針の実践例) フランス語動画プロジェクト, 『わたしはだれだ?』, 第一話, 「突然, もう一つの人生がはじまる」, 2018年10月5日, 第二話, 「クリスマスは何色だ?」, 2019年3月24日,

(教科書・教材の開発) "教科書を作成した。 SAUZEDDE Bertrand & 細貝健二 (2015年9月) Vocal, Hachette Japon 出版社 フランス語コミュニケーションと発音入門 ISBN-10: 4907970056, 144ページ "

### 〔論文〕

(共著) 「Creation de courts-metragés collaboratifs avec les étudiants (ユーチューブでビデオを作る)」 『関西フランス語教育研究会 (Rencontres)』 32巻 2019年

(単著)「Processus d' apprentissage de la phonétique du français langue étrangère」, 富山大学フランス語教育国際シンポジウム報告書, 2020年1月

(単著)「フランス語学習者の中間言語のリズムの分析について」, 日本フランス語フランス文学会『Nord-Est』掲載報告書, 2020年2月

#### [著書]

『新ヴォカル』トレフル出版 2020年3月

#### [会議の発表・講演]

「フランス語学習者の中間言語のリズムの分析について」 口頭(一般): SJLLF 日本フランス語フランス文学会東北支部大会研究発表会 2019年11月

「短編映画制作を通じたプロジェクト型外国語学習」 口頭(一般): ATEM 東日本支部第一回東北特別研究会 The association of teaching English through Multimedia 2019年9月

「外国語としてのフランス語における発音習得プロセス」 口頭(招待・特別): “富山大学人文学部フランス語言語文化研究室, フランス語教育国際シンポジウム・ワークショップ” 2019年7月

#### [学内活動]

その他の主要活動 フランス交換留学面接委員 2016年4月～

その他の主要活動 東北大学留学生通訳支援者 2019年4月～

#### [学内教職員支援]

初修外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト (FD/S Dの企画・運営)

#### [学会活動および外部機関における活動]

RPK 関西フランス語教育研究会 委員、会計管理者、IT 担当者 2012年6月～

東北大学フランス語フランス文学会 役員 2018年4月～

#### [学外の社会活動]

東北大学宿舎の副会長

#### [教育活動]

第1回全日本学生フランス語プレゼンテーション大会(1名) 指導(京都外国語大学) 2019年11月9日

「第12回日仏会館フランス語コンクール」(1名) 指導(日仏会館) 2019年11月23日

### 張 立波 (講師)

#### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 現代大学論「中国の大学」一回のみ 後期

全学教育基礎中国語Ⅰ 5コマ 前期

全学教育基礎中国語Ⅱ 5コマ 後期

全学教育展開中国語Ⅰ 2コマ 前期

全学教育展開中国語Ⅱ 2コマ 後期

全学教育展開中国語Ⅲ 1コマ 前期

全学教育展開中国語Ⅳ 1コマ 後期

#### [その他教育上に関する活動]

(その他) 指導教員として中国特別訪問研修生の受け入れ

#### [論文]

(単著)「存在を表す「有」・「在」構文における日本人学習者の誤用分析及び教授法への示唆」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 2019年4月

(単著)「大学の中国語教育: 東北大学主催の教員海外研修を中心に」 『IDE: 現代の高等教育』 2019年6月

(単著)「初修外国語における授業相互参観による授業改善のための取り組み—東北大学における事例研究—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 6号 2020年3月

(単著)「「中国文化」を使った中級中国語授業—CLIL 的アプローチ授業設計—」 『東北大学言語・文化教育センター年報』 5号 2020年3月

(単著)「ビデオ制作を通じた課題型学習: 中国語授業の実践を中心に」 『東北大学言語・文化教育センター年報』 5号 2020年3月

#### [会議の発表・講演]

「授業参観—中国語教員の参加を中心に—」 口頭(一般): 中国語教育学会第17回全国大会 2019年6月

「「中国文化」を使った中級中国語授業—CLIL 的アプローチ授業設計—」 口頭(一般): The Second J-CLIL TOHOKU Chapter Conference 2019年6月

「ビデオ制作を通じた課題型学習: 中国語授業の実践を中心に」 口頭(一般): 映像メディア教育学会 (ATEM) 東日本支部第一回東北特別研究会 2019年9月

#### [その他研究活動]

(その他) 専門教育指導力育成プログラム大学中国語教授法強化講座

#### [学内活動]

その他の主要活動 教育・学生支援部 留学生課と外部団体による合同イベントへの支援 2019年5月～2019年5月

その他の主要活動 学内人事企画部への翻訳支援 2020年1月～

#### [プロジェクト活動]

初修外国語教員の授業相互参観による授業改善プロジェクト

#### [教育相談]

数値データ未登録

#### [会議の主催・運営]

(国内会議:運営) ワークショップ「外国語担当教員の成長を促す授業参観」 2019年9月20日

#### [学外の社会活動]

2019年度“漢語橋”世界大学生中国語コンテスト新潟予選大会審査員

全日本中国語スピーチコンテスト宮城県大会審査員

### 王 其莉 (講師)

#### [論文]

(単著) 「针对日本学生的汉语重动句的教学策略」 『『东北大学 言語・文化教育センター年報』』 5号 2020年3月

#### [会議の発表・講演]

「“能”の意味と用法」 口頭(一般): 漢日対比言語学研究(協作)会 2019年8月

### 林 雅子 (講師)

#### [専門分野]

日本語学

日本語教育

言語学

#### [担当授業科目(他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ 「マルチメディア(マンガ・アニメ)で言語文化相互理解—国際共修ゼミ—」 前期

全学教育 課題解決型(PBL)演習A 【展開ゼミ】「大学生活に役立つ敬語・日本語～留学生とともに日本語を考える～—国際共修ゼミ—」 後期

全学教育 異文化理解「せかいをめぐる一ことばとぶんかのたび - 国際共修ゼミ -」 オムニバス授業「外から見た日本語」 前期

その他 研究ゼミ (RS030a) DEEp-BridgeU 専用必修科目 中級～上級レベル対象 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙 (K500a) 外国人留学生特別課程科目 前期

その他 中上級日本語漢字・語彙 (K500b) 外国人留学生特別課程科目 前期

その他 入門日本語応用/初級日本語応用 (A150/A250) 日本語研修コース専用(速修型クラス) 前期

その他 入門日本語読解/初級日本語読解 (R150/R250) 日本語研修コース専用(速修型クラス) 前期

その他 研究ゼミ (RS030b) DEEp-BridgeU 専用必修科目 上級レベル対象 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙 (K500a) 外国人留学生特別課程科目 後期

その他 中上級日本語漢字・語彙 (K500b) 外国人留学生特別課程科目 後期

その他 中級日本語漢字・語彙 (K400) 外国人留学生特別課程科目 後期

その他 入門日本語読解/初級日本語読解 (R150/R250) 日本語研修コース専用(速修型クラス) 後期

#### [その他教育上に関する活動]

(教科書・教材の開発) 東北大学日本語研修コース(国費留学生)向け読解教材の共同開発に参加

(教科書・教材の開発) 教育開発推進経費と部局ビジョン経費により東北大学使用テキストのレベル別語彙リスト作成

(クラス担任) 日本語研修コース(国費留学生予備教育課程)における学生受入指導(受入教員となりスタディガイダンスから修了認定まで指導問題や相談に対する対応)

(クラス担任) 人文社会科学系短期交換留学生日本語プログラムサブコーディネーター

(その他) 日本語教育プログラム留学生オリエンテーション 前期・後期

(教科書・教材の開発) 東北大学日本語研修コース(国費留学生予備教育課程)入門～初級レベルにおける日本文化読解教材の共同開発

(教育方針の実践例) 国立国語研究所開発『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)及びコーパス検索アプリケーション「中納言」を活用した

#### [言語分析の指導]

(教育方針の実践例) 文系短期交換留学プログラム DEEp-Bridge 最終成果報告会学生指導・実施 前期・後期

(教育方針の実践例) 「アクティブ・ラーニング」の一環として「ピア・ティーチング」を国際共修ゼミ及び留学生対象日本語教育科目で実践

(教育方針の実践例) ラングエッジ・エクスチェンジ(日本人学生・国費留学生間の英語・日本語交流)実施

(教育方針の実践例) 日本語研修コース(国費留学生予備教育課程)における書道の日本文化体験学習指導 前期・後期

(教育方針の実践例) 学習支援センターによるライティング(レポート等作成)支援制度の授業内での活用及び日本人学生・留学生の利用促進

(教育方針の実践例) DEEp-Bridge 上級研究ゼミにおける情報探索・貴重書閲覧等の図書館講習会企画・実施支援

(クラス担任) 日本語研修コース(国費留学生予備教育課程)フィールドトリップ引率

(教科書・教材の開発) 東北大学日本語教育プログラム使用テキストレベル別漢字リスト作成  
(クラス担任) 人文社会科学系短期交換留学生日本語プログラムコーディネーター  
(クラス担任) 日本語研修コース (国費留学生予備教育課程) サブコーディネーター

#### 〔論文〕

(単著) 「東北大学日本語教育プログラムにおけるレベル別漢字リスト開発のための調査研究」 『『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』  
6号 169-178 2020年3月

#### 〔著書〕

『『日本語初級から学ぶ日本文化』』 東北大学出版会 2020年3月

#### 〔会議の発表・講演〕

「日本語とスペイン語の副詞の対照研究—mente 副詞と非 mente 副詞を中心に—」 口頭 (一般): 大阪大学「現代日本語学」研究会 2019年8月  
「東北大学における日本語カリキュラムの概要と国際共修科目」 口頭 (招待・特別): 第13回専門日本語教育研究協議会「留学生大量受け入れ  
新時代の大学における日本語カリキュラムの再考」 2020年2月

#### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他受託研究費 2019年度男女共同参画推進センターネクストステップ研究費) 副詞的機能を持つ言語形式の言語間対照による多言語副詞シ  
ソーラスの作成 2019年7月~2020年3月

#### 〔学内活動〕

全学委員会 国際連携推進機構国際交流委員会教育国際交流運営委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会 委員 2019年4月~2020年3月  
その他の主要活動 2019年度前期外国人留学生日本語研修コース プログラムコーディネーター (カリキュラム編成及びクラス編成などの運營業  
務) 2019年4月~2019年9月  
その他の主要活動 2019年度後期外国人留学生文系短期留学プログラム IPLA・DEEp-Bridge 日本語コーディネーター (日本語カリキュラム編成及  
びクラス編成などの運營業務) 2019年10月~2020年3月  
その他の主要活動 プレイスメントテスト開発ワーキンググループ 2019年6月~2020年3月  
その他の主要活動 入門レベル レベル別コーディネーター 2019年4月~2020年3月  
その他の主要活動 言語・文化教育センター国際交流棟録音室環境整備と先生方の利用を支援 2019年4月~2020年3月

#### 〔学内教職員支援〕

外国語授業の相互参観による授業改善プロジェクト参加 (その他)

#### 〔教育相談〕

のべ相談人数15名、のべ相談回数20回

#### 〔国際交流実績〕

中国 KEYAKI-日本語・日本文化研修プログラム (上海海洋大学) 東北大学特別訪問研修生 東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA 短  
期日本語・日本文化研修プログラム KEYAKI」で特別訪問研修生2名を受け入れ 2019年6月~2019年7月  
中国 KEYAKI-日本語・日本文化研修プログラム 東北大学特別訪問研修生 東北多文化アカデミー財団と本機構の共催事業「TTA 短期日本語・日本  
文化研修プログラム KEYAKI」で特別訪問研修生1名 (広東技術師範大学)を受け入れ 2020年1月

#### 〔学外の社会活動〕

外国人の子ども・サポートの会

### 粕壁 善隆 (教授)

#### 〔専門分野〕

物性 II  
金属物性  
無機材料・物性

#### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

学部教育 量子力学入門 3セメスタ  
大学院教育 金属フロンティア工学修士研修 通年  
大学院教育 先端マテリアル物理化学セミナー 通年  
大学院教育 材料表面界面科学 後期

#### 〔論文〕

(共著) 「Characterization of (111)-oriented Ti1-xAlxN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD」 『QST Takasaki Annual  
Report 2017』 48-48 2019年4月  
(共著) 「SYNTHESIS AND CHARACTERIZATION OF TITANIUM ALUMINIUM NITRIDE THIN FILMS DEPOSITED BY REACTIVE-CVD.」 『Proc. 20th BIENNIAL  
European Conference on Chemical Vapor Deposition』 2019年5月  
(共著) 「Characterization of Composition Control in Ti1-xAlxN Thin Films on Monocrystalline AlN by Reactive CVD」 『QST Takasaki  
Annual Report』 2018 巻 34-34 2020年3月

#### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 原子力機構施設利用共同利用研究) イオン注入法によるチタン・シリコン・アルミ窒化化合物薄膜成長過程のその場観察 2018年4月～

#### 〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2014年4月～  
全学委員会 安全保障輸出管理委員会委員 2014年4月～  
全学委員会 国際共同教育実施委員会委員長 2015年4月～  
全学委員会 自然科学系学生交流実施委員会委員長 2015年4月～  
全学委員会 学術交流協定調査検討委員会 2015年4月～  
全学委員会 国際交流委員会委員 2015年4月～  
全学委員会 国際共同大学院プログラム部門副部門長 2016年4月～  
全学委員会 学生生活支援審議会委員 2016年4月～  
全学委員会 国際学士コース入試小委員会委員長 2018年4月～  
全学委員会 国際学位コース(学部担当)小委員会委員長 2018年4月～  
部局内委員会 紀要・出版委員会委員長 2018年4月～

#### 〔国際交流実績〕

アメリカ合衆国 ワシントン大学 授業料不徴収条項を含む学生交流協定締結 2014年8月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学国際連携推進機構 教授 2017年4月～

#### 〔行政機関・企業・NPO等参加〕

独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)実施委員会 委員 2012年4月～  
独立行政法人日本学生支援機構 留学生交流支援制度(短期受入れ・短期派遣)選考委員会 委員 2013年1月～  
独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員会 委員 2014年10月～  
独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門 選考委員会 委員 2016年10月～  
文部科学省 国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会 委員 2018年9月～  
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ 「イオンスカラシップ」奨学生選考委員会 委員 2019年5月～2020年2月

#### 〔教育活動〕

「量子力学入門」(工学部生70名ほど)では、量子力学の学問体系の学修を第一としながら、量子力学の創世記の多くの研究者の国際交流、協定校のウィーン大学出身のシュレーディンガーが波動力学を確立したことなどを含めて、量子力学の創生の意義、相補性を基礎とした世界観等についても興味を持つよう工夫した。大学院科目:「材料表面界面科学」、「先端マテリアル物理化学セミナー」および研究室での「金属フロンティア工学修士研修」などを担当し、物性物理学、材料工学の発展に寄与するよう工夫した。

理工系サマープログラム(TSSP)としてワシントン大学生・カリフォルニア大学生等22名を特別訪問研修生として受入れて教育・指導を行った。

#### 〔大学運営・支援及び医療業務〕

UW-TU:アカデミックオープンスペース(AOS)の教育担当副代表として、ワシントン大学とのサマープログラム、学生派遣修学プログラム(COLABS)等の教育プログラムの充実と実施に努めた。

#### 〔社会貢献〕

独立行政法人日本学生支援機構海外留学支援制度(短期受入れ・短期派遣)実施委員会委員、及び同選考委員会委員として、国の留学生施策についての立案、提言、評価および学生選考等を行い、国の積極的な留学生施策に寄与した。官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」選考委員、さらに官民協働海外留学支援制度「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」高校部門選考委員として、日本の未来を担うグローバル人材となる学生育成の官民協働事業を推進した。文部科学省の国費外国人留学生選考委員会国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム専門部会の委員として国費留学生政策に貢献した。

### 末松 和子(教授)

#### 〔専門分野〕

異文化間教育

#### 〔担当授業科目(他大学も含む)〕

全学教育 異文化理解「異文化間コミュニケーションを通じて世界を知ろう」前期  
全学教育 課題解決型PBL演習B「キャンパス国際化への貢献:留学生との協働プロジェクトを通して国際性を身につけよう1」通年  
全学教育 海外研修(展開)後期集中  
大学院教育 多文化教育論概論:グローバル化と高等教育の国際化 前期  
大学院教育 多文化教育論特論 後期

#### 〔論文〕

(共著)「東北大学の挑戦:サステイナブルな教育国際化の推進」『IDE-現代の高等教育』"Vol. 613"巻8-9月号号 21-24 2019年8月

#### 〔著書〕

はじめに、第6章(共著)、第11章、第12章『国際共修：文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』東信堂 2019年11月

#### 【会議の発表・講演】

「グローバル時代における言語・文化教育 - 留学生教育・外国にルーツを持つ学生に対するプログラムの多様な評価方法をめぐって -」シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名)：日本比較教育学会研究大会 2019年6月

「国際共修の効能と課題：コミュニケーション能力の向上を図る3大学実践事例」口頭(一般)：留学生教育学会研究大会 2019年8月

「カリキュラムの国際化と国際共修 について実践しながら学ぶ」シンポジウム・ワークショップ・パネル(指名)：国際教育夏季研究大会 2019年8月

「Diversifying Students' Innovative Cross-Border Education through Developing and Implementing International Strategy」口頭(招待・特別)：Forum on Internationalization of Higher Education 2019年10月

「異文化理解セミナー」その他：公設試職員研修講義 2019年10月

「Going beyond Campus: Comprehensive Internationalization with Local and Business Communities」口頭(一般)：Association of International Education Administrators 2020年2月

「国際共修」によるグローバル人材育成：国内学生と留学生を分断しない意味ある実践の構築」その他：千葉大学アカデミックリンク/ALPSセミナー 2020年2月

#### 【学内活動】

全学委員会 評議員 2019年6月～

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長 2011年10月～

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員長 2013年4月～

全学委員会 国際教育科目委員会委員長 2018年4月～

#### 【教育相談】

のべ相談人数70名、のべ相談回数85回

#### 【学会活動および外部機関における活動】

留学生教育学会 理事 2015年4月～

#### 【学外の社会活動】

SGH運営委員会委員

#### 【行政機関・企業・NPO等参加】

宮城県 多文化共生社会推進審議会 副委員長 2016年4月～

公益財団法人宮城県国際化協会 評議会 評議員 2017年4月～

宮城県 総合計画審議会 委員 2019年4月～

#### 【授業担当】

①全学教育国際教育科目、前・後期あわせて4科目担当

②ドイツPBL研修を担当(4回分の事前研修+事後報告課題指導・評価)

③教育学研究科の大学院授業を2科目担当(うち1科目は不開講)

#### 【その他の学内教育活動】

①東北大学挑創カレッジグローバルリーダー育成プログラムの統括

②留学相談：毎週2時間、繁忙期は10時間以上実施

③文系交換留学プログラム(英語、日本語)統括

#### 【学外の活動】

①千葉大学アカデミックリンク/ALPSセミナー 2020年2月21日

②異文化理解セミナー 公設試職員研修講義 2019年10月31日

③国際共修ワークショップ、国際教育夏季研究大会 2019年8月27日

#### 【大学運営】

全学：①教育研究評議員、総長特別補佐(国際交流担当)、国際連携推進機構、国際戦略室、同学術交流協定WG、学務審議会国際教育科目委員会委員長、学務審議会教務委員、学友会文化部副部长、教育国際化運営委員会、人文・社会科学系学生交流実施委員会委員長、短期派遣留学実施委員会委員長、挑創カレッジ：グローバルリーダー育成部会会長、日本語教育研修運営委員会委員、DATEntre 学内運営委員会、文系オアシス運営委員会

部局内：補佐会議委員、総務委員会、人事委員会、グローバルラーニングセンター副センター長

#### 【支援活動】

各種オリエンテーション、説明会を年間10回程度担当。国際交流・留学生支援学生団体の取りまとめ、東北大学留学生協会(TUFSA)アドバイザー、学生支援団体IPLANETアドバイザー、学友会顧問

#### 【社会貢献】

宮城県総合計画審議会、国際化交流協会評議員、宮城県多文化共生社会推進委員会(副委員長)、東北大学地域産業支援アドバイザー、仙台二華高校スーパーグローバルハイスクール運営委員、留学生教育学会の理事(留学生教職員専門分科会担当)

## 渡邊 由美子 (教授)

### [専門分野]

地球宇宙化学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 科学と情報 通年

全学教育 Seminar for developing the sustainable society 後期

学部教育 日本の産業と科学技術 後期前半

### [その他教育上に関する活動]

(その他) 理学部・理学研究科地学専攻の学生の研究への助言

(学友会・同好会等の指導) “英字新聞発行グループ” “The Sentinel” 顧問

(学友会・同好会等の指導) 理工系学部・研究科所属の学生のための国際交流団体 TUSTEM (Tohoku University STEM Students Network) 設立・活動支援

### [会議の発表・講演]

「Impact-induced magmatism on early Earth」 口頭 (一般) : JpGU Conference 2019 2019年5月

### [共同研究活動]

Origins of Organic Matters in Archean Era 研究相手先: アメリカ合衆国 “Penn State University, etc.” 国外 2016年11月～

### [学内活動]

全学委員会 国際学士コース入試小委員会副委員長 2017年4月～

全学委員会 国際学位コース運営委員会副委員長 2017年4月～

### [プロジェクト活動]

TiE プログラム (Teaching in English Program) の開発・提供による 「英語による授業」 科目担当教員の支援強化プロジェクト

### [教育相談]

のべ相談人数 24名、のべ相談回数 24回

### [国際交流実績]

アメリカ合衆国 ペンシルヴァニア州立大学 2019年12月

### [会議の主催・運営]

(国際会議:運営) “International Symposium for STEM Education in the Age of Industry 4.0: Pedagogic transformation through DBER and policy direction” 2020年1月14日～2020年1月15日

### [兼務、兼業など]

学外 仙台第三高等学校 2017年6月～

### [学外の社会活動]

仙台三高 SSH 運営指導委員

仙台第三高等学校 SSG 運営指導委員

みやぎのこども未来博～学びの術～について

## MARCIN SCHROEDER (教授)

### [担当授業科目]

I taught the following three courses, each bearing 2 credits in Fall Semester 2019.

CB13226 (ZDN-MAT116E) Foundations of Linear Algebra for AMB Students

CB23250 (ZDN-MAT117E) Linear Algebra A

CB32405 (ZDN-MAT119E) Probability & Statistics

### [論文]

Schroeder, M. J. Symmetry: The Lost Ark of the Covenant. The Journal of the International Society for the Interdisciplinary Study of Symmetry. Special Issue Symmetry: Art and Science, 2019, 1-4, 246-249.

Schroeder, M. J. Theoretical Study of the Concepts of Information Defined as Difference and as Identification of a Variety. In Philosophy and Methodology of Information—The Study of Information in a Transdisciplinary Perspective. G. Dodig-Crnkovic & M. Burgin (eds.) World Scientific Series in Information Studies, Vol. 10; World Scientific: Singapore, 2019; pp.289-314.

Schroeder, M. J. Structures and Their Cryptomorphisms. Adachi, T. (ed.) Algebraic Systems, Logic, Language and Related Areas in Computer Science. RIMS Kokyuroku, Kyoto: Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, 2019, No. 2130-08, pp. 10. (available at [www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kyodo/kokyuroku/contents/2130.html](http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kyodo/kokyuroku/contents/2130.html))

Schroeder, M. J. Search for an Algebraic Structure of Not-Necessarily Algebraic Structures. In Kunimochi, Y. (ed.) Algebras, logics, languages and related areas, RIMS Kokyuroku, Kyoto: Research Institute for Mathematical Sciences, Kyoto University, 2018, No. 2096, pp.59-68. This is delayed publication in 2019 of proceedings from 2018. (available at [www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kyodo/kokyuroku/contents/2096.html](http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/~kyodo/kokyuroku/contents/2096.html))

## 〔著書〕

Dodig-Crnkovic, G., Schroeder, M. J. (Eds.) Contemporary Natural Philosophy and Philosophies, Part 1. MDPI, 2019.  
<https://www.mdpi.com/books/pdfview/book/1331>

## 〔会議の発表・講演〕

- “Structural Abstraction and the Levels of Set Theoretical Complexity” at RIMS Symposium 2020 on Algebraic Systems, Logic, Language and Related Areas in Computer Science held in Kyoto University, February 17–19, 2020.
- “From STEM to STEAM and Beyond” at International Symposium on STEM Education, Tokyo, January 14–15, 2020.
- “Necessity for a Copernican Revolution in the Study of Mind and AGI” online Keynote Lecture at the 4th EPHES International Conference - 2019: Artificial Intelligence and Mind held at the Ștefan cel Mare University of Suceava, Romania, October 17–19, 2019. <https://philevents.org/event/show/71026>
- “The Tower of Babel in the Age of Two Cultures” online Keynote Lecture at PHEADE International Conference - 2019: Cultural Challenges of Technology held at the Ștefan cel Mare University of Suceava, Romania, October 17–19, 2019.
- “Equivalence, (Crypto)Morphism and Other Theoretical Tools for the Study of Information” Theoretical Study of Information (TSI 2019) within the 2019 Summit of the International Society for the Study of Information (IS4SI) “Where is the I in AI and the Meaning in Information?” at the University of Berkeley, California, USA, 2–6 June 2019. <https://is4si2019.github.io/>
- “Autonomy and the Perspectives of Its Artificial Implementation” International Conference on Philosophy of Information (ICPI 2019) within the 2019 Summit of the International Society for the Study of Information (IS4SI) “Where is the I in AI and the Meaning in Information?” at the University of Berkeley, California, USA, 2–6 June 2019. <https://is4si2019.github.io/>
- “Intelligent Computing: Oxymoron?” Conference MORPHOLOGICAL, NATURAL, ANALOG AND OTHER UNCONVENTIONAL FORMS OF COMPUTING FOR COGNITION AND INTELLIGENCE (MORCOM 2019) within the 2019 Summit of the International Society for the Study of Information (IS4SI) “Where is the I in AI and the Meaning in Information?” at the University of Berkeley, California, USA, 2–6 June 2019. <https://is4si2019.github.io/>

## 〔学会活動および外部機関における活動〕

I had responsibilities in the following academic functions over the period of evaluation.

2015–present: Editor-in-Chief, Philosophies (MDPI, Basel)

<http://www.mdpi.com/journal/philosophies>

2019–present: President, International Society for Study of Information (is4si): [is4si.org/about-is4si/organisation/board/](http://is4si.org/about-is4si/organisation/board/)

2018–present: Member of the Board of Special Interest Group on Natural Computing in The Japanese Society for Artificial Intelligence: <https://www.ai-gakkai.or.jp/sig/sig-list/>

2018–present: Member of Advisory Board for Preprints.Org: [https://www.preprints.org/advisory\\_board](https://www.preprints.org/advisory_board)

My contributions to academic community included in the period of evaluation the following:

Co-Chair (with Gordana Dodig-Crnkovic) of the Conference MORPHOLOGICAL, NATURAL, ANALOG AND OTHER UNCONVENTIONAL FORMS OF COMPUTING FOR COGNITION AND INTELLIGENCE, Berkeley, California, USA, 2–6 June 2019. <https://is4si2019.github.io/>

Chair of the 13th International Workshop on Natural Computing scheduled to be held at Tohoku University March 28–29, 2020, but rescheduled for later time due to the outbreak of the corona virus. [naturalcomputing.mystrikingly.com/](http://naturalcomputing.mystrikingly.com/)

Member of the Program Committee for AISB 2020 - The Society for the Study of Artificial Intelligence and Simulation of Behavior 2020 Convention Communication and Conversation, scheduled in London, April 6, 2020, but postponed due to the outbreak of corona virus. <https://aisb.org.uk/events/aisb-convention-2020-communication-and-conversation-non-members/>

## 高橋 美能 (准教授)

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 国際理解教育の実践 前期

全学教育 海外研修 通年集中

全学教育 留学生と日本人学生の協働プロジェクト 後期

全学教育 人権教育の促進 後期

大学院教育 多文化教育論研究演習 I 前期

大学院教育 多文化教育論特論 後期

大学院教育 多文化教育論研究演習 II 後期

### 〔論文〕

(共著) 尾中夏美、黒田千晴、高橋美能 「国際共修の効能と課題—コミュニケーション能力の向上を図る3大学実践事例—」 『ウェブマガジン「留学交流」』 2020年4月

(単著) 「国際共修授業の普及と多様なバックグラウンドの学生同士の多文化共生」 『ウェブマガジン「留学交流」』 2019年7月

### 〔著書〕

第8章 教育の国際化を原点とする国際共修授業 『国際共修—文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』 東信堂 2019年10月

第3章 言語と文化の違いを超えて学生が学び合う国際共修授業『多様性が拓く学びのデザインー主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践』明石書店 2020年2月

**【会議の発表・講演】**

“Practices and Challenges of Human Rights Education in Japanese Universities” 口頭（一般）：International Conference on Education for Human Rights and democratic Citizenship: the challenges of intergenerational justice（於：イギリスロンドン大学）2019年6月

「多文化共生社会の実現に向けて」 口頭（基調）：多文化共生地域会議 in みやぎ 2019年7月

「国際共修授業の効能と課題：コミュニケーション能力の向上を図る3大学の事例」 口頭（一般）：第24回留学生教育学会年次大会 2019年8月

「留学生と日本人学生が共に学ぶ人権学習ー多文化共生の実現を目標に据えてー」 口頭（一般）：第8回留学生交流・指導研究会 2020年2月

**【共同研究活動】**

アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化」モデルの開発 国内 2018年4月～2023年3月

**【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】**

若手研究(A) グローバル人材育成のための学際的ヒューマンライツ教育の創出ー日米英の比較を基にー 2019年4月～2022年3月 代表者

**【学内活動】**

全学委員会 短期派遣留学実施委員会 2013年4月～

全学委員会 高度教養教育・学生支援機構 教務小委員会 2019年12月～

部局内委員会 機構研究倫理審査委員会 2019年4月～2019年11月

**【教育相談】**

のべ相談人数 110名

**【学会活動および外部機関における活動】**

異文化間教育学会紀要編集委員会 委員 2019年6月～2021年6月

**渡部 留美（准教授）**

**【専門分野】**

教育学

**【担当授業科目（他大学も含む）】**

全学教育 異文化理解実践 2セメスタ

全学教育 課題解決型（PBL）演習A 前期

全学教育 基礎ゼミ「留学生と共に被災地を訪れて現状を世界に発信しよう！」 前期

全学教育 課題解決型（PBL）演習B 後期

全学教育 課題解決型（PBL）演習A 後期

**【その他教育上に関する活動】**

（学友会・同好会等の指導）SCRUM(ボランティア団体)国際部 (IDeS) 指導

（学友会・同好会等の指導）たなぼた(ボランティア団体)顧問

（学友会・同好会等の指導）@home(国際交流団体)顧問

**【科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）】**

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究 2018年4月～2021年3月 代表者

**【学内活動】**

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員 2017年4月～

全学委員会 国際交流オアシス事業実施協力委員 2018年4月～

全学委員会 学生ボランティア活動支援委員会 2018年4月～

全学委員会 東北イノベーション人材育成プログラム「DATEntre」実施委員会 2018年7月～

部局内委員会 施設整備委員 2018年4月～

**【学会活動および外部機関における活動】**

国立大学留学生指導研究協議会 ジャーナル編集委員 2011年4月～

（公財）仙台観光国際協会 国際化専門委員会委員 2019年4月～2021年3月

**【学外の社会活動】**

京阪神地域留学生・研究者の家族の支援団体での活動

**【教育活動】**

サマープログラム参加留学生（特別訪問研修生）の受入れ：2019年7～8月

交換留学生（DEEp-Bridge）大学院生担当

留学生来日直後の適応プログラム（Welcome week）実施

## 渡部 由紀 (准教授)

### [専門分野]

比較・国際教育学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 グローバル人材基礎演習 前期

全学教育 国際教養 Advanced Global Seminar 後期

全学教育 国際教養 Japanese Universities and Students 後期

全学教育 海外研修(基礎) 通年集中

大学院教育 多文化教育論概論: グローバル化と高等教育の国際化 前期

大学院教育 多文化教育論特論 後期

### [論文]

(共著) 「日本人学生の留学志向と動機に関する一考察—東北大学学部生の留学に関する実態調査結果の報告—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 127-134 2020年3月

### [会議の発表・講演]

「アジア地域の大学の国際化と評価—大学組織の国際化と評価指標の在り方について考える—」 口頭 (一般): 日本比較教育学会第 55 回大会 2019年6月

「留学のすすめ—留学は楽しくて、つらい!?!そして、きつともっと人生がおもしろくなる!」 その他: みやぎ高校生留学フェア 2019年6月

「国際化は誰のために、何のために進めるのか?—国際化評価指標から考える—」 その他: 国際教育夏季研究大会 2019 2019年8月

「SDGs and Global Leader Education」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): International Symposium on Engagement in Higher Education for Sustainable Development Goals: Experience of Universities in East Asia 2019年11月

### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(S) アジアにおける「知識外交」と高等教育の国際化に関する実証的研究 2016年4月~2020年3月 分担者

### [学内活動]

全学委員会 短期派遣留学実施委員会委員 2018年4月~2020年3月

全学委員会 学務審議会全学教育科目委員会専門委員及び部会等委員 2018年4月~2020年3月

全学委員会 国際戦略室運営会議委員 2019年11月~2020年3月

全学委員会 国際戦略室戦略的国際パートナー運営委員会委員 2020年1月~2020年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2018年4月~2020年3月

### [学内教職員支援]

入試センターFD: 東北大学の国際化の取り組み (講師)

第二回国際教育情報交換会: 留学気運の醸成を目指して (FD/SDの企画・運営)

【英語教科部会】留学プログラム説明会 (FD/SDの企画・運営)

### [教育相談]

のべ相談人数 49名

### [学外の社会活動]

みやぎ高校生留学フェア

## Nurbosyn Zhanpeisov (准教授)

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 Chemistry C 3セメスタ

全学教育 Chemistry A 2セメスタ

全学教育 Chemistry B 2セメスタ

全学教育 "Mineralogy, Petrology and Geochemistry" 2セメスタ

全学教育 Chemistry Seminar 1セメスタ

### [会議の発表・講演]

「Theoretical DFT Study on Modified Oxides and Gold Structures」 口頭 (招待・特別): International Conference on Materials Genome (ACCMS-ICMG-2020) 2020年2月

「Theoretical DFT Study on Gold Structures and Metal-Organic Frameworks」 口頭 (招待・特別): The 10th International Conference of the Asian Consortium on Computational Materials Science (ACCMS-10) 2019年7月

### [学会活動および外部機関における活動]

I am an acting Reviewer in number of Academic Scientific Journals (The Journal of Physical Chemistry (A, B, C, Letters), Organic Letters, Journal of Organic Chemistry, Chemical Physics Letters, International Journal of Quantum Chemistry, Journal of Molecular Structure, Research on Chemical Intermediates and many others). I have been a Session Chairs at the ACCMS-10 and ACCMS-ICMG-2020 Conferences.

In addition, I have presented my talk entitled “Cluster Approach to Catalysis and Materials Design” at a quantum chemistry seminar organized at the Borekov Institute of Catalysis of the SBRAS, Novosibirsk, Russia (August 2019).

#### ROBERT MARTIN (准教授)

##### [専門分野]

生化学  
生体生命情報学  
細胞生物学  
分子生物学

##### [担当授業科目]

Main courses (Undergraduate Liberal Education) – Tohoku University in 2018

1. Biology A – Essential Cell Biology (Fall, Tuesdays 10:30–12:00)
2. Biology B – Essential Biochemistry (Spring, Tuesdays 10:30–12:00)
3. Biology C – Integrative and engineering concepts in biology (Spring, Wednesdays 14:40–16:10)
4. Life and Nature (Fall, Mondays 14:40–16:10)
5. Introductory seminar: Interactive short course in Marine Biology (August 20 –25)  
<https://sites.google.com/view/iscmb2019/home>
6. 情報と科学。ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 (Spring and Fall, Mondays 8:50–10:30)

Other course (Undergraduate and Graduate Education)

7. Introduction to Effective Scientific Communication (Intensive course, 15 hours over 3 days on June 21, 24, and 26, 2019). Yamagata University, Faculty of Agriculture (Summer 2019) – Part-time lecturer  
<https://sites.google.com/view/iesc-summer-2019/home>

Faculty-led study abroad program (FL)

In 2019, I continued the development, planning, organization and execution of a two-week faculty-led study abroad program called CHaNGE (Canadian Heritage and Nature Group Experience). A total of 16 students joined the two-week academic and field exploration of history, culture, environment and climate change in Montreal and Quebec City. The program was developed in partnership with UQAM University and Ouranos.

<https://sites.google.com/view/flcanadaprogram2019/home>

Education-related activities

- With FGL colleagues, we continued the FGL STEM integration project. Among other things, we have already started integrating our first year STEM courses content, purchased several devices for student use and in-class demonstrations. We also developed a STEM web site for FGL students
- In all courses I implemented and used interactive and online resources to share course information with students. These tools are used to stimulate student interest and interactions inside and outside the classroom and also as a platform to distribute content provided by students themselves. This led to increased interactions and discussions complementary to what happens in class.
- I also participated in Professional Development activities held at Tohoku University and externally to improve the international students experience as well as to improve the use of active learning-based methods in science education.

Professional development education

- I acted as mentor (先達教員) in the PFFP/NFP Professional Development program that included workshops, lectures, meetings, consultations and evaluation sessions during the whole of F2019.

##### [研究活動]

In F2019, I continued research mainly on a project about characterizing the dynamics of gene expression during the development bacterial biofilms.

##### [学内活動]

Sitting on two GLC committees:

- Member of PR committee – 広報連携ユニット会員
- Member of short-term program committee – 短期ユニット会員

##### [学内教職員支援]

- Acting as Mentor in Professional Development (NFP/PFFP) workshops and multiple activities for young faculty during F2019.  
先達教員
  - Lecturing, meetings, consultation, evaluation, etc.

##### [学会活動および外部機関における活動]

In FY 2019, I continued activities in academic societies

Academic societies

Editorial boards

- Member of Editorial Board of Frontiers in Plant Systems Biology, 2012–2019
- Member of Editorial Board of Advances in Systems Biology, 2012–

Contribution to International Affairs of Tohoku University and Academic exchanges

Continued to promote internationally our FGL educational programs as well as developing contacts, starting discussions and moving forward the development of mobility activities and agreements to expand Tohoku University's activities with existing and new international partners.

#### 小池 武志 (准教授)

##### [専門分野]

原子核物理  
 $\gamma$ 線分光実験

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 物理学B 前期  
全学教育 物理学C 前期  
全学教育 物理学A 後期  
全学教育 物理学A (物理未履修) 後期  
全学教育 基礎ゼミ 前期  
理学部理数応援海外研修

##### [学位論文指導・審査]

修士 2名  
博士 1名

##### [兼務、兼業など]

学内 東北大学大学院理学研究科 准教授  
学外 理化学研究所 客員研究員  
学外 東北医科薬科大学 非常勤

##### [行政機関・企業・NPO等参加]

三春「実生」プロジェクト 役員 2011年6月～

##### [論文]

共著 “Experimental Evidence for Transverse Wobbling in 105Pd” Phys. Rev. Lett. 122, 062501

#### Dahan Xavier (准教授)

##### [専門分野]

数学

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 解析学A 後期  
全学教育 解析概要 後期  
全学教育 解析学C 後期

##### [論文]

(共著) On a non-archimedean Broyden method, to appear in proceedings of ISSAC 2020.

(単) 三角形である準素成分を持つ辞書式順序グレブナー基底について。RIMS 講義録2138巻30-33頁

##### [学外の社会活動]

査読サービス: ISSAC 2020, journal of symbolic computation, journal of pure and applied algebra

#### 米澤 由香子 (准教授)

##### [専門分野]

教育社会学

##### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 グローバル人材基礎演習 前期  
全学教育 国際教養 前期  
全学教育 グローバル人材基礎演習 後期  
全学教育 課題解決型 (PBL) 演習B 後期  
全学教育 海外研修 (基礎) 後期集中

##### [その他教育上に関する活動]

(その他) 東北大学挑戦カレッジ「東北大学グローバルリーダー育成プログラム (TGLプログラム)」

##### [論文]

(共著) 「Bringing the world to the Japanese classroom.」 『EAIE Forum』 Spring 巻 16-18 2019年4月

## 〔著書〕

第1章 国際共修：開発と発展の背景『国際共修：文化的多様性を生かした授業実践へのアプローチ』東信堂 2019年10月

## 〔会議の発表・講演〕

「カリキュラムの国際化と国際共修について実践しながら学ぶ」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：国際教育研究コンソーシアム（RECSIE）国際教育夏季研究大会 2019 2019年8月

「Going Beyond Campus: Comprehensive Internationalization with Local and Business Communities」口頭（一般）：AIEA Annual Conference 2020 2020年2月

「The Rise of SIOs in Japan and the Emerging Trend of SIOs in the US: A Comparative Analysis between the Two Countries」口頭（一般）：AIEA Annual Conference 2020 2020年2月

## 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学国際化マネジメントにおける教職協働の実証的研究 2017年4月～2020年3月 代表者

基盤研究(C) 大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究 2018年4月～2021年3月 分担者

基盤研究(B) アジアの高等教育を牽引する「内なる国際化モデル」の開発 2018年4月～2022年3月 分担者

## 〔学内活動〕

全学委員会 国際戦略室幹事会メンバー 2018年4月～

全学委員会 国際教育科目委員 2019年4月～

全学委員会 TGL 部会委員 2019年4月～

## 〔学内教職員支援〕

全学教育科目・国際教育科目における国際共修ゼミの授業計画支援（ガイドライン作成）（FD/SDの企画・運営）

## 〔学外の社会活動〕

福島県立会津高等学校東北大学研修

## 坂本 友香（特任准教授）

### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 海外研修（基礎） 後期集中

全学教育 日本社会・文化B 前期

全学教育 海外研修（基礎） 前期集中

全学教育 日本社会・文化B 後期

全学教育 海外研修（基礎） 後期集中

### 〔その他教育上に関する活動〕

（その他）授業担当： ・前期・後期共に全学教育科目「海外研修（基礎）」を担当し、カナダ、ベトナム、アメリカ等研修プログラム（担当プログラム学生年間約70名）の企画・運営、事前・事後研修（全5回）における学生指導を行った。また、海外研修時には、海外協定校、保健・管理センターと連携し、異文化適応や危機管理面 などにおいて学生を支援した。また、英語で開講する「宮城の伝統文化を通じた日本理解」（前期、受講生約60名）、「日本の伝統文化を通じた日本理解」（後期・2コマ、受講生約60名）を担当し、外国人留学生向け科目及び国際共修授業科目開講にも貢献した。 教育支援活動： ・留学希望者に対し、アドバイジングを実施。 ・本学の留学経験者が留学希望者及び留学予定者を支援するグローバルキャンパスサポーターの活動（10名雇用）を監督し、大学の国際化に貢献。

### 〔会議の発表・講演〕

「国際教育・国際交流分野における大学非正規職員の動機・専門性・キャリア形成に着目したインタビューによる意識調査」口頭（一般）：留学生教育学会第24回研究大会 2019年8月

「協定校開拓の過去・現在・未来」シンポジウム・ワークショップ・パネル（指名）：国際教育研究コンソーシアム（国際教育夏季研究大会 2019） 2019年8月

### 〔その他研究活動〕

（フィールドワーク）大学における国際教育交流スタッフの専門性とキャリア形成に関する実証的比較研究

### 〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動（グローバルラーニングセンター） 2017年4月～

### 〔学外の社会活動〕

海外の高校生による東北大学訪問受け入れ

みやぎ高校生留学フェア

山形東高等学校生徒と東北大学留学生との異文化理解セミナー

## 新見 有紀子（講師）

### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 グローバル人材基礎演習 前期

全学教育 日本社会・文化B 前期前半

全学教育 グローバル人材基礎演習 後期  
全学教育 課題解決型 (PBL) 演習B 後期

**【その他教育上に関する活動】**

(その他) 文系交換留学プログラム IPLA の受入れ学生 15 名のアドバイザーを担当  
(その他) 文系交換留学プログラム DEEP-Bridge のコーディネーター  
(その他) 文系サマープログラム TUJP (Tohoku University Japanese Program) のコーディネーター

**【論文】**

(共著) 「派遣留学経験とグローバル人材育成: JAOS 留学アセスメントテストを用いた考察 (共著)」 『一橋大学国際教育交流センター紀要』  
1号 83-92 2019年6月

**【著書】**

『“(Coauthored with Hiroshi Ota) Recent trends in learning abroad in the context of a changing Japanese economy and higher education situation In R. Coelen & C. Gribble (Eds.), Internationalization and Employability in Higher Education”』 Routledge 2019年7月  
『留学生: 日本における外国人留学生と日本からの海外留学, 額賀美紗子・芝野淳一・三浦綾希子編『移民から教育を考える: 子どもたちをとりまくグローバル時代の課題』 ナカニシヤ出版 2019年8月

**【会議の発表・講演】**

「留学目標の意識と能力の変化: 留学前後の JAOS アセスメントテスト結果からの考察」 口頭 (一般): 異文化間教育学会第40回大会 2019年6月  
「研究者の海外経験別での研究活動・成果に関する分析: 国立の研究大学所属研究者へのアンケート調査の結果から」 口頭 (一般): 研究・イノベーション学会第34回年次学術大会 2019年10月  
「学生による留学生支援? 東北大学の学生スタッフ雇用の取り組み」 口頭 (一般): 第8回国立大学留学生指導研究協議会 (COISAN) 研究会 2020年2月

**【科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)】**

国際共同研究加速基金・国際共同研究強化 (B) 日本メキシコ双方向の長期的留学成果〜政府文化外交 50 年の分析 2018年10月〜2023年3月  
分担者

**【その他の競争的資金獲得実績】**

(その他補助金 学生支援の推進に資する調査研究事業 (JASSO リサーチ)) 高校時代の国際経験はその後の海外留学に影響するのか: 高大連携による海外留学の現状と課題 2019年4月〜2020年3月  
(その他補助金 2019年度 TUMUG 支援事業 (男女共同参画・女性研究者支援事業) スタートアップ研究費) 海外留学参加・不参加にかかる進路選択のメカニズムの解明 2019年4月〜2020年3月

**【学内活動】**

全学委員会 人文・社会科学系学生交流実施委員会委員 2019年4月〜  
部局内委員会 倫理委員会委員 2019年10月〜

**【学内教職員支援】**

令和元年度第2回学生生活支援審議会 FD (講師)

**【学会活動および外部機関における活動】**

異文化間教育学会 若手交流委員副委員長 2017年6月〜

**【学外の社会活動】**

特定非営利活動法人 JAFSA 初任者研修

**【行政機関・企業・NPO等参加】**

内閣府総合科学技術イノベーション会議 内閣府イノベーション人材の流動化にかかる要因調査検討委員会委員 2019年10月〜2020年3月

**林 聖太 (特任助教)**

**【担当授業科目 (他大学も含む)】**

全学教育 日本社会・文化B 前期前半  
全学教育 グローバル人材基礎演習 前期  
全学教育 海外研修 (基礎) 前期集中  
全学教育 海外研修 (展開1) 前期集中  
全学教育 海外研修 (展開2)  
全学教育 課題解決型 (PBL) 演習 B 後期  
全学教育 海外研修 (基礎) 後期集中  
全学教育 海外研修 (展開1) 後期集中  
全学教育 海外研修 (展開2) 後期集中

**【論文】**

(共著) 「Assessing the Use of a NEST and NNEST Co-Teaching Model in TOEIC Instruction」 『JACET 東北支部紀要 (JACET Tohoku Journal)』  
2020年3月

#### 〔学内活動〕

その他の主要活動 大学運営活動（グローバルラーニングセンター） 2018年11月～

#### 〔教育相談〕

のべ相談人数20名、のべ相談回数20回

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

留学生教育学会(JAISE) 理事補佐 2018年11月～

仙台すずめ踊りの会 歴史研究専門委員 委員 2019年3月～

第24回留学生教育学会研究大会実行委員 研究大会実行委員 2019年4月～2019年8月

官民協働海外留学支援制度選考委員会 トビタテ専門選考委員 2019年10月～

#### 〔学外の社会活動〕

宮城県仙台第三高等学校「探求の日」

宮城県外国人留学生定着支援事業

山形東高等学校生徒と東北大学留学生との異文化理解セミナー

### 中村 教博（教授）

#### 〔専門分野〕

地質学

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 Global 30 Introductory Science experiment 3セメスタ

全学教育 “自然科学総合実験-1,-2” 前期

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 前期

全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？ どう役に立つの？ 5セメスタ

全学教育 みせる、学び：大学で何を学んだの？ どう役に立つの？ 6セメスタ

全学教育 “自然科学総合実験-1,-2” 後期

全学教育 ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学 後期

大学院教育 課題研究 通年

大学院教育 工学研究科原子力規制人材育成事業「活断層の基本知識」 後期

大学院教育 地殻力学 II 後期

#### 〔学位論文指導・審査〕

修士1名（主査1名）、その他1名

#### 〔論文〕

（共著）「Modeling boulder transport by coastal waves on cliff topography: Case study at Hachijo Island, Japan」 『Earth Surface Processes and Landforms』 2019年6月

（共著）「Dating of tsunami boulders from Ishigaki Island, Japan, with a modified viscous remanent magnetization approach」 『Earth and Planetary Science Letters』 520巻 94-104 2019年6月

（共著）「Documentation of shock features in impactites from the Dhala impact structure, India」 『Meteoritics and Planetary Science』 54巻 2019年7月

#### 〔会議の発表・講演〕

「[MIS02-06] Recent progress and perspective on paleomagnetism by means of deep-sea drilling」 口頭（一般）：地球惑星科学連合大会 2019年5月

「東北大学における初年次理科実験科目「自然科学総合実験」と実験レポート作成支援」 口頭（一般）：工学教育研究講演会 2019年9月

「融合型理科実験による自然理解と論理的思考：これまでの経緯とこれから」 口頭（招待・特別）：教育フォーラム「学生の興味がわく実験教育をめぐそう！—論理的思考力を身に着ける現代の実験教育」 2019年9月

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(B) 学問に根ざした大学教育の学修成果向上のための教授法・人材・組織の一体的な開発研究 2018年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 地磁気による津波性巨礫・断層破砕帯の活動年代法の実用化 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(B) 還元環境堆積物からの古地磁気強度変動の高解像度復元 2019年4月～2023年3月 分担者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会実験科目委員会 2016年4月～

全学委員会 全学教育改革推進会議 2019年4月～2020年3月

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員長 2019年4月～

部局内委員会 総合学術博物館部会委員 2015年7月～2020年3月

部局内委員会 高教機構 施設整備委員会委員長 2017年4月～

その他の主要活動 学友会バスケ部顧問 2018年12月～

**〔会議の主催・運営〕**

(国際会議:主催) “国際シンポジウム「インダストリー4.0時代のSTEM(科学・技術・工学・数学)教育—DBER(分野別教育方法研究)による授業  
変革と政策動向—” 2020年1月14日～2020年1月15日

(国内会議:主催) 模擬授業を通して学ぶSTEM(科学・技術・工学・数学)教育における修学効果の高い学生主体の指導方法 2020年1月17日

**〔兼務、兼業など〕**

学内 理学研究科地学専攻 教授(兼任) 2016年4月～

**〔学外の社会活動〕**

地球電磁気・地球惑星圏学会アウトリーチ活動

**〔大学運営・支援〕**

全学教育基礎ゼミ委員会委員長、学務審議会委員、全学教育実験科目委員会委員、高教機構・施設整備委員会委員長、高教機構・総務委員会委員、  
高教機構・教育内容開発部門長、全学教育改革推進ワーキング・グループ委員

**〔社会貢献〕**

地球電磁気・地球惑星圏学会 将来構想検討ワーキンググループ委員

**中川 学(准教授)**

**〔専門分野〕**

日本近世史

**〔担当授業科目(他大学も含む)〕**

全学教育 東北大学を学ぶ(人間と文化) 1セメスタ

全学教育 memento mori —死を想え— 1セメスタ

全学教育 東北大学を学ぶ(人間と文化) 2セメスタ

全学教育 History of Tohoku University(歴史と人間社会) 2セメスタ

全学教育 東北大学のひとびと 2セメスタ

**〔論文〕**

(単著) 「近世賀茂社の神社内争論と天皇・朝廷—社職補任をめぐる争論処理過程に注目して」 『新しい歴史学のために』 294巻 25-41 2019年  
5月

**〔会議の発表・講演〕**

「寛文期、賀茂別雷神社における神社内争論と幕府」 口頭(一般): 史料編纂所特定共同研究「賀茂別雷神社文書の調査・研究」 2019年度第1  
回研究会 2019年9月

**〔共同研究活動〕**

賀茂別雷神社文書の調査・研究 東京大学史料編纂所・日本史史料の研究資源化に関する研究拠点 国内 2018年4月～

**〔学内活動〕**

全学委員会 学務審議会委員 2016年4月～

全学委員会 広報連絡委員 2013年4月～

全学委員会 学務審議会基礎ゼミ委員会委員 2017年4月～

全学委員会 学務審議会基幹科目委員会委員 2017年4月～

全学委員会 学務審議会広報(曙光)編集委員会委員 2019年4月～

部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～

部局内委員会 広報小委員会委員長 2017年4月～

部局内委員会 学術資源研究公開センター運営専門委員会・史料館部会委員 2014年4月～

部局内委員会 教務小委員会委員 2019年4月～

その他の主要活動 学際融合教育推進センター・副センター長 2017年4月～

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

東北史学会 評議員 2013年10月～

宮城歴史科学研究会 委員 2009年4月～

**〔兼務、兼業など〕**

学内 東北大学史料館 兼務教員 2010年4月～

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

NPO法人・宮城歴史資料保全ネットワーク 理事 2014年5月～

**〔大学運営・支援及び医療業務〕**

正午PD会(機構のランチタイム交流会)の企画・実施(計12回)

東北史料館兼務教員

## 山内 保典 (准教授)

### [専門分野]

認知科学  
科学社会学・科学技術史  
科学教育

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ (余計なことからはじめよう) 1セメスタ  
全学教育 基礎ゼミ (社会の中の科学技術) 1セメスタ  
全学教育 基礎ゼミ (フィクションで正義を考える) 前期  
全学教育 カレントトピックス科目 (みせる、学び) 5, 6セメ  
全学教育 科学と情報 (展開ゼミ: あなたの選択) 後期  
全学教育 カレントトピックス科目 (遊学) 後期  
全学教育 人間と文化 (展開ゼミ: 汎用的技能ワークショップ) 後期  
全学教育 AI をめぐる人間と社会の過去・現在・未来 後期

### [その他教育上に関する活動]

(教科書・教材の開発) 研究倫理教育教材 ISTU 版作成 (レベル2・3向け)  
(その他) アカデミック・アドバイジングの試行  
(その他) EARTH on EDGE (挑創カレッジTELプログラム) への参画

### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(C) 「個別支援×集団研修」のハイブリッド型小学校理科指導力向上プログラムの開発 2017年4月～ 分担者  
基盤研究(A) 知のオープン化時代の大学・科学関連システムの再構築 2019年4月～ 分担者

### [学内活動]

全学委員会 公正な研究活動推進室 2016年4月～  
全学委員会 教育情報・評価改善委員会 2017年4月～  
全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018年4月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 研究倫理委員会 2016年4月～  
部局内委員会 機構改革推進本部 2018年2月～2019年9月

### [学内教職員支援]

機構正午PDの企画・運営 (FD/SDの企画・運営)  
研究公正アドバイザー向けワークショップ (FD/SDの企画・運営)  
基礎ゼミ展開ゼミFD (FD/SDの企画・運営)

### [プロジェクト活動]

社会にインパクトある研究「心に豊かさを灯す社会の創造」

### [会議の主催・運営]

(国内会議:主催) Designing the Human-Centric IoT Society : Workshop 2019年9月26日～2019年9月27日  
(国内会議:運営) Designing the Human-Centric IoT Society : Kick-off Symposium 2019年10月22日  
(国際会議:運営) The 8th RIEC International Symposium on Brain Functions and Brain Computer 2020年2月13日～2020年2月15日

### [学外の社会活動]

八尾柏原藤井寺3市合同初任若手小学校教員研修  
学際連続セミナー「ことばのデザイン ―意識してことばを紡ぐ」  
連続セミナー「これからどうする?: 実践編 イラスト一枚で伝える技法」の企画・運営  
令和元年度宮城県高等学校理科教育研究会研究協議会  
令和元年度第2回SS講演会 仙台第三高等学校理科部

## 座小田 豊 (総長特命教授)

### [専門分野]

哲学  
思想史

### [学会活動および外部機関における活動]

東北哲学会 委員(1998～)、会長(2008～) 1998年4月～

## 宮岡 礼子 (総長特命教授)

### [専門分野]

幾何学

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 今更ですが「もしドラ」を見てみよう，読んでみよう 1セメスタ  
全学教育 統計学入門 1セメスタ  
全学教育 線形代数学概論 1セメスタ  
全学教育 線形代数学A 1セメスタ  
全学教育 曲がった空間の幾何学 2セメスタ  
全学教育 フーリエの冒険 2セメスタ  
学部教育 幾何学序論B 4セメスタ  
他大学 様々な幾何学—曲線と曲面 後期

**〔その他教育上に関する活動〕**

（教科書・教材の開発）曲線と曲面の現代幾何学 執筆  
（その他）第9回教養教育院特別セミナー  
（その他）第11回総長特命教授合同講義

**〔論文〕**

（単著）「Moment map of the spin action and the Cartan-Muenzner polynomials」『Advanced Studies in Pure Mathematics』82巻 1-11  
2019年11月  
（共著）「Lagrangian Geometry of the Gauss Images of Isoparametric Hypersurfaces in Spheres」『Proceeding of the workshop, 5th  
Workshop "Complex Geometry and Lie Groups, Firenze"』265-278 2019年

**〔著書〕**

『曲線と曲面の現代幾何学』岩波書店 2019年9月

**〔総説・解説記事〕**

（単著）「現代社会の変貌」『人文学の要諦』3巻 67-93 2020年3月

**〔共同研究活動〕**

ガウス写像の除外値問題 名古屋大学 国内 2003年9月～  
ラグランジュ交叉とフレアホモロジー 研究相手先:中国 清華大学 国外 2014年6月～

**〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕**

基盤研究(B) 可積分幾何の新展開 2015年4月～2020年3月 代表者

**〔国際交流実績〕**

中国 復旦大学 交流協定締結，交換講義継続中 2007年12月～  
中国 南開大学 Chern Institute of Mathematics 2011年12月～  
イギリス King's College London 2012年12月～

**〔海外研究機関交流実績〕**

（渡航:その他）数学コンテスト審査員 中国 清華大学 Yau Center 2019年5月25日～2019年5月27日  
（渡航:共同研究）中国 清華大学 2019年5月28日～2019年5月31日  
（渡航:会議）Workshop on Isoparametric Theory 中国 北京師範大学 2019年6月1日～2019年6月7日

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

韓国数学会 数学雑誌 編集委員 2016年2月～  
女性科学者に明るい未来をの会 評議員 2012年4月～  
日本学術会議 連携会員 2006年5月～  
科学技術振興機構 CREST 領域アドバイザー 2014年6月～  
科学技術振興機構 さきがけ領域アドバイザー 2014年6月～  
明治大学先端数理インスティテュート 現象数理学研究拠点運営委員 2014年7月～

**〔会議の主催・運営〕**

（国際会議:主催）Workshop on Isoparametric Theory 2019年6月1日～2019年6月7日  
（国際会議:主催）第5回日中幾何学研究集会 2019年9月1日～2019年9月7日

**〔兼務、兼業など〕**

学外 日本学術会議 連携会員 2014年10月～2020年9月  
学外 放送大学 非常勤講師 2018年10月～  
学外 文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員 2018年4月～  
学外 科学技術振興機構 さきがけ及びCREST 領域アドバイザー 2014年6月～  
学外 明治大学先端数理科学インスティテュート MIMS 共同利用・共同研究拠点運営委員 2014年7月～  
学外 女性科学者に明るい未来をの会 評議員 2011年6月～

## 米倉 等(総長特命教授)

### [専門分野]

農業開発論  
開発経済学  
地域研究

### [担当授業科目(他大学も含む)]

#### 基幹科目

「歴史と人間社会： 東南アジアの歴史と社会」(1Q, 2Q)

「経済と社会： アジアの経済発展」(1Q, 2Q)

#### 基礎ゼミ

「国際開発の課題と方法」(1Q)

「ユーラシア農耕史： 農耕の変遷、環境問題」(2Q)

### [学内活動]

部局内委員会：高度教養教育・学生支援機構 紀要・出版委員会委員

### [海外研究機関交流実績]

イギリス、サセックス大学客員教授(2019年8月-2020年2月)

### [学会活動および外部機関における活動]

イギリス、サセックス大学においてアジア研究センター・国際セミナーに参加し報告  
学会誌、紀要論文の査読

## 鈴木 岩弓(総長特命教授)

### [専門分野]

宗教学

### [学会活動および外部機関における活動]

日本民俗学会 会長 2018年10月～

日本宗教学会 常務理事 2001年9月～

日本臨床宗教師会 理事 2018年3月～

みやぎ県南中核病院倫理委員会 倫理委員 2018年4月～

### [兼務、兼業など]

学外 放送大学 客員教授 2016年4月～

学外 国際日本文化研究センター 客員教授 2017年4月～

### [行政機関・企業・NPO等参加]

国立歴史民俗博物館 運営委員会 委員 2014年4月～

### [会議の発表・講演]

「変化する現代日本人の死生観」岡山大学緩和医療研究会第65回研究集会、Junko Fukutake Hall 2019年5月

「現代人の死生観-QOLはQOD-」第31回日本老年学会総会合同特別講演、仙台国際センター会議棟2F大ホール 2019年6月

「日本人の死生観 過去・現在・未来」東北大学スマート・エイジング・カレッジ東京第5期 2019年7月

「Changes of the concept of death in modern Japan-Revival of the burial after the Great East Japan Earthquake-」 International Seminar on Language and Culture in Asia 2019年9月

「日本人の民間信仰」西本願寺ビハーラ僧養成研修会、西本願寺伝道院 2019年10月

「臨床宗教師の誕生と役割」日赤国際人道研究センター主催講演会「死と向き合う支援」 2019年11月

「イェウキ時代の死者の行方」真宗大谷派東京教区第8期教学館公開講座、東本願寺東京教務所 2020年2月

### [担当授業]

基礎ゼミ 『遠野物語』をあるく(一セメ 月 3+集中)

基礎ゼミ 仙台のカミガミ『願懸重宝記』を作ろう(一セメ 月 4)

総合科目 memento mori 一死を想え(一セメ 火 5)

文学の世界 文学者の見た「死」-日本人の死生観- (二セメ 月 4)

カレントトピックス 年中行事からみた日本文化 (二セメ 月 5)

カレントトピックス 人生儀礼からみた日本文化 (二セメ 火 2)

## 水野 健作(総長特命教授)

### [専門分野]

機能生物化学  
細胞生物学

医化学一般

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 生命と自然（エッセンシャル現代生命科学） 前期  
全学教育 基礎ゼミ（ノーベル賞で読み解く現代生命科学） 前期  
全学教育 生命と自然（エッセンシャル現代生命科学） 後期  
全学教育 展開ゼミ（がんと老化の生物学） 後期

**〔論文〕**

（共著）「Keratin-binding ability of the N-terminal Solo domain of Solo is critical for its function in cellular mechanotransduction.」  
『Genes Cells』 24 巻 390-402 2019 年 5 月

（共著）「Furry protein suppresses nuclear localization of yes-associated protein (YAP) by activating NDR kinase and binding to YAP」  
『J. Biol. Chem.』 295 巻 3017-3028 2020 年 3 月

**〔会議の発表・講演〕**

「機械的力依存的なアクチン骨格制御に関与する Rho-GEF, Solo の相互作用 蛋白質の BioID 法による探索」 口頭（一般）：第 19 回日本蛋白質科学会年会と第 71 回日本細胞生物学会大会の合同年次大会 2019 年 6 月

「一次繊毛形成における CEP97 の分解機構」 ポスター（一般）：第 19 回日本蛋白質科学会年会と第 71 回日本細胞生物学会大会の合同年次大会 2019 年 6 月

「Cullin3-KCTD10 複合体による CEP97 の分解は増殖抑制依存的な一次繊毛形成を促進する」 ポスター（一般）：第 42 回日本分子生物学会 2019 年 12 月

「一次繊毛形成時の CEP97 のユビキチン化における 14-3-3 タンパク質の関与」 ポスター（一般）：第 42 回日本分子生物学会 2019 年 12 月

「メカノストレス応答に関与する Rho-GEF, Solo の細胞競合における機能解析」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第 42 回日本分子生物学会 2019 年 12 月

「Rho-GEF, PLEKHG4B の細胞間接着形成における機能解明」 ポスター（一般）：第 42 回日本分子生物学会 2019 年 12 月

「機械刺激依存的なアクチン再構築に関与する Rho-GEF Solo の相互作用蛋白質の同定」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第 42 回日本分子生物学会 2019 年 12 月

**〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕**

（挑戦的）萌芽研究 RhoA 活性化因子 Solo のメカノセンシングの分子機構 2018 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

基盤研究(B) 増殖抑制シグナル依存的な一次繊毛形成機構の解明 2018 年 4 月～2021 年 3 月 代表者

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

日本生化学会 評議員 2001 年 4 月～

日本細胞生物学会 評議員 2000 年 4 月～

日本細胞生物学会 代議員、理事 2015 年 4 月～

**高木 泉（総長特命教授）**

**〔専門分野〕**

偏微分方程式

**〔論文〕**

（共著）「Locator function for concentration points in a spatially heterogeneous semilinear Neumann problem」 『Indiana University Mathematics Journal』 2019 年

（共著）「Steady states of FitzHugh-Nagumo system with non-diffusive activator and diffusive inhibitor」 『Tohoku Mathematical Journal』 2019 年

**〔学内活動〕**

全学委員会 学務審議会委員 2017 年 10 月～

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

公益財団法人アジア生命保険振興センター 理事 2012 年 6 月～

公益財団法人 川井数理科学財団 監事 2016 年 6 月～

**関根 勉（教授）**

**〔専門分野〕**

放射化学

原子力学

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 自然科学総合実験（代表） 1, 2 セメ

全学教育 化学 B 1, 2 セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1 セメスタ

全学教育 化学B 3セメスタ  
大学院教育 放射化学特論 IA  
大学院教育 先端理化学特論 IB  
他大学 放送大学 通年  
他大学 放送大学 1, 2セメ

**〔学位論文指導・審査〕**

修士1名(副査1名)

**〔論文〕**

(共著) 「Analysis of Radioactive Elements in Testes of Large Japanese Field Mice Using an Electron Probe Micro-Analyser after the Fukushima Accident」 『IntecOpen』 1-9 2019年4月  
(共著) 「Intestinal Bacteria as Powerful Trapping Lifeforms for the Elimination of Radioactive Cesium」 『Frontiers in Veterinary Science』 6巻 1-8 2019年4月  
(共著) 「Synthesis, Structures, Redox Properties, and Theoretical Calculations of Thiohalide Capped Octahedral Hexanuclear Technetium(III) Clusters」 『Dalton Transactions』 2019年9月

**〔学内活動〕**

全学委員会 実験科目委員会計画委員会委員 2006年4月～  
全学委員会 実験科目委員会 実施委員会委員 2019年4月～  
その他の主要活動 東北大学サイクロトロンラジオアイソトープセンター課題採択部会委員 2001年4月～

**〔学内教職員支援〕**

自然科学総合実験のための教員・TA ガイダンス (FD/SDの企画・運営)  
プロジェクト活動  
放射線の健康影響に係る研究調査事業(環境省)

**〔兼務、兼業など〕**

学内 東北大学大学院理学研究科化学専攻 教授 2006年1月～  
学外 放送大学 非常勤講師 2017年4月～  
学外 仙台育英学園高等学校 指導講師 2012年4月～  
学外 宮城県 女川原子力発電所環境測定技術会委員 1991年4月～

**〔学外の社会活動〕**

サイエンスコラボ  
寒河江高校体験授業  
理数科講演会

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

宮城県 女川原子力発電所環境調査測定技術会 委員 1991年4月～  
宮城県 環境放射能監視検討委員会 委員 1991年4月～  
宮城県 女川原子力発電所2号機の安全性に関する検討会 構成員 2014年11月～  
宮城県 環境放射線等監視業務技術課題検討会 アドバイザー 2019年9月～

**芳賀 満 (教授)**

**〔専門分野〕**

史学一般  
考古学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 基礎ゼミ「ユーラシア大陸から考える 反「大勢」の視点の重要性」 1セメスタ  
全学教育 基礎ゼミ「『復興』を学際的に考える」 前期  
全学教育 Japanese Art History 後期  
全学教育 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 前期  
全学教育 展開ゼミ「『復興』を学際的に考える」 後期  
全学教育 「科学と情報」 前期、後期  
全学教育 「ジェンダーと人間社会」 前期、後期  
全学教育 「memento mori 死を想え」 前期、後期  
全学教育 展開ゼミ「ギリシア・ローマ美術と仏教美術～神々の変容を追う」 後期  
その他 History of Art in Ancient Eurasia: Diffusion of Classical Greek Art into Central Asia 後期  
放送大学 「原始・古代ユーラシア大陸の東西」

**〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕**

基盤研究(B) 「先端技術を用いた中央アジアの環境・シルクロード交流の総合的調査研究」 2011年4月～ 分担者  
(挑戦的)萌芽研究 ディオニュソスを中心としたギリシア・ローマ画像のアジアへの伝播・吸引の研究 2012年4月～ 代表者

#### 〔学内活動〕

全学委員会 基幹科目担当教員会議委員 2010年4月～  
全学委員会 G30 全学教育授業担当学会議委員 2010年4月～  
全学委員会 学務審議会委員 2012年4月～  
全学委員会 附属図書館商議会議員 2012年4月～  
全学委員会 東北大学附属図書館本館学生用図書選書委員会 2012年4月～  
全学委員会 学術情報整備検討委員会委員 2013年4月～  
全学委員会 学術情報資料選定小委員会委員 2013年4月～  
全学委員会 教員選考業績評価指針作成検討WG 委員 2014年4月～  
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基礎ゼミ委員会 委員長 2014年4月～  
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 基幹科目委員会 委員 2014年4月～  
全学委員会 学務審議会 全学教育科目委員会 人文科学委員会 委員 2014年4月～  
全学委員会 学務審議会 高度教養教育開発検討ワーキング・グループ 委員 2015年5月～  
全学委員会 東北大学 附属図書館 学術情報資料選定小委員会 分野別(人文) WG 2015年6月～  
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 運営委員会 委員 2015年7月～  
全学委員会 東北大学生命科学研究科 浅虫海洋生物学教育研究センター 共同利用協議会 委員 2015年7月～  
全学委員会 日本学国際共同大学院プログラム構想委員会 「日本学国際共同大学院検討WG」委員 2016年4月～  
全学委員会 学務審議会「研究倫理教育の開発検討ワーキング・グループ」 委員 2016年5月～  
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 2011年4月～  
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD) プログラム実施部門長 2012年4月～  
部局内委員会 大学教育支援センター (CPD)、部門長会議委員 2012年4月～  
部局内委員会 総務委員会 委員 2014年4月～  
部局内委員会 活動データベース作成及び要覧の見直しWG 委員 2014年4月～  
部局内委員会 紀要編集委員会 委員長 2015年4月～  
部局内委員会 図書・資料委員会 委員長 2015年4月～  
その他の主要活動 社会・人文科学短期留学生受入プログラム実施委員会委員 2010年4月～  
総長特別補佐 (共同参画担当)  
男女共同参画推進センター 副センター長  
学習支援センター センター長  
男女共同参画委員会 副委員長  
澤柳政太郎東北大学男女共同参画賞選考委員会座長  
仙台Iゾンタクラブ選考委員会座長  
紫千代萩賞選考委員会座長

#### 〔学内教職員支援〕

大学教育支援センター (CPD)、コア会議委員 (FD/S Dの企画・運営)  
高等教育開発推進センター内 大学教育支援センターのプログラム実施部門長として同センターのプログラムの企画と実施に携わる。(FD/S Dの企画・運営)  
プロジェクト活動  
ウズベキスタン共和国スルハンダリア州カンピール・テペの発掘調査

#### 〔会議の主催・運営〕

(国内会議:主催) 高度教養教育・学生支援機構 正午PD会 2014年4月1日

#### 〔行政機関・企業・NPO等参加〕

日本学術振興会 科学研究費委員会 専門委員 2010年12月～  
日本学術会議 史学委員会 連携会員 「文化財の保護と活用に関する分科会」委員 2012年4月～  
日本学術会議 連携会員、史学委員会、「アジア研究・対アジア関係に関する分科会」委員 2014年10月～  
日本学術会議 連携会員 史学委員会 「博物館・美術館等の組織運営に関する分科会」委員 副委員長 2014年10月～  
日本学術会議 連携会員 哲学学委員会 「古典精神と未来社会分科会」委員 2014年10月～  
Vice-Chairperson, Memory of the World Committee for Asia and the Pacific (MOWCAP) Bureau, UNESCO  
ユネスコ「世界の記憶」選考委員会副議長  
日本ユネスコ国内委員会委員  
日本ユネスコ国内委員会文化活動小委員会委員

**葛生 政則 (准教授)**

**〔専門分野〕**

農業経済学

教育学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 経済と社会 1セメスタ

全学教育 経済学 3セメスタ

全学教育 経済と社会 2セメスタ

全学教育 経済学 2セメスタ

**〔論文〕**

(単著) 研究ノート「1990年代のニーダーザクセン州農業の状況」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要 第6号』 51-64 2020年3月

**〔学内活動〕**

全学委員会 学務審議会基幹科目委員会専門委員 2008年4月～2020年3月

全学委員会 学務審議会教育情報・評価改善委員会推薦委員 2012年4月～2020年3月

**田嶋 玄一 (准教授)**

**〔専門分野〕**

動物生理・行動

生物物理学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

全学教育 生命科学A (医学部保健学科クラス) 1セメスタ

全学教育 生命科学A (工学部クラス) 1セメスタ

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 生命と自然 2セメスタ

**〔その他教育上に関する活動〕**

(その他) 自然科学総合実験 出席・成績情報システムの設計・実装・運用・機能改修

**〔著書〕**

編集責任者, 第10章 (185-203頁), 第13章 (243-256頁), 第14章 (257-263頁) 『自然科学総合実験 2019』東北大学出版会 2019年4月

**〔学内活動〕**

全学委員会 遺伝子組換え実験安全主任者 2008年11月～

全学委員会 環境保全センター業務委員会委員 2012年4月～

全学委員会 情報システム部局実施責任者 2012年4月～

**〔学内教職員支援〕**

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/S Dの企画・運営)

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/S Dの企画・運営)

**〔教育活動〕**

FGLクラス用『Introductory Science Experiments 2019』(編集担当), 「令和元年度自然科学総合実験アンケート報告書」の作成, 「自然科学総合実験」学習支援教材「分子生物学基礎実験技術」の作成。

**〔大学運営・支援及び医療業務〕**

全学委員会: 全学委員会: 1) 情報システム部局実施責任者, 2) 環境保全センター業務委員会委員, 3) 学務審議会実験科目委員会実施委員会委員, 4) 同 計画委員会委員, 5) 遺伝子組換え実験安全主任者

部局内委員会: 1) 高度教養教育・学生支援機構研究倫理審査委員

**藤本 敏彦 (准教授)**

**〔専門分野〕**

体育学

環境生理学

スポーツ科学

生理学一般

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 スポーツA「ソフトボール」 2, 3セメスタ

全学教育 スポーツB「ソフトボール」 3セメスタ

全学教育 スポーツB フィジカルトレーニング 通年

全学教育 スポーツB 武道 3, 4セメスタ  
全学教育 体育講義・身体の文化と科学・体と健康 2セメスタ  
全学教育 生命と自然「身体運動のしくみ 1セメスタ  
全学教育 生命と自然 疲労 1セメスタ  
全学教育 基礎ゼミ 運動とこころ 1セメスタ  
展開ゼミ「こころと体の健康をつなぐ」2セメスタ  
展開ゼミ「留学生とつくるフットサルチーム」2セメスタ  
展開ゼミ「インターネットを誰が守るのか」2セメスタ

#### 【その他教育上に関する活動】

(その他) 教養教育特任教員

#### 【会議の発表・講演】

「"Comparisons of physical fitness, physical activity and psychological well-being by participation in extracurricular sports activities."」ポスター(一般): Asia-Singapore Conference on Sport Science 2019 2019年7月  
「女子大学生における体力レベルと精神的健康度との関連」ポスター(一般): 日本体育学会第70回大会 2019年9月  
「体力レベル別にみた大学生の1年間の精神的健康度の変化」ポスター(一般): 第74回日本体力医学会大会 2019年9月

#### 【共同研究活動】

大学生に対する体育、スポーツの影響 福岡県立大学 国内 2017年4月～  
運動強度と骨髄の糖取り込みに関する研究("Increase of Glucose Uptake in Human Bone Marrow With Increasing Exercise Intensity.") 研究相手先: フィンランド 国外 2018年4月～

#### 【科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)】

基盤研究(C) 高等学校の体育における学習指導要領遂行の実態調査 2019年4月～2021年3月 代表者

#### 【学術関係受賞】

大学体育スポーツ学研究 優秀論文賞 授与機関: 日本大学体育連合 2019年10月

#### 【学内活動】

全学委員会 基礎ゼミ委員会 2012年4月～  
部局内委員会 倫理委員会 2016年4月～

#### 【学内教職員支援】

大学教育支援センター 研究開発員(その他)

#### 【学会活動および外部機関における活動】

日本体育学会 理事 2019年4月～  
日本体力医学会 評議員 2000年4月～  
仙台市 市民局指定管理者選定委員会 委員 2010年9月～2020年3月  
宮城県柔道整復師会 宮城学術認定柔道整復師認定委員会 委員 2010年9月～

#### 【兼務、兼業など】

学外 東北学院大学 非常勤講師 2018年4月～  
学内 医学系研究科 障害科学専攻 機能医科学講座 講師 2004年4月～  
学内 大学教育支援センター 研究開発委員 2011年4月～  
学内 スポーツ医科学コアセンター 2011年4月～

#### 【学外の社会活動】

一般社団法人 宮城県経営者協会セミナー  
色麻町保健推進員健康フェスタ

#### 【社会貢献】

市町村での講演活動

### 高橋 禎雄(助教)

#### 【専門分野】

日本思想史

#### 【担当授業科目(他大学も含む)】

全学教育 基幹科目「人間と文化 概説東北大学史」1セメスタ  
全学教育 展開科目「歴史学—日本近世政治思想の歴史的展開—」2セメスタ

#### 【論文】

(共著)「赤穂事件」『『概説日本思想史[改訂版]』(編集代表 佐藤弘夫 ミネルヴァ書房)』2019年9月  
(共著)「義理と人情」『『概説日本思想史[改訂版]』(編集代表 佐藤弘夫 ミネルヴァ書房)』2019年9月

#### 【著書】

『[改訂版] 概説日本思想史』 ミネルヴァ書房 2020年3月

〔**会議の発表・講演**〕

「大河内一男の思想史的位置」 口頭（一般）：日本文芸研究会令和2年度第2回研究会 2019年12月

〔**学内活動**〕

全学委員会 学術資源研究公開センター史料館兼務教員 2010年4月～

〔**学会活動および外部機関における活動**〕

日本文芸研究会 常任委員 1997年6月～

東北大学文学部同窓会 監事 2015年10月～

日本東アジア実学研究会 事務局長、評議委員 2018年9月～

〔**兼務、兼業など**〕

学内 東北大学学術資源研究公開センター史料館 兼務教員 2010年4月～

**太田 宏 (助教)**

〔**専門分野**〕

生態・環境

〔**担当授業科目 (他大学も含む)**〕

全学教育 自然科学総合実験 1, 2セメ

全学教育 文科系のための自然科学総合実験 1セメスタ

学部教育 生態学実習 5セメスタ

学部教育 進化学実習 5セメスタ

他大学 仙台工業高等専門学校 (生物学) 9, 10セメ

〔**その他教育上に関する活動**〕

(教科書・教材の開発) 文科系のための自然科学総合実験の新テーマの開発

〔**共同研究活動**〕

両生類の塩分耐性について～融雪剤の影響～NPO 法人環境把握推進ネットワーク-PEG 国内 2011年4月～

ツチガエルの性決定様式が異なる地域集団について 横浜市、広島大学 国内 2015年6月～

西シベリア、チャーニー湖沼群における両生爬虫類の分布について 研究相手先: ロシア ロシア科学アカデミーシベリア支所動物分類生態研究所 国外 2001年8月～

〔**学内活動**〕

その他の主要活動 アニメーション研究会顧問 1989年11月～

その他の主要活動 園芸部顧問 1997年4月～

〔**学内教職員支援**〕

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/SDの企画・運営)

自然科学総合実験教員・TA ガイダンス (FD/SDの企画・運営)

〔**学会活動および外部機関における活動**〕

日本爬虫両棲類学会 標準和名選定委員会委員 2012年7月～

〔**兼務、兼業など**〕

学外 国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査アドバイザー 2012年7月～

学外 宮城県希少野生動植物保護対策検討会 構成員 2007年12月～

学外 宮城県 宮城県環境影響評価技術審査会委員 2014年1月～

学外 仙台高等専門学校 非常勤講師 2009年10月～2020年3月

学外 東北大学生生活協同組合 理事 2002年5月～

学外 宮城県環境生活部自然保護課 属託 2017年4月～2020年3月

〔**学外の社会活動**〕

カジカガエルが誘う、里地里山の魅力発見！

宮城県野生動植物調査会 両生類・爬虫類分科会長

〔**行政機関・企業・NPO等参加**〕

宮城県 環境影響評価記述審査会 委員 2014年1月～

国土交通省東北地方整備局 鳴瀬川水系河川整備学識者懇談会 委員 2016年6月～

宮城県 希少野生動植物保護対策検討会 両生爬虫類分科会長 2007年11月～

国土交通省東北地方整備局 河川水辺の国勢調査 アドバイザー 2012年7月～

環境省 希少野生動植物種保存推進員 2012年6月～

東北大学生生活協同組合 理事 2002年5月～

## 岡 壽崇 (助教)

### 〔専門分野〕

物理化学  
放射線・化学物質影響科学

### 〔著書〕

『"Incorporation and accumulation of strontium-90 in the hard tissue of animals and their relationship with strontium-90 pollution in the environment, in Low-Dose-Rate Radiation Effects on Animals and Ecosystem-Long-Term Study on the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident"』 CRC Press 2019 年  
『自然科学総合実験 2019』 2019 年 4 月

### 〔共同研究活動〕

歯を用いた包括的被ばく線量評価 国内 2014 年 4 月～

### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(C) 陽電子寿命測定による高分子材料の変形・ひずみのオペランド分析 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者  
基盤研究(A) レーザー誘電体スイッチ型卓上マイクロビーム源の開発と応用 2018 年 4 月～2020 年 3 月 分担者  
基盤研究(C) 乳歯を用いた福島県在住小児の外部被ばく量測定 2018 年 4 月～2021 年 3 月 分担者  
新学術領域研究 マッハ衝撃波干渉領域での飛行中ミュオン触媒核融合の創生 2018 年 6 月～2023 年 3 月 分担者  
基盤研究(C) 福島第一原発事故後に形成された歯における内部被ばく量推定法の確立 2019 年 4 月～2022 年 3 月 分担者

### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

(その他補助金 文部科学省ナノテクノロジープラットフォーム 研究設備の試行的利用事業) 軟 X 線照射ポリイミド薄膜の陽電子消滅寿命の変化 2014 年 7 月～  
(その他受託研究費 英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業) 放射線影響モデル動物を利用した生物影響解明のための多面的アプローチ 2017 年 12 月～2020 年 3 月

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本放射線化学会 編集委員会 編集委員 2004 年 4 月～  
日本陽電子科学会 会誌刊行委員会 副委員長 2013 年 4 月～  
日本放射線化学会 理事 2014 年 9 月～  
公益財団法人 日本アイソトープ協会 若手ユーザ活性化専門委員会 専門委員 2018 年 4 月～  
公益財団法人 日本アイソトープ協会 理工・ライフサイエンス部会 常任委員会 委員 2018 年 4 月～

### 〔兼務、兼業など〕

学外 International Electrotechnical Commission TC 112 国内委員会 WG2 委員・国際エキスパート・アシスタントプロジェクトリーダー 2016 年 11 月～

## 小俣 乾二 (助教)

### 〔専門分野〕

有機化学

### 〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) 教科書の編集

### 〔学内活動〕

全学委員会 自然科学総合実験テキスト編集委員会 2003 年 4 月～  
全学委員会 自然科学総合実験実施委員会 2007 年 4 月～  
全学委員会 東北大学文科系のための自然科学総合実験テキスト編集委員会 2008 年 4 月～

## 佐久間 由香 (助教)

### 〔専門分野〕

生物物理・化学物理

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 自然科学総合実験 1 セメスタ

### 〔論文〕

(共著) 「Reproduction of vesicles coupled with a vesicle surface-confined enzymatic polymerisation」 『communications chemistry』 2 巻 2019 年 11 月

### 〔会議の発表・講演〕

「化学刺激によるモデル生体膜の形態制御」 口頭 (一般) : 2019 年日本物理学会秋季大会 2019 年 9 月

### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 化学刺激による脂質ベシクルの膜輸送経路の構築 2017 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

## 富田 知志 (助教)

### [論文]

(共著) 「Enhanced Magneto-Optical Activities of Modulated Fe-Pt Multilayer Metamaterials」 『PHYSICAL REVIEW APPLIED』 11巻6号  
2019年6月

### [著書]

『"メタマテリアルのつくりかた : 光を曲げる「磁場」とベリー一位相 = New concepts of metamaterials : Berry Phase and Artificial "Magnetic Fields" Acting on Light"』 共立出版 2019年7月

## 前山 俊彦 (助教)

### [専門分野]

物理化学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 自然科学総合実験1 前期前半

全学教育 文科系のための自然科学総合実験

全学教育 自然科学総合実験2 前期後半

全学教育 自然科学総合実験1 後期前半

全学教育 自然科学総合実験2 後期後半

### [会議の発表・講演]

「2-ピリドン2量体負イオン内のプロトン移動反応 に対する水和による抑制効果」 ポスター (一般) : 分子科学討論会 2019年9月

「The inhibition effect by microhydration on proton transfer reaction in 2-pyridone dimer anion」 ポスター (一般) : WRHI International Workshop on Advanced Laser Spectroscopy for Soft Molecular Systems 2019年11月

### [学内活動]

全学委員会 全学理科実験計画委員会委員 2018年4月～

全学委員会 全学理科実験実施委員会委員 2019年4月～

専攻内委員会 化学教室一般雑誌会会計担当委員 2019年4月～2020年3月

## 大月 義徳 (助教)

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 自然科学総合実験 2セメスタ

学部教育 地図学 4セメスタ

学部教育 基礎地学実験 3セメスタ

学部教育 基礎野外実習 I 4セメスタ

学部教育 野外実習 III 6セメスタ

学部教育 地圏試料分析実習 6セメスタ

学部教育 地圏環境科学実習 I 4セメスタ

学部教育 基礎野外実習 II 5セメスタ

学部教育 地圏環境科学実習 II 5セメスタ

学部教育 環境変動論 4セメスタ

学部教育 地形学 5セメスタ

### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

その他 国際共同研究強化 (B) 中央ケニア半乾燥土壌浸食地域における自然環境資源の利用・管理に関する実証研究 2018年10月～2022年3月  
代表者

### [学内活動]

部局内委員会 理学研究科教育制度委員会 2008年4月～

専攻内委員会 地学専攻安全管理委員会委員 2003年4月～

### [学会活動および外部機関における活動]

「季刊地理学」編集委員会 編集委員長 2017年6月～2019年5月

日本地球惑星科学連合環境災害対応委員会 委員 2014年6月～2020年5月

日本地すべり学会 東北支部幹事 2002年4月～

### [行政機関・企業・NPO等参加]

宮城県 宮城県環境審議会 委員 2012年8月～

宮城県 宮城県廃棄物処理施設専門委員会 委員 2002年7月～

## 山下 琢磨 (助教)

### [専門分野]

原子分子物理学

量子化学

放射化学

### [担当科目]

全学教育 “自然科学総合実験-1, -2” 後期

### [論文]

(共著) 「Relativistic corrections to the binding energy of positronic alkali-metal atoms」『Physical Review A』100 巻 062511, 2019 年 12 月.

(共著) 「Muon catalyzed fusion, present and future」『AIP Conference Proceedings』2179 巻 020010, 2019 年 11 月.

(共著) 「Four-body treatment of the antihydrogen-positronium system: binding, structure, resonant states and collisions」『Hyperfine Interactions』240 巻 46, 2019 年 5 月.

### [学会活動および外部機関における活動]

「Calculation of positronium-hydrogen atom reaction and its application to antihydrogen physics」口頭 (招待): 4th Japan-China Joint Workshop on Positron Science, 2019 年 10 月.

「Towards prediction of the rates of antihydrogen positive ion production in antihydrogen-excited positronium reaction」口頭 (ホトトピック): XXXIst International Conference on Photonic, Electronic, and Atomic Collisions, 2019 年 7 月.

「For analysis of fundamental muonic atom process: development of few-body calculation method and related topics on relativistic effects of exotic atoms」口頭 (一般): Seminar on fundamental theories for negative muon experiments at J-PARC, and its application to elemental analysis, 2019 年 4 月.

「Inelastic resonant scattering of positronium by (anti)hydrogen atom」ポスター (一般): XX International Workshop on Low-Energy Positron and Positronium Physics & XXI International Symposium on Electron-Molecule Collisions and Swarms, 2019 年 7 月.

「Coupled rearrangement channel calculation of dipole resonance states of positronic helium atom」ポスター (一般): XXXIst International Conference on Photonic, Electronic, and Atomic Collisions, 2019 年 7 月.

「水素化ポジトロニウムの原子的および分子的側面」口頭 (一般): 京都大学複合原子力科学研究所専門研究会「陽電子科学とその理工学への応用」, 2019 年 12 月.

「ポジトロニウムと水素原子の低速四粒子反応計算」口頭 (一般): 第 13 回分子科学討論会 2019, 2019 年 9 月.

「ポジトロニウムと反水素原子の低速非弾性衝突の計算 II」口頭 (一般): 日本物理学会 2019 年秋季大会, 2019 年 9 月.

「ポジトロニウム・水素原子共鳴の崩壊過程の分析 II」口頭 (一般): 原子衝突学会第 44 回年会, 2019 年 9 月.

## 佐藤 智子 (准教授)

### [専門分野]

教育学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

全学教育 基礎ゼミ 1 セメスタ

全学教育 人間と文化 (学習理論入門) 前期、2 クラス

全学教育 社会の構造 (学び合いの技法) 後期、2 クラス

大学院教育 教育情報学応用論特論Ⅲ 前期

大学院教育 教育情報学応用論演習Ⅲ 後期

他大学 生涯学習研究の理論と方法 前期

### [学位論文指導・審査]

修士 3 名 (主査 1 名、副査 2 名)

### [その他教育上に関する活動]

(その他) 学習支援センター SLA サポート事業の推進、SLA 研修プログラム開発・実施

(教科書・教材の開発) 学習支援センターにおいて『東北大学レポート指南書』に準拠したアカデミック・スキルズセミナー「レポート指南書入門ゼミ」を開発・実施した。

### [著書]

第 5 部「社会教育・生涯学習論」、『教育研究の新篇章(ニュー・チャプター) = New chapter of the Japanese educational research』世織書房 2019 年 8 月

第 1 章、まえがき、あとがき『多様性が拓く学びのデザイン: 主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践』明石書店 2020 年 3 月

### [会議の発表・講演]

「熟議の学習機会はいかに保障されるのか: コミュニティガバナンスの再編と社会教育」口頭 (招待・特別): 日本教育行政学会第 54 回大会 2019 年 10 月

**〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕**

若手研究(B) 公民館再編動向にみるコミュニティ・ガバナンスと社会教育の相克と止揚に関する研究 2019年4月～2023年3月 代表者

**〔学内活動〕**

全学委員会 附属図書館学習支援委員会委員 2017年4月～  
全学委員会 公正な研究活動推進委員会専門委員会 2018年4月～  
全学委員会 基礎ゼミ委員会 2018年4月～  
部局内委員会 紀要・出版委員会委員 2018年4月～

**〔学内教職員支援〕**

基礎ゼミ展開ゼミFD（FD／SDの企画・運営）

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

日本教育行政学会 研究推進委員 2016年10月～2019年10月  
日本教育学会 機関誌編集委員会 委員 2020年1月～

**〔兼務、兼業など〕**

学外 高知大学希望創発センター 客員准教授 2018年4月～

**〔学外の社会活動〕**

仙台市生涯学習支援センター研修講師 2019年7月9日  
秋田県生涯学習・社会教育研究大会（兼）行動人交流集会基調講演講師 2019年11月15日

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

仙台市 社会教育委員の会議 委員 2017年11月～  
西宮市 社会教育委員会 委員 2016年2月～2020年3月  
尼崎市 総合計画審議会 委員 2017年2月～

**縣 拓充（助教）**

**〔専門分野〕**

教育心理学  
教科教育学  
教育学  
認知科学

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 基礎ゼミ「創造性とアート」 前期  
全学教育 基礎ゼミ「余計なことからはじめよう」 前期集中  
全学教育 人間と文化 後期

**〔その他教育上に関する活動〕**

（その他）学習支援センター（SLAサポート）の運営、研修等の実施  
（教科書・教材の開発）『レポート指南書入門』ゼミの開発と実施  
（その他）学びの転換セミナー「アートから学ぶ創造的思考」の企画・開催・登壇  
（その他）オープンミーティング『未知のもの』との向き合いかたの企画・開催・登壇

**〔論文〕**

（共著）「「表現」と「創造」それぞれの本来の意味と差異」『美術教育学』41巻 1-15 2020年3月

**〔著書〕**

第6章 アートプロジェクトから学ぶ教養としての創造的思考『多様性が拓く学びのデザイン：主体的・対話的に他者と学ぶ教養教育の理論と実践』明石書店 2020年2月

**〔会議の発表・講演〕**

「ピアチューターはどのように理系科目の学習支援を行っているか」 口頭（一般）：日本教育工学会 2020年春季全国大会 2020年2月  
「ピアチューターによる理系科目の学習支援の アプローチの多様性」 ポスター（一般）：第26回 大学教育研究フォーラム 2020年3月  
「ライティング支援窓口における対応効果の分析：支援前後 のレポートの比較から」 ポスター（一般）：国内会議 第26回 大学教育研究フォーラム 2020年3月  
「美術における「表現」と「創造」を分けて考える」 口頭（一般）：美術科教育学会 第42回 千葉大会 2020年3月

**〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕**

基盤研究(C) 美術館における社会的課題を踏まえた子ども対象のアート・プロジェクトのモデル化 2019年4月～2021年3月 分担者

**〔学外の社会活動〕**

学研ホールディングス「教育総研セミナー」

**〔その他〕**

学習支援センター（SLAサポート）の運営、研修等の実施に特に時間を費やし、多くの貢献があったと考えられる。

## 頼 羿廷(助教)

### 〔専門分野〕

教育学

### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 基礎ゼミ/国際共修ゼミ「現代社会の教育問題を考える」 前期

### 〔その他教育上に関する活動〕

（その他）留学生支援「日本語会話ワークショップ」の試行と開発

### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

その他 研究活動スタート支援 目標管理手法による教職員人事評価制度の実態調査研究—資質向上と人事処遇との関係性 2017年9月～2019年12月 代表者

その他 若手研究 教員育成指標等の導入による「成果主義に基づく教員評価制度」第2ステージの実態調査 2019年4月～2022年3月 代表者

### 〔学会活動および外部機関における活動〕

国家教育研究院/跨國教育制度分析研究室(台湾) 委員 2018年1月～

## 猪股 歳之(准教授)

### 〔専門分野〕

教育社会学

社会学

教育学

### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 インターンシップ事前研修 1セメスタ

全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 前期

全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3セメスタ

全学教育 ライフ・キャリアデザインB 2セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】東北の「みらい」を拓く新聞論 2セメスタ

全学教育 【展開ゼミ】新聞から見た現代社会 2セメスタ

全学教育 インターンシップ実習 後期集中

他大学 教育社会学 通年

他大学 フィールド・ワーク論 前期集中

### 〔その他教育上に関する活動〕

（学友会・同好会等の指導）東北大学学友会準加盟団体弓道サークル zansin の顧問教員

### 〔論文〕

（共著）「地方都市における杜氏組合の現状と課題—産業・雇用環境の変化と各地の取り組みを事例に—」 『日本都市学会年報』 52巻 235-239  
2019年5月

（共著）「キャリア教育科目受講者のキャリア意識測定を試み」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 135-142 2020年3月

（共著）「地方都市の中小企業における留学生の採用と課題」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6号 205-216 2020年3月

### 〔会議の発表・講演〕

「大学生における就職活動の活発さに関する要因の検討（2）」 ポスター（一般）：東北心理学会第73回大会 2019年8月

「地域学部」の拡大に関する研究」 口頭（一般）：日本教育社会学会第71回大会 2019年9月

「大学卒業時のキャリアレディネスに関連する要因の検討」 ポスター（一般）：日本キャリア教育学会第41回大会 2019年11月

### 〔その他研究活動〕

（書評）書評 菅原良他著『キャリア形成支援の方法論と実践』

### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学教育のグローバル化と潜在的キャリア教育に関する研究 2015年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 地域・社会連携を通じた高等教育の多様なイノベーションとその成立要因に関する研究 2016年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 大学におけるキャリア教育等が卒業後の就業に与える影響に関するコホート研究 2016年4月～2020年3月 分担者

基盤研究(C) 高等教育における地域人材養成プログラムの現状と発展可能性に関する研究 2016年4月～ 代表者

### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 教育開発推進経費）アカデミック・アドバイジング・センター（バーチャル組織）創設の提案 2019年4月～2020年3月

### 〔学内活動〕

全学委員会 キャリア支援連絡会議委員 2016年4月～

全学委員会 学生生活支援審議会 第12回学生生活調査ワーキンググループ 副委員長 2019年5月～2020年3月

部局内委員会 キャリア支援センター副センター長 2016年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 出版・図書・資料委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 広報小委員会委員 2017年1月～  
その他の主要活動 高度教養教育・学生支援機構 キャリア開発室室長 2014年4月～  
その他の主要活動 研究推進部 特別研究員アドバイザー 2019年11月～2019年12月

#### 〔学内教職員支援〕

高度教養教育・学生支援機構 第74回正午PD会(講師)  
教育学部同窓会主催キャリア支援セミナー(講師)  
第2回学生生活支援審議会FD(講師)

#### 〔プロジェクト活動〕

留学生就職促進プログラム「東北イノベーション人材育成プログラム (DATEntre)」

#### 〔教育相談〕

キャリア・就職に関する個別相談のべ相談人数362名

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

IDE 大学セミナー実行委員会 委員 2015年4月～  
放送大学宮城学習センター 非常勤講師 2019年4月～2020年3月

#### 〔兼務、兼業など〕

学外 東北福祉大学 兼任講師 2003年4月～  
学内 宮城学院女子大学 非常勤講師 2004年4月～

### 高橋 修 (准教授)

#### 〔専門分野〕

経営学

#### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 ライフ・キャリアデザインA 1セメスタ  
全学教育 ライフ・キャリアデザインB 2セメスタ  
全学教育 ライフ・キャリアデザインD 3セメスタ  
全学教育 フィールドワーク実践：地域とビジネス 3セメスタ  
全学教育 インターンシップ事前学習 前期前半  
全学教育 インターンシップ実習 後期前半  
学部教育 キャリアデザイン講座(文学部) 後期  
学部教育 キャリア・ポートフォリオ 通年

#### 〔論文〕

(共著) 「地方都市の中小企業における留学生の採用と課題」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6巻 205-215 2020年3月  
(共著) 「キャリア教育科目受講者のキャリア意識測定の試み」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6巻 135-141 2020年3月

#### 〔著書〕

「第1章「基礎編：キャリアと学生生活」、第6章「キャリアの理論編」 『大学生のための実践的キャリア&就活講座』 中央経済社 2020年1月  
会議の発表・講演  
「キャリア教育における現状と課題—東北大学全学教育の事例から—」 口頭(一般)：第69回東北・北海道地区大学等高等・共通教育研究会 2019年8月

#### 〔学内活動〕

全学委員会 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員 2015年4月～  
部局内委員会 総務委員会委員 2017年4月～  
部局内委員会 教務小委員会委員 2019年9月～

#### 〔教育相談〕

のべ相談人数478名

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

人材育成学会 常任理事 2014年4月～  
日本産業ストレス学会 学会誌編集委員 2015年4月～  
大阪商工会議所 メンタルヘルス・マネジメント検定試験 テキスト編集委員会委員 2005年7月～  
キャリア・コンサルティング協議会 キャリア・コンサルティング技能検定委員 2012年5月～  
(社) 日本産業カウンセラー協会 キャリアコンサルタント養成講習テキスト等編集委員会委員 2018年6月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学外 宮城学院女子大学学芸学部 非常勤講師 2017年4月～

#### 〔学外の社会活動〕

メンタルヘルス・マネジメント検定試験I種受験対策講座

**門間 由記子 (特任准教授)**

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 インターンシップ事前研修 1セメスタ  
全学教育 グローバルキャリアA: グローバルな働き方を考える 前期  
全学教育 インターンシップ実習 3セメスタ  
全学教育 グローバルキャリアA: グローバルな働き方を考える 後期

**〔論文〕**

(共著) 「地方都市の中小企業における留学生の採用と課題」 『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要』 第6巻 2020年3月  
(共著) 「キャリア教育科目受講者のキャリア意識測定の試み」 『東北大学高度教養教育学生支援機構紀要』 第6巻 2020年3月

**〔会議の発表・講演〕**

口頭 (一般): 東北イノベーション人材育成コンソーシアム主催企業対象セミナー 2019年8月  
口頭 (一般): 日本インターンシップ学会第20回大会 2019年9月  
シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 東北経済産業局主催 外国人留学生採用の基礎セミナー 2019年11月  
口頭 (一般): 人材育成学会第16回年次大会 2019年12月  
口頭 (招待・特別): Japan Asia Youth Conference 2019 2019年12月  
口頭 (一般): 仙台市産業振興事業団 グローバルリクルートメント 2020年2月  
口頭 (一般): 東北イノベーション人材育成コンソーシアム主催シンポジウム、事例報告 2020年2月

**〔教育相談〕**

のべ相談人数 152名、のべ相談回数 152回

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

内閣府 地方創生インターンシップ推進研究会 委員 2019年4月~2020年3月  
東北社会学会 査読委員 2020年1月~2020年3月

**〔学外の社会活動〕**

ソロプチミスト仙台 女子中学生キャリア講座

**富田 京子 (特任准教授)**

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

他大学 弘前大学農学生命科学部大学院生キャリア開発セミナー 前期集中

**〔その他教育上に関する活動〕**

(その他) キャリア支援プログラムの開発  
(その他) 部局主催キャリアガイダンス等講師 法学部: キャリアガイダンス 生命科学部: キャリアガイダンス (修士向け) 文学研究科・文学部: 卒業・進学・就職を控えた皆さんへのガイダンス (学部4年生・修士2年生向け)、(学部3年生・修士1年生向け)  
(その他) "キャリア支援プログラム企画運営 (課外セミナー) 20190515: インターンシップを考える 20190520: インターンシップ選考対策 20190528: 就職活動の進め方 (文系学生向け) 20190603: 就職活動の進め方 (理系学生向け) 20190613: 自己分析 (基礎) 20190621: 業界仕事研究 (基礎) 20191011: 就職活動スタートアップ・内定者報告会 20191017: 自己分析 (応用) 20191023: 業界仕事研究 (応用) 20191115: 企業人事担当者パネルディスカッション (三井住友信託銀行、富士フィルム、鉄道情報システム (JRシステム)) 20191122: 企業人事担当者パネルディスカッション (国立研究開発法人産業技術総合研究所、日本郵船、三菱マテリアス) 20191209: 文系学生向けエントリーシート・面接対策 20191109: 2019年度インターンシップフェア: 企業・団体36社 2020.2.17~18: ワークショップ就職活動選考準備個別・集団模擬面接、グループディスカッション "

**〔論文〕**

(共著) 「平成30年度 東北大学キャリア支援センター年報」 『平成30年度 東北大学キャリア支援センター年報』 2019年7月

**〔大学運営〕**

全学委員会: 学生生活支援審議会キャリア支援連絡会議委員

**〔教育相談〕**

のべ相談人数 500名、のべ相談回数 500回

**〔兼務、兼業など〕**

学外 弘前大学 非常勤講師 2015年4月~  
学外 特定非営利活動法人 宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2019年4月~

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

特定非営利活動法人宮城県キャリアコンサルタント協会 理事 2018年12月~

**〔その他〕**

全学教育担当授業: 「ライフ・キャリアデザインD」セナ設計担当

他大学での担当授業：弘前大学大学院農学生命科学研究科集中講義「キャリア開発セミナー」  
学生個別相談（保護者・卒業生相談含む）  
学生相談所・特別支援室協働での学生相談、学生支援  
キャリア支援年間プログラム設計・策定業務・・・年間キャリア支援プログラムを策定し、体系化。学部1年生から博士後期課程、ポスドクまでの進路・就職に係るプログラムを設計、提示し、正課（授業科目）と正課外との相補的組み合わせで構成した。  
キャリア支援セミナー及びワークショップ企画・立案、実施運営、広報（チラシ、ポスター広報物作成含む）業務及び講師選択、講師打ち合わせ、講師対応業務

## 池田 忠義（教授）

### 〔専門分野〕

臨床心理学  
学生相談

### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 学生生活概論 前期前半  
大学院教育 投影法特論Ⅰ MC 1年1学期  
大学院教育 投影法特論Ⅱ MC 1年2学期

### 〔その他教育上に関する活動〕

（その他）新入生特別セミナーにおいて「安全・安心なキャンパスライフ」に関する講演  
（その他）工学研究科土木・建築共同新入生オリエンテーションにて講話及び学生相談所の利用案内

### 〔論文〕

（共著）「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」『学生相談研究』40巻1号 20-31 2019年7月  
（単著）「大学における障害学生支援体制の整備と実践の充実化のプロセス」『学生相談研究』40巻3号 173-185 2020年3月  
（共著）「国立大学における学生相談および障害学生支援の組織・体制と活動状況」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』6号 37-44 2020年3月

### 〔著書〕

第6章 大学における障害学生支援の実際と課題－東北大学の例 1. 障害学生支援のための体制整備（117-128頁） 7. 課題（160-162頁）『共生社会へ－大学における障害学生支援を考える－』2020年3月

### 〔会議の発表・講演〕

「学生相談活動の自己評価ツールの開発－学生相談プログラム充実イメージ表（プロトタイプ1.0）作成と試用－」ポスター（一般）：日本学生相談学会第37回大会 2019年5月  
「障害学生支援における現実面の支援と心理面の支援」ポスター（一般）：全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会 2019年6月  
「障害学生支援における教職員との協働の効果と意義」ポスター（一般）：第57回保健管理研究集会 2019年10月

### 〔共同研究活動〕

東日本大震災後の心理的影響と支援のあり方に関する継続的研究 神戸大学、和歌山大学、奈良女子大学 国内 2012年4月～

### 〔その他研究活動〕

（その他）平成31年度 新入学生意識調査  
（その他）平成31年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 大学カウンセラーの成長支援としてのOJTに関する研究 2017年4月～2020年3月 分担者  
基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018年4月～2021年3月 代表者  
基盤研究(C) IT技術を活用した大学における学生相談活動の新しい自己評価アセスメント法の開発 2018年4月～2021年3月 分担者

### 〔学内活動〕

全学委員会 ハラスメント全学防止対策委員会専門委員会委員 2014年2月～  
全学委員会 学生生活支援審議会委員 2015年4月～  
全学委員会 学生相談・特別支援連絡会議委員 2015年4月～  
全学委員会 障害者差別解消推進委員会委員 2016年4月～  
全学委員会 学務審議会委員 2017年4月～  
全学委員会 ボランティア活動支援運営委員会委員 2018年4月～  
全学委員会 学生生活支援審議会第13回学生生活調査ワーキンググループ委員 2019年5月～2020年3月  
全学委員会 学生生活支援審議会学生寄宿舎のあり方検討ワーキンググループ委員 2019年5月～2020年3月  
全学委員会 学生生活支援審議会UH青葉山入居対象とした教育内容ワーキンググループ委員 2019年5月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2014年4月～  
部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構人事委員会委員 2015年4月～  
その他の主要活動 学生相談・特別支援センター副センター長 2014年4月～

#### 〔学内教職員支援〕

工学研究科等新規採用等教職員合同研修において、「大学におけるハラスメント」に関する講演（講師）  
東北大学新任教員研修において、「教育研究における学生との関わりとハラスメント」に関する講演（講師）  
学生支援審議会FD(1)（FD/S Dの企画・運営）  
電気通信研究所FDにおいて「学生支援」に関する講演（講師）  
東北アジア研究センターFDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）  
学生支援審議会FD(2)（FD/S Dの企画・運営）  
学生支援審議会FD(3)（FD/S Dの企画・運営）  
医学部・医学研究科FDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）  
歯学部・歯学研究科FDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）

#### 〔教育相談〕

相談人数 106 名、のべ相談回数 587 回  
ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 48 回

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本学生相談学会 理事（資格認定委員会） 2016 年 5 月～2019 年 5 月  
日本学生相談学会 理事（特別委員会） 2019 年 5 月～  
日本学生相談学会 査読委員 2019 年 9 月～2019 年 9 月  
第 57 回全国学生相談研修会 分科会講師 2019 年 12 月～2019 年 12 月

### 中島 正雄（准教授）

#### 〔専門分野〕

臨床心理学

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 相談心理学Ⅱ 後期集中  
全学教育 学生生活概論 前期前半  
大学院教育 心理療法特論 前期  
大学院教育 臨床心理学概論 後期  
他大学 学校臨床心理学・地域援助特論(TV) 通年

#### 〔その他教育上に関する活動〕

（その他）工学部機械・知能系新入生オリエンテーション  
（その他）工学研究科土木・建築共同新入生オリエンテーション

#### 〔論文〕

（共著）「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」 『学生相談研究』 40 巻 1 号 20-31 2019 年 7 月  
（共著）「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム ―文化スーパーヴィジョンに着目して―」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 187-191 2020 年 3 月  
（共著）「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 179-186 2020 年 3 月

#### 〔その他研究活動〕

（その他）平成 31 年度 新入学生意識調査  
（その他）平成 31 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 学生相談カウンセラーの成長支援としてのOJTに関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 代表者

#### 〔学内活動〕

ハラスメント全学学生相談窓口 2015 年 11 月～  
部局内委員会 出版・図書・資料委員会 2016 年 4 月～

#### 〔学内教職員支援〕

令和 1 年度 第 1 回学生支援審議会FD（FD/S Dの企画・運営）  
令和 1 年度 第 2 回学生支援審議会FD（FD/S Dの企画・運営）  
令和 1 年度 第 3 回学生支援審議会FD（FD/S Dの企画・運営）  
医学部・医学研究科FDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）  
生命科学研究科FDにおいて「ハラスメント」に関する講演（講師）  
自然科学総合実験FD 講師

#### 〔教育相談〕

相談人数 71 名、のべ相談回数 695 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 47 回

**〔兼務、兼業など〕**

学外 放送大学 客員准教授 2018 年 4 月～

**小島 奈々恵（講師）**

**〔専門分野〕**

社会臨床心理学

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 異文化理解【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 前期

全学教育 国際教養【展開ゼミ】 自己理解を深める：異文化交流を通して—国際共修ゼミ— 後期

大学院教育 コミュニティ心理学特論 前期

大学院教育 学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） 後期

**〔その他教育上に関する活動〕**

（その他）新入学留学生オリエンテーション

（その他）環境科学研究科新入生オリエンテーション

（その他）工学研究科（マテリアル・開発系）新入生オリエンテーション

（その他）生命科学研究科新入生オリエンテーション

（その他）文学研究科新入生オリエンテーション

（その他）危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象）

（その他）新入学留学生オリエンテーション

（その他）危機管理オリエンテーション（日本人留学生対象）

**〔論文〕**

（共著）「Relationship between types of humour and stress response and well-being among children in Japan」 『Asian Journal of Social Psychology』 22 巻 281-289 2019 年 5 月

（共著）「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」 『学生相談研究』 40 巻 1 号 20-31 2019 年 7 月

（共著）「The correlation between teachers' humor and class climate: A study targeting primary and secondary school students」 『HUMOR』 2020 年 1 月

（共著）「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 179-186 2020 年 3 月

（共著）「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム—文化スーパーヴィジョンに着目して—」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6 号 187-191 2020 年 3 月

**〔会議の発表・講演〕**

「大学生が悩む対人関係」 ポスター（一般）：第 57 回全国大学保健管理研究集会 2019 年 10 月

「大学における休学者・復学者支援を考える—休学予定者の相談事例の特徴—」 ポスター（一般）：第 57 回全国大学保健管理研究集会 2019 年 10 月

「大学院生の心理的苦悩と支援を考える」 シンポジウム・ワークショップ・パネル（公募）：第 53 回全国学生相談研究会議 2020 年 1 月

**〔その他研究活動〕**

（その他）平成 31 年度 新入学生意識調査

（その他）平成 31 年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

**〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕**

基盤研究(C) 学生相談カウンセラーの成長支援としての OJT に関する研究 2017 年 4 月～2020 年 3 月 分担者

**〔学内活動〕**

ハラスメント全学学生相談窓口 2016 年 4 月～

**〔学内教職員支援〕**

令和 1 年度 第 1 回 学生支援審議会 FD（FD/S D の企画・運営）

環境科学研究科 教員のハラスメントに関する FD（講師）

令和 1 年度 第 2 回 学生支援審議会 FD（FD/S D の企画・運営）

令和 1 年度 第 3 回 学生支援審議会 FD（FD/S D の企画・運営）

**〔教育相談〕**

相談人数 130 名、のべ相談回数 1206 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 36 回

## 中岡 千幸 (講師)

### 〔専門分野〕

臨床心理学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論—学生が会う大学生活の危機と予防— 前期前半

その他 相談心理学I 前期集中

他大学 コミュニケーション学 後期集中

### 〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 工学部 機械・知能系新入生オリエンテーション

(その他) 工学部 建築・社会環境工学科 (学部2年生対象) オリエンテーション

(その他) 新入学留学生オリエンテーション

(その他) 文学部新入生オリエンテーション

(その他) 教育学研究科大学院新入生オリエンテーション

(その他) 国際文化研究科 大学院新入生 オリエンテーション

(その他) 新入学留学生オリエンテーション

### 〔論文〕

(共著) 「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」 『学生相談研究』 40号 20-31 2019年7月

(共著) 「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 6号 179-186 2020年3月

(共著) 「ニュージーランドにおけるカウンセラーのスーパーヴィジョンシステム —文化スーパーヴィジョンに着目して—」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 6号 187-192 2020年3月

### 〔会議の発表・講演〕

「大学における休学者・復学者支援を考える：休学予定者の相談事例の特徴」 ポスター (一般)：第57回全国大学保健管理研究集会 2019年10月

「大学生が悩む対人関係」 ポスター (一般)：第57回全国大学保健管理研究集会 2019年10月

### 〔その他研究活動〕

(その他) 平成31年度 新入学生意識調査

(その他) 平成31年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

### 〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

若手研究(B) 教職員向け休・復学者支援マニュアル作成のための研究 2016年4月～2020年3月 代表者

### 〔学内活動〕

ハラスメント全学学生相談窓口 2016年6月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構 電子ジャーナル編集委員会委員 2017年1月～

### 〔学内教職員支援〕

令和1年度 第1回学生支援審議会FD (FD/SDの企画・運営)

令和1年度 第2回学生支援審議会FD (FD/SDの企画・運営)

令和1年度 第3回学生支援審議会FD (FD/SDの企画・運営)

基礎ゼミ・展開ゼミFD：配慮を要する学生の理解と対応 (講師)

環境科学研究科 教職員のメンタルヘルスに関するFD (講師)

### 〔教育相談〕

相談人数149名、のべ相談回数615回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数13回

## 佐藤 静香 (助手)

### 〔専門分野〕

臨床心理学

### 〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

全学教育 学生生活概論 前期前半

### 〔その他教育上に関する活動〕

(その他) 工学部機械・知能系新入生オリエンテーション

(その他) 工学研究科電子情報システム・応物系新入生オリエンテーション

(その他) 工学研究科化学・バイオ系新入生オリエンテーション

(その他) 教育学研究科新入生対象 ハラスメント防止講習会

(その他) 工学部材料科学総合学科4年生ガイダンス

(その他) 文学部・文学研究科 卒業・進学・就職を控えた皆さんへの生活ガイダンス

**[論文]**

(共著) 「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」 『学生相談研究』 40巻1号 20-31 2019年7月

**[その他研究活動]**

(その他) 平成31年度 新入学生意識調査

(その他) 平成31年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

**[学内活動]**

全学委員会 男女共同参画委員会委員 2011年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2014年4月～

ハラスメント全学学生相談窓口 2006年2月～

**[学内教職員支援]**

令和元年度 第1回 学生支援審議会FD (FD/S Dの企画・運営)

令和元年度 第2回 学生支援審議会FD (FD/S Dの企画・運営)

令和元年度 第3回 学生支援審議会FD (FD/S Dの企画・運営)

**[プロジェクト活動]**

東日本大震災後の学生相談活動

**[教育相談]**

相談人数163名、のべ相談回数799回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数37回

**[学外の社会活動]**

第76回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

第77回みやぎ学生相談連絡協議会への参加

**松川 春樹 (助教)****[専門分野]**

臨床心理学

**[担当授業科目 (他大学も含む)]**

全学教育 学生生活概論 前期前半

**[その他教育上に関する活動]**

(その他) 医学部保健学科学生対象キャンパスハラスメント講習会

(その他) 工学部建築・社会環境工学科ガイダンス (学部2年生対象)

(その他) 文学部第2年次学生ガイダンス

(その他) 環境科学研究科オリエンテーション (新入生対象)

(その他) 医工学研究科新入生オリエンテーション

(その他) 生命科学研究科新入生オリエンテーション

(その他) 工学研究科マテリアル・開発系新入生オリエンテーション

**[論文]**

(共著) 「国立大学における学生相談および障害学生支援の組織・体制と活動状況——Web ページの掲載情報に基づく分析」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6巻 37-44 2020年3月

(共著) 「全国の学生相談機関における研修の実態と課題」 『学生相談研究』 40巻1号 20-31 2019年7月

**[会議の発表・講演]**

「卒業期に強い不安を呈した男子学生への支援——学生相談と障害学生支援の連携・協働」 ポスター (一般) : 第57回全国大学保健管理研究集会 2019年10月

「学生相談および障害学生支援の組織・体制と活動の特徴——Web ページの調査による検討」 ポスター (一般) : 日本学生相談学会第37回大会 2019年5月

**[その他研究活動]**

(その他) 平成31年度 新入学生意識調査

(その他) 平成31年度 全学生対象の「大学生の心身の健康に関する調査」

**[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]**

基盤研究(C) 学生相談と障害学生支援の協働による実践の充実化に関するコミュニティ心理学的研究 2018年4月～2021年3月 分担者

**[学内活動]**

ハラスメント全学学生相談窓口 2015年6月～

**[学内教職員支援]**

学生生活支援審議会FD(1) (FD/S Dの企画・運営)

学生生活支援審議会FD(2) (FD/S Dの企画・運営)

学生生活支援審議会FD(3) (FD/S Dの企画・運営)

**〔教育相談〕**

相談人数 106 名、のべ相談回数 876 回

ハラスメント全学学生相談窓口での相談業務：のべ対応回数 15 回

**長友 周悟 (講師)**

**〔専門分野〕**

障害学生支援

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 全学教育「学生生活概論」 前期

全学教育 障害者支援入門 前期

全学教育 教職科目「相談心理学Ⅱ」 後期

**〔著書〕**

第 5 章発達障害・精神障害のある学生の支援 2. 発達障害・精神障害学生のある学生のキャリア支援 111 頁～116 頁、第 6 章大学における障害学生支援の実際と課題 3. 東北大学における発達障害のある学生の修学上のニーズ、支援 139 頁～142 頁、5. キャリア発達にかかわるニーズ、支援 147 頁～151 頁『共生社会へー大学における障害学生支援を考えるー』東北大学出版会 2020 年 3 月

**〔学内教職員支援〕**

令和元年度第 1 回学生生活支援審議会FD「本学におけるハラスメント防止体制及び実際の相談への対応について」(FD/S Dの企画・運営) 生命科学研究所FD「学生とのコミュニケーションのとり方」(講師)

高度教養教育・学生支援機構および障害学生支援相互協力協議会共催 「大学教職員を対象とした発達障害学生への就労支援に関する研修会」の企画・運営

**〔企画・運営 (その他) 〕**

令和元年度第 2 回学生生活支援審議会FD「学生支援における今日的諸課題」(FD/S Dの企画・運営)

令和元年度第 3 回学生生活支援審議会FD「大学生の不登校・ひきこもりの理解と対応」(FD/S Dの企画・運営)

令和元年度第 2 回東北大学事業支援機構総合技術部男女共同参画部会研修「様々な背景のある学生への対応について」(講師)

高度教養教育・学生支援機構および障害学生支援相互協力協議会共催 「大学における身体障害学生への支援に関する研修会」の企画・運営 (その他)

**〔教育相談〕**

相談人数 110 名、のべ相談回数 925 回

**〔学外の社会活動〕**

仙台青陵中等教育学校特別支援教育講座

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

NPO 法人ソイプラム 理事 2019 年 4 月～2020 年 3 月

社会福祉法人あおぞら 評議員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

社会福祉法人仙台みんなの輪 評議員 2019 年 4 月～2020 年 3 月

**榊原 佐和子 (講師)**

**〔専門分野〕**

障害学生支援

臨床心理学

コミュニティ心理学

**〔担当授業科目 (他大学も含む)〕**

全学教育 障害者支援入門 1 セメスタ

全学教育 学生生活概論 前期前半

全学教育 障害者支援入門 前期

学部教育 産業・組織心理学 後期

大学院教育 産業心理学特論 後期

**〔論文〕**

(共著) 「国立大学における学生相談および障害学生支援の組織・体制と活動状況：Web ページの掲載情報に基づく分析」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』6 巻 37-44 2020 年 3 月

**〔著書〕**

第 5 章発達障害・精神障害のある学生の支援 1. 発達障害および精神障害学生の修学支援 87 頁～111 頁、第 6 章大学における障害学生支援の実際と課題 4. 東北大学における精神障害のある学生の修学上のニーズ、支援 143 頁～147 頁、6. 障害学生の国際交流 (受け入れ、送り出し) に関わる支援 151 頁～160 頁『共生社会へー大学における障害学生支援を考えるー』東北大学出版会 2020 年 3 月

#### 〔会議の発表・講演〕

「東北大学特別支援寝室における障害学生のキャリア教育・就職支援に関する取り組み」ポスター（一般）：2019年度全国キャリア教育・就職ガイダンス 2019年6月

「コンサルテーションにおけるアセスメントの視点」シンポジウム・ワークショップ・パネル：日本コミュニティ心理学会第22回大会 2019年6月

「教育学を専攻する大学生の仲間関係についての自己理解の促進：フォーカシング指向アートセラピーのエクササイズを用いて」口頭（一般）：表現性心理療法国際学会 2019年8月

「卒業期に強い不安を呈した男子学生への支援：学生相談と障害学生支援の連携・協働」ポスター（一般）：第57回全国大学保健管理研究集会 2019年10月

#### 〔学内教職員支援〕

大学教職員を対象とした発達障害学生への就労支援に関する研修会 発達障害に特化した就労移行支援施設である株式会社 Kaien の大野順平氏を招いた研修会の実施（FD/S Dの企画・運営）

大学における身体障害学生への支援に関する研修会実施 身体障害当事者である大学教員（神戸学院大学心理学部講師 中村珍晴氏）による研修会（FD/S Dの企画・運営）

#### 〔教育相談〕

相談人数 160名、のべ相談回数 1082回

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本コミュニティ心理学会 理事、常任理事/倫理委員会委員長、編集委員会編集委員 2019年4月～2020年3月

### 木内 喜孝 (教授)

#### 〔専門分野〕

消化器内科学

ヒト遺伝学

#### 〔担当授業科目（他大学も含む）〕

全学教育 体と健康 I X 2セメスタ

学部教育 消化器ブロック 1セメスタ

大学院教育 情報科学大学院「生体情報科学」1セメスタ

#### 〔学位論文指導・審査〕

修士1名（予備審査1名）

#### 〔論文〕

（共著）「A genome-wide association study identifying RAPIA as a novel susceptibility gene for Crohn's disease in Japanese individuals.」『J Crohns Colitis』13巻5号 648-658 2019年

（共著）「MENDEL study group. High-resolution melt analysis enables simple genotyping of complicated polymorphisms of codon 18 rendering the NUDT15 diplotype」『J Gastroenterol.』55巻1号 67-77 2019年

#### 〔会議の発表・講演〕

「肛門管癌が合併したクローン病の1例」口頭（一般）：第207回日本消化器病学会東北支部例会 2019年7月

「入学試験時における感染症罹患受験生の対応について」口頭（一般）：第56回全国大学保健管理研究集会東北地方研究集会 2019年7月

「本学学生の飲酒頻度とその推移—14年間の横断的研究—」口頭（一般）：第57回全国大学保健管理研究集会 2019年10月

「大腸癌三次元オルガノイド培養を用いたエクソーム研究」口頭（一般）：第61回日本消化器病学会大会 2019年11月

#### 〔総説・解説記事〕

（共著）「肛門管癌が合併したクローン病の1例」『日本消化器病学会東北支部例会プログラム・抄録集』207回巻 49-49 2019年7月

#### 〔科学研究費補助金獲得実績（文科省・学振）〕

基盤研究(C) 日本人の遺伝背景を考慮した免疫細胞 eQTL による炎症性腸疾患関連遺伝子の機能解析 2018年4月～2021年3月 代表者

基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018年4月～2021年3月 分担者

#### 〔その他の競争的資金獲得実績〕

（その他補助金 AMED ゲノム医療実用化推進研究事業）NUDT15 遺伝子型に基づき個人に最適化された安全かつ有効的なチオプリンによる免疫調節療法の開発 2019年4月～2021年3月

#### 〔学内活動〕

全学委員会 学務審議会委員 2012年4月～

全学委員会 入試実施委員会 2012年4月～

全学委員会 環境・安全委員会委員 2012年4月～

全学委員会 特別健康管理専門部会委員長 2012年7月～

全学委員会 災害対策推進室推進室会議 2013年7月～

全学委員会 サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター運営専門委員会委員 2014年4月～

全学委員会 学生生活支援審議会 2015年4月～  
全学委員会 人を対象とする医学系研究実施委員会委員 2015年6月～  
部局内委員会 ハラスメント相談窓口 2012年5月～  
部局内委員会 研究費の不正使用に関する通報を受け付ける窓口 2012年5月～  
部局内委員会 情報科学大学院倫理審査委員 2012年4月～  
部局内委員会 研究倫理委員会委員長 2014年4月～  
部局内委員会 機構研究倫理推進責任者 2015年4月～  
部局内委員会 ハラスメント防止対策委員長 2015年10月～  
部局内委員会 機構研究倫理教育責任者 2015年3月～  
その他の主要活動 保健管理センター外来業務 2011年4月～

#### [学会活動および外部機関における活動]

日本消化器内視鏡学会東北支部 評議員 1998年7月～  
日本消化器病学会 評議員 2000年10月～  
日本内科学会東北支部 評議員 2005年2月～  
日本消化器がん検診学会 地方評議員 2012年8月～  
全国大学保健管理協会 評議員 2013年5月～  
東北学校保健学会 世話人 2013年8月～

#### [行政機関・企業・NPO等参加]

[日本国内] 宮城県対がん協会 宮城県対がん協会大腸癌検診診断委員 委員長 2002年4月～  
[日本国内] 宮城県社会保険診療報酬支払基金 宮城県社会保険診療報酬請求書審査委員会 審査委員 2004年4月～  
厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金特定疾患対策研究事業一難治性炎症性腸管障害に関する調査研究 班友 2009年4月～

### 小川 晋 (准教授)

#### [専門分野]

代謝学  
内分泌学  
腎臓内科学

#### [論文]

(共著) 「Gut microbiome-derived phenyl sulfate contributes to albuminuria in diabetic kidney disease.」 『Nat Commun』 10巻1号 1835- 2019年  
(共著) 「Diabetes care providers' manual for disaster diabetes care.」 『Diabetol Int.』 14巻10号 153-179 2019年  
(共著) 「Diabetes Care Providers' Manual for Disaster Diabetes Care.」 『J Diabetes Investig.』 10巻4号 1118-1142 2019年7月

#### [会議の発表・講演]

「電解水素水の2型糖尿病における糖代謝への影響の検討」 口頭 (一般) : 第92回日本内分泌学会学術総会 2019年5月  
「電解水素水が2型糖尿病の酸化ストレスと糖代謝へ及ぼす影響の検討」 口頭 (一般) : 第62回日本糖尿病学会年次学術集会 2019年5月  
「電解水素水飲用は糖尿病性腎臓病患者のeGFRを上昇させる」 口頭 (一般) : 第62回日本腎臓学会学術総会 2019年6月  
「電解水素水は酸化ストレス抑制を介して糖尿病性腎臓病におけるeGFRを改善する」 口頭 (一般) : 第42回日本高血圧学会総会 2019年10月  
「電解水素水の酸化ストレス抑制とインスリン抵抗性改善作用」 シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募) : 第42回日本高血圧学会総会 2019年10月  
「電解水素水飲用は糖尿病性腎臓病患者のeGFRを上昇させる」 口頭 (一般) : 第31回日本糖尿病性腎症研究会 2019年11月

#### [学内活動]

全学委員会 倫理委員会委員 2015年4月～  
全学委員会 出版・図書・資料委員会 2016年4月～

#### [学会活動および外部機関における活動]

日本肥満症治療学会 評議員 2008年4月～  
日本内科学会東北支部 評議員 2010年6月～  
日本高血圧学会 評議員 2013年10月～  
日本腎臓学会 評議員 2015年4月～  
日本内分泌学会 評議員 2016年4月～  
高血圧学会 プログラム委員会 2017年1月～  
糖尿病性腎症研究会 幹事 2017年4月～  
日本糖尿病学会 学術評議員 2019年4月～

#### [その他]

岩手県陸前高田病院にて糖尿病外来を30年続けている。同地域には糖尿病専門医がおらず地域医療の工場に勤めている。また透析専門病院にて透析患者の血糖コントロールを行っている。透析患者の血糖変動はあまり知られておらず、そのコントロールには高度な専門的知識が必要である。

## 佐藤 公雄 (准教授)

### [専門分野]

循環器内科学

### [担当授業科目 (他大学も含む)]

学部教育 薬理学I 後期前半

### [教育活動に関する受賞 (指導大学院生・学部生の受賞を含む)]

The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia YIA: Society for Free Radical Research 2019年4月7日

### [論文]

- (共著) 「Prognostic value of the model for end-stage liver disease excluding INR score (MELD-XI) in patients with adult congenital heart disease.」 『PloS one』 14巻11号 e0225403-e0225403 2019年
- (共著) 「Recent advances in the understanding of thrombosis.」 『Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology』 39巻 e159-e165 2019年6月
- (共著) 「Identification of Celastramycin as a Novel Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension.」 『Circulation research』 125巻3号 309-327 2019年7月
- (共著) 「Checkpoint kinase 1 promotes the development of pulmonary arterial hypertension.」 『Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology』 39巻 1504-1506 2019年8月
- (共著) 「Successful management of acute congestive heart failure by emergent caesarean section followed by adrenalectomy in a pregnant woman with Cushing's syndrome-induced cardiomyopathy.」 『Intern Med.』 58巻 2819-2824 2019年10月
- (共著) 「ADAMTS8 Promotes the Development of Pulmonary Arterial Hypertension and Right Ventricular Failure: A Possible Novel Therapeutic Target.」 『Circulation research』 125巻10号 884-906 2019年10月
- (共著) 「Identification of Emetine as a Therapeutic Agent for Pulmonary Arterial Hypertension: Novel Effects of an Old Drug.」 『Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology』 39巻11号 2367-2385 2019年11月
- (共著) 「Diagnostic and Prognostic Significance of Serum Levels of SeP (Selenoprotein P) in Patients With Pulmonary Hypertension.」 『Arteriosclerosis, thrombosis, and vascular biology』 39巻12号 2553-2562 2019年12月
- (共著) 「Usefulness of ventilatory gas analysis for the non-invasive evaluation of the severity of chronic thromboembolic pulmonary hypertension.」 『Int J Cardiol.』 296巻 149-154 2019年12月
- (共著) 「Identification of Adipsin as a Novel Prognostic Biomarker in Patients With Coronary Artery Disease.」 『Journal of the American Heart Association』 8巻23号 e013716-e013716 2019年12月

### [会議の発表・講演]

「Identification of emetine as a novel therapeutic agent for pulmonary arterial hypertension -Successful drug-repositioning for the old drug- (YIA 受賞) 口頭 (招待・特別): "The 9th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research-Asia (2019年4月4日~7日, Kyoto, Japan)" 2019年4月

### [総説・解説記事]

- (共著) 「慢性血栓性肺高血圧症の新規病因タンパクに着目した早期診断と治療薬開発」 『脈管学:慢性血栓性肺高血圧症-診断・治療・研究の最前線-』 2019年
- (共著) 「肺動脈性肺高血圧症における新規病因タンパクに着目した治療薬開発」 『日本臨牀』 77巻7号 2019年7月
- (共著) 「肺動脈性肺高血圧症の新しい治療標的の発見とアカデミア創薬」 『循環器専門医』 2019年8月
- (共著) 「心臓移植レシピエントへのPCSK9阻害薬の使用経験」 『移植』 54巻総会臨時号 313-313 2019年9月
- (共著) 「CardioOncologyの現状と未来 当院データと本邦における多施設共同研究への発展」 『日本心臓病学会学術集会抄録』 67回巻 SS-B10 2019年9月
- (共著) 「慢性血栓性肺高血圧症の病因からみた治療の展望」 『呼吸器ジャーナル『肺高血圧診療 ガイドラインとニース会議提言を紐解く』』 67巻4号 2019年10月
- (共著) 「成人先天性心疾患患者における心血管イベントと緊急入院の予測因子としての健康関連QoL(Health-related Quality of Life Predicts Cardiovascular Outcomes and Unplanned Hospital Admissions in Patients with Adult Congenital Heart Disease)」 『日本成人先天性心疾患学会雑誌』 9巻1号 243-243 2020年1月

### [科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(B) 次世代型先制医療実現のための肺高血圧症病因タンパク群の抽出と治療薬開発 2019年4月~2022年3月 代表者

### [その他の競争的資金獲得実績]

(厚生労働科学研究費補助金) 肺高血圧症の新規病因タンパクセレンプロテインPに着目した早期診断法開発 2017年4月~2020年3月

### [学内活動]

その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 新患外来 2018年4月～  
その他の主要活動 東北大学病院 循環器内科 循環グループ再来 2008年9月～  
その他の主要活動 保健管理センター 健康相談班長 2012年4月～

#### 〔学会活動および外部機関における活動〕

日本NO学会 評議員 2010年6月～  
アメリカ心臓協会(AHA) “国際学術誌(Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology, ATVB) 編集委員会 委員” 2013年5月～  
日本酸化ストレス学会 評議員 2013年5月～  
日本心臓血管動脈物質学会 評議員 2014年7月～  
日本循環器学会 日本循環器学会 禁煙推進委員会 委員 2015年4月～  
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2015年4月～  
日本循環器学会 Circulation Journal (日本循環器学会) 編集委員 2015年4月～  
文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS) 審査委員 2015年4月～  
アメリカ心臓協会(AHA) 国際学術誌(Circulation Research) 編集委員会 委員 2015年7月～  
日本肺高血圧・肺循環学会 評議員 2016年4月～  
日本循環器学会 Fellow of Japanese Circulation Society (FJCS 日本循環器学会特別会員) 2017年4月～  
日本心臓病学会 Fellow of Japanese College of Cardiology (FJCC 日本心臓病学会特別会員) 2017年4月～  
ヨーロッパ心臓学会 Fellow of the European Society of Cardiology (FESC ヨーロッパ心臓学会特別会員) 2017年4月～  
日本循環器学会 日本循環器学会 予防委員会 委員 2017年4月～  
日本循環器学会 Circulation Report (日本循環器学会) 編集委員 2018年4月～

#### 〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学病院・循環器内科 准教授 2012年4月～  
学内 東北大学大学院・医学系研究科・病態生理情報学分野 准教授 2012年4月～  
学内 東北大学大学院・情報科学研究科 准教授 2012年4月～

#### 〔学外の社会活動〕

日本循環器学会 禁煙推進委員会委員  
日本循環器学会 予防委員会 委員

#### 〔行政機関・企業・NPO等参加〕

文部科学省 独立行政法人日本学術振興会(JSPS) 審査委員 2014年12月～  
文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術動向研究センター 専門調査員 2016年4月～

#### 〔教育活動〕

- ① 授業担当状況：大学院生向けの心血管疾患に関する講義担当。開業医向けの生涯教育講座の講義担当。
- ② 学位論文(博士/修士/学士)の指導：循環器内科の大学院生の学位論文指導。
- ③ 教育支援活動(教科書・教材の開発、学生相談・ハラスメント対応・キャリア支援、クラス担任、学友会活動の指導等)：保健管理センターの業務の一環として、精神的不調を訴える学生の診療および相談に応じた。
- ④ 学振特別研究員、留学生、社会人等の受け入れ及びポストクの指導：海外留学生ポストクの受け入れと指導を行っている。

### 北 浩樹(助教)

#### 〔専門分野〕

社会系歯学

#### 〔担当授業科目(他大学も含む)〕

大学院教育 健康情報学 前期

#### 〔その他教育上に関する活動〕

(教科書・教材の開発) デジタルサイネージを用いた学生向け健康情報閲覧システムの開発と運用

#### 〔論文〕

(共著) 「大学と学生の大麻情勢 一大麻リスクとその対策」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 6巻 193-204 2020年3月

#### 〔著書〕

第二章 5 歯科・口腔 健康志向(健康増進型)のスクリーニング. 107-111『エビデンスに基づいた健康診断の勧め 若者から始める健康管理』  
保健同人社 2020年2月

#### 〔会議の発表・講演〕

「東北大学入学時の麻疹に関する保健調査の現状と問題点」 口頭(一般)：第57回全国保健管理研究会東北地方研究会 2019年7月  
「本学学生の飲酒頻度とその推移 ー14年間の横断的研究ー」 ポスター(一般)：第57回全国大学保健管理研究会 2019年10月

#### 〔共同研究活動〕

大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究 国内 2016年1月～

#### 〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕

基盤研究(C) メディア上にみられるクローン病に関する医療情報の質の評価 2018年4月～2021年3月 代表者

**〔学内活動〕**

部局内委員会 施設整備委員会 2014年4月～

その他の主要活動 保健管理センターにおける医療業務 1997年4月～

**〔学内教職員支援〕**

高度教養教育・学生支援機構 PD プログラム 健康教育 W-4 【PDP】健康科学セミナー「頭蓋顎顔面外科と歯科矯正治療」(講師)

**〔プロジェクト活動〕**

学生健診を基盤とした共有型ライフロング (PHR) の構築と利活用促進のための標準化モデル創出に関する研究班

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

全国大学保健管理協会 「大学における健康診断・健康関連情報の標準化と利活用に関わる調査研究班」 2016年1月～

**〔学外の社会活動〕**

仙台市教育委員会「仙台自分づくり教育」(キャリア教育)

**〔その他〕**

授業担当：情報科学研究科大学院教育(健康情報学)「歯科疾患と情報科学Ⅰ,Ⅱ」

教育支援活動：デジタルサイネージ(電子看板)を用いた学生向け健康情報供覧システムの開発と運用

その他：日本矯正歯科学会認定医

**沼倉 忠久(助教)**

**〔専門分野〕**

呼吸器内科学

**〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕**

その他 若手研究 新規抗酸化分子：活性イオウ分子種に着目した慢性閉塞性肺疾患の抗酸化機構の解明 2018年4月～2021年3月 代表者

**山本 沙織(助教)**

**〔その他〕**

東北大学病院循環器内科にて診療に携わっています。主に肺高血圧症、重症心不全、弁膜症の症例を担当しています。

**横関 理恵(助教)**

**〔専門分野〕**

教育学

**〔担当授業科目(他大学も含む)〕**

全学教育 全学教育科目・共通科目類「共生社会に向けたボランティア活動—人権・多様性・エンパワメント」前期

全学教育 全学教育科目・基幹科目類 社会の構造：東日本大震災からみる現代社会 後期

全学教育 全学教育国際科目・課題解決型演習A「福島における人権保障と共生の課題—原発事故以降を生きる人々に寄り添う」後期

**〔その他教育上に関する活動〕**

課外・ボランティアセンター推進事業「地域課題・人権課題に取り組むボランティア活動に関する情報提供・マッチング」

課外・ボランティアセンター推進事業「ボランティアマインドを持ったグローバル人材の育成事業」

課外・ボランティアセンター推進事業

「自己発展力のあるボランティア・リーダー育成のための学生スタッフ組織及び学生ボランティア団体の総合的支援・エンパワメント」

**〔論文〕**

(単著)「第15章 夜間中学校と不登校政策—東京都の形式卒業と政策転換—」

横井敏郎編『グローバル化時代における包摂的な教育制度・行政システムの構築に関する国際比較研究』

(2014～2017年度日本学術振興会科学研究費助成補助金基盤研究(B)研究成果報告書/課題番号26285169)2019年12月

(単著)「サービス・ラーニングプログラムの成果と課題—市民性教育を視点に—」

『2019年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』2020年3月

**〔会議の発表・講演〕**

2019年第1回東北大学課外・ボランティア活動研修会「大学における学生ボランティア支援の未来～東北大学からの展望～」2019年5月

**〔科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)〕**

研究活動スタート支援 若者・成人基礎教育保障に関する教育行政学的分析を通じた公教育論の再構築 2019年8月～2021年3月 代表者

**〔その他の競争的資金獲得実績〕**

東北大学高度教養教育学生支援機構・教育開発推進(個人)子ども・若者の貧困解消に向けた学習支援に関するエンゲージド・ラーニングの授業・教材研究 2019年4月～2020年3月 代表者

東北大学・高度教養教育学生支援機構・教育開発推進(組織)社会連携・市民性教育・「居場所」創出に向けた「正課・課外リンク」の開発と評価 2019年4月～2020年3月 分担者

**〔プロジェクト活動〕**

東北大学 IEHE×日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）「東日本大震災の経験を世界と未来につなぐプロジェクト」

**〔学外の社会活動〕**

北海道に夜間中学をつくる会 事務局員

**松原 久（助教）**

**〔担当授業科目（他大学も含む）〕**

全学教育 課題解決型（PBL）演習 A 2セメスタ

全学教育 社会と構造 2セメスタ

**〔その他教育上に関する活動〕**

（教育方針の実践例）「サービス・ラーニング」科目の開発

**〔論文〕**

（共著）「正課・課外リンクによる被災地支援の試みー宮城県石巻市の事例からー」 『2019年度課外・ボランティア活動支援センター紀要』 1-13 2020年3月

**〔著書〕**

広域合併の間でー旧雄勝町の復興問題『東日本大震災 100 の教訓』 クリエイツかみがわ 2019年

コラム：町内会・自治会等の現状と課題『公営住宅からはじめる新たな地域運営ー復興の先のコミュニティと居場所づくりー』 2020年3月

**〔会議の発表・講演〕**

「住宅再建ルートからみたコミュニティ再建支援の不均等性問題」 口頭（一般）：第18回コミュニティ政策学会大会 2019年7月

**〔学会活動および外部機関における活動〕**

東北社会学会 会計委員 2016年8月～

東北社会学研究会 編集委員 2019年4月～

**〔会議の主催・運営〕**

（国内会議：運営）東北社会学会大会 2019年7月14日～2019年7月15日

（国内会議：主催）東北社会学研究会大会 2019年12月8日

**〔学外の社会活動〕**

仙台市大和地区へのボランティア派遣

石巻市へのボランティア派遣

石巻市立稲井中学校職場体験

住みよい公営住宅を目指して～荒井東市営住宅アンケート調査報告会

台風19号被災地丸森町へのボランティア派遣

古川黎明高校への講師派遣

仙台市立中野中学校職場体験

尼崎西高校ボランティアとの交流

**〔行政機関・企業・NPO等参加〕**

おらほの自治を考える会 副代表 2016年9月～

仙台市大和地区社会福祉協議会 市営住宅連絡会 アドバイザー 2019年4月～

## IV 資 料 編

## 1. 統計データ

(1) グローバル時代における人材像と高度教養教育システムの総合的研究の推進

○「第13回 東北大学学生生活調査」(令和元年12月-令和2年1月)

- ・東北大学の学部・大学院に在籍し、調査可能であるすべての学生を対象に、令和元年12月1日現在の状況について調査を実施(専用Webページによる回答)
- ・有効回答数 3,645名、有効回答率 20.6%

○「第2回 東北大学教員の教育活動に関する調査」(令和2年1月)

- ・令和2年12月1日現在で本学に在職している2,436名を対象に調査を実施(郵送・Webによる回答。また、外国人教員用に英語版調査票を作成・提供。)
- ・有効回答数 956名、有効回答率 39.2%

(2) 実践的英語運用能力を高める体系的英語教育プログラムの開発・推進

○英会話支援プログラムの開発・推進

- ・学習支援センターでの「英会話カフェ」「1on1英会話」の実施

○国際的な教育・研究環境で必要とされる英語運用能力の養成を目指す「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」

表2-1 「英会話カフェ」「1on1英会話」利用者数(単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
延べ利用者数	651	518	486	489	449

表2-2 「TEA's English 学期内プログラム」及び「TEA's English 集中プログラム」開講実績

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
開講クラス数	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2	各プログラム2
受講者数(学期内)(人)	計380	計306	計312	計267	計295
受講者数(集中)(人)	計15	計126	計127	計113	計111

(3) 現代社会の多様な「知」に対応した高度教養教育の開発・推進

○ディシプリンにとらわれない意識の涵養

- ・全学教育科目・カレントトピックス科目「遊学」の実施(不開講)

○多次元的な視野を育成するための科学教育(文・理教員および外国人教員協働講義)の推進

- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「ビッグヒストリーで紡ぐ社会と自然科学」(前期・後期合計 受講者 151名、授業評価アンケート「総合評価」4.3)
- ・全学教育科目・基幹科目・自然論「【展開ゼミ】あなたの選択:事例で考える学びと研究における倫理」の実施(受講者 12名、授業評価アンケート「総合評価」5.0):研究倫理関連科目

- 「自然科学総合実験」および「文科系のための自然科学総合実験」の充実・発展
  - ・全学教育科目「自然科学総合実験」「文科系のための自然科学総合実験」「英語による自然科学総合実験（国際学士コース）の充実
  - ・受講者数：計 1,660 名
  - ・自然科学総合実験実施委員会：年 4 回開催
  - ・理科実験スタッフミーティング：毎週開催
  - ・自然科学総合実験教員 TA ガイダンス：セメスター開始前に開催
  - ・自然科学総合実験受講学生ガイダンス及びレポート作成演習：第 1・8 回の授業時に開催
  - ・レポート達成度指標とそのチェックシートの導入による全レポート評価の実施
  - ・ISTU を利用して全ての受講者にコメント付きのチェックシートを電子返却した
  - ・全員に個人面談を実施し、レポートの良い点と改善点を口頭で伝える機会を実施した
  
- 専門分野や文系・理系の区別を超えて人類的問題に接近する学際融合教育
  - ・全学教育科目・基礎ゼミ「社会の中の科学技術」の実施（受講者 10 名，授業評価アンケート「総合評価」4.7）：科学技術社会論関連科目
  - ・全学教育科目・基礎ゼミ「余計なことからはじめよう」の実施（受講者 24 名，授業評価アンケート「総合評価」4.2)
  
- 多様な「知」を大学教育の場面に導入
  - ・連続セミナー・これからどうする「実践編」として、インフォグラフィックスや短歌の知を導入。合計 2 回開講し、のべ 55 名の参加者を受け入れた。
  
- 移転可能スキル（Transferable Skills）の修得（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
  - ・全学教育科目・基礎科目・人間と文化【展開ゼミ】汎用的技能ワークショップ：認知的能力の実施（受講者 7 名，授業評価アンケート「総合評価」5.0)
  
- 高度教養教育の共通科目化（東北大学ビジョン 2030・主要施策 2）
  - ・全学教育科目・「みせる学び：大学で何を学んだの？どう役に立つの？」の実施（前期受講者 7 名，後期受講者 3 名，授業評価アンケート「総合評価」4.7 と 5.0）（学部 3～4 年生対象の高年次教養教育科目）

表 3-1 自然科学総合実験受講者数（単位：人）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
理科系クラス	1,643	1,567	1,544	1,596	1,604
文科系クラス	49	49	54	20	29
国際学士コース	23	26	30	29	27
計	1,715	1,642	1,623	1,645	1,660

(4) 多様な価値観と文化を学ぶ国際共修・異文化理解プログラムの開発・推進

- 国際共修ゼミ（日本語クラス／英語クラス）の充実
  - ・日本語クラス：39 クラス，延べ受講者数：643 名（内訳：日本人学生 404 名，留学生 239 名）

表 4-1 国際共修ゼミ開講クラス数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
日本語クラス	24	28	32	34	39

表4-2 国際共修ゼミ（日本語）受講者数（単位：人）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
日本人学生	286	362	433	393	404
外国人留学生	359	413	421	385	239
計	645	775	854	778	643

○短期国際交流活動の推進

- ・東北大学サマープログラムにおける学生ボランティア

表4-3 東北大学サマープログラムボランティア学生数（単位：人）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
TUJP	53	55 ※効率的運営の ため共通化	51（採用数）	33	24
TSSP	17		TSSP 実施せず	5	9
計	70			38	33

（5）留学生の戦略的受入れの推進と海外研鑽プログラムの充実

①戦略的受入れの推進

- 中国清華大学，国立応用科学院リヨン校，フランス国立中央理工科大学院，スウェーデン王立工科大学とのダブル・ディグリープログラム

- ・受入学生数：14名，派遣学生数：0名

- 国際学士コース（理学部先端物質科学コース，工学部国際機械工学コース，農学部国際海洋生物科学コース）の継続実施

- ・志願者数：177名，合格者数：37名，入学者数：24名

○交換留学生の受入れ促進

- ・JYPE（自然科学系短期留学生受入プログラム），IPLA（人文社会科学系短期留学生受入プログラム），COLABS（研究型短期留学生受入プログラム），DEEP（直接配置型受入プログラム），DEEP-Bridge（人文・社会科学直接配置型短期留学生受入プログラム）の実施

○短期研修プログラムの整備

- ・東北大学サマープログラム，夏季・冬季短期日本語・日本文化研修プログラムの実施

○外国人留学生日本語研修コース（国費留学生対象短期集中プログラム）の継続実施

- ・日本語研修コース（大学院・教員研修予備教育）の研修生数：前期28名，後期9名
- ・日韓共同理工系学部留学生プログラムの研修生数：7名

○外国人留学生等特別課程（日本語）の継続実施

- ・受講者数：前期370名，後期465名

表5-1 ダブル・ディグリープログラム交流実績（単位：人）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
受入学生数	6	6	3	10	14
派遣学生数	3	0	2	2	0

表5-2 JYPE, IPLA, COLABS, DEEP 受入学生数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
JYPE	80	78	56	50	58
IPLA	58	74	62	29	53
COLABS	43	54	35	60	72
DEEP	51	36	17	10	15
DEEP-Bridge	—	40	53	27	47

表5-3 TUJP, TSSP, 日本語・日本文化研修プログラム受入学生数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
TUJP	55	56	58	53	38
TSSP	31	23	実施せず	22	25
日本語・日本文化研修プログラム	17	11	11	9	

\* H29年度はワシントン大学学生16名を対象とした理工学特別サマープログラムを実施。

表5-4 外国人留学生日本語研修コース (国費留学生対象短期集中プログラム) 研修生数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
日本語研修コース (前期)	16	30	19	27	28
日本語研修コース (後期)	8	4	8	7	9
日韓共同理工系学部留学生プログラム	7	7	7	6	7

表5-5 外国人留学生等特別課程 (日本語) の受講者数 (単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
外国人留学生等特別課程 (前期)	324	390	366	375	370
外国人留学生等特別課程 (後期)	532	481	513	471	465

## ②戦略的派遣の推進

○スタディアブロードプログラム (SAP), ファカルティレッドプログラム (FL) の開発・実施

- ・ SAP: プログラム数: 14, 派遣者数 256 名
- ・ FL: プログラム数: 4, 派遣者数 67 名

○多様な派遣プログラムの開発・実施

- ・ 研究型海外研鑽プログラム: 派遣者数 20 名, 入学前海外派遣プログラム: 派遣者数 0 名

○東北大学グローバルリーダー (TGL) 育成プログラムの推進

- ・ 登録者数: 2,406 名, 指定科目: 307 科目, TGL 修了者: 42 名, グローバルリーダー認定者: 23 名

表5-6 SAP, FL 実施状況

		H27	H28	H29	H30	H31/R1
SAP	プログラム数	18	18	17	15	14
	派遣者数 (単位:人)	297	330	288	273	256
FL	プログラム数		3	5	7	4
	派遣者数 (単位:人)		44	74	110	67

表5-7 TGLプログラム実施状況

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
登録者数(単位:人)	2,091	2,562	2,873	3,007	2,406
指定科目数	329	391	323	340	307
TGLプログラム修了者数(単位:人)	13	19	43	44	42
グローバルリーダー認定者数(単位:人)	16	14	17	27	23

## (6) 自己発展力のある主体的学生を育成する総合的学生の支援の推進

## ①学習支援(学習支援センター)

## ○SLA並びに教員による学習支援活動

- ・理系支援担当SLA(前期24名・後期19名)による個別対応型学習支援:延べ1,011名
- ・英会話支援担当SLA(前期8名・後期7名)による個別対応・企画発信型学習支援:延べ449名
- ・ライティング支援担当SLA(前期3名・後期3名)による個別対応型学習支援:延べ224名
- ・企画担当SLA(前期8名・後期7名)による学習企画・イベント実施:計60回,参加者延べ198名
- ・センター教員およびSLAによる「レポート指南書入門ゼミ」実施:計15回、参加者延べ216名

表6-1 理系支援担当SLAによる個別対応型学習支援実績(単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
延べ人数	2,331	1,767	800	729	1,011
実数	517	356	240	224	257
窓口開設コマ数	126	112	68	52	59

表6-2 英会話支援担当SLAによる個別対応・企画発信型学習支援実績(単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
延べ人数	651	518	472	489	449
実数	150	130	111	73	91

## ②学生相談・援助活動(学生相談・特別支援センター)

## ○相談・援助・予防活動及び全学的支援体制の構築

- ・学生相談所における個別支援(出張カウンセリング含む):来談者数850名,対応回数5,316回
- ・ハラスメント全学学生相談窓口における相談・援助活動:相談件数26件,対応回数126回
- ・特別支援室(H26.4設置)での障害のある学生,学生と関わる教職員等への専門的支援:  
:来談者308名,対応回数2,620回
- ・特別支援室学生サポーター:登録人数29名
- ・学生相談・特別支援等に関するFD:15回(学生生活支援審議会FD:3回,部局FD:12回)
- ・星陵キャンパスでの出張相談:来談者数18名,相談回数104回

表6-3 学生相談における来談者数(単位:人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1	
学生相談・特別支援センター	677	775	808	955	1,120	
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	665	729	744	822	850
	特別支援室	43	81	132	133	308
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談	20	24	13	28	26	
計	697	799	821	983	1,146	

表6-4 学生相談における相談回数（単位：回）

		H27	H28	H29	H30	H31/R1
学生相談・特別支援センター		4,461	6,144	7,368	7,945	7,703
内訳 (重複あり)	学生相談所 (出張カウンセリング含む)	2,992	4,370	5,415	5,521	5,316
	特別支援室	1,618	1,997	2,266	1,974	2,620
ハラスメント全学学生相談窓口としての相談		107	95	36	131	126
計		4,568	6,239	7,404	7,626	7,829

表6-5 FD等の実施回数（単位：回）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
FD・SD（学生支援審議会FD、部局FDを含む）	14	17	16	15	15
部局と連携した学生対象の講演	6	8	8	7	7
部局新生オリエンテーション等	18	17	19	23	19
計	38	42	43	45	41

○新生を含む全学生を対象とした、大学生活への適応状態や震災の心身への影響を把握するための調査の実施と個別支援

表6-6 全学生対象調査（震災の心身への影響）の概要

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
回答者数（人）	10,488	10,979	11,108	10,745	10,859
回収率	58.3%	61.0%	61.7%	59.7%	59.3
PTSDハイリスク群（人）	346	393	315	250	236
PTSDハイリスク群の割合	3.4%	3.9%	3.2%	2.7%	2.5
個別働き掛けに基づく来談者（人）	1	39	16	15	16

※H27までは、メールでの情報提供（注意喚起と相談窓口案内）のみ。H28以降は、スタッフ増員に伴い、個別支援を充実させ、相談の呼びかけを実施。

表6-7 全学生対象調査（学部新生の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
回答者数（人）	2,325	2,239	2,292	2,319	2,292
適応ハイリスク群（人）	151	169	168	152	175
個別面接実施者数（人）	27	31	29	40	36

表6-8 全学生対象調査（学部2年生以上の大学生活への不適応ハイリスク者）の概要

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
回答者数（人）	8,005	8,488	8,816	8,426	8,567
適応ハイリスク群（人）	382	338	376	383	332
個別面接実施者数（人）	—	43	34	37	35

※H27までは、新生の不適応ハイリスク群に対してのみ個別働き掛けを実施。H28以降はスタッフ増員に伴い、学部2年生以上の不適応ハイリスク群へも個別の働きかけを実施。

③健康に関する支援活動（保健管理センター）

- 各種健康診断事業、診療及び日常の健康相談
  - ・学生定期健康診断：受診者数 13,438 名（受診率 73.1 %）
  - ・学生特殊健康診断：受診者数 6,448 名
  - ・秋胸部レントゲン検診：受診者数 545 名
  - ・診療及び日常の健康相談：受診者数 3,575 名
  - ・健康診断証明書発行回数：2,116 回

表 6－9 学生定期健康診断受診者数および受診率

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
受診者数（人）	13,443	13,640	13,769	13,488	13,438
受診率	75.2%	75.4%	75.5%	74.4%	73.1%

表 6－10 各種健康診断、診療及び日常の健康相談受診者数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
学生特殊健康診断（人）	7,145	6,946	6,823	6,777	6,448
結核健診（学生ツベルクリン反応検査） →秋季胸部 X 線検診（H28 より変更）（人）	544	244	351	425	545
診療及び日常の健康相談 （学生及び職員）（人）	4,170	4,236	4,721	4,176	3,575
診断書・証明書等の発行（枚）	2,353	1,992	2,147	1,914	2,116

- 健康に関する講演会等の開催
  - ・健康科学講演会（学生対象）：年 1 回
  - ・健康科学セミナー（教職員対象）：年 5 回

④キャリア支援活動（キャリア支援センター）

- 全学教育科目でキャリア教育科目開講
  - ・開講科目数：8 科目，受講者数：146 名
- 進路形成のための各種支援プログラム実施
  - ・事業件数：21 件，開催回数：29 回
  - ・参加者数：学部学生延べ 1,086 名，大学院学生延べ 1,035 名，その他既卒者等延べ 11 名，計 2,132 名
- 進路や就職に関する個別相談
  - ・対応件数（川内）：学部学生 1,428 件，大学院学生 1,570 件，その他既卒者等 32 件，計 3,030 件（新宿での相談 66 件を含む）
  - ・対応件数（青葉山）：大学院学生，およびその他既卒者等，計 457 件

表 6－11 全学教育におけるキャリア教育科目の開講科目数および受講者数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
開講科目数	6	6	7	7	8
受講者数（人）	103	91	133	146	146

表6-12 進路形成のための各種支援プログラム事業件数, 開催回数および延べ参加者数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
事業件数	36	31	28	23	21
開催回数	106	60	57	64	29
延べ参加者数(人)	12,865	11,813	9,531	7,433	2,128

表6-13 進路や就職に関する個別相談対応件数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
対応件数	3,179	3,672	3,600	3,001	3,487

⑤課外活動支援(課外・ボランティア活動支援センター)

○東日本大震災およびボランティア関連の授業の提供

- ・実施授業数・受講学生および評価: 5科目・5コマ(10単位), 受講学生 82名

○学生ボランティア活動の支援

- ・センターが把握しているボランティアツアー・ボランティア派遣活動: 年150回, のべ1293名
- ・留学生対象の被災地ツアーの実施: 年6回, 留学生のべ35名, 国内学生のべ57名

表6-14 ボランティアツアーや被災地での学生ボランティア活動回数及び延べ参加学生数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
開催回数	49	66	108	142	150
延べ参加学生数(人)	713	664	1,062	1,240	1293

○ボランティア活動紹介イベントの開催

- ・ボランティア・フェアの実施: 2シーズン・10日間開催, 参加者数 369名

表6-15 ボランティア・フェア(旧スタートアップ・フェア)の開催日数及び参加学生数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
開催日数	11	16	13	12	10
延べ参加学生数(人)	297	290	282	342	369

○震災関係以外のボランティア体験プログラムの実施

- ・「子供の貧困解決に向けた取組に学ぶボランティア体験プログラム」本学学生参加者数 21名

○緊急災害支援ボランティア活動の支援

- ・台風15号(千葉県): 計2回, のべ7名
- ・台風19号(宮城県丸森町ほか): 計27回, のべ279名

○学生スタッフの育成・支援

- ・ボランティア支援学生スタッフの登録者数: 80名
- ・学生スタッフ説明会の開催: 3回開催
- ・学生スタッフ対象の研修合宿および会議: 3回開催
- ・その他勉強会等: 震災伝承に関わるツアー(5回), 学習会(6回)。人権課題に関わる学習会(7回)。過疎地地域に関わるツアー(4回)。防災に関わるツアー(1回)。

○学生ボランティア登録団体の支援

- ・登録団体数：13 団体
- ・ボランティア団体連絡会議の開催：7 回開催
- ・ボランティア団体交流会の開催：2 回計画  
(うち 1 回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
- ・ボランティア団体の助成金取得数：獲得数 18, 総額約 560 万円 (学生スタッフ SCRUM 内団体)

○ボランティア団体に所属する学生への研修会の実施

- ・課外・ボランティア活動研修会の開催：4 回開催, 本学学生参加者数 99 名

○学生ボランティアの学内外での成果報告機会の提供

- ・東北大学 オープンキャンパスへの展示：162 名来場
- ・課外・ボランティア活動支援センター紀要発刊：200 部
- ・Volunteer Seminar Journal 発刊：3500 部

○課外活動団体の支援

- ・課外活動団体リーダー層対象の合同研修会の開催：1 回開催, 5 名参加
- ・教育・学生支援担当理事との意見交換会：1 回開催, 5 名参加
- ・課外活動連携を含めた定例会議：月 1 回開催

○国内外の大学・高校との課外・ボランティア活動における交流・連携

- ・国外大学生の受け入れ：1 校
- ・国内高校生との交流：4 回 (のべ高校生 154 名, 本学学生 16 名参加)
- ・国内大学生との交流：1 回 (のべ他大学の学生 11 名, 本学学生 6 名参加)

※このほか, 国内中学生の受入れおよび新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった「他大学招へい福島ツアー」「他大学招へい学生ボランティアセミナー」を企画。

(7) 東北大学型 AO 入試の一層の深化と拡大のためのイニシアチブ

○入試広報活動の推進

- ・オープンキャンパス：7 月 30 日, 7 月 31 日の 2 日間実施, 参加者数 68,403 名
- ・高校生対象の進学説明会：参加者数 (札幌) 376 名, (仙台) 927 名, (静岡) 227 名, (東京) 1,180 名, (大阪) 256 名, (福岡) 44 名
- ・高校教員対象の入試説明会の開催：21 会場, 557 名参加
- ・高校及び民間業者主催の入試説明会・相談会への参加：27 会場

表 7-1 オープンキャンパス参加者数 (単位: 人)

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
参加者数	60,411	64,448	65,958	68,228	68,403

表7-2 高校生対象の進学説明会参加者数（単位：人）

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
仙台会場					927
札幌会場	369	291	428	398	376
静岡会場		285	273	272	227
東京会場	778	732	823	1,045	1,180
大阪会場	173	232	209	269	256
福岡会場				(工学部主催) 43	44

表7-3 高校教員対象の入試説明会の開催実績

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
会場数	20	20	21	21	21
参加者数（人）	526	498	552	486	557

(8) 大学教職員の能力開発と高等教育機関のマネジメント開発支援

○専門性開発セミナーの開催

- ・提供セミナー数：48回
- ・参加者数：2,483名（47都道府県，509機関）
- ・受講満足度（全体）：3.71/4.00

○セミナー動画のオンライン配信

- ・提供動画数（令和元年度末時点）：90
- ・動画閲覧数（令和元年度中）：33,726件（動画アクセス数：98,822件）
- ・機関利用登録：16機関（国立大学1，私立大学12，民間組織2，海外組織1）

○職員に加えて教員や執行部も対象とするSDの実施（大学マネジメント力開発プログラム）

- ・提供セミナー数：2回，参加機関：43機関，参加者数：84名（内，東北大学32名，他大学52名）

○大学教育イノベーション日本（HEIJ）を通じた他機関との連携

- ・HEIJ加盟組織（令和元年度末時点）：15組織（13大学14組織及び1コンソーシアム）
- ・全ての教育関係共同利用拠点（FD・SD）が加盟
- ・事務局：東北大学（高度教養教育・学生支援機構）
- ・第4回大学教育イノベーションフォーラム（令和元年10月31日開催）：「世界で一番とんがった大学から，大学教育の当たり前を問い直すーミネルバ大学が示唆するものー」をテーマに開催し，104名が参加。

○海外大学との国際連携によるプログラム開発の高度化

- ・STEM（科学・技術・工学・数学）分野において，授業レベル・大学レベルの取組に焦点を当て，米国・サンフランシスコ州立大学においてDBER（Discipline-Based Education Research）に基づくFDにより多数の教員の授業変革を達成したキンバリー・タナー教授を招聘し，国際シンポジウム及びワークショップを開催した。計107名が参加し，受講満足度は3.8（4件法）と高い評価を得た。
- ・DBERに基づき，STEM分野の授業改革を推進してきたブリティッシュ・コロンビア大学（カナダ）と，人文社会科学を含む全学的な教育改革を推進しているコーネル大学（米国）を訪問調査した。
- ・文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」において，「大学改革を担う実務家教員フェア」をオンラインにて開催し，クリス・ラッド氏（ジェームズ・クック大学 シンガポール校 副学長・キャンパス長）の発表資料を公開した。
- ・サンフランシスコ州立大学キンバリー・タナー教授を招聘し，理数科目目のアクティブラーニングの導入

に関する国際ワークショップを開催した。

表8-1 専門性開発セミナー開催実績

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
提供セミナー数	52	51	59	56	48
内、高等教育のリテラシー形成関連	10	11	9	7	5
専門教育での指導力形成関連	10	6	15	5	8
学生支援力形成関連	1	2	2	6	2
マネジメント力形成関連	11	10	14	14	3
その他	20	22	19	24	30
参加者数(人)	2,237	2,284	2,742	2,469	2,483

表8-2 セミナー動画のオンライン配信動画数及び閲覧数

	H27	H28	H29	H30	H31/R1
提供動画数	36	49	76	79	90
内、高等教育のリテラシー形成関連	18	21	22	22	23
専門教育での指導力形成関連	4	7	14	14	16
学生支援力形成関連	4	4	11	11	12
マネジメント力形成関連	10	17	23	26	31
その他	0	0	6	6	8
動画閲覧数 (アクセス数)	14,533 (25,702)	13,973 (41,570)	21,823 (90,833)	20,850 (88,528)	33,726 (98,822)

## 2. 外部資金獲得状況

(単位：千円)

受入年度	科学研究費補助金		受託研究		共同研究		寄附金	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
令和元年度	96	110,872	4	1,927	2	1,008	3	2,863

※科学研究費補助金、受託研究、共同研究は、直接経費と間接経費の合計額である。また、他大学からの分担金を含めている。

### 3. 共同研究員受入状況

氏名	研究課題	研究期間	本務先の所属・職	受入教員
鳥居 朋子	大学教育マネジメントにおける I R 活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	立命館大学教育開発推進機構・教授	大森教授
丸山 和昭	大学教員のキャリアと専門性開発に関する研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	名古屋大学高等教育研究センター・准教授	大森教授
中島 夏子	「大学教員準備プログラム (PFFP)」および「新任教員プログラム (NFP)」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	東北工業大学教職課程センター・准教授	大森教授
川井 一枝	「大学教員準備プログラム (PFFP)」および「新任教員プログラム (NFP)」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	宮城大学基盤教育群・准教授	大森教授
鈴木 学	「大学教員準備プログラム (PFFP)」および「新任教員プログラム (NFP)」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	福島大学総合教育研究センター・特任准教授	大森教授
佐保 紀仁	「大学教員準備プログラム (PFFP)」および「新任教員プログラム (NFP)」の開発	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	東北医科薬科大学薬学部教養教育センター・講師	大森教授
関沢 和泉	大学教育マネジメントにおける I R 活用に基づく教育改善に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	東日本国際大学東洋思想研究所・准教授	大森教授
Sophie Arkoudis (ソフィー アーコウディ ス)	Cross-Cultural Understanding and the Internationalisation of Curriculum and Teaching in Higher Education	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	Associate Professor in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Chi Baik (チ バック)	The Professional Development of Faculty for Academic Excellence	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	Lecturer in Higher Education, Centre for the Study of Higher Education, the University of Melbourne	大森教授
Andy Leger (アンディー リージャー)	大学変革リーダー育成プログラムの開発と評価	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	Associate Professor, Center for Teaching and Learning, Queen's University, Canada	大森教授
高橋 哲也	S T E M 教育の変革に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	大阪府立大学 副学長、 高等教育推進機構 教授	大森教授
鈴木 久男	S T E M 教育の変革に関する調査研究	平成 31 年 4 月 1 日～ 令和 2 年 3 月 31 日	北海道大学 大学院・理学研究員 教授	大森教授

鈴木 克明	授業設計及びeラーニングに関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	熊本大学 教授システム学研究センター教授 ／センター長、大学院教授システム学専攻長	大森教授
吉田 文	リカレント教育に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授	大森教授
林 隆之	内部質保証に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	政策大学院大学 教授	大森教授
田中 秀明	大学の財政と評価に関する調査研究	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	明治大学大学院ガバナンス研究科・教授	大森教授
齋藤 渉	大学マネジメント力開発プログラムの研究	平成31年4月1日～ 令和2年3月31日	東北学院大学学長室インスティテューショナル・リサーチ (IR) 課係長	大森教授

#### 4. 研究業績による受賞

氏名	概要
藤本 敏彦 准教授	大学体育スポーツ学研究 優秀論文賞 授与機関:日本大学体育連合 2019年10月

## 5. 規程類

### (1) 東北大学高度教養教育・学生支援機構規程

平成26年3月25日

規 第 26 号

(趣旨)

第1条 この規程は、東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 本機構は、高度教養教育及び学生支援に関する調査研究、企画及び提言並びにそれらの方法の開発及び実施を関係部局との連携の下、一体的に行うことにより、東北大学（以下「本学」という。）の教育の質の向上に寄与することを目的とする。

(職及び職員)

第3条 本機構に、次の職及び職員を置く。

機構長

副機構長

部門長

院長

教授

准教授

講師

助教

助手

総長特命教授

技術職員

その他の職員

2 前項に定めるもののうち、別に定めるものは、学校保健安全法（昭和33年法律第56号）第23条第1項に規定する学校医とする。

(機構長)

第4条 機構長は、機構の業務を掌理する。

2 機構長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第5条 副機構長は2人とし、機構長の職務を補佐する。

2 副機構長は、本学の専任の教授をもって充てる。

3 副機構長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(部門長)

第6条 部門長は、第8条に規定する部門の業務を掌理する。

2 部門長は、本機構の専任の教授をもって充てる。

3 部門長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(院長)

第7条 院長は、次条に規定する教養教育院の業務を掌理する。

2 院長は、総長が指名する理事又は副学長をもって充てる。

(部門、教養教育院等)

第8条 本機構に、高等教育開発部門、教育内容開発部門及び学生支援開発部門並びに教養教育院を置く。

2 高等教育開発部門に、次に掲げる室を置く。

入試開発室

高等教育開発室  
国際化教育開発室  
キャリア開発室

3 教育内容開発部門に、次に掲げる室を置く。

人間総合科学教育開発室  
自然科学教育開発室  
言語・文化教育開発室

4 学生支援開発部門に、次に掲げる室を置く。

臨床教育開発室  
臨床医学開発室  
(業務センター)

第9条 本機構に、業務組織として、次に掲げる業務センターを置く。

教育評価分析センター  
大学教育支援センター  
入試センター  
言語・文化教育センター  
グローバルラーニングセンター  
学際融合教育推進センター  
学習支援センター  
キャリア支援センター  
学生相談・特別支援センター  
保健管理センター  
課外・ボランティア活動支援センター

2 保健管理センターに、別に定めるところにより、学校保健安全法第7条に規定する保健室を置く。

3 前二項に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営については、別に定める。

(教授会議)

第10条 本機構に、その組織、人事、予算その他運営に関する重要事項を審議するため、教授会議を置く。

2 教授会議の組織及び運営については、別に定める。

(運営会議)

第11条 本機構に、本機構の組織及び運営について企画し、及び調整するため、運営会議を置く。

2 運営会議の組織及び運営については、別に定める。

(高度教養教育諮問会議)

第12条 本機構に、機構長の諮問に応じて本機構の組織及び運営について協議し、並びに機構長に対して助言及び提言を行うため、高度教養教育諮問会議を置く。

2 高度教養教育諮問会議の組織及び運営については、別に定める。

(事務)

第13条 本機構の事務については、国立大学法人東北大学事務組織規程(平成16年規第151号)の定めるところによる。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、本機構の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

1 この規程は、平成26年4月1日から施行する。

2 東北大学高等教育開発推進センター規程(平成16年規第311号)及び国立大学法人東北大学国際交流センター規程(平成17年規第93号)は、廃止する。

附 則(平成29年3月28日規第29号改正)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

## (2) 東北大学高度教養教育・学生支援機構業務センター内規

平成26年4月1日  
制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第9条第3項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構に置く業務センターの組織及び運営について定めるものとする。

(業務センターの設置)

第2条 業務センターとして、別表の左欄に掲げる分野に応じ、同表の中欄に掲げるセンターを置き、その所掌業務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

(業務センターの職及び職員)

第3条 業務センターとして置かれるセンターに、それぞれ次の職及び職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 その他の職員

(センター長及び副センター長)

第4条 センター長は、当該センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、2人以内とし、センター長の職務を補佐する。

3 センター長は、機構長が指名する本学の専任の教授（任期又は期間を定めて雇用される者を除く。）をもって充て、副センター長は、本学の専任の教授又は准教授をもって充てる。

4 センター長の任期は、機構長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

5 副センター長の任期は、センター長の任期の範囲内とし、再任を妨げない。

(雑則)

第5条 この内規に定めるもののほか、業務センターの組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成29年1月19日改正）

この内規は、平成29年1月19日から施行する。

附 則（平成29年3月23日改正）

この内規は、平成29年4月1日から施行する。

別表

分野	センター名	所掌業務
教育マネジメント	教育評価分析センター	本学の教育学習活動に関する関連情報・データの収集・分析・提供を行うことを通して、本学における教育改革・改善や教育マネジメントを支援。
	大学教育支援センター	大学関係共同利用拠点の中核組織として、本学及び国内の高等教育機関に対する各種専門開発プログラム（大学院生向け大学教員準備プログラム・新任教員研修プログラムなど）を実施。
	入試センター	現在の入試センターの業務を引き継ぎ、中長期的な本学入試の企画・改善検討（入試設計・分析、追跡調査等）、入試業務（センター試験、一般入試等）、入試広報（各種説明会、高校訪問、メディア対応、講演、執筆等）、高大接続事業（オープンキャンパス支援、講演会／シンポジウム／フォーラム、アウトリーチプログラム等）を実施。
教育開発・実施	言語・文化教育センター	全学教育および高年次教育における語学教育のプログラム開発と実践、多文化理解教育の実施。
	グローバルラーニングセンター	教育国際戦略の提言、国際交流活動の推進とともに、留学生の受け入れ・教育・支援プログラムの開発・充実を図る。学生の海外派遣プログラムの開発・実施等によりグローバル人材育成を推進する。

	学際融合教育推進センター	学部・大学院における学際融合教育の開発と実施。
学習・学生支援	学習支援センター	高校教育から大学教育へのスムーズな移行のため、大学での自律的な学習方法について、相談・指導を実施。
	キャリア支援センター	学部・大学院におけるキャリア開発プログラムの実施、及び就職支援。現在の高度イノベーション博士人財育成センターの機能を統合。
	学生相談・特別支援センター	学生の発達に関する調査研究と学生相談に加え、発達障害学生への支援、教員に対する学生指導への支援・助言を強化。学生相談および障害学生への支援と学生支援に関わる調査研究、教職員の学生支援力向上のための支援
	保健管理センター	学生の健康保持、増進を図るための保健管理に関する専門的業務を実施
	課外・ボランティア活動支援センター	学生の自主的な課外活動、文化やスポーツ、ボランティア活動の総合的な支援と、社会貢献型の体験学習の企画と実施。

### (3) 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議内規

平成26年4月1日  
制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第10条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構教授会議（以下「教授会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 教授会議は、機構長、副機構長及び東北大学高度教養教育・学生支援機構（以下「本機構」という。）の専任の教授、准教授及び講師並びに業務センターの各センター長（以下「各センター長」という。）をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本機構の組織に関する事項
- 二 教員の人事に関する事項
- 三 予算に関する事項
- 四 その他運営に関する重要事項

(議長)

第4条 教授会議の議長は、機構長をもって充て、教授会議を主宰する。

2 機構長が欠けたとき、又は事故があるときは、副機構長が前項の職務を代行する。

(開催)

第5条 教授会議は、原則として毎月1回開催するものとする。

2 機構長が必要と認める場合は、臨時に教授会議を開催することができる。

3 機構長は、構成員3人以上から議題を付して要求があったときは、教授会議を開催しなければならない。

(定足数)

第6条 教授会議は、構成員（休職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

(議案)

第7条 機構長は、教授会議の議案を定め、あらかじめ構成員に通知しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。

2 構成員は、議案を發議することができる。

(議決)

第8条 教授会議の議事は、出席した構成員の過半数の同意をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところ

ろによる。ただし、別に定めがある場合は、出席した構成員の3分の2以上の同意を要するものとする。

(人事委員会)

第9条 教授会議に、第3条第2号に規定する事項を審議するため、機構長、副機構長、本機構の専任の教授（特定期雇用職員を除く。）及び各センター長をもって構成する人事委員会を置く。

2 人事委員会は、構成員（退職者及び外国出張中の者等を除く。）の過半数の出席がなければ、会議を開き、議決することができない。

3 教授会議は、人事委員会の議決をもって、教授会議の議決とすることができる。

(専門委員会)

第10条 教授会議に、第3条に規定する事項に関する専門的事項を調査審議（前条に掲げる部分を除く。）させるため、専門委員会を設置することができる。

2 専門委員会の委員は、機構長が委嘱する。

(構成員以外の者の出席)

第11条 機構長は、必要があると認めるときは、教授会議の同意を得て、構成員以外の者を教授会議に出席させることができる。

(議事録)

第12条 機構長は、教授会議の議事録を作成し、次回以後の教授会議に提出してその承認を得なければならない。

(雑則)

第13条 この内規に定めるもののほか、教授会議の組織及び運営に関し必要な事項は、教授会議の議に基づき、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

#### (4)東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程（平成26年規第26号）第11条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構運営会議（以下「運営会議」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(組織)

第2条 運営会議は、委員長、副委員長及び次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 教育研究評議会評議員

二 各部門長

三 教養教育院長

四 業務センターの各センター長

五 その他委員長が必要と認めた者若干人

(委員長及び副委員長)

第3条 委員長は機構長をもって、副委員長は1人とし、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

2 委員長は、会務を掌理する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(開催)

第4条 運営会議は、必要に応じて開催するものとする。

(委嘱)

第5条 第2条第5号に掲げる委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第6条 第2条第5号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は前任者の残任期間とする。

2 前項の委員は、再任されることができる。

(雑則)

第7条 この内規に定めるもののほか、運営会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

## (5) 東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議内規

平成26年4月1日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、東北大学高度教養教育・学生支援機構規程(平成26年規第26号)第12条第2項の規定に基づき、東北大学高度教養教育・学生支援機構高度教養教育諮問会議(以下「高度教養教育諮問会議」という。)の組織及び運営について定める。

(組織)

第2条 高度教養教育諮問会議は、委員二十人以内をもって組織する。

(委員の範囲)

第3条 委員は、本学の学部学生、大学院学生及び外国人学生(以下「学生」という。)並びに本学の学生の保護者、企業の関係者、地域の関係者、高等学校の関係者等のうちから、機構長が選考する。

(議長及び副議長)

第4条 高度教養教育諮問会議に、議長及び副議長1人を置き、それぞれ委員の互選によって定める。

2 議長は、高度教養教育諮問会議の会務を総理する。

3 副議長は、議長の職務を補佐する。

(開催)

第5条 高度教養教育諮問会議は、原則として年1回開催する。

(委嘱)

第6条 委員は、機構長が委嘱する。

(任期)

第7条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、高度教養教育諮問会議の組織及び運営に関し必要な事項は、機構長が定める。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行する。

## (6) 高度教養教育・学生支援機構専門研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構(以下「機構」という。)の学術の発展に寄与するため、東北大学及び機構の諸規則に定める身分を有しない者が、機構において一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、博士の学位を有する者又は博士と同等以上の学識を有すると認められる者で、機構の専任教員(以下「受入れ教員」という。)から受入れの承諾を得た者とし、「専門研究員」の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 専門研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構教授会議の議を経て、機構長が決定する。

2 専門研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 専門研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとし、更新は2回を限度とする。

(遵守遂行)

第5条 専門研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 専門研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 専門研究員には、給与を支給しない。

3 専門研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

4 専門研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。

5 専門研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当てする。

(雑則)

第7条 専門研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

## (7)高度教養教育・学生支援機構共同研究員内規

平成26年4月24日

制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、高度教養教育・学生支援機構（以下「機構」という。）において共同研究に参画する国内外の研究者が一定期間研究活動に従事できるよう、必要な事項を定めるものとする。

(資格及び呼称)

第2条 研究活動ができる者は、共同研究に参加する国内外の大学、高等専門学校、公的研究機関及び民間企業、団体等に所属する研究者とし、「高度教養教育・学生支援機構共同研究員」（以下、「機構共同研究員」という。）の呼称を付与する。

(受入れ等)

第3条 機構共同研究員の受入れは、受入れを希望する者の申請に基づき、機構長補佐会議で審査し、機構長が決定する。

2 機構共同研究員の受入れ期間中の諸事項については、受入れ教員が全面的に責任をもつものとする。

(受入期間)

第4条 機構共同研究員の受入れ期間は1年以内とし、年度を超えないものとする。

なお、必要な場合は更新を認めることとする。

(遵守遂行)

第5条 機構共同研究員は、東北大学及び機構の諸規則を遵守しなければならない。

(待遇)

第6条 機構共同研究員は機構の管理運営には関与できない。

2 機構共同研究員には、給与を支給しない。

3 機構共同研究員の健康診断、災害補償等については各自の責任で対応する。

- 4 機構共同研究員は受入れ教員の責任のもと、施設・設備等を利用することができる。
- 5 機構共同研究員の機構内の居所については、受入れ教員の責任において手当とする。

(雑則)

第7条 機構共同研究員に研究活動上必要な事項が生じた場合は、受入れ教員の申し出に基づき、機構長補佐会議の議を経て、機構長が決定する。

附 則

この内規は、平成26年4月24日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則 (平成27年3月19日改正)

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

東北大学高度教養教育・学生支援機構要覧2019

発行 2020年8月

発行所 東北大学高度教養教育・学生支援機構

Institute for Excellence in Higher Education,

Tohoku University

〒980-8576 仙台市青葉区川内41

TEL (022) 795-3819

e-mail: [gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp](mailto:gaku-kikaku@grp.tohoku.ac.jp)



Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University